トランスフォーマー生誕20周年記念

トランスフォーマー®

G1キャラクター大全集

別冊宝島 996

TRANSFORMERS 20th anniversary SINCE 1984

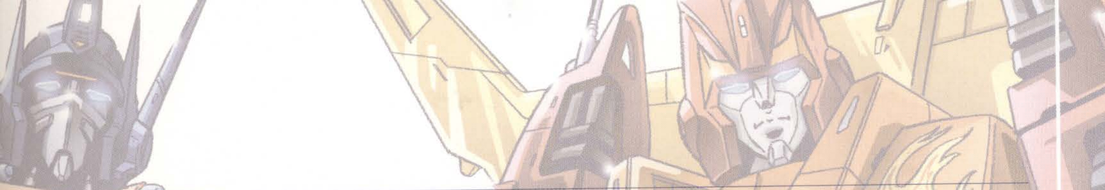
トランスフォーマーの原点がここに!!

第1作トランスフォーマー('85)からトランスフォーマーG2('95)まで

G1(ジェネレーション)戦士351体を完全紹介!

保存版・トランスフォーマー・DVDパッケージイラストギャラリー

空をこえ地球にやって来た、
超ロボット生命体
“サイバトロン（正義）”と
“デストロン（悪）”の
戦いの物語り
れがトランスフォーマーの世界だ。



トランスフォーマー

1985年、アメリカからやってきた『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー』は、「リアル」なロボットものに飽きていた僕らを、またたく間にトリコにした。「トランスフォーマー」とは、変形能力を持つ超ロボット生命体の事だ。赤と紫のエンブレムに色分けされた正義と悪のロボット軍団が、はるか過去から未来にわたり壮大なバトルを繰り広げる、荒唐無稽ながら奥行きのある物語。外国映画の様な洒落た台詞回しも、メチャクチャ格好良かった。おもちゃ屋には「君が選ぶ君のヒーロー！」のキャッチフレーズと共に、赤い箱のサイバトロン、紫の箱のデストロンが一斉に並べられた。（敵味方のおもちゃがほぼ同数発売されるなんてコトは、それまでの常識では考えられなかった。）

また、単なる輸入モノではなくアニメ製作の現場は東映動画（現：東映アニメーション）であり、玩具開発はタカラが行っていたところも、日本人の感覚にマッチしたのだろう。後に「現代用語の基礎知識」に掲載されるほど、「トランスフォーマー」は日本でもヒットを記録した。

今年で20周年、「トランスフォーマー」の一大ヒストリーは、現在も続いている。本書では、その原点となる1985年から95年――ジェネレーション1と呼ばれる時代に活躍した主なヒーローたちを、紹介しよう。

002 保存版 トランスフォーマー・DVDパッケージイラストギャラリー

017 SECTION 01 TF UNIVERSE 作品別・キャラクター名鑑

018 戦え! 超ロボット生命体 トランスフォーマー

038 トランスフォーマー・ザ・ムービー

042 戦え! 超ロボット生命体 トランスフォーマー2010

056 トランスフォーマー　ザ★ヘッドマスターズ

066 コラム ヘッドマスターティーンズ／ビーストフォーマー

067 コラム 初期プロモーション

068 ザ・リバース

070 トランスフォーマー　超神マスターフォース

084 戦え! 超ロボット生命体 トランスフォーマーV

099 コラム 海外コマーシャルフィルムの魅力

100 トランスフォーマーZ

104 トランスフォーマー　ザ★バトルスターズ

107 トランスフォーマー　合体大作戦

108 トランスフォーマー　G2

110 特別寄稿 きむらひでふみ『ホットロディマスとオライオン・パックス』

111 SECTION 02 TF MISSIONS トランスフォーマー情報局

112 トランスフォーマーの歩み
玩具編／メディア編

116 オトナの為のトランスフォーマー再入門
トランスフォーマー最新関連アイテム
バイナルテック／マスターピース
PS2ゲーム／DVD／CD／書籍

121 トランスフォーマー証言集
金田益実／大野光仁／東宏幸

124 アニメーションリスト

126 キャラクターインデックス

CONTENTS

表紙イラスト／作画◎スタジオOX
彩色◎谷崎あきら（TARKUS）
※月刊ニュータイプ1986年12月号（角川書店）に掲載されたセル原画を元に、今回新たに彩色を施したものです。

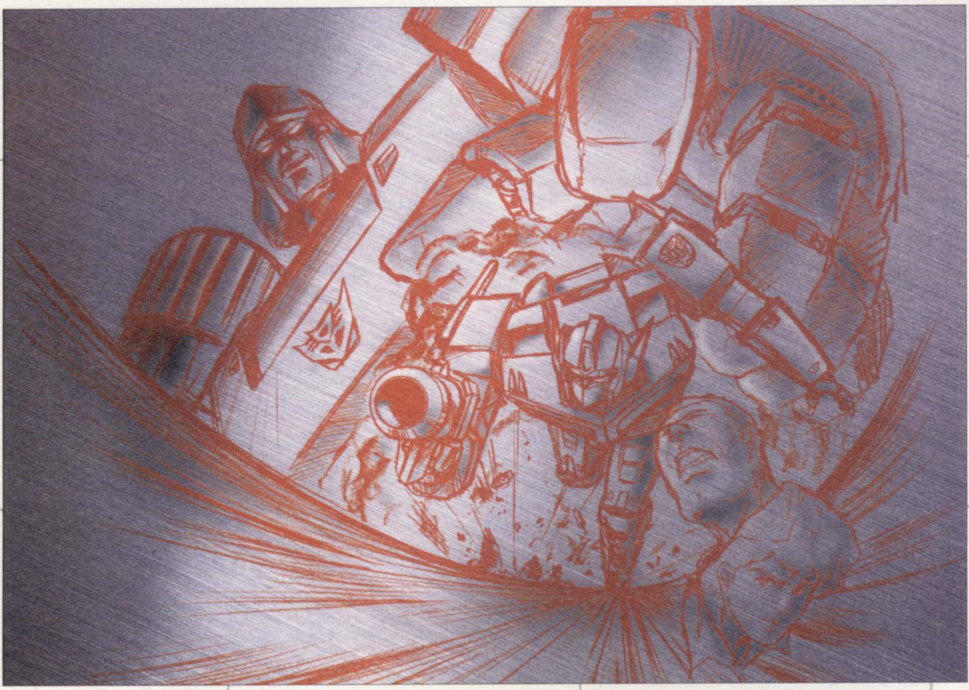
Illustrated by
大張正己

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part1 サイバトロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン エンタテインメント)

戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー 編

Illustrated by
創 一機

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part1 サイバトロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン エンタテインメント)



Illustrated by
羽原信義

初出◉「戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー LD BOXセット Part1 サイバトロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
（現・ジェネオン エンタテインメント）

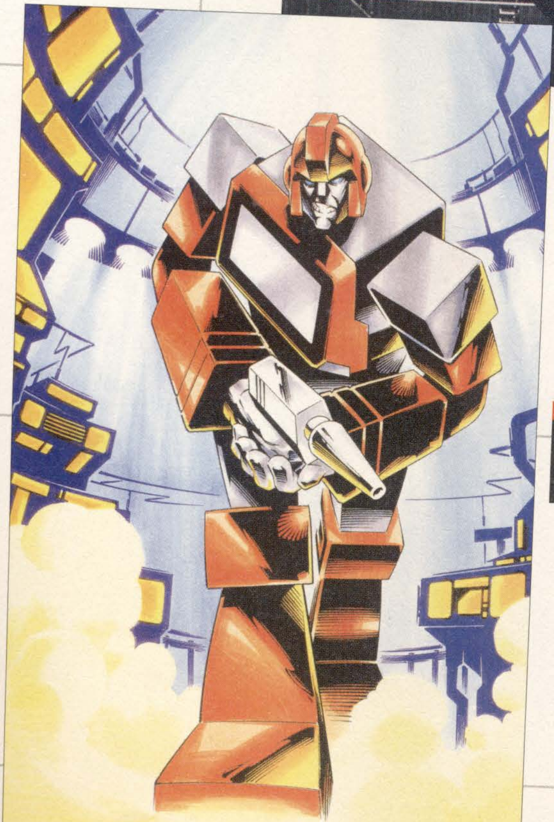
Illustrated by
鈴木典孝

初出◉「戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー LD BOXセット Part1 サイバトロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
（現・ジェネオン エンタテインメント）

ILLUST GALLERY

Illustrated by
友杉達也

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part1 サイバトロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)



Illustrated by
吉岡英嗣

初出◉「戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー
LD　BOXセット　Part1　サイバトロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
高荷義之

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part2 デストロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
佐野浩敏

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part2 デストロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
森本晴泰

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part2 デストロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
（現・ジェネオン　エンタテインメント）

llustrated by
市川裕文

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part2 デストロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
（現・ジェネオン　エンタテインメント）

Illustrated by
やまだ
たかひろ

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー
LD BOXセット Part2
デストロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン
エンタテインメント)

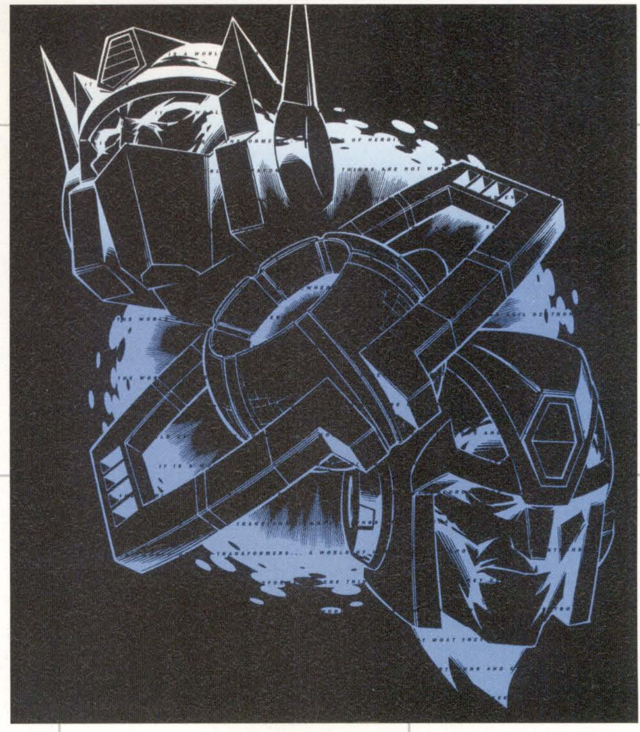
Illustrated by
吉岡英嗣

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー LD BOXセット
Part2 デストロンBOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

戦え! 超ロボット生命体 トランスフォーマー2010 編

Illustrated by
吉岡英嗣

初出◉「戦え! 超ロボット生命体
トランスフォーマー2010
LD BOXセット」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)



Illustrated by
吉岡英嗣

初出◉「戦え! 超ロボット生命体
トランスフォーマー2010 LD BOXセット」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
吉岡英嗣

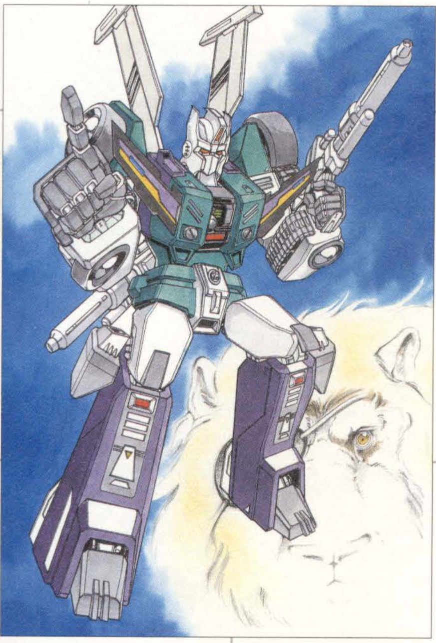
初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー2010
LD BOXセット」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
吉岡英嗣

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー2010
LD BOXセット」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

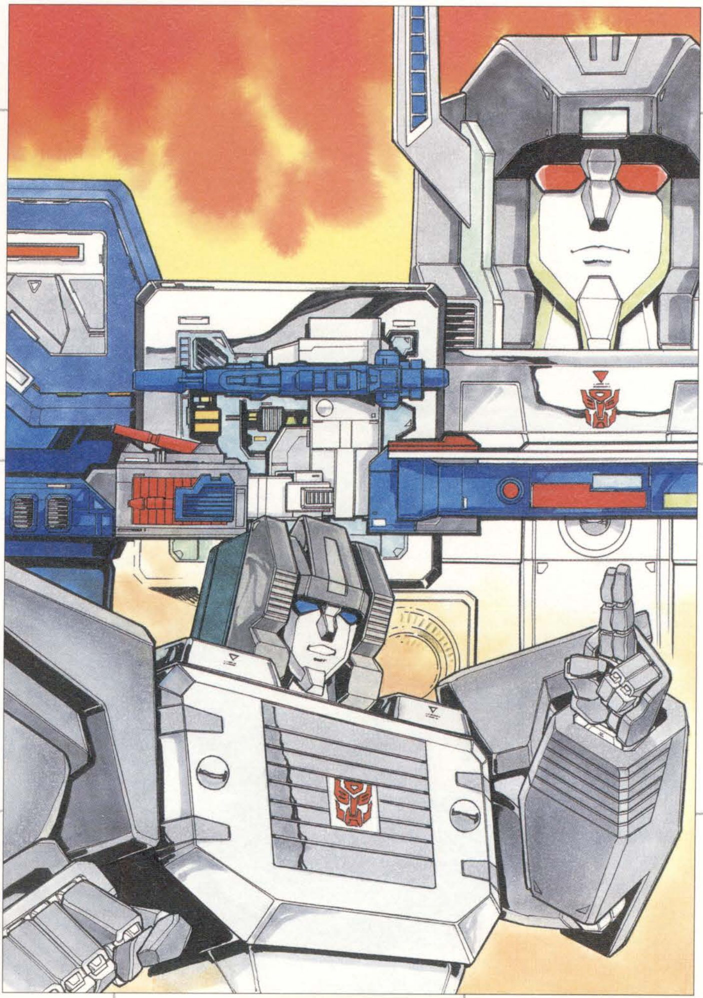
Illustrated by
吉岡英嗣

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマー2010
LD BOXセット」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)



Illustrated by
まがみ
ばん

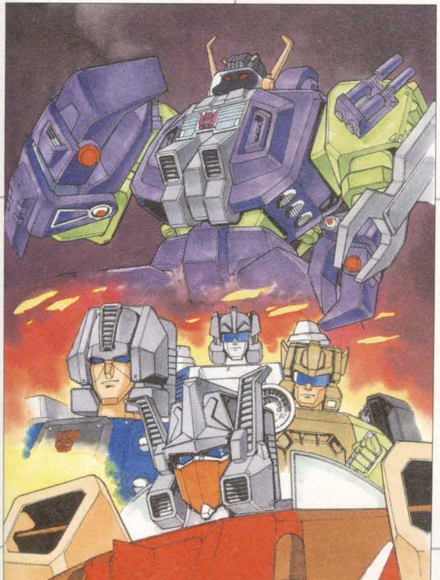
初出◉「トランスフォーマー
ザ★ヘッドマスターズ DVD-BOX」
発売元◉ パイオニアLDC
(現・ジェネオン エンタテインメント)



Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「トランスフォーマー
ザ★ヘッドマスターズ DVD-BOX」
発売元◉ パイオニアLDC
(現・ジェネオン エンタテインメント)

トランスフォーマー ザ★ヘッドマスターズ 編



Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「トランスフォーマー
ザ★ヘッドマスターズ DVD-BOX」
発売元◉ パイオニアLDC
(現・ジェネオン エンタテインメント)

Illustrated by
吉岡英嗣
Painted by
広部 滋

初出◉「トランスフォーマー
ザ★ヘッドマスターズ DVD−BOX」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

トランスフォーマー 超神マスターフォース 編

Illustrated by 大森英敏

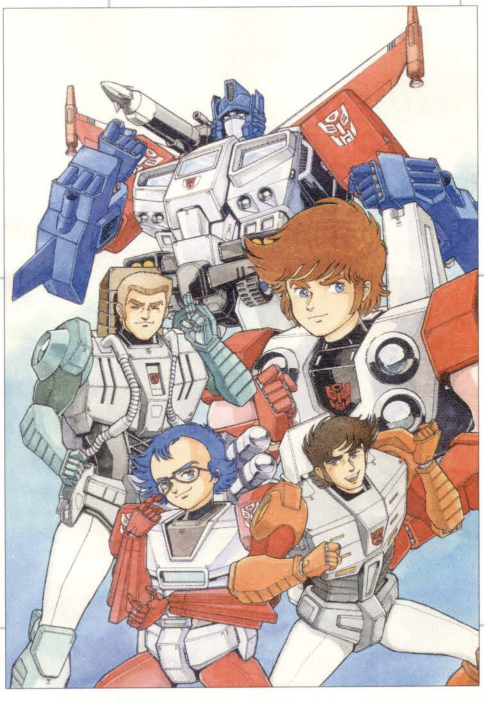
初出◉「トランスフォーマー 超神マスターフォース DVD-BOX 01」
発売元◉ パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「トランスフォーマー
超神マスターフォース
DVD-BOX 01」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

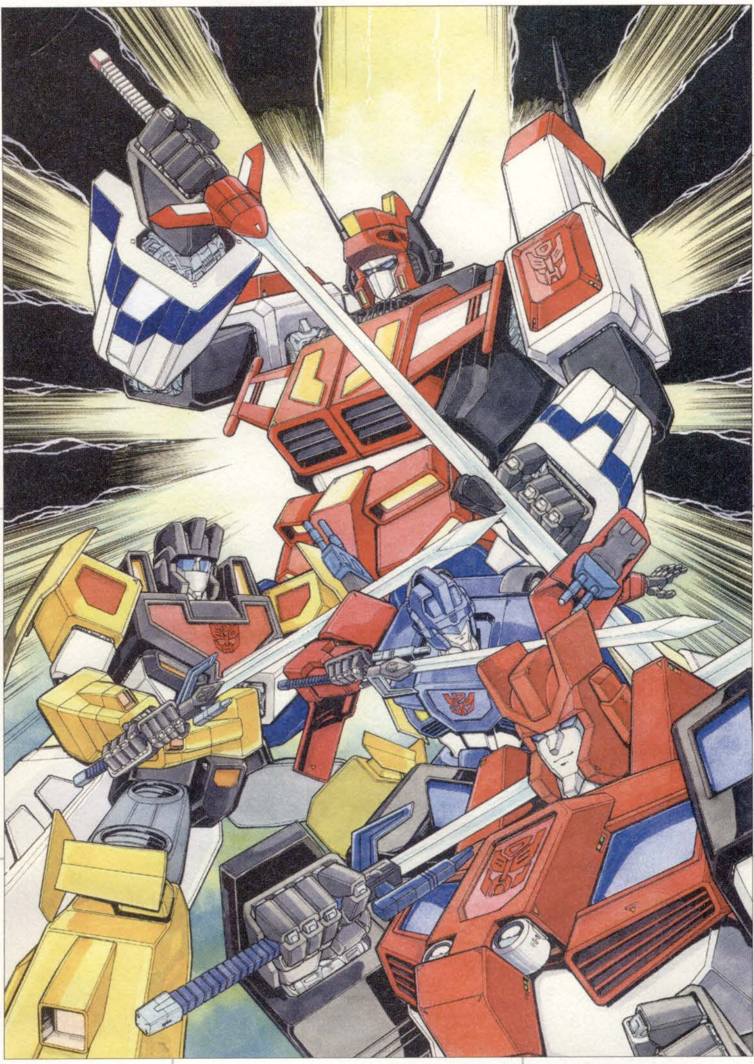
Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「トランスフォーマー
超神マスターフォース
DVD-BOX 01」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)



Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「トランスフォーマー
超神マスターフォース
DVD-BOX 02」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン
エンタテインメント)



Illustrated by
まがみばん

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマーV
DVD-BOX 01」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
大河広行

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマーV
DVD-BOX 01」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
大河広行

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマーV
DVD-BOX 02」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマーV 編

Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマーV
DVD-BOX 01」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマーV
DVD-BOX 02」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

Illustrated by
まがみ
ばん

初出◉「戦え！超ロボット生命体
トランスフォーマーV
DVD-BOX 02」
発売元◉パイオニアLDC
(現・ジェネオン　エンタテインメント)

◉描き下ろし

Illustrated by
ねことむ

SECTION

01

TF UNIVERSE

キャラクター名鑑

BESSATSU TAKARAJIMA

戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー

1985

400万年の刻を越え地球にやってきた、正義と悪のトランスフォーマー。超ロボット生命体たちの熱き戦いの歴史は、このシリーズから始まった！

地球からはるか離れた惑星セイバートロンでは、自ら考え、行動する超ロボット生命体「トランスフォーマー」たちが、正義と悪に分かれ争いを続けていた。しかし、長い戦いの中、セイバートロン星のエネルギーは枯渇。正義のサイバトロンのリーダー、コンボイ司令官は、新たなエネルギー資源を求め、仲間と共に宇宙探索へと出る。一方、悪の軍団デストロンのリーダー・メガトロンは、コンボイたちの乗る宇宙船を追撃。船内へと乗り込み、激しい白兵戦を展開する。ところが戦闘により宇宙船はコントロールを失ってしまう。船は両軍を乗せたまま、未開の惑星「地球」へと落下した。それから400万年後——。

火山活動により目覚めた宇宙船のコンピュータ・テレトラン1は、墜落の衝撃で破壊されたトランスフォーマーたちに、生命再生装置によるリペア（修復）を行う。彼らはエネルギーに満ちたマシンと合体する事で、復活を果たした。

資源豊かな惑星・地球に、メガトロンは魅了された。この惑星に眠るエネルギーを我が者とすれば、宇宙の覇者になる事も夢ではない。デストロンによる、エネルギー施設や鉱山へのアタックが開始された。

コンボイ司令官とサイバトロン戦士たちは、メガトロンの野望を阻み、争いから人間を守る為、デストロンに対し果敢に立ち向かってゆく。さあ、戦いの始まりだ!!

KEY WORD

平和を愛する正義の戦士 サイバトロン

コンボイ司令官をリーダーとする、正義のトランスフォーマーたち。平和主義者や民間人の集まりであり、その為に戦いには不慣れな面も多い。ロボットモードでの飛行能力を持たず、主に地上車両で構成される。

落下した宇宙船を、そのまま基地として利用。戦いの合間には戦闘で傷ついた街の修復作業なども行い、人間との間に信頼関係を結んでいる。

超ロボット生命体の星 惑星セイバートロン

メタルに覆われた機械の惑星、トランスフォーマーたちの故郷、それが惑星セイバートロンである。はるか昔から続いた内戦の末、深刻なエネルギー不足に陥っており、送電が停止された区画も多い。

現在、惑星の大半はデストロンが手中に収めており、ウーマンサイバトロンら残されたサイバトロン戦士たちが、細々とレジスタンス活動を続けている。（図は、『ザ・ムービー』の為に描かれたもの。）

惑星表面

▲アイアコーンブリッジ。サイバトロンの基地が存在する。

破壊を好む悪の軍団 デストロン

破壊大帝メガトロンをリーダーとする、悪の破壊軍団。進んだ技術で創られた最新型であり、ロボットモードでも空を飛ぶことが可能。主に軍用機・車両に変形、戦闘能力に優れ、サイバトロンを苦しめる。

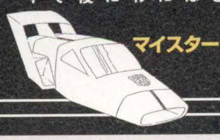
第3話で海に落下した宇宙船を、海底基地として運用。またセイバートロン星のデストロン本部と地球を、スペースブリッジで繋いでいる。

セイバートロンモード

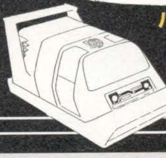
▲生命再生装置は、各員の特質に適合するマシンを選択する。これは、コンボイのスキャン対象。彼のセイバートロンモードは、アニメには未登場。

地球型機械をスキャンする以前の彼らの姿を、セイバートロンモードと呼ぶ。ロボットモードの外観に変化はないが、セイバートロン星製ビークルに変形する点が差違となる。以後加わる仲間の多くがフューチャーマシンに変形するのは、生命再生装置による復活プロセスを経ていない為。第1話では、何名かのトランスフォーマーがセイバートロンモードを披露している。

バンブル

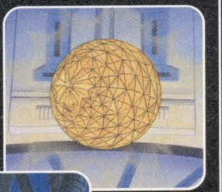


マイスター



ホイルジャック

超ロボット生命体の神 ベクターシグマ



◀メガトロンの手に墜ちた、ベクターシグマの鍵。あらゆる物質を金属へと変換するパワーを秘める。

セイバートロン星のウルトラコンピューター。トランスフォーマーに生命体としての魂を与えた創造主であり、神格化された存在。エアーボット部隊誕生の際、盗まれた起動鍵の代わりにアルファートリンが融合した。

これだけは見たい！ エピソードセレクション

ベクターシグマの鍵

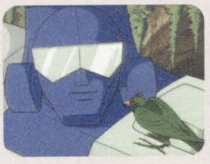
後半のターニング・ポイントとなる前後編。サイバトロン最初の合体戦士の誕生、長老アルファートリンの死、新旧サイバロンの確執、シルバーボルトの高所恐怖症克服……など様々な要素が詰め込まれている。特にスペリオンの登場は、サイバトロンとデストロンのパワーバランスを変えた。本話より戦闘は新たな局面を迎えるのだ。（第42・43話）

パニック・ザ・クレムジーク！

シリーズ初の日本を舞台にした作品。メガトロンが作った、電気の怪物クレムジークが二大経済大国で大騒動を巻き起こす。いたずら物のクレムジークが、サイバトロン戦士たちを翻弄する姿がテンポ良く描写された。なお、『2010』の第28話「重すぎた使命」では現在（2004年）より、少しだけ未来の日本が描かれている。（第38話）

オメガ・スプリームの秘密

これもキャラクターを掘り下げたエピソード。感情を失った警備員オメガ・スプリームの意外な過去と、その復讐を振り切って戦う姿は、もう男泣き必至である。ちなみにオメガ・スプリームの声はコンボイ役の玄田哲章が二役で演じている。二人のスムーズなやりとりは、ベテラン声優ならばこその名演技と言えるだろう。（第35話）



ゴールデンラグーンの秘密

ビーチコンバーが見つけた動物の楽園。そこには浴びたものを不死身にするゴールデンラグーンの泉があった。だが、ゴールデンラグーンを巡る戦いの果て、楽園は消滅してしまう。この場合、楽園を破壊したのはサイバトロンでもデストロンでもない。戦闘という行為そのものである。そんなヘビィなテーマをドライに描ききった異色作。（第30話）

ソーラーエネルギーを盗め！

トランスフォーマーに個性豊かなロボット・キャラクターの描写は欠かせない。今回はいつもブツクサぼやいているギアーズの性格が、メガトロンの手で正反対に変えられてしまうというお話。そして、なんとクライマックスではギアーズの性格そのものが物語のキー・ポイントとなる。キャラの個性を重んずる本作ならではの一本。（第12話）

自由と平和を愛する超ロボット戦士たち。デストロンの手から全宇宙の罪無き生命を守り、セイバートロン星を解放することを使命としている。勇気と結束で強大な悪に立ち向かう。

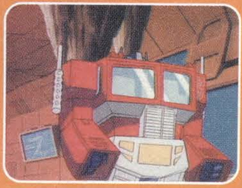
総司令官 コンボイ

全てのサイバトロン戦士から信頼される、類稀な指導力を備えた英雄。どれほど不利な戦況にあっても、彼がいるだけで皆が勇気を奮い立たせ、恐れを忘れる。自らもまた、どのような苦境にあっても屈すること無く、最後まで正義を貫く鋼の意志の持ち主。深い慈悲の心を持つ一方で、悪に対する怒りは激しく、たとえ地球人であろうと生命を弄ぶ者に容赦はしない。やや強引とも言える戦闘時の態度と比べ、平時はとても穏やかであり、地球のスポーツを楽しむこともある。愛用のレーザーライフルは長距離からの射撃でもデストロンの臨時基地を壊滅させるほどの威力を持つ。トレーラートラックに変形する。【声：玄田哲章】

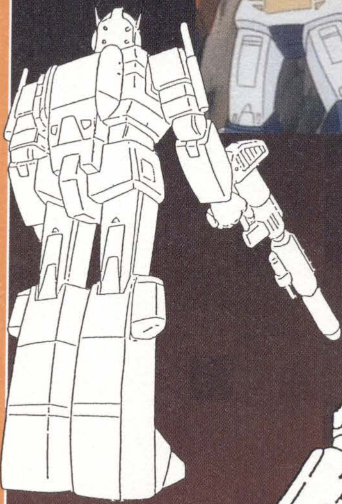
▲右腕にはエナジーアックスを内蔵。接近戦においては強力な武器となる。

トランスフォーム！

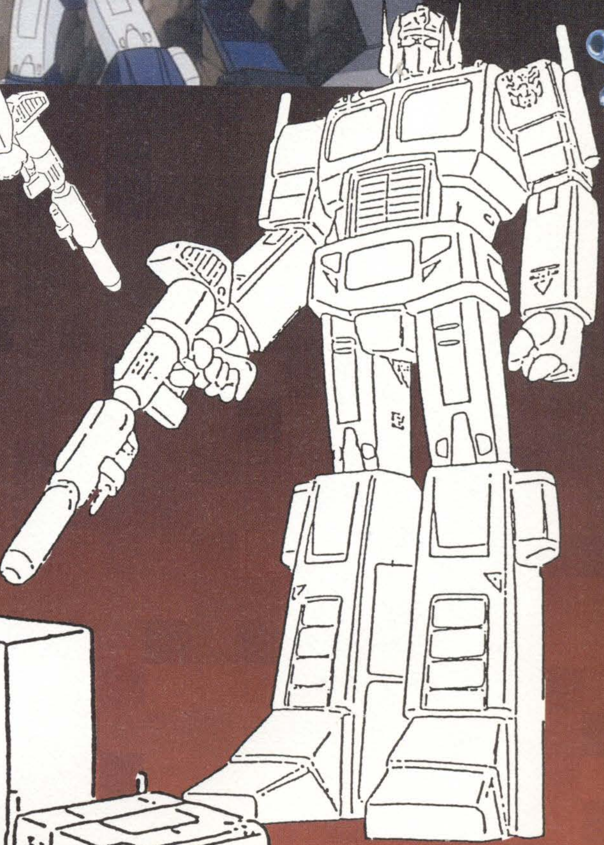
頭部と腕が変化すると同時に、腰に収納されていた前輪も現れる。トラック部分が完成すると、後方からトレーラーが現れて接続される。

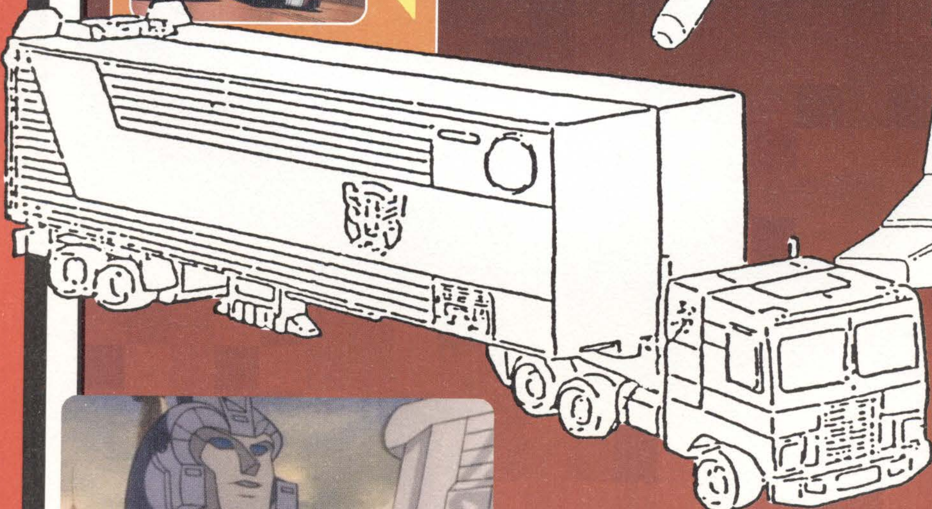


◀トレーラーは、スペシャル高射砲を備えたコンバットデッキに変形。本体であるコンボイを援護する。



▲背面にランボルのロケットブースターを装着した事もある。





◀トレーラーの中にはサイバトロン戦士を搭載可能。自ら突破口を開いて強襲し、戦士を突入させる。

▶オライオンとその恋人エイリアル。彼女もまた、アルファートリンに命を救われ、エリータワンへと転生した。

コンボイ誕生の秘密

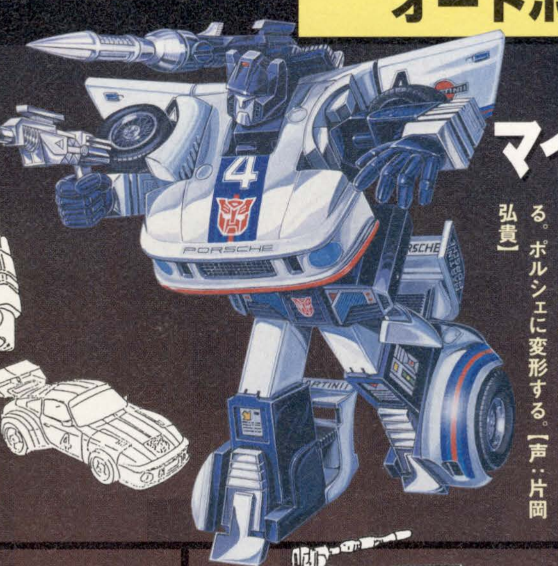
900年前、平和な時代のセイバートロン星に暮らしていた青年、オライオン・パックスこそコンボイの本来の姿である。当時、飛行能力を持つ新トランスフォーマーたちが人々の期待と尊敬を集めていた。しかし、オライオンはそのリーダー・メガトロンに欺かれ、自分たちの勤めるエネルギー倉庫を襲われてしまう。さらに、メガトロンの攻撃で重傷を負ったオライオンは、長老アルファートリンによって強い意志と実行力を見出され、悪と戦う最強の戦士＝コンボイとして転生するのだった。

ローラー

トレーラーに収納される小型の装甲車。どんな場所にも入り込み、偵察や陽動を行う。コンボイの分身的存在。

オートボット

サイバトロンの主力となるカーロボット戦士達。それぞれが様々な特殊技能を持つ。

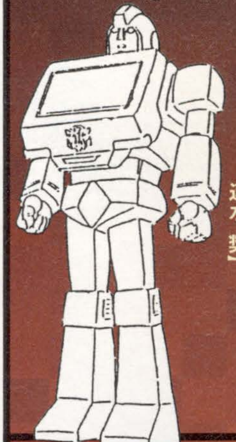


副官
マイスター

コンボイの右腕的存在で、他の仲間からの信頼も厚い。理知的で落ち着いた雰囲気をたたえながらも、同時に大の地球文化愛好家で、音楽やダンス、特にロックンロールに傾倒するといった情熱的な一面も見せる。ポルシェに変形する。【声：片岡弘貴】

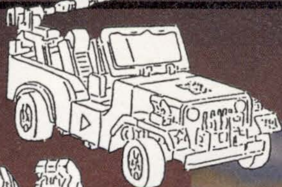
▲大音量で音楽を流すミュージックアタックで敵の回路を混乱させる。

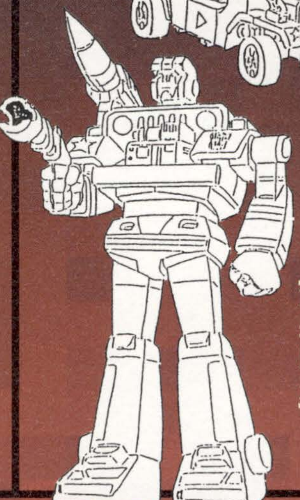
警備員
アイアンハイド



サイバトロンのムードメーカーの一人。若者を自称するが、実際には相当なベテランである。根性を大事なものと考えていて、味方を鼓舞する際には精神論を持ち出すことも多い。指先からは液体窒素や融けた鉛など様々な液体を発射する。【声：速水 奨】

偵察員
ハウンド

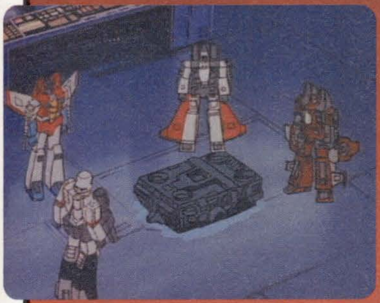




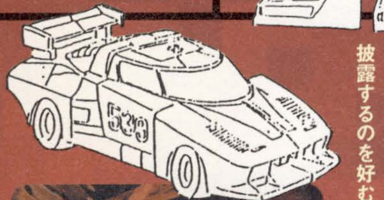
その名の通り猟犬のような嗅覚を持ち、偵察、追跡などに活躍する。気さくな親しみやすい性格で、地球の自然に魅了されている。ホログラムガンで立体映像を作り、変装や分身で敵を惑わす。ジープに変形する。【声：堀内賢雄】

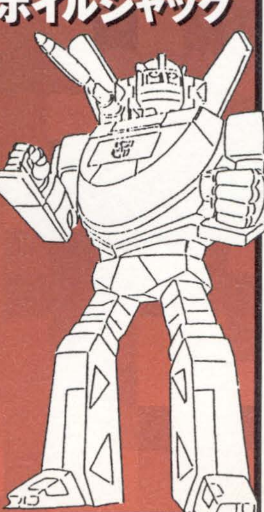
技術者
ホイルジャック

数々の発明を成し遂げてきた、トランスフォーマーきってのマッドサイエンティスト。その能力は敵からも恐れられており、セイバートロン星がデストロンの支配下に置かれると、彼のラボは即座に接収された。ユーモアに富み、自分の発明品を披露するのを好む。ランチアに変形する。【声：阪 修】

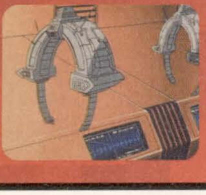


▲ラボの金庫にあったという「秘密兵器」。時にはこういった使用意図が不明なものが生み出されることもある。



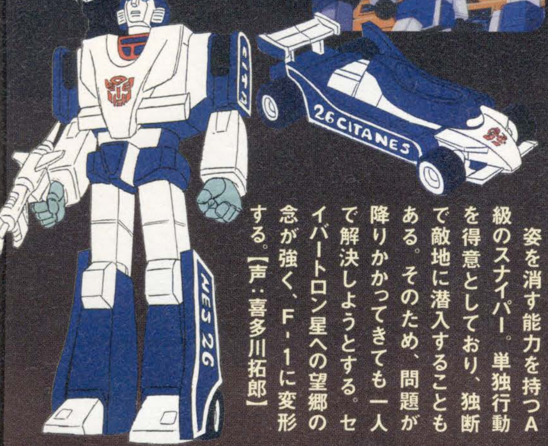


◀イモビライザー。物質の分子運動を停止させ、どんなものでも凍結させてしまう。



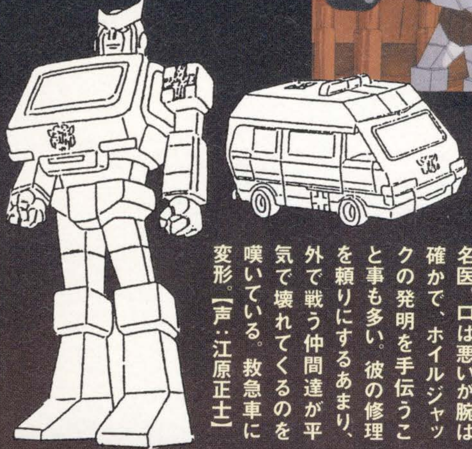
◀メモリーヘアーバンド。ダイノボットの知能を言語を理解するまでにアップさせた。

諜報員
リジェ



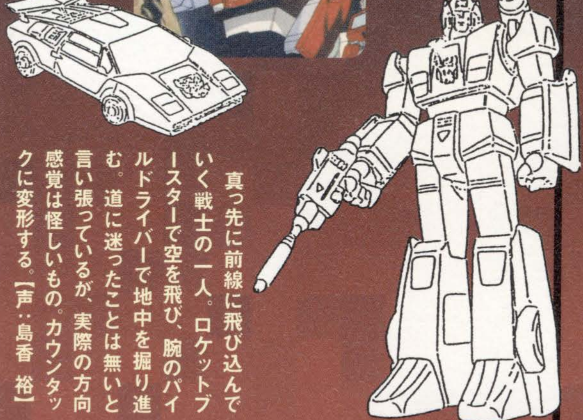
姿を消す能力を持つA級のスナイパー。単独行動を得意としており、独断で敵地に潜入することもある。そのため、問題が降りかかってきても一人で解決しようとする。セイバートロン星への望郷の念が強く、F-1に変形する。【声：喜多川拓郎】

看護員
ラチェット



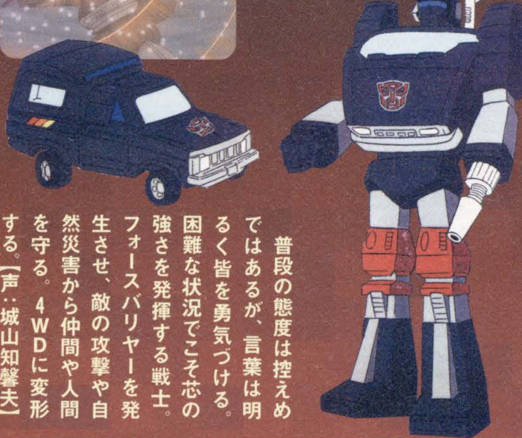
仲間のリペアを担当するサイバトロン一の名医。口は悪いが腕は確かで、ホイルジャックの発明を手伝うこと事も多い。彼の修理を頼りにするあまり、外で戦う仲間達が平気で壊れてくるのを嘆いている。救急車に変形。【声：江原正士】

戦士
ランボル



真っ先に前線に飛び込んでいく戦士の一人。ロケットブースターで空を飛び、腕のパイルドライバーで地中を掘り進む。道に迷ったことは無いと言い張っているが、実際の方向感覚は怪しいもの。カウンタックに変形する。【声：島香 裕】

戦略家
トレイルブレイカー

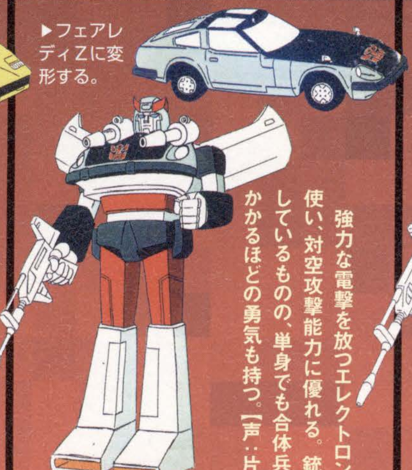


普段の態度は控えめではあるが、言葉は明るく皆を勇気づける。困難な状況でこそ芯の強さを発揮する戦士。フォースバリヤーを発生させ、敵の攻撃や自然災害から仲間や人間を守る。4WDに変形する。【声：城山知馨夫】

▲カウンタックに変形。塗装に傷がつくことを嫌う。

自惚れの強いナルシスト。人間の社会に近づこうとはしているが、拒絶されると過敏に反応してしまう。ランボルとの兄弟コンビによる空中殺法が得意。【声：難波圭一】

戦士
サンストリーカー



▶フェアレディZに変形する。

強力な電撃を放つエレクトロンボルトを使い、対空攻撃能力に優れる。銃を頼りにしているものの、単身でも合体兵士に飛びかかるほどの勇気も持つ。【声：片岡弘貴】

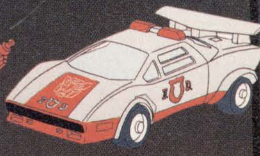
射撃手
ストリーク

▶ポリスカーに変形する。

優れた頭脳を持ち、作戦立案や状況分析を得意とする。コンボイの最も信頼する部下の一人。戦士としてもバランスの取れた優秀さを発揮した。【声：石井敏郎】

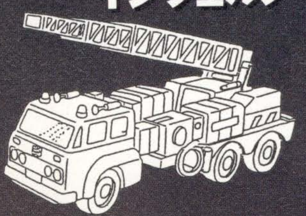
戦略家
プロール

保安員
アラート



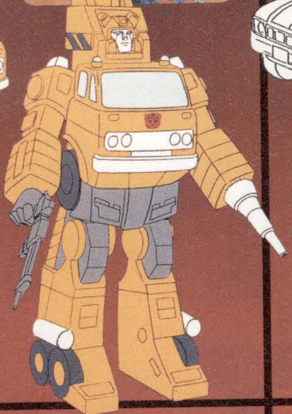
危険を察知する能力に優れ、基地の警備を担当する。用心深い性格ゆえに、時として神経質になることもあるが、コンボイの信頼は厚い。ファイヤーチーフのカウンタックに変形し、インフェルノと組んで消火活動も行う。【声：塩谷 翼】

救助員
インフェルノ



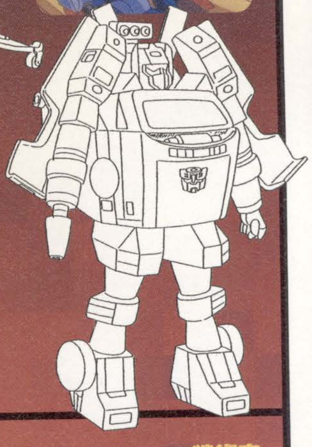
火を見ると消したがる本能を持つ。火災に対しても戦闘に対しても現場主義のため、慎重なアラートの方針に反発することもあるが、仲間としての友情は篤い。消防車に変形する。【声：喜多川拓郎】

建築家
グラップル



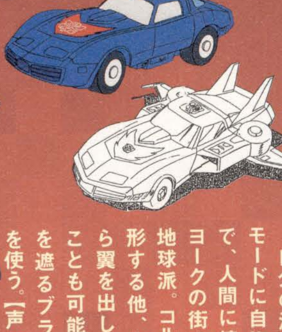
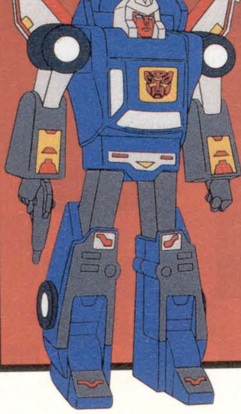
設計から作業まで全てを芸術的にこなす天才。主にサイバトロンの軍施設を手がけるが、平和利用の建物を造りたいという夢も持つ。密かに自尊心が高く、持ち上げられるのに弱い。クレーン車に変形する。【声：堀内賢雄】

補修員
ホイスト



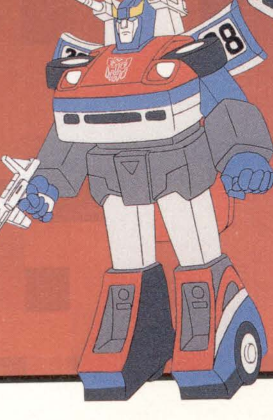
修理やメンテナンスを担当。基地外での応急修理に働くことが多い。温厚で友人想いの性格で、ハリウッドにスタントマンとして契約したこともある。レッカー車に変形。【声：片岡弘貴】

戦士
トラックス

自分の流線型のカーモードに自惚れる一方で、人間に憧れ、ニューヨークの街を愛する親地球派。コルベットに変形する他、車体の下から翼を出して空を飛ぶことも可能。敵の視界を遮るブラックビームを使う。【声：速水 奨】

戦術家
スモークスクリーン



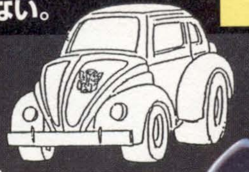
普段は冷静な判断力を持ち、得意の煙幕を最良のタイミングで使う退却戦の達人。その一方ではギャンブルが非常に好きで、調子に乗ると度を越して勝負にのめりこんでしまう節がある。レーシングタイプのフェアレディZに変形。【声：江原正士】

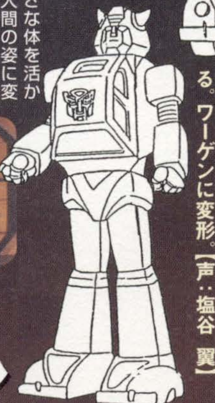
戦闘員から科学調査のプロまで、様々な能力を持った小型戦士たち。その活躍はオートボットに劣らない。

ミニボット

◀小さな体を活かし、人間の姿に変装することもある。ミニボットならではの特技だ。

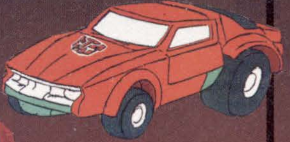
▶スパイクとバンブルは気の合う親友同士。お互いの危機には助け合う。



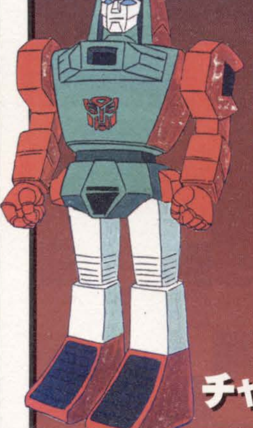


小回りの利くボディと探査機能を活かし、偵察や情報収集に活躍する。体力的にはサイバトロンで最も劣り、決して戦闘的でもないが、仲間を助けようとする勇気は誰からも認められている。人懐っこく明るい性格で、コンボイ司令官を尊敬している。ワーゲンに変形。【声：塩谷 翼】

情報員 バンブル

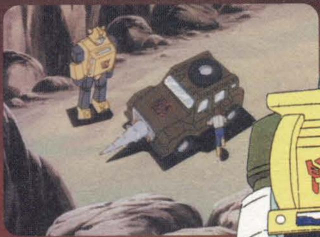


▶短距離ならサイバトロン最速の性能を持つ。

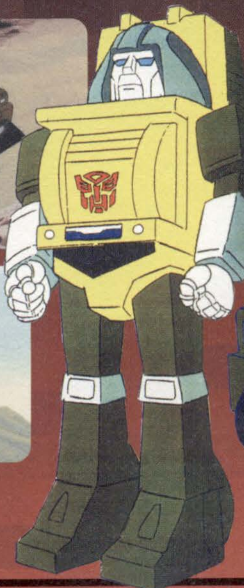


ゴングの親友で、勇敢かつ臨機応変。マグネティックフィールドを操り、金属を自在に動かすことが可能。ムスタングに変形する。【声：難波圭一】

戦闘員 チャージャー



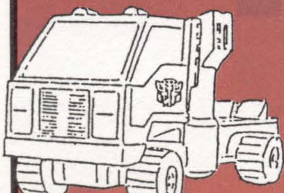
▲メガトロンの融合カノン砲を奪い発砲。重量が足りないためか反動で転倒してしまった。

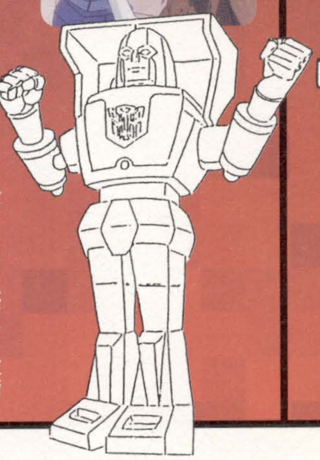


力自慢の自称「怪力ゴング様」。無骨で親分肌な性格を持ち、時に頑固でもある。ジープに変形、先端部にはドリルを備えており、人を乗せたまま地中を掘り進む事も可能。【声：島香 裕】

攻撃員 ゴング

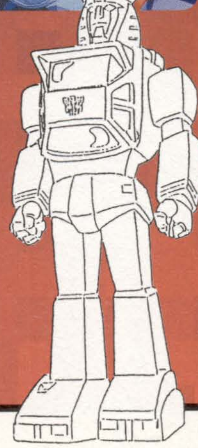
技術者 ドラッグ





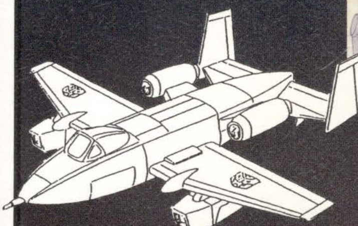
パワーにも優れた技術班の一員。何かと物事に懐疑的で、戦闘力に優れたデストロンに勝てるかどうかを疑問視している。トラックに変形し、負傷したコンボイのトレーラーを牽引したこともある。【声：江原正士】

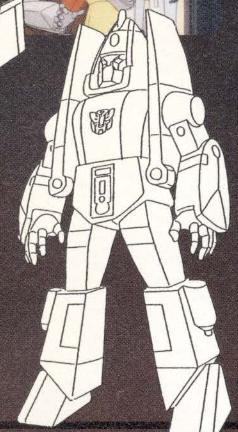
戦闘員 クリフ



非常に戦闘的な気質の持ち主で、地球における戦いで最初の一発を撃った。思い込みが激しく、先走りで失敗することも多い。爆発性から冷却用まで様々な気体を発射するガスガンを持っている。ポルシェに変形。【声：喜多川拓郎】

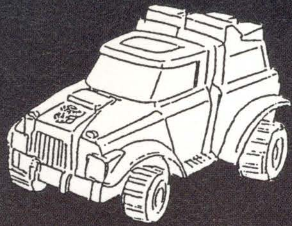
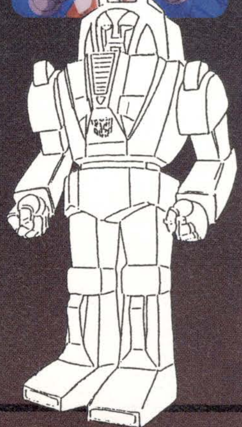
戦士
パワーグライド





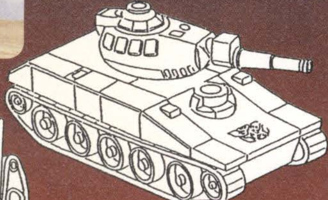
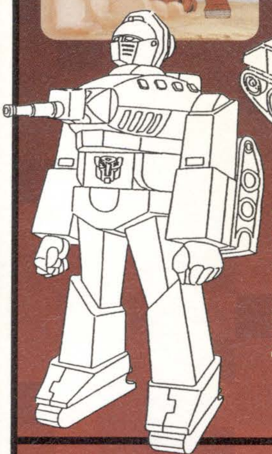
陽気でおしゃべり好きな色男。飛行テクニックに優れ、デストロンのジェットロンを手玉に取る。意外にも照れ屋な一面を覗かせることもあった。A-10サンダーボルトに変形する。【声：鈴置洋孝】

探査員
ギアーズ

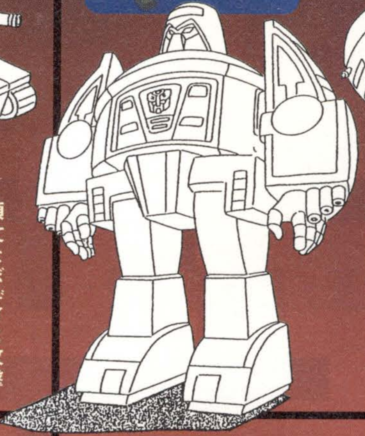
通称「ぼやきのギアーズ」。何に対してであれ、ケチを付けることを生き甲斐とする。仲間たちも彼の態度にはうんざりしているが、どこか憎めないところもある。ジープに変形。赤外線ライトを持つ。【声：石井敏郎】

戦士
ワーパス

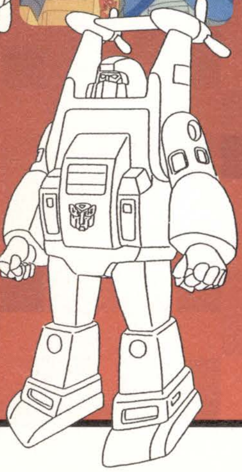
頑丈なボディと攻撃能力を持った、パワフルなミニボット。戦闘中にあっても陽気な性格で、自分の砲撃に自信を持っている。戦車に変形するが、ロボットモードでのパンチ力も強力。【声：喜多川拓郎】

偵察・通信員
アダムス



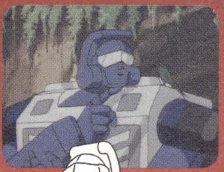
宇宙での活動を専門とし、資源探査や偵察に活躍する。性格はいたって温和だが、デストロンへの反撃にためらうことは無い。UFOに変形した際は、少人数ながら仲間を運ぶことも可能。【声：阪修】

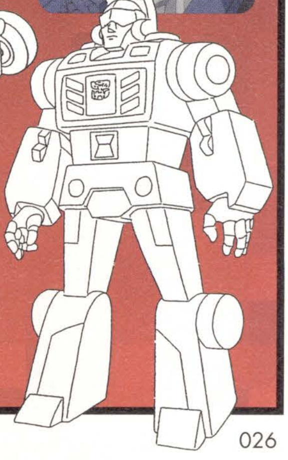
海上防衛員
シースプレー



サイバトロン戦士の中で唯一、水上の戦いを得意としている。海を愛しており、また、密かに人間になりたいという願いを抱いていた。対空レーザーを備えたホバークラフトに変形する。【声：江原正士】

地質学者
ビーチコンバー





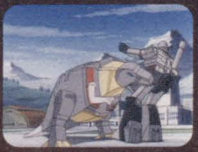
地質学および鉱物学の専門家。自然を愛し、動物達と戯れることを好む。戦闘によって美しい自然が失われることを嘆き、サイバトロン戦士としての使命との間で苦悩している。バギーに変形。【声：阪修】

ホイルジャックとラチェットによって作られた、パワー溢れる恐竜軍団。

ダイノボット

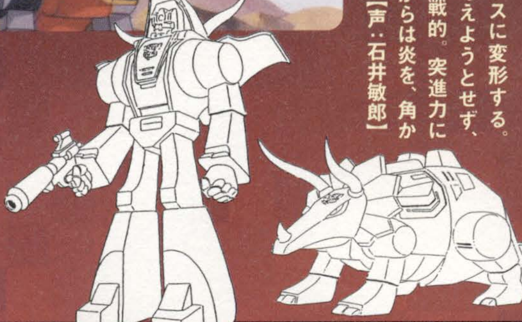
ダイノボットのリーダー。野生の弱肉強食思想の持ち主で、コンボイよりも自分の方が強いと考えている。そのため、サイバトロンに対して反抗的な態度をとることも多かったが、コンボイやカーリーに救われた事件を通じ、自分より弱い者たちにも徐々に馴染んでいった。ティラノサウルスに変形し、メガトロンすら圧倒するパワーを発揮する。【声：喜多川拓郎】

ダイノボット指揮官 グリムロック



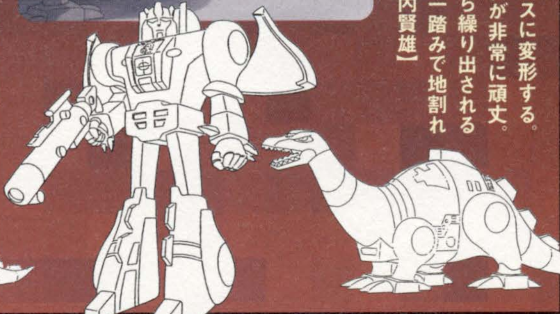
火炎戦士 スラッグ

トリケラトプスに変形する。あまり物事を考えようとせず、ケンカ好きで好戦的。突進力に優れており、口からは炎を、角からは電撃を放つ。【声：石井敏郎】



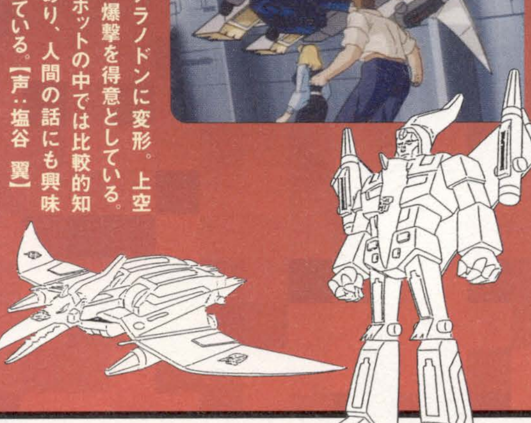
密林戦士 スラージ

ブロントサウルスに変形する。のろまで頭も鈍いが非常に頑丈。重量級のボディから繰り出されるキック力は強く、一踏みで地割れも起こす。【声：堀内賢雄】



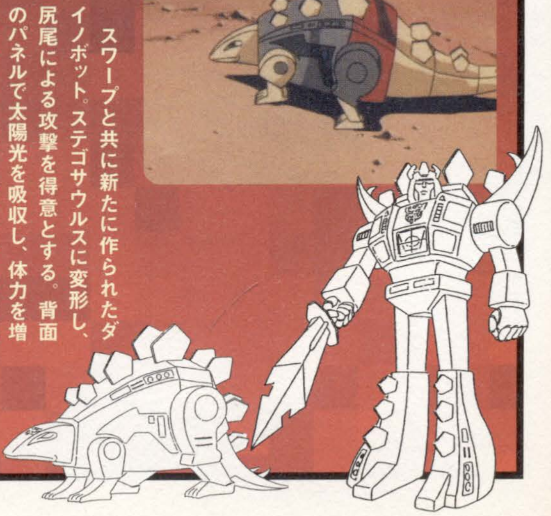
砲撃戦士 スワープ

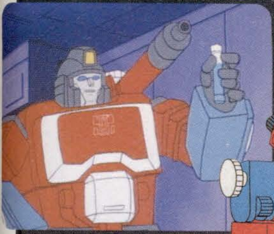
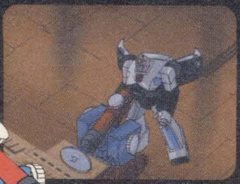
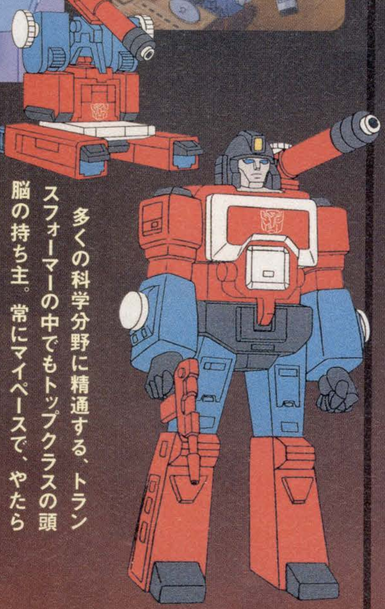
プテラノドンに変形。上空からの爆撃を得意としている。ダイノボットの中では比較的知力があり、人間の話にも興味を抱いている。【声：塩谷 翼】



砂漠戦士 スナール

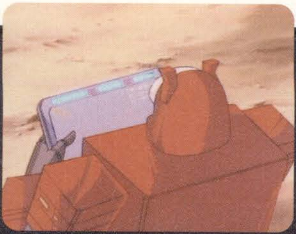
スワープと共に新たに作られたダイノボット。ステゴサウルスに変形し、尻尾による攻撃を得意とする。背面のパネルで太陽光を吸収し、体力を増加させることが可能。【声：城山知馨夫】

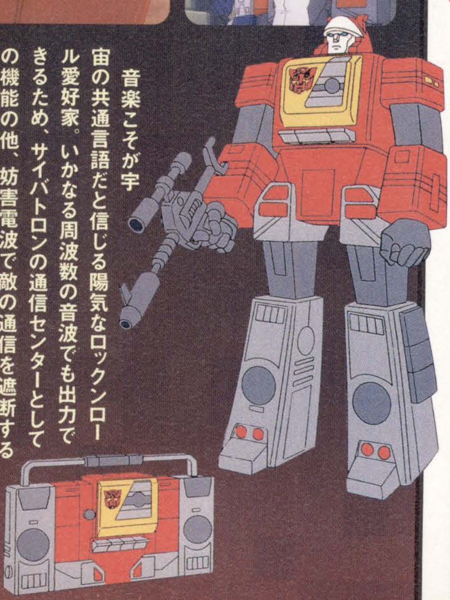


科学者
パーセプター

多くの科学分野に精通する、トランスフォーマーの中でもトップクラスの頭脳の持ち主。常にマイペースで、やたらと博学をひけらかしたがる。回りくどい話し方をするため、短気な者でなくとも結論を急がすことが多い。顕微鏡に変形し、台座部分に内蔵したキャタピラで走行も可能。また、円筒部分はライトキャノンとなり、高空にも届く高い出力と命中率を誇る。【声：城山知馨夫】

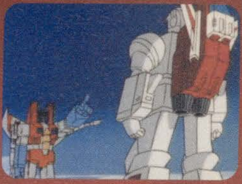




通信員
ブロードキャスト

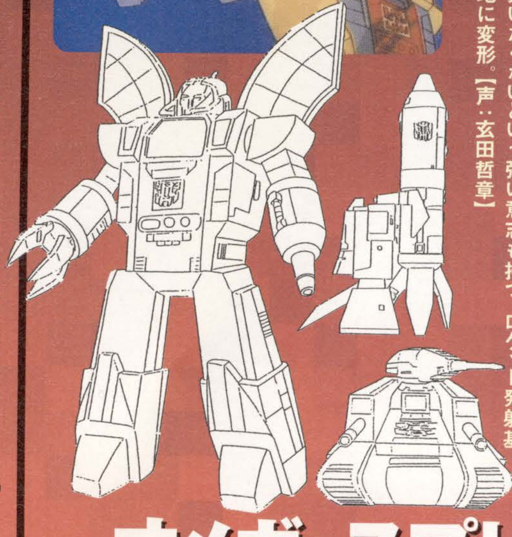
音楽こそが宇宙の共通言語だと信じる陽気なロックンロール愛好家。いかなる周波数の音波でも出力できるため、サイバトロンの通信センターとしての機能の他、妨害電波で敵の通信を遮断することも可能。また、索敵能力にも優れており、偵察・盗聴活動を行うこともある。武器のエレクトロ・スクランブラーは、強力な電磁波で機械を狂わせ、人間を傷つけずに追い払える。【声：難波圭一】

▶罪無き命まで奪おうとする旧友の変貌にスカイファイアーは戸惑いを隠せなかった。



空中守護戦士
スカイファイアー

大戦前のセイバートロン星から地球の調査に派遣され、磁気嵐で消息を絶っていた科学者。現代、かつての友人・スタースクリームに北極の氷の下から発見され、彼の勧めでデストロンに一時は参入。しかし、その非道を嫌ってサイバトロンに味方した。理知的で快活な性格。大型ジェットに変形することで、仲間を輸送することも可能。【声：阪修】



警備員
オメガ・スプリーム

元はセイバートロン星の都市防衛ロボットの一人で、クリスタルシティの警備員として勤務。しかし、メガトロンの謀略によって守るべき都市、友、感情のすべてを失い、以来ただ復讐の為だけに何百万年も宇宙を旅してきた。寡黙で無愛想だが、二度と仲間を失いたくないという強い意志も持つ。ロケット発射基地に変形。【声：玄田哲章】

エアーボット部隊

長老アルファートリンの命を分け与えられた、サイバトロン初の合体戦士にして航空部隊。

デストロンが新戦力、スタントロン部隊を誕生させたと知ったコンボイが、セイバートロン星の廃ロケットを改造して生み出した。上空からスタントロンの暴走を止めるのに十分な攻撃能力を持っており、更にはジェットロンに対抗してデストロン軍団の制空権さえも脅かす。コンボイは高所恐怖症だったシルバーボルトをその指揮官に任じ、責任と多忙による克服を目指させた。合体してスペリオンとなる。【声：西村知道】

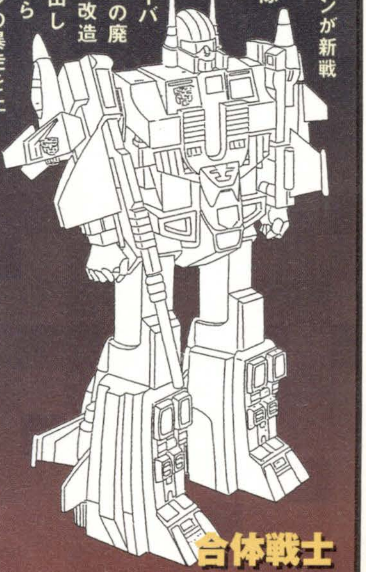
指揮官
シルバーボルト

偵察員
ファイヤーボルト

副官
スリング

戦士
エアーライダー

航空戦略家
スカイダイブ



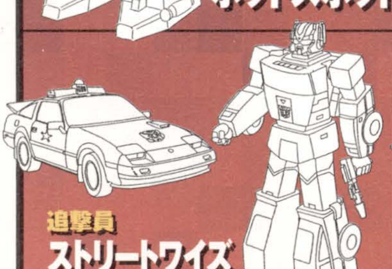
合体戦士
スペリオン

プロテクトボット部隊

災害救助や市街防衛を任務とする新部隊。サイバトロンの守りの要となる。

有能で責任感に富んだ指揮官ホットスポットを中心とする部隊で、戦闘よりも人命救助活動を最優先に行う。後にはスクランブルシティに配属され、中でもファーストエイドはシティの機構を正確に把握する数少ない一人となった。ガーディアンに合体した状態では、ブルーティカスですら一撃で破壊する火力を持ち、広範囲のフォースフィールドを作り出すことも可能。【声：堀内賢雄】

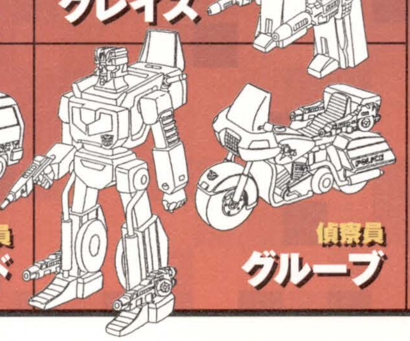
防衛指揮官
ホットスポット



追撃員
ストリートワイズ

航空支援員
グレイズ

救助員
ファーストエイド



偵察員
グルーブ

合体戦士
ガーディアン

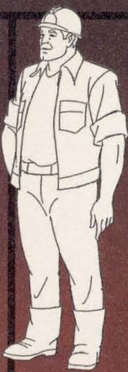
スパイク

好奇心旺盛で宇宙に憧れる少年。海底油田基地で父の手伝いをしていた際、デストロンの襲撃に遭ってしまい、コンボイたちによって父と共に救出された。サイバトロンに地球についての知識を伝え、特に恐竜の化石を見つけたときには、ダイノボット軍団誕生のきっかけともなった。父親譲りの技術で応急修理を行うこともある。【声：速水 奨】

◀自ら銃を取って戦場に立ち、重傷のコンボイを守るサイバトロン戦士を勇気づけた。

▶重傷を負ったスパイクの精神が移植されたサイバトロンX。副作用で狂暴化してしまう。

スパークプラグ



スパイクの父にして優秀な機械工。トランスフォーマーの技術水準の高さに苦労しながらも、ラチェットたちとともにリペア作業に従事し、学んだ成果で発明品を開発することもあった。ニューヨークに自動車修理工場を構えており、サイバトロンの出先基地として提供している。【声：石井敏郎】

チップ

フルネームはチップ・チェイス。スパイクの友人で、車椅子の天才少年。特にコンピューターに精通し、テレトラン1とのコンビで多くの難問を解決してきた。別名「フロッピーディスクをくわえたシャーロック・ホームズ」。セイバートロン星に最初に降り立った地球人でもある。【声：難波圭一】

カーリー

サイバトロンファンの少女。スパイクとバンブルの後をつけ、半ば強引な形でサイバトロンと知り合いになる。物理学を専攻しており、工学系の知識と発想はホイルジャックも舌を巻くほど。切断されていた記憶回路を直し、ダイノボットを手懐けることにも成功する。【声：高島雅羅】

サイバトロン基地

▼サイバトロン宇宙船。宇宙のエネルギー探索を行うのが本来の使命だった。

▲基地内部。テレトラン1にはチップ用のコンソールも用意されている。

400万年前に不時着した宇宙船を中心に、山全体を拡張して建造した基地。偵察衛星スカイスパイによって、衛星軌道上から地球規模での監視活動を行う。スキャン機能も有しており、トランスフォーマーたちに地球に適した形態を与えた。全体の機能を統御するのは宇宙船のマスターコンピューター・テレトラン1で、優れた分析能力を持つサイバトロンの生命線である。【声：江原正士】

EXTRA CHARACTERS

アルファートリン

サイバトロンの長老で、惑星の平和を願う正義の人。コンボイやエリータの生みの親で、エアーボットの誕生にはその命を捧げた。ベクターシグマの作った最初のロボットでもある。【声：阪 修】

▼研究室の床は乱雑そのものとなっている。

エリータワン

セイバートロン星でデストロンに抵抗を続けるウーマンサイバトロンのリーダー。時を止めるシークレットパワーを持つ。【声：小宮和枝】

▲コンボイとは互いに深い信頼で結ばれている。

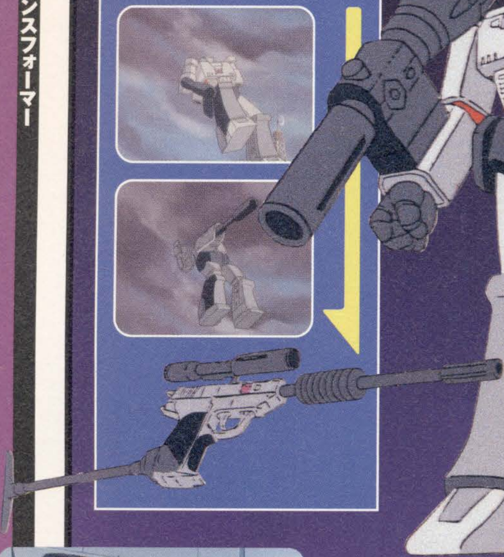
ラウル

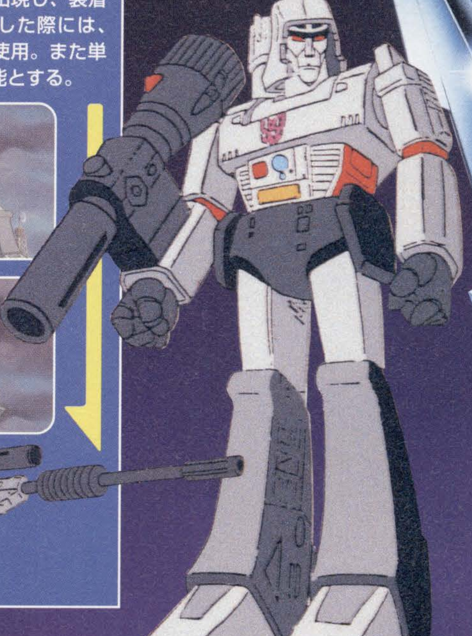
ニューヨークに暮らす青年。元車泥棒で車の修理が得意。事故にあったトラックスを修理し、この件がきっかけとなって更生した。【声：堀内賢雄】

セイバートロン星を支配し、全宇宙の征服を目指す破壊軍団。地球のエネルギー資源の独占を狙い、容赦の無い略奪を繰り返す。サイバトロンに比べて優れた武装と軍事技術を持っている。

トランスフォーム!

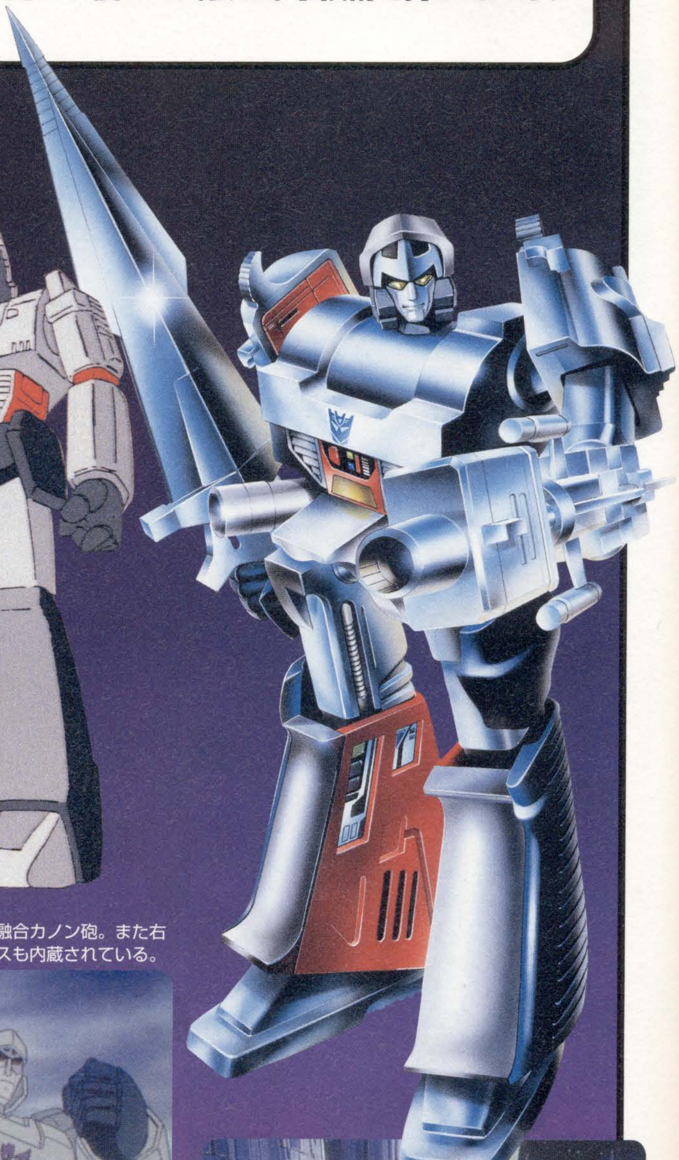
後方にジャンプし、ワルサーP-38に変形。アンクルパーツが何処より出現し、装着される。小型化した際には、部下が手にして使用。また単独での砲撃も可能とする。





▲利害の一致から、宿敵であるコンボイにその引き金を託すこともあった。

▼最大の武器は右腕に備えられた融合カノン砲。また右腕には、接近戦用のエナジーメイスも内蔵されている。



破壊大帝
メガトロン

デストロン軍団を創設し、セイバートロン星に戦争を引き起こした野心家。破壊を悦びとし、力に対する飽くなき欲望を抱く。彼の在り方こそデストロン軍団の理念そのものである。奸智に長けており、周到な戦略と、相手の心理を利用する狡猾さによってサイバトロンを幾度も苦しめた。地球人を原始的な生命体と完全に見下す一方で、一部の科学技術や古代遺跡など、利用価値のある物はためらうことなく利用する。それは部下に対しても同様で、幾度もスタースクリームの造反を受けながらも、野心を煽ることで彼の能力を引き出そうと考えている。ワルサーP-38に変形。［声：加藤精三］

ジェットロン

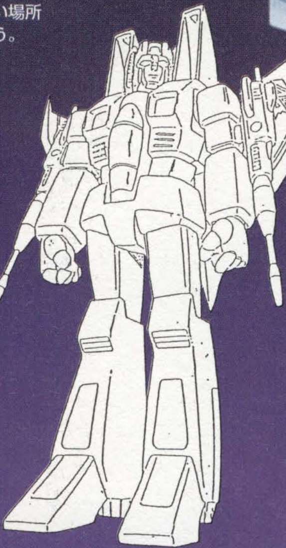
デストロンの主力となる航空部隊。セイバートロン星にも多数の同型兵士がいる。

航空参謀 スタースクリーム

デストロン軍団のナンバー2で、ジェットロンの中でも最速を誇る。自らの才覚とスタイルに強く自惚れており、仲間に対しては何かにつけて自分の方が優れていると強く誇示。しかし、現時点でメガトロンに比肩し得るものとは本心では考えておらず、余人の入らない場所ではメガトロンの智謀を素直に賞賛する。本質的には臆病な性格だが、機転に富んで抜け目がなく、いかなる状況であろうと生き残る策を見出す。クラスター爆弾と、電子回路を麻痺させるナルビームが武器。F・15に変形する。【声：鈴置洋孝】

▲虚栄心が強く、メガトロンのいない場所では、詭弁と武力で暴君の如く振舞う。

▲タイムトラベルからの帰還。久々の再会にメガトロンに思わず飛び付く。



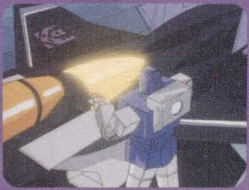
▼ジェットモードでは単独で大気圏離脱と惑星間飛行を実現。ガンモードのメガトロンとの合体も可能。

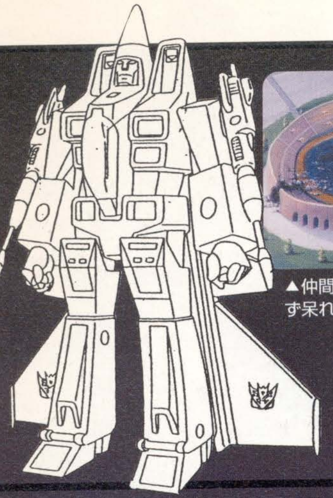
航空兵 サンダークラッカー

自分の身が第一の事勿れ主義者。消極的に命令に従うのを常とし、結果として貧乏くじを引くことも多い。比較的温和な性格で、スカイワープとフレンジーの仲裁役でもある。武器は熱線ビームとソニックブーム。F・15に変形する。【声：島香 裕】

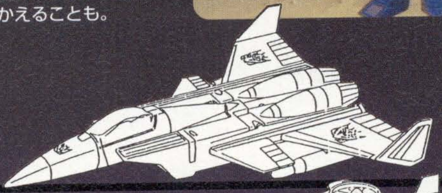
航空兵 スカイワープ

メガトロンの忠実な部下で、地球で最初に目覚めたトランスフォーマー。挑発的で、自分より小さい者や飛べない者を露骨に馬鹿にしている。テレポート能力を持っており、瞬間移動による挟撃や奇襲が得意。F・15に変形する。【声：江原正士】



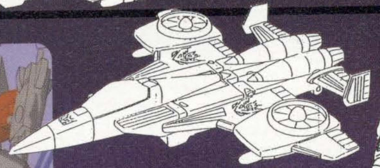


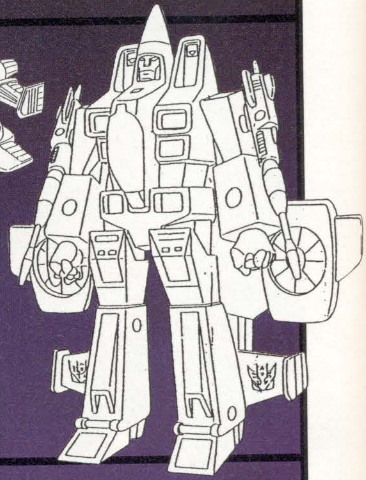
▲仲間割れの惨状に、思わず呆れかえることも。



航空兵
ダージ

カナード（先尾）翼を持つジェット機に変形。口数は少ないが皮肉屋で、ラムジェットと組んで強請りのようなことも行う。与えられた命令は黙々と実行するが、持久力にはやや難がある。【声：難波圭一】

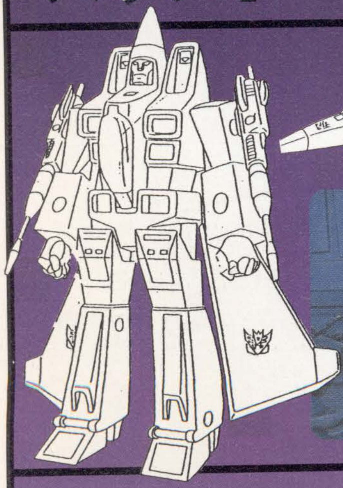


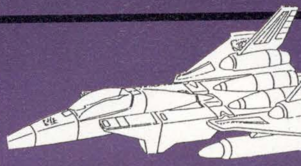


▲弾倉には野球ボールも装填可能。剛速球でバットをへし折る。

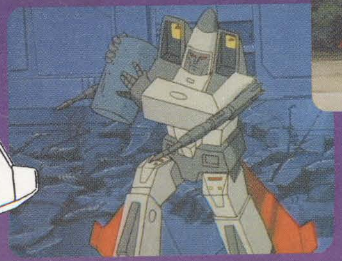
航空兵
スラスト

垂直離着陸機能を備えたジェット機に変形。慈悲のかけらもない性格で、弱者をいたぶることを好む。しかし、その反面臆病でもあり、窮地にあっては自分より強い者に頼ろうとする。長い物には巻かれる主義。【声：島香 裕】



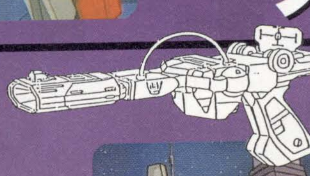


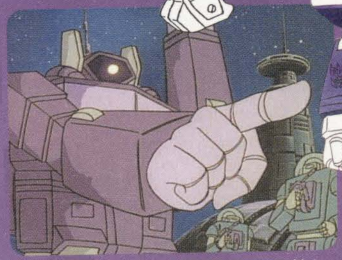
▼頑丈なボディを持ち、体当たり攻撃には自信を見せる。



航空兵
ラムジェット

デルタ翼のジェット機に変形。ダージ、スラストとともに「銀河系最強のジェットファイター」を自称する。勘は鋭い方ではなく、スタースクリームを疎ましく思いつつも必要な指示には従う事が多い。【声：石井敏郎】



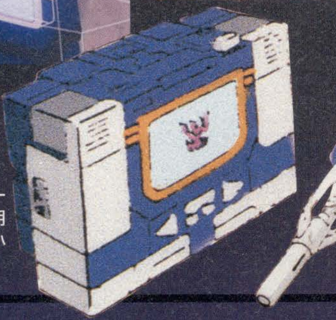


▲多くのガードロボットを部下に持ち、サイバトロンの地下組織だけではなく、セイバートロン星に迫る外敵とも戦う。

防衛参謀
レーザーウェーブ

デストロン軍団創設時からメガトロンに仕え、勇敢で忠実、かつ自分の分をわきまえた理想的な兵士と評される。セイバートロン星を後にしたメガトロンに留守を任され、その後の四百万年の間に惑星の大半を占領。ウーマンサイバトロンをほぼ全滅へと追い込む。また、スペースブリッジの開発によって、地球から大量のエネルギーを瞬時に運ぶことも実現した。レーザーガンに変形する。【声：島香 裕】

▲胸のパネルからは、エネルゴンキューブボックスを製造する。



▶カセットレコーダーになれば、人間の使用するサイズにまで縮小が可能となる。

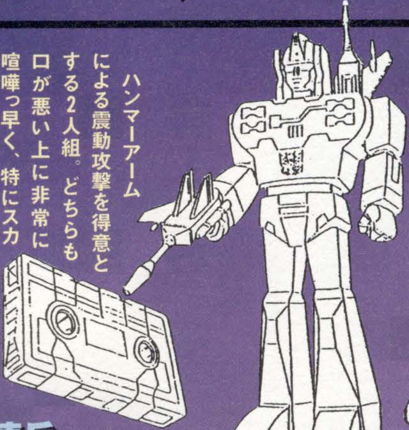
情報参謀
サウンドウェーブ

デストロン軍団創設時からのメガトロンの腹心。ブレインスキャンによって相手の考えを読む事が可能で、メガトロンの戦略に大きく貢献してきた。カセットレコーダーに変形し、カセットテープ型に変形する部下・カセットロンを胸に収容する。得意技は広範囲に強力な振動波を放つオーディオディスラプター。ほぼ同じ機能を持つブロードキャストを「口だけのイカレサウンド」として忌み嫌っている。【声：政宗一成】

空中破壊兵
コンドル／バズソー

偵察や監視を主な任務とする飛行タイプのカセットロン。臆病な性格のため、急降下による一撃離脱攻撃を主体にしているが、不意を突けばコンボイさえ倒す実力がある。

カセットロン



特殊破壊兵
フレンジー／ランブル

ハンマーアームによる震動攻撃を得意とする2人組。どちらも口が悪い上に非常に喧嘩っ早く、特にスカイワープとの仲は険悪そのもの。一方でメガトロンに対する忠誠心は高く、側に仕える事も多い。【声　フレンジー：城山知馨夫／ランブル：難波圭一】

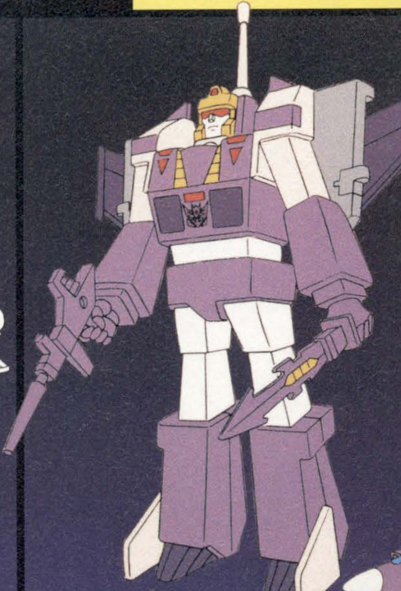
諜報破壊兵
ジャガー

デストロンの番犬と称されるネコ科の猛獣。聴覚や嗅覚に優れ、潜入活動や追跡に活躍する。カセットモードではサウンドウェーブのスピーカーを通じて喋る事が出来る。【声：島香　裕】

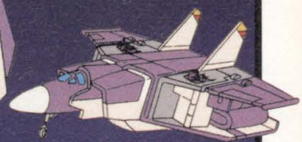
トリプルチェンジャー

3つのモードに変形し、単独で様々な状況に対応することが可能なデストロンの新メンバー。

空陸参謀 ブリッツウイング

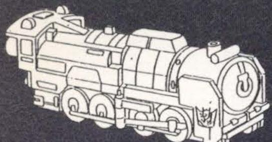


ジェット機と戦車に変形するトリプルチェンジャー。どんな言葉を聞いても、そこに軍事的な意味を見出すほどの戦争好き。自分の攻撃成果を過大評価する傾向があり、スタースクリームには「大ボラ吹き」と思われている。【声：難波圭一】

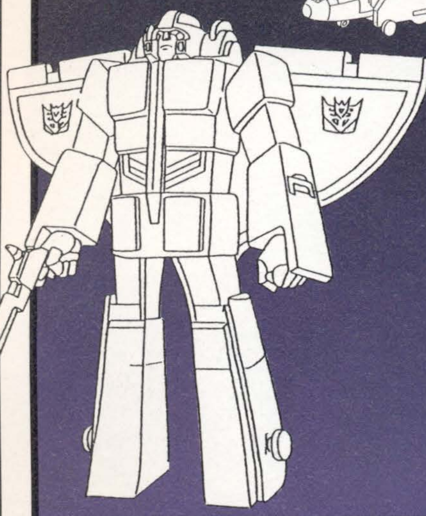


◀▲ジェット機から素早く戦車へと変形、地上のサイバトロンをひき潰してしまう。

輸送参謀 アストロトレイン



◀▼いずれのモードも大勢の仲間を乗せられるほどに巨大化が可能。輸送任務に活躍する。



SLとスペースシャトルに変形するトリプルチェンジャー。ダージ、ラムジェットとともに宇宙刑務所を脱走してきた。尊大な性格で、多少の事には動じない風を気取っているが、気付いたときには手遅れということも多い。【声：喜多川拓郎】

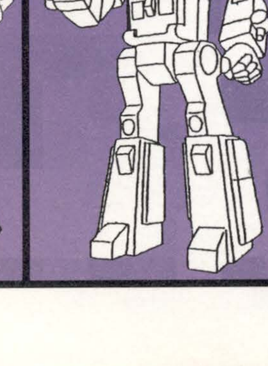
インセクトロン

太古より地球に棲みつき、独自の進化を遂げた種族。自分のコピー軍団を作る能力を持つ。

心理工作員 シャープネル

落雷のエネルギーをを角に蓄え、強力な電撃に変えて撃ち出す。デストロンと手を組んではいるが信用してはおらず、独立部隊としての行動をとる。【声：江原正士】

電子工作兵 ボンブシェル



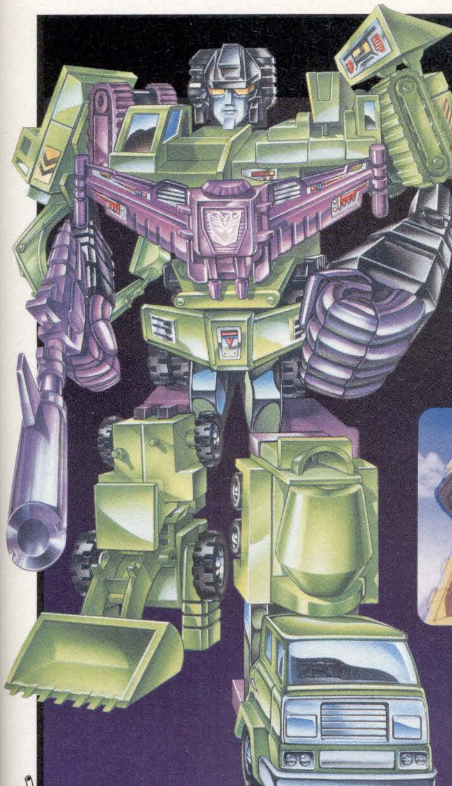
セレブロシェルを相手の電子頭脳に撃ち込み、思い通りに操ることが可能。技術者としてメガトロンから評価されており、単独で呼ばれることもあった。【声：城山知馨夫】

諜報工作兵 キックバック

脚力が強く、一撃で大型の戦士も蹴り飛ばす。彼らインセクトロンはいずれも食欲旺盛で、森林や畑を食い荒らし、それをエネルギーに変換する能力を持つ。【声：石井拓郎】

ビルドロン師団

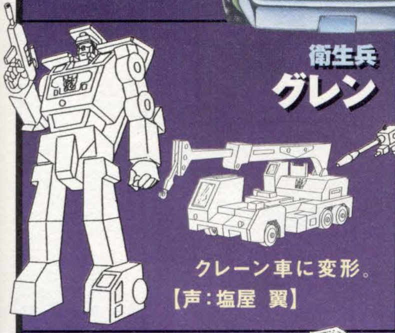
建設車両に変形する、両軍を通じて初の合体部隊。



かつてはセイバートロン星で最も美しいと言われた都市、クリスタルシティを造り上げた建設集団であった。しかし、メガトロンによるロボスマッシャーの洗脳を受け、悪の師団と化してしまう。それでもなお建設への情熱は失われず、デストロン軍団としては数多くの奇怪な建造物や兵器を手がけてきた。仲間同士は強い友情で結ばれており、合体してデバスターとなると、そのパワーはサイバトロンを圧倒する。【声：加藤精三】

▲デバスターへの合体能力は、メガトロンによって洗脳された際に与えられた。

巨人兵 デバスター

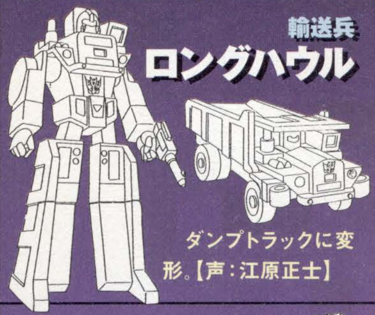


衛生兵 グレン

クレーン車に変形。【声：塩屋 翼】

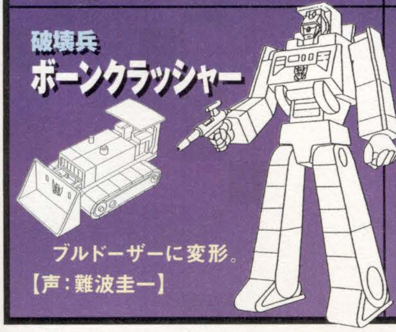
建築兵 スクラッパー

ショベルドーザーに変形。【声：石井敏郎】



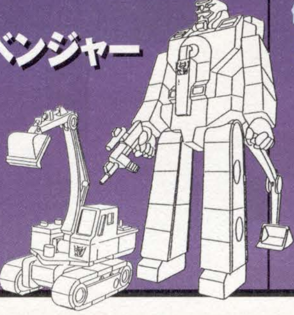
輸送兵 ロングハウル

ダンプトラックに変形。【声：江原正士】



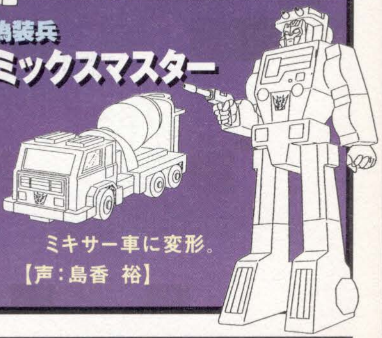
破壊兵 ボーンクラッシャー

ブルドーザーに変形。【声：難波圭一】



採掘兵 スカベンジャー

パワーショベルに変形。【声：喜多川拓郎】



偽装兵 ミックスマスター

ミキサー車に変形。【声：島香 裕】

EXTRA CHARACTERS

Dr.アーカビル

デストロンに協力する悪の天才科学者。人間の精神を自在にコントロールするヒプノチップを使い、人々をデストロンの奴隷に変えた。スタースクリームの反逆に加担し、体の大半を機械化されてしまう。【声：石井敏郎】

ナイトバード

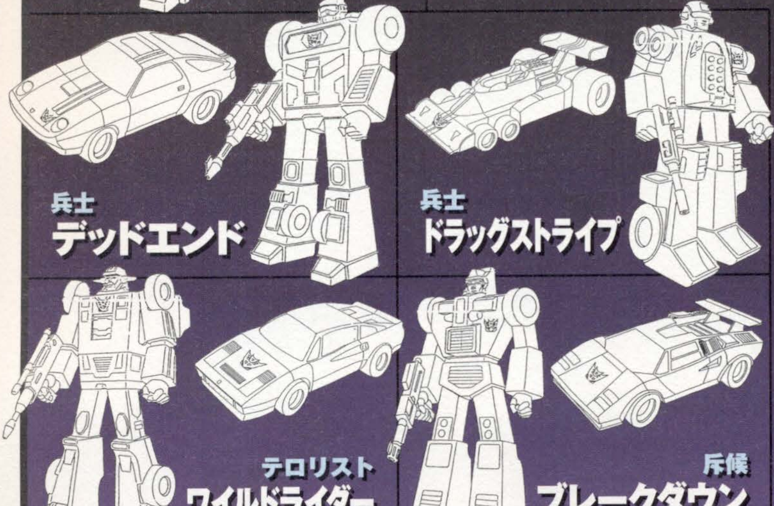
日本の科学者ハマダ博士製作による「くのいちロボット」。デストロン軍団によって強奪、改造され、サイバトロン基地からエネルギーチップを盗み出した。多くの武器を装備しており、サイバトロン戦士の攻撃もほとんど無力化することが出来る。

スタントロン部隊

地上のサイバトロンの脅威となる悪のカーロボット軍団。

サイバトロンの地上戦力に対抗すべく、地球の車をメガトロン自ら改造して誕生させた新部隊。オートバリヤーで強化された頑丈なボディを持ち、反重力装置による空中での運動性能、そして全員が時速五百キロを越える猛スピードを発揮する。過激な暴走集団で、戦闘の無い時には街中で「ぶっ壊しレース」をして楽しんでいる。合体してメナゾールとなるとさらに頑丈さを増し、殆どの砲弾は跳ね返してしまう。【声：戸谷公次】

参謀
モーターマスター

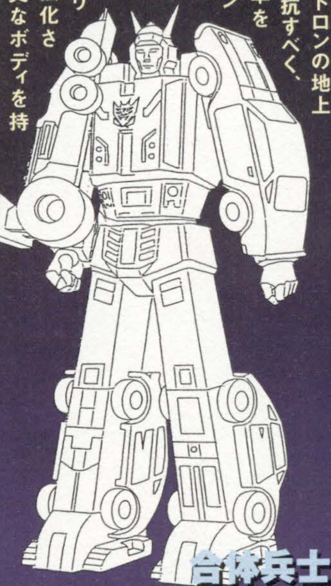


兵士
デッドエンド

兵士
ドラッグストライプ

テロリスト
ワイルドライダー

斥候
ブレークダウン



合体兵士
メナゾール

コンバットロン部隊

圧倒的な火力と優れた技能を持ったプロの戦闘部隊。

軍団を追放されたスタースクリームが、ガダルカナル島に遺棄された太平洋戦争の兵器に、デストロン政治犯達のパーソナルコンポーネントを注入して誕生した反乱部隊。オンスロートの指揮による戦略的打算をその行動基準とする。チームの仲は決して良いとは言えないが、合体してブルーティカスとなれば、数で勝るデバスターをも圧倒する。後に帰順したスタースクリームによって再プログラムされた。【声：島香 裕】

攻撃参謀
オンスロート

偵察兵
ボルダー

宇宙兵
ブレストオフ

補給兵
スインドル

狙撃兵
ブロウル

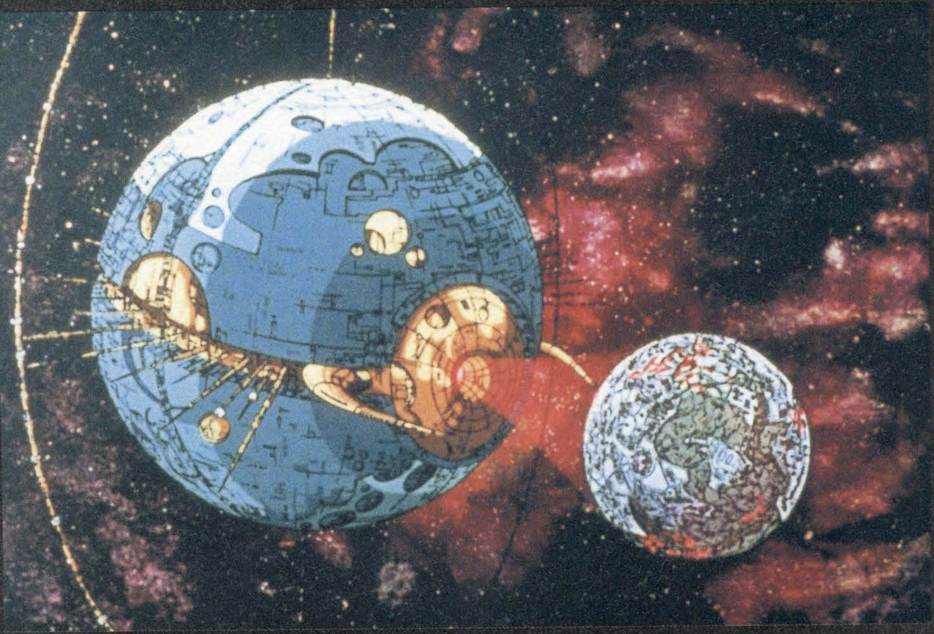
合体兵士
ブルーティカス

全米映画興行成績
第14位を記録——
総制作費40億円　セル枚数25万枚
ロボットバトルアニメーションの頂点!

トランスフォーマー ザ・ムービー

TRANSFORMERS THE MOVIE

コンボイとメガトロンの最終対決！
そして史上最大のトランスフォーマー、
星間帝王ユニクロン現る。
戦場は宇宙に!! 戦士はロボットに!!



トランスフォーマー史上、最高のスペクタクルで送る娯楽大作『トランスフォーマー・ザ・ムービー』。セル画によるロボットアニメの頂点と云っても過言ではない、幻の超大作である。

諸事情により日本で正式に公開された事はない為、一般の認知度は低いものの、「トランスフォーマー5周年記念」として、89年には国内版ビデオが販売。現在でもDVDで容易に入手する事が可能となっている。トランスフォーマーファンならずとも、ぜひ御覧頂きたい。

2005年——。惑星セイバートロン全土はデストロンに制圧され、サイバトロン戦士たちは、セイバートロンの2つの月（ムーンベース）に隠れ、反撃の機会をうかがっていた。そのムーンベースより飛び立ったシャトルがデストロンに強奪された。メガトロンらを乗せたまま、シャトルは予定の航路を進み、一路地球のサイバトロンシティへ——。警戒厳重なシティを攻略しようというのだ。

ムーンベースで任務に就く父スパイクと会う機会が少ない為、地球に棲むダニエルは不機嫌だった。ダニエルを励ますホットロディマスは、到着するシャトルを眺めにダニエルをシティ郊外の展望台へと誘う。しかし、仰ぎ見るシャトルの腹には穴が空き、その中にはデストロンの姿が。ホットロディマスはただちにシャトルを迎撃するが、デストロン軍団は脱出。シティへの攻撃が開始される。シティの指揮を担うウルトラマグナスは、直ちに一同に指示を飛ばす。スプラングとアーシーは、シティを戦闘モードへとトランスフォーム、パーセプターとブロードキャストは、ムーンベースのコンボイ司令官に連絡、救援を請う。

各ゲートを閉ざし、強靭な戦闘要塞へと変形したサイバトロンシティ。だが、最強の巨人兵デバスターらの猛攻により、シティはガレキへと姿を変えた。残るサイバトロンを蹴散らすべく、最後の突撃を始めるデストロン。そのとき、一隻のシャトルが大空に姿を現した。

コンボイ司令官が、胸に悲壮な覚悟を秘め、シャトルより降り立った。群がるデストロンを退治すると、コンボイはメガトロンに一騎打ちを申し出る。互いに劣らぬ実力を持つ、2大リーダーの決戦。ところが加勢しようとしたホットロディマスをメガトロンが盾にした為、コンボイは一方的に砲火を浴びてしまった。勝ち誇るメガトロン。しかしコンボイの最後の一撃が、メガトロンの胸を強打。破壊大帝は倒れる。しかし、コンボイもまた……。

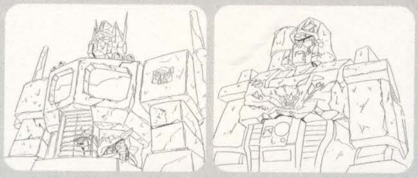
死の床に貧したコンボイは、サイバトロンの司令官が代々受け継ぐリーダーの証、パワーの源であるマトリクスを、友人ウルトラマグナスに手渡し、事切れる。「この宇宙が平和になる日まで——」そう言い残し、偉大な英雄は永遠の眠りについた。

大宇宙をさすらい、目前の惑星を喰らい糧とするモンスター惑星ユニクロン。スタースクリームによって宇宙に捨てられたメガトロンは、ユニクロンへと迎え入れられる。ユニクロンは己の目的遂行の為、メガトロンに新たな姿と力、新しい軍団を授けた。

スタースクリームの大帝戴冠式に乗り込んだかつてのメガトロンは、SFガンの一撃で彼を破壊する。新たな破壊大帝、ガルバトロンの誕生であった。

2つのムーンベースが、モンスター惑星に喰われてしまった。新しい司令官ウルトラマグナス以下サイバトロン戦士は、地球を離れ、宇宙へと飛ぶ。デストロン、そしてユニクロンを倒し、宇宙をひとつにする為に——。

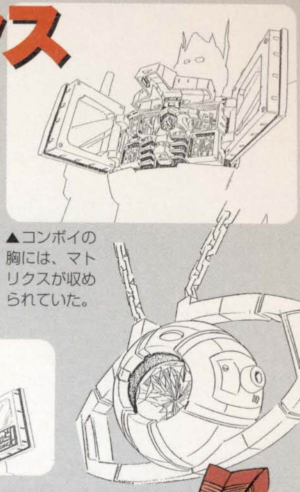
コンボイとメガトロンの対決



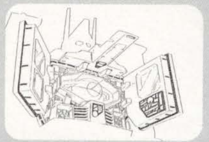
▶コンボイとメガトロンによる、宿命の対決。その結果、両者共に致命的な傷を負ってしまう。

マトリクス

サイバトロンの司令官に与えられる、リーダーの証、叡知の証、マトリクス。死んだリーダーの魂は、マトリクスと一体となる。死期を悟ったコンボイから、ウルトラマグナスへと受け継がれた。しかし彼自身が最初から悟っていた様に、ウルトラマグナスに叡知の光が輝く事はなかった。



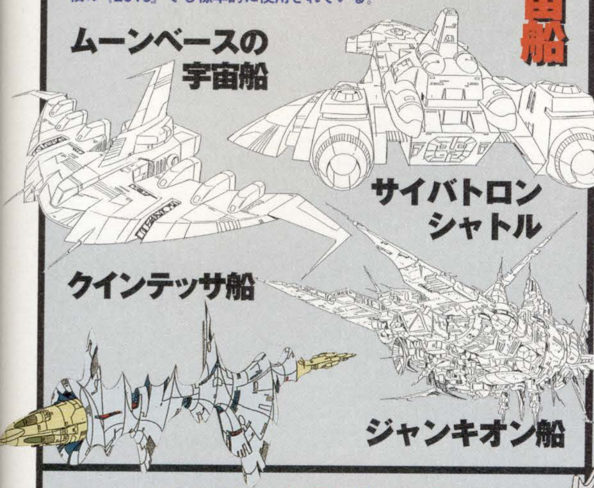
▲コンボイの胸には、マトリクスが収められていた。



▶ウルトラマグナスにも、同様のスペースがある。

宇宙船

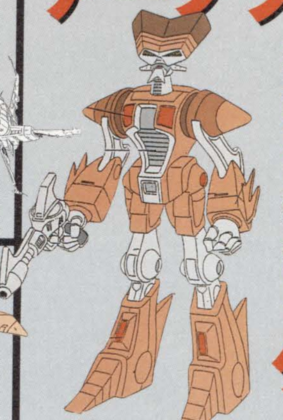
スターウォーズ的な要素も加味された本作には、多彩な宇宙船が登場する。サイバトロンシャトルやクインテッサ船は、後の『2010』でも標準的に使用されている。

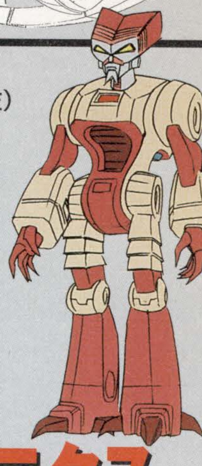


アーブラス（左）

クラニクス（右）

本作冒頭、モンスター惑星ユニクロンにより滅亡させられた惑星リゾンの住人。クラニクスは生き延びるが、クインテッサ星人に捕らえられ、処刑されてしまう。





ロボット・ヤリイカ

ダイノボットとはぐれたホットロディマスとチャーが遭遇した、巨大なロボット・ヤリイカ。対決の結果、スミを吐いて逃亡した。

▼ホットロディマスの腕に備わる、回転カッター。イカの足を切断する。

Check Point

『トランスフォーマー・ザ・ムービー』の魅力をチェック！

■旧キャラクターの死

本作では、コンボイ司令官を始め、ゴング、ブロール、アイアンハイド、ホイルジャック、チャージャー、スカイワープ等、多くのキャラクターが死亡してしまう。TVではタブーであったキャラクターの「死」は衝撃的であり、新たな世代のトランスフォーマーの登場を予感させた。

■MTV的映像音楽

映像と音楽が極めてマッチした『ザ・ムービー』では、あたかもミュージックビデオの様な体裁のシークエンスも多数存在。何れも効果的に使用されている為、聴く度にシーンが頭に浮かぶほど。なお、スタン・ブッシュによるテーマ曲「The Touch」は、『2010』最終回にも挿入されている。

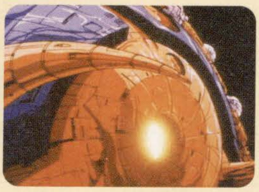
■壮絶美麗な映像

例えば冒頭、機械化された天体リゾンが、ユニクロンによって喰らい尽くされるシーンは圧巻。建物や高架、街並、人々がユニクロンに呑み込まれ、粉々に砕かれる――。多数の有名アニメータが参加した本作では、何より圧倒的な作画が魅力。セル画枚数25万枚はダテではない。

■宇宙規模のスケール

劇場版として、あらゆる意味でスケールアップした本作。その頂点となるのが、モンスター惑星から超弩級規模のロボットモードへと変形する、ユニクロンのトランスフォーム・シーンであろう。セイバートロン星を攻撃、破壊せんとするユニクロンの姿は、まさに荒ぶる神である。

■英語版の超豪華キャスト！



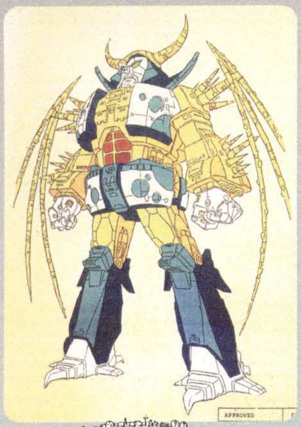
名優オーソン・ウェルズがユニクロンを演じ、これが彼の遺作となった事は微妙に有名。他に『宇宙大作戦　スタートレック』のレナード・ニモイがガルバトロンを、昨年死去したロバート・スタックがウルトラマグナスを担当。レック・ガーは、かのモンティパイソンのエリック・アイドルが充てる。

■コンボイ、メガトロンの死

本国アメリカで本作は、『トランスフォーマー』から『2010』への移行期に公開されている。故に物語も、2005年のコンボイの死と、新たな司令官の誕生を軸に描かれている。云うまでもなく、本作での2人のラストバトルは見所のひとつ。ファンならば、涙なしには見られないだろう。

■新たなトランスフォーマーの登場

ホットロディマス、チャー、ブラー、ウルトラマグナス、アーシー、スプラング等、多くの新TFが登場。それぞれに彼らを印象づける活躍の場が設けられている。（ブラーの「活躍」は微妙か？）特に、若者ホットロディマスの活躍を充分堪能する事ができる映像作品は、本作のみと云えよう。



▲ユニクロンコア。多数のモニターが、マトリクスの動向をチェックする。

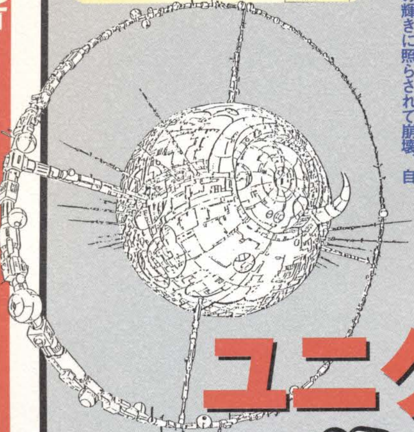
▶惑星開口部付近。スケール感溢れる緻密なディティール。

◀デザイン原案。

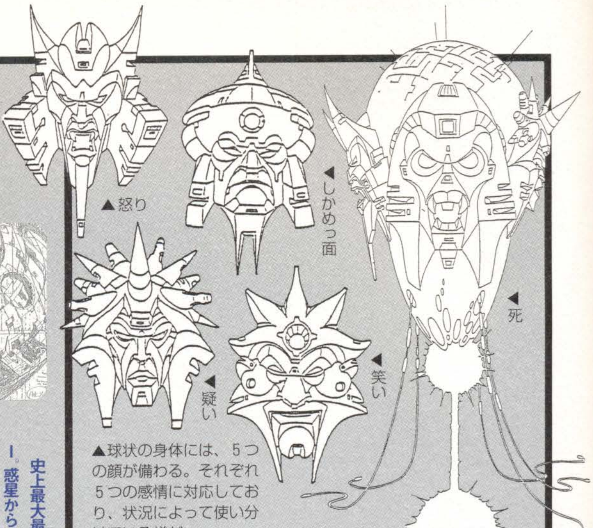
星間帝王
ユニクロン

史上最大最強のトランスフォーマー。惑星からロボットへと変形する。惑星を喰らいながら、セイバートロン星を目指していた。ユニクロンが唯一恐れる存在、サイバトロンの持つマトリクスを破壊させる為に、メガトロンを救助、ガルバトロンへと転生させる。

マトリクスに選ばれしロディマスコンボイが、マトリクスを開放した為、その輝きに照らされて崩壊、自爆した。



◀モンスター惑星形態。2本のキバで惑星をくわえ込み、喰らい尽くす。



▲球状の身体には、5つの顔が備わる。それぞれ5つの感情に対応しており、状況によって使い分けている様だ。

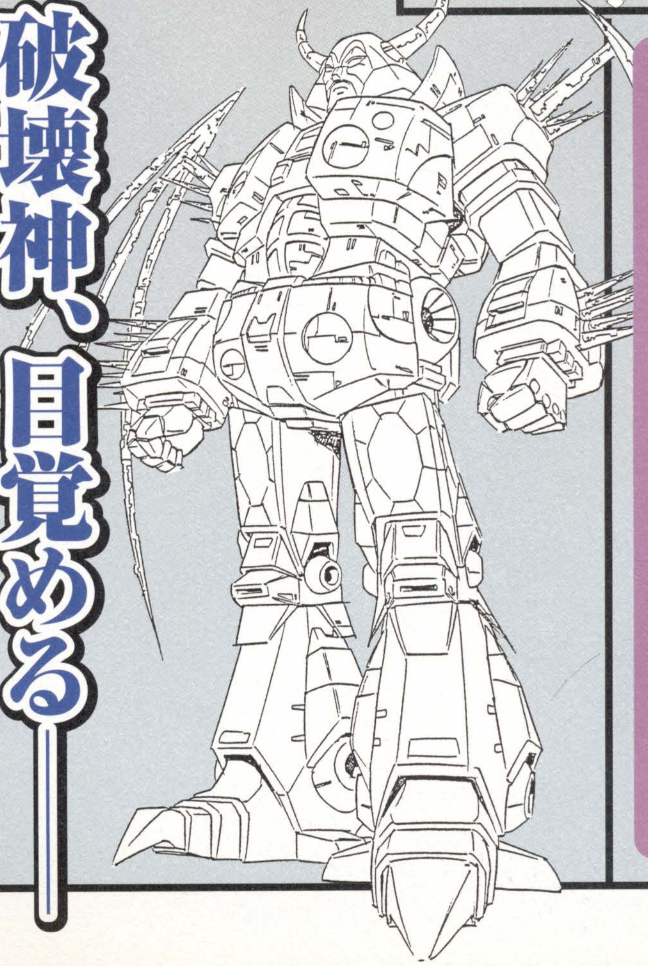
クインテッサ

『2010』にて第三勢力として活躍するクインテッサ星人。初登場となる『ザ・ムービー』では人々を裁判に掛けては処刑していた。どうやらその行いは、ユニクロンの動きに連動している様だ。

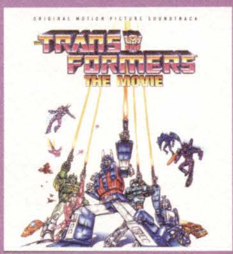
ガード

陪審員

破壊神、目覚める――



SOUND TRACK



▲アメリカ版CDジャケット。画は劇場用ポスターを流用している。

『トランスフォーマー・ザ・ムービー』の魅力は、映像やストーリーのみに留まらない。音楽の作曲は、『ロッキー4』等の作曲で知られるビンス・ディコラが担当。当時のアメリカでディズニー等のブランドを持たないアニメのサントラが発売された事は、快挙であった。ライオン、スタン・ブッシュ等、有名アーティストが多数参加した音盤は、子供向けアニメ映画の枠を遥かに超えた名盤となった。

国内盤もビデオに合わせてCDがポニーキャニオンより販売（廃盤）。後にアメリカでもCD化され、こちらは現在も輸入CD店などを利用して入手可能となっている。

1986

未来を舞台とする、トランスフォーマーの戦い。第三勢力クインテッサ星人の登場で、物語はより深みを増し、よりSF的に、そしてより破天荒なストーリーが炸裂する——。

ユニクロン戦争から5年——地球歴2010年。宇宙はつかの間の平和を取り戻していた。

惑星セイバートロンを追われ辺境の惑星ジャールに隠れ棲むデストロン残党。その元に、サイクロナスとスウィープスが現れる。軍団再建を悲願とするサイクロナスは、かの戦争で行方不明となった新破壊大帝ガルバトロンを探し出す為、軍団の仲間からエネルギーのカンパを募る。

そのころ惑星アセニアでは、サイバトロンのニューリーダー・ロディマスコンボイの宣言により、第一回銀河系オリンピック大会が開催された。しかしその平和の式典は、異星人スカックスゾイドと謎のロボット一団の襲撃により破られてしまう。

全てはセイバートロン星を我がものと主張する謎の新勢力、邪悪なクインテッサ星人の仕業であった。彼らはサイバトロン、デストロンを問わずあらゆるトランスフォーマーを憎み、彼らを根絶やしにせんと目論んでいた——。マトリクスの内部空間を旅して、惑星セイバートロンの過去とクインテッサの深い関わりを知ったロディマスコンボイは、皮肉な運命に驚愕する。

新たな敵の登場。そして復活したガルバトロンに率いられる新生デストロン軍団。超ロボットバトルは広大な銀河を舞台に、さらに激しさを増す！

トランスフォーマーたちの故郷
惑星セイバートロンの歴史

はるかな過去――。クインテッサ星人は銀河に大ロボット工場を建造した。それが、セイバートロン星だ。工場で生産されるのは、軍事用と民間用のロボット。この2種類のロボットたちが、デストロンとサイバトロンの遠い祖先だった。クインテッサこそが彼らの生みの親、トランスフォーマーは彼らの所有物であったのだ。しかし知性を備え、感情を芽生えさせたロボットたちは、自由を求め反乱を起こす。多くの犠牲を出しながらも、ついには非情な支配者をセイバートロン星から追放したのだ。

▶1100万年前の反乱ロボット・リーダー、A3。セイバートロン星の奴隷ロボット解放のきっかけとなった、ハイブシティへの襲撃を成功させた人物。後にアルファートリンとなる重要人物である。

◀しかし元々軍事用、戦闘用であるデストロンは、サイバトロンとは異なり平和を愛する事ができなかった。やがて両者の間に諍いが起こり、サイバトロンはその戦力差を埋める為に、トランスフォームの機能を編み出す。

5つの顔を持つ悪魔
クインテッサ星人

トランスフォーマー絶滅を目論む、謎の第三勢力。高度な知性・技術を持ちながら、精神は邪悪極まりない。感情に応じて5つの顔を使い分け、銀河の様々な場所で陰謀を張り巡らしている。彼らは紛争の両陣営に武器を供給する死の商人であり、惑星文明の正常な発展を妨げ、自らの宇宙での優位を保とうとする、悪質な利己主義者である。惑星ザモジンの様に、クインテッサによって惑星ごと封印されてしまった文明の数は、数知れない。彼らの陰謀の全てがあきらかとなったとき、クインテッサは全銀河を敵に回すとも云われるが……。

▲惑星クインテッサ。5年前のユニクロン戦争時には、デストロンに迎撃されたロディマスたちの乗るシャトルが墜落している。

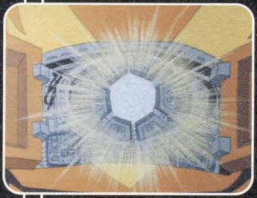
頭上に浮かぶ不気味な衛星
ユニクロンの首

◀ユニクロンの心臓部にあたる頭脳。スタースクリームの亡霊は、ユニクロンを目覚めさせ、我が身の復活を企てる――。

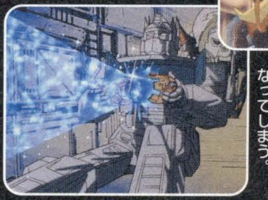
マトリクスの光を浴びて四散したユニクロンの首は、惑星セイバートロンの周回軌道を巡る衛星となって、今もトランスフォーマーたちを見下ろしている。しかしユニクロンの自動防衛システムは未だに健在。彼は復活を夢見ながら、静かに時を待ち、眠り続けている。

サイバトロンのリーダーの証
マトリクス

マトリクスは、宇宙そのものを知る為の鍵、あらゆる叡智の結晶である。その内部には、戦いに傷つき倒れた歴代のサイバトロンリーダーの知性や経験、魂が宿る。マトリクスは「パワー」であり、究極の「力」となる。かつてユニクロンを撃破したマトリクスの光は、人々から理性を奪い去る宇宙ペストを駆逐する事も可能とした。余談だが、謎の生命体プリマクロン(超ロボット生命体の生みの親と云われる)の助手、プリマスのコアも、何故かマトリクスと酷似したデザインをしている。



▼マトリクスの内部には、偉大な先人の霊が眠る。デストロンにマトリクスが奪われた際には、彼等は怨霊となって姿を現した。



◀宇宙ペストを封印する為、復活したコンボイはマトリクスを解放。銀河は救われるが、マトリクスは空になってしまう。

これだけは見たい! エピソードセレクション

コンボイの復活 パート1・2

感染した者は理性を失い凶暴化する伝染病・宇宙ペスト。あらゆる生命体に蔓延した宇宙ペストにより、全宇宙は存亡の危機を迎える。ロディマスコンボイも感染し、わずかに残ったサイバトロン戦士たちは、一縷の望みをコンボイ復活に掛けた――。ラストのコンボイとガルバトロンの握手が、シリーズの最終回ならでは。(第29・30話)

重すぎた使命

リーダーとしての責任の重さに悩むロディマスコンボイは、その迷いが元でマトリクスをデストロンに奪われてしまう。ホットロディマスに戻った彼は、存在意義を見失い、マトリクス奪還への意欲を失っていた――。『2010』の良さは、作品ムードの振幅にある。これは中でもシリアスなテーマが胸を打つエピソード。(第28話)

原始の呼び声

天才プリマクロンの発明品、エネルギーを吸い取り成長するトルネドロンの暴走により、トランスフォーマーをはじめ、全宇宙が絶滅。唯一遺されたダイノボットやアニマトロンなど野獣戦士たちだけが、プリマクロンの知性を打ち破る可能性を持っていた――。頂点を極めた暴走する作画パワーは必見。何もかもがカッコイイ。(第26話)

クモの巣惑星

凶暴すぎるガルバトロンに手を焼いたサイクロナスが、彼を療養惑星トーキュロンに入院させてしまうというお話。トーキュロン人はガルバトロンに、カウンセリングや積み木など、妙にリアルな治療を施す。……が、いかなる治療も、破壊大帝の破壊衝動を抑える事はできない。冒頭を除くと終始サイバトロンが登場しない異色作。(第17話)

音楽惑星への挑戦

コーラスによるハーモニーパワーを持つ住人が暮らす、惑星ユーリズマ。デストロンはハーモニーを録音してパワーの悪用を目論む。住人達の日常会話全てが微妙にメロディアスな、ミュージカル仕立て(?)の怪作。コレが楽しめるか楽しめないかで、『2010』の楽しみ方が違ってくると云っても過言ではない?(第14話)

ロディマスコンボイ率いる、2010年のサイバトロン。悲願であった母星セイバートロンの奪還を果たしたいま、活動の中心はセイバートロンに移転。地球にはテレトラン2を備えたサイバトロンシティが築かれている。

総司令官
ロディマスコンボイ

ユニクロン戦争の若き英雄にして、新世代のサイバトロン総司令官。若さ故に行動力に優れ、理論よりも直感力に重きを置く、まさに新人類ならぬ新ロボット類である。無辜の人々を守る為には我が身を危険にさらす事も厭わない勇気を備え、胸にはコンボイより受け継いだリーダーの証、叡知の結晶マトリクスが収まる。全宇宙に暮らす生命体の命と平和を護る為、ロディマスコンボイは戦う。

　コンボイに比べると経験の乏しいロディマスには、自己のリーダーとしての資質に悩む場面も多い。果たして自分はマトリクスの持ち主として相応しい人物なのか、常にロディマスは悩みを抱えていた。クインテッサの陰謀により復活したコンボイと再会した際などは、進んでマトリクスを彼に返却している。

　しかしあるとき、心の隙からデストロンにマトリクスを奪われてしまったロディマスは、日本の道場で自分自信の持つ価値を再発見する。ホットロディマスとして自らの意志でマトリクスを身につけたロディマスは、真のリーダーへと成長を遂げる。

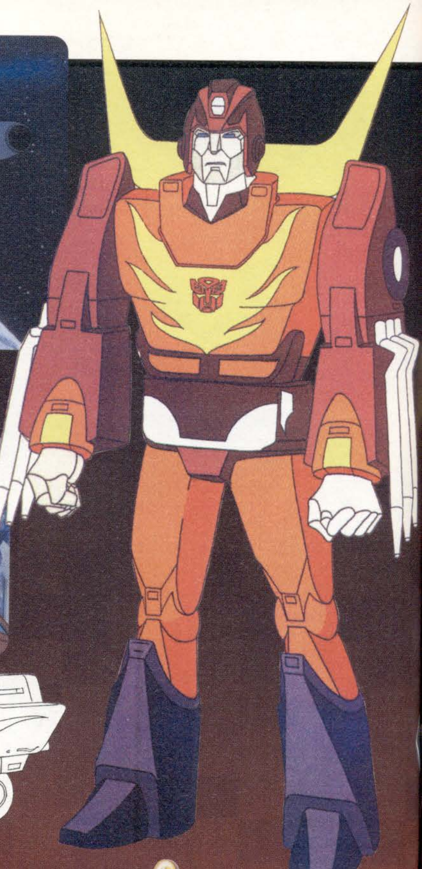
【声：石丸博也】

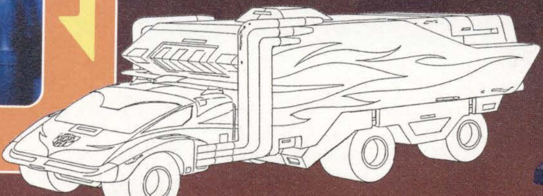
▲ロディマスコンボイの誕生。マトリクスに選ばれたホットロディマスのボディが、マトリクスの輝きに照らされて生まれ変わる。

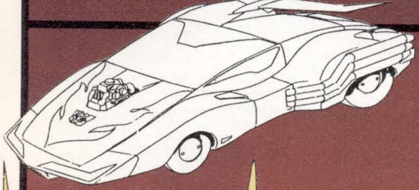
トランスフォーム！

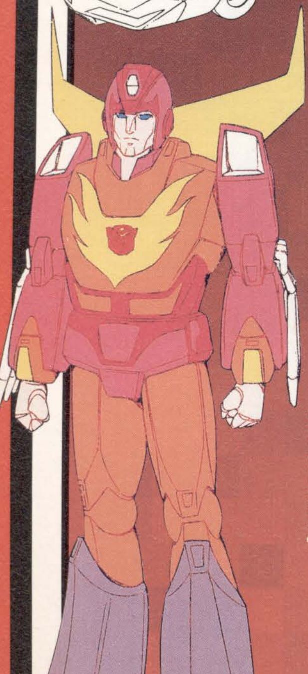
胸が起きあがり、腕をたたみボンネットと車体前部となる。膝を折り曲げ、背中に折りたたまれていた後部コンテナが展開し下半身を包んで、大型キャンピングカーの様なカーモードとなる。

▲武器は高圧電流を放つフォトン・エリミネーター。腕のエキゾーストパイプも三連ビーム砲となっている。









▲マトリクスを失ったロディマスは、司令官としての重圧からも解放されるが……。

騎士 ホットロディマス

スーパーカーに変形する騎士。血気盛んで無鉄砲、若さ故に無軌道で周囲への思い遣りが欠ける面もあるが、やはりその心には正義への信念が満ちている。地球人の少年ダニエルとは親友同士であり、兄弟の様に仲がよい。

彼こそはマトリクスにより変化したロディマスコンボイの前身。現在も胸のマトリクスを外すと、この姿へと戻ってしまう。

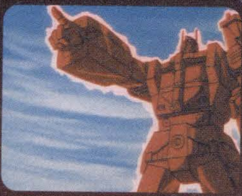
【声：石丸博也】

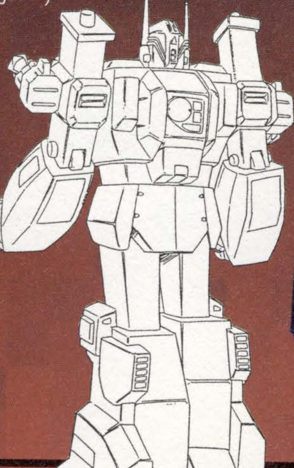
シティコマンダー ウルトラマグナス

トランスポーターカーに変形する、サイバトロンのシティコマンダー。常に他人の事を優先する彼の姿を、尊敬する人々も多い。指揮能力・戦闘能力に優れ、副司令官的な存在として脇からロディマスコンボイを補佐する。が、極めて実直で生真面目なウルトラマグナスには、ルールに縛られないロディマスの考え方には面食らう事も多い。

ユニクロン戦争の際は、死に瀕したコンボイから後継者に選ばれたほどの実力者であった。部隊で行動する際など、ロディマスの代わりに指揮を担う事も多い。2010年時点での、サイバトロン・ナンバー2。【声：速水 奨】

▶大柄なロボットモード。両肩に備えたミサイルは、約48キロ先の目標を撃破する性能を持つ。

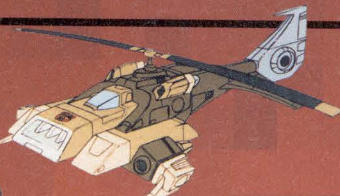

▲人々を憎しみに駆り立てる宇宙ベストの餌食となった際、なぜか執拗にロディマスを追いかける。（普段の中間管理職的な仕事からくるストレスであろうか……）



▼コンボイと同種のトレーラートラクターだが、後部のトランスポーターと一体となりロボットモードへと変形する。（TOYとは異なり、劇中でトラクターは無変形。）

空中防衛戦士 スプラング

装甲車とヘリコプターに変形する、サイバトロン初のトリプルチェンジャー・トリプルボット。楽観主義でユーモアに溢れ、機転も利く冒険者である。その体躯は屈強で、戦闘時にはヘリモードのローターブレードが変形した巨大なサーベルを、軽々と振り回す。ウーマンサイバトロンのアーシーとは、どうやら相思相愛の恋人同士の様だが――。【声：堀内賢雄】

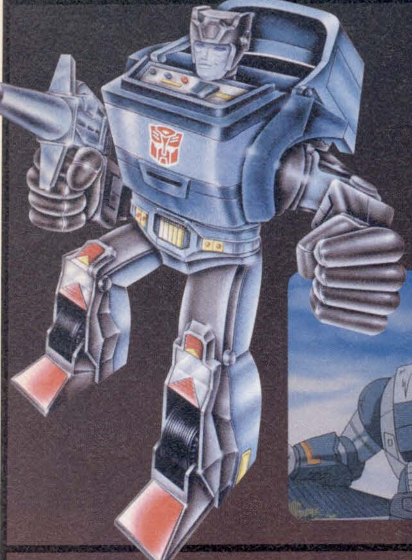


▲▼『ザ・ムービー』では、惑星ジャンキオンで両モードを披露。ロディマスの親友であり、マトリクスを託されそうになった事も。

ユニクロン戦争では旧オートボットの多くが凶弾に倒れた。2010年頃のサイバトロン中核メンバーは、主に未来感覚溢れるフューチャーカーで構成されている。

オートボット

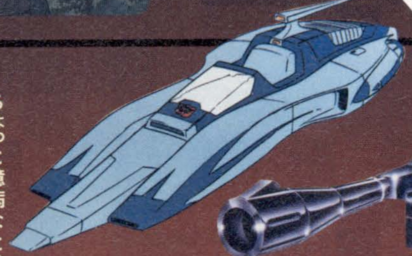
戦士 チャー



セイバートロン星の保安主任を務める老戦士。旧式セイバートロンモードのトラックに変形する。豊富な知識と経験を有し、サイバトロンの知恵袋として、様々な局面において的確なアドバイスを行う事が可能。ただし記憶回路の老朽化からか、必要な知識を必要なときに思い出せない事もしばしば。暇さえあればイックヤックを撃退した話など、かつての武勇伝を若者たちに語りたがるのが悪癖と云える。しかし年寄りとはいえ、その精神はタフ。「ワシの名はスプーン。セイバートロン星の皿洗い主任じゃよ」と、クインテッサの尋問にとぼけていた。【声：阪 修】

◀経験不足のロディマスコンボイを傍らで見守るチャー。彼はコンボイがマトリクスを受け継いだ際にも、傍らにいたのだと云う。

情報員 ブラー

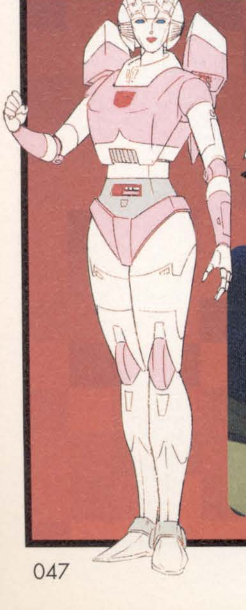


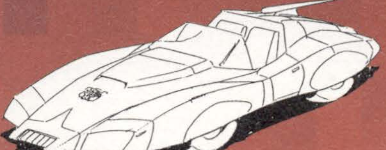
ちょっと臆病なところのある、落ち着きのないセッカチな情報員。おしゃべりな上にとても陽気。気ばかり焦るあまり早く喋ろうとして、同じ言葉を何度も繰り返す事も多い。（おまけに何故かオネエ言葉。）それ故、ブラーの早口はあたかも音声回路が故障している様に聞こえてしまう。

変形は無輪式のスーパーカー。高速に移動して重要情報をロディマスコンボイへと伝える。またあらゆる身動きもセッカチに素早く、『ザ・ムービー』では光学による視覚効果が付加され、その動きは残像が残るほどだった。【声：山口 健】

▶ブラーはときとして、情報だけではなく、重要度と緊急度の高い輸送任務を任される事もあった。

戦士 アーシー

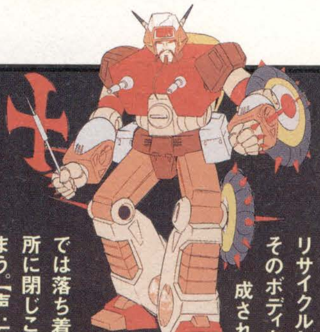




紅一点のウーマンサイバトロン。美人な上に男勝りの跳ね返り娘。戦闘でも他のサイバトロン戦士たちにまったくひけをとらない。あのガルバトロンのSFガンを手に取り、使用した唯一のサイバトロンでもある。

一方で女らしさも兼ね備え、ダニエルに対しては母性愛に近しいほどの優しさで接する。そしてスプラングのガールフレンド。あまり披露する機会がなかったカーモードは、ピンクのスーパーカーである。『ザ・ムービー』ではサングラス状のバイザーを展開するシーンもあった。蛇足だが、惑星パラドロンの看護婦は、色こそ違えアーシーと同種のボディを持っていた。【声：勝生真沙子】

◀仲間を助ける為、スプラングたちと共に上空よりさっそうと現れる。

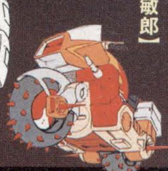


ジャンキオン指揮官 レックガー

ジャンキオン一族の長。彼らは宇宙を飛び交うTV電波から言語を学習した為、主にコマーシャルやドラマの台詞をパッチワークした様なつぎはぎな言葉を使う。(何故か語尾は「アルヨ」)

宇宙のゴミ廃棄所・ガラクタ惑星ジャンキオンに棲むジャンキオン一族は、厳密にはサイバトロンではない。彼らは優秀な技術者であり、あらゆるゴミをリサイクルして再利用している。そのボディ自体もガラクタで構成されている為、破壊されても、そこらに落ちているゴミを利用してリペアする事が可能。きれいに片づいている場所では落ち着かない為、清潔な場所に閉じこめると暴れ出してしまう。【声：石井敏郎】

◀恋人のナンシーちゃん。壊れても、より美人となって再生する。

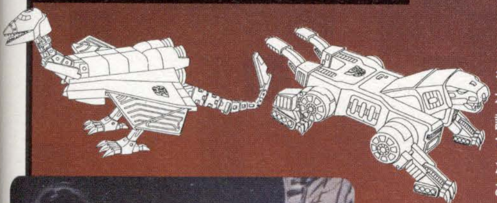


生存者 ウィリー

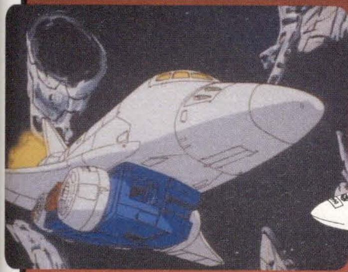
ミニボットの一員。小柄だが生意気で、大柄な相手でも躊躇なく戦いを挑む。ユニクロン戦争の際、仲間とはぐれたグリムロックらダイノボットたちと遭遇。意気投合して仲間になった。『2010』ではダニエルとコンビを組む事も多く、かつてのバンブル・スパイクを彷彿とさせる。【声：小宮和枝】

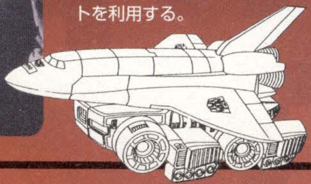
輸送員 スカイリンクス

オメガ・スプリーム、アダムスに続く、惑星間航行能力を有するサイバトロン戦士。「我が輩――」「スカイリンクス航空」と自らを呼ぶ、陽気なヤツ。しかしプライドが高く、常に自分が他の仲間より優れていると考えている節もある。そんな彼故に、『原始の呼び声』にて野獣戦士の一員扱いされた際には激怒。彼らのリーダーとして指揮を執るが、あまり役に立った印象もなかった。【声：戸谷公次】



◀上下に分離する事も可能。左は始祖鳥、右が山猫。別人格な訳ではなく、2体で1人のコンポーネントであるらしい。

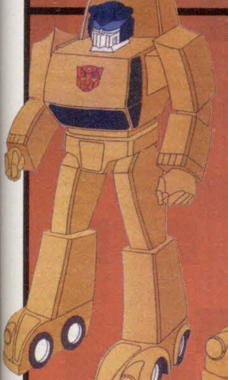




▼ビークルモードは、サイバトロン側としては初のスペースシャトル。この時代、銀河の交通には主に各星系に建造されたワープゲートを利用する。

情報指揮官 ゴールドバック

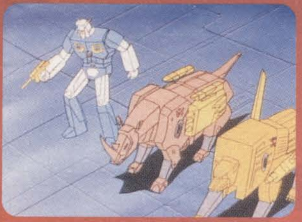
宇宙ペスト騒動の際、戦闘で傷つき倒れたバンブルを、クインテッサ星人がリペア、スロットルボットとして蘇らせた。ロボットモードが以前とあまりにかけ離れた姿となった為、自ら名を改める事にしたらしい。パーソナルコンポーネントはバンブルと同質のもの。【声：塩屋 翼】



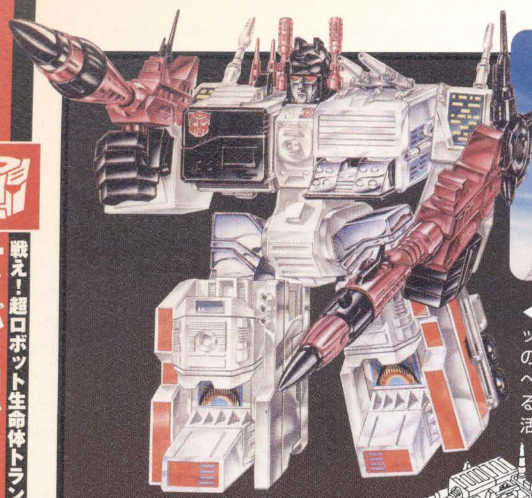
▼以前のバンブルとほとんど変わらぬビークルモードを有する。こののち、『ザ★ヘッドマスターズ』にも登場するが、あまり目立った活躍はなかった。

カセットボット

ブロードキャストの部下として、新たに加わったサイバトロン戦士たち。普段はブロードキャストに搭載されているが必要に応じてイジェクトされる。



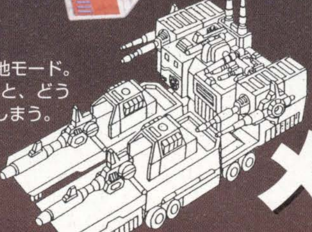
監視員 イジェクト（左）
追跡員 アムホーン（中央）
追跡員 スチールジョー（右）



◀超巨大なロボットモード。その巨体故、周囲への影響を考えると市街地では活動できない。

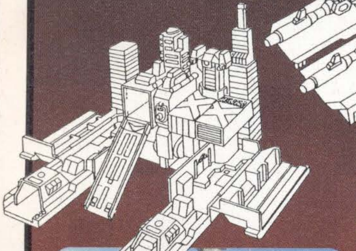
要塞都市スクランブルシティが変形して誕生する、最大サイズを誇るサイバトロン戦士。主にブロードキャストが指揮を執る事が多かった。普段は都市基地として機能しており、必要に応じて変形・出撃する。都市サイズのロボットとして猛烈な戦闘能力を有するメトロフレックスと、同じく都市サイズのダイナザウラーが戦う姿は圧巻である。

一方、その巨体故に内部に潜入しての工作活動などを仕掛けられる事も多く、きわめて強固な保安システムがシティには張り巡らされている。建造にあたっては、プロテクトボット部隊のファーストエイドが主任技師を務めた。

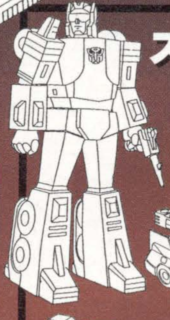


▶中間形態である戦闘基地モード。ロボットモードに比べると、どうしても戦闘能力は劣ってしまう。

スクランブルシティ
メトロフレックス

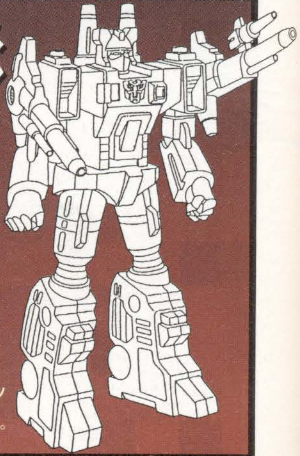


▲都市モードであるスクランブルシティ。サイバトロンシティの一角に存在する。



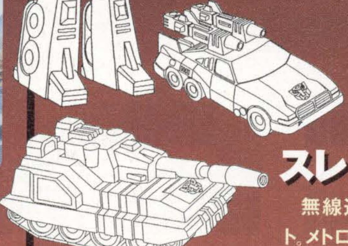
スキャンパー

パトロールカーに変形する、メトロフレックス付きの警備員。【声：江原正士】



シックスガン

メトロフレックスの砲塔類が合体した支援員。見当違いの推理でダイノボットにタジマハール盗難事件の容疑をかけた。【声：塩屋 翼】



スレマー

無線遠隔操作される警備ロボット。メトロフレックスの塔が変形する。

トリプルボット

スプラングに続き、『2010』にて加入したサイバトロン・トリプルボットたち。デストロン・トリプルトロン同様、個性豊かなメンバーとなっている。

偵察員
サンドストーム

平和主義の星、惑星パラドロン出身のトランスフォーマー。故郷にデストロンが攻めてきた際、武器を手に戦ったのがきっかけでサイバトロンに加入した。同じトリプルチェンジャーとして親近感を持ったのか、デストロンから半ば抜けたオクトーンとは親しく付き合っている様だ。【塩屋 翼】

▶◀試作版(左)と製品版(右)、2種類の設定が存在。

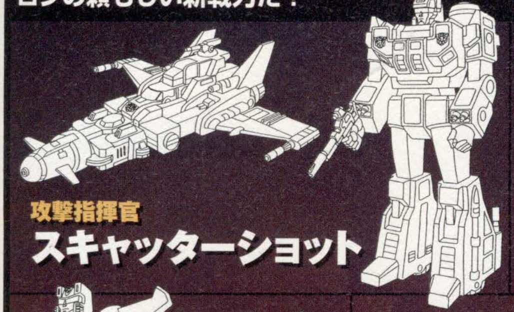
空海防衛戦士
ブロードサイド

巨大空母とジェット機に変形。ロボットモードは、合体戦士クラスと同じサイズ。空母モードでは、エアーボットの航空母艦としても機能した。

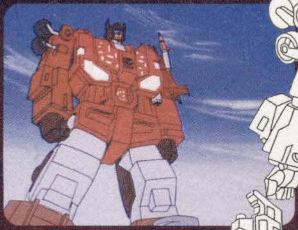
閑話休題。キャラクターの多さから作画への負担が大きい本作で、キャラ間違いは珍しい事ではないが、台詞上でデストロンに間違えられた彼はかなり珍しい。【声：江原正士】

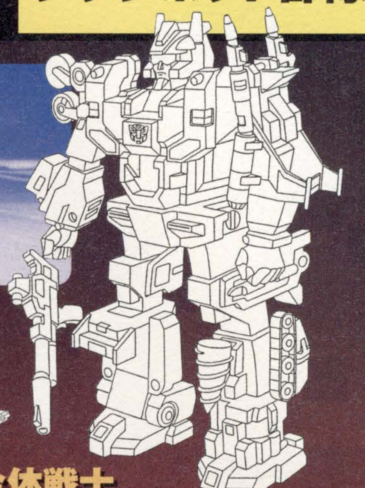
テックボット部隊

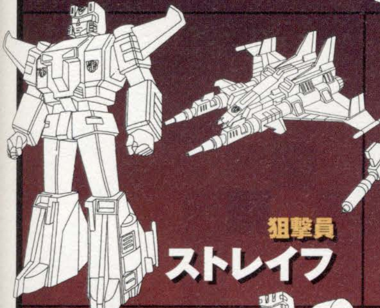
新たなデストロン・テラートロン部隊に対抗すべく、急遽製作されたスクランブル部隊。それぞれハイテク装備を満載した、サイバトロンの頼もしい新戦力だ！



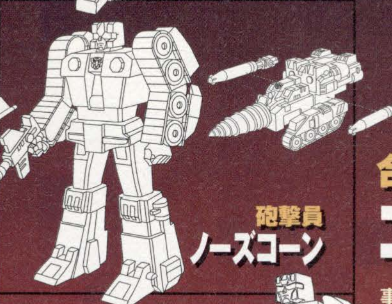
攻撃指揮官
スキャッターショット



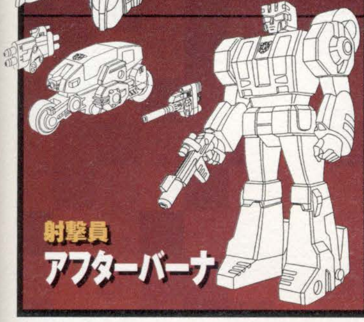




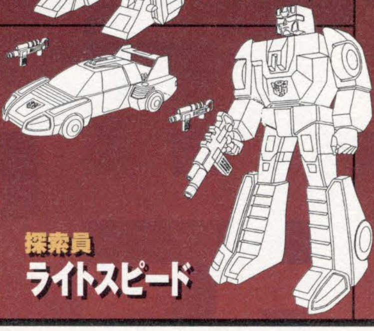
狙撃員
ストレイフ



砲撃員
ノーズコーン



射撃員
アフターバーナ

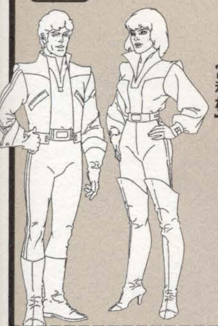


探索員
ライトスピード

合体戦士
コンピューティコン

スキャッターショットたち5人のテックボットが合体して誕生する、スーパーコンピューター200台分の演算能力を有する合体戦士。ふとした事で超天才となったグリムロックが彼等の生みの親である。天才のグリムロックの持つデータの全てが彼等に移植された。余談だが、その結果グリムロックは元通りの頭となる。天才でいるよりも、仲間のダイノボットと魚を捕る事を選んだのだ。【声：塩屋 翼】

EXTRA CHARACTERS



スパイク　カーリー

『トランスフォーマー』の人間側主役であったスパイクと、ゲストキャラクターであったカーリーが、成長した姿。2人は結婚し、息子ダニエルを設けた。現在、地球・セイバートロン間の親善大使を務めるスパイクは、家族と共にセイバートロン星に移住している。忙しい職務の最中であろうとも、ダニエルの誕生日にはビックリパーティを開く、いいお父さんでもある。相変わらずバンブルとの友情も続いている様だ。【声：江原正士／小宮和枝】

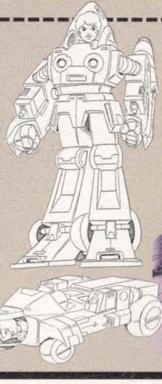
▼悪夢にうなされたダニエルを、ロディマスコンボイは見守りに着てくれた。彼にとってもダニエルは弟や息子の様なものなのだろう。

ダニエル

スパイクとカーリーの間に生まれた子供。いうならばスパイク的なキャラクターだが、かつての彼よりも年齢は低い。地球人家族がスパイク家しかいないセイバートロン星では、同年代の遊び友達にも恵まれず、退屈をもてあます事も多かった。そんな彼の相手は、主にウィリーやグリムロック。特にウィリーとのコンビは、かつてのスパイクとバンブルを思い起こさせる。ロディマスコンボイを敬愛するダニエルは、ホットロディマス時代からの司令官の親友でもある。ダニエルの不満は、大使の仕事で忙しい両親や司令官が、なかなか自分をかまってくれない事だった。【声：後藤真寿美】

メリッサ・フェアボーン

サイバトロン戦士にも劣らぬ勇気と行動力を兼ね備えた才色兼備な女性。地球防衛軍（アース・ディフェンス・コマンド）の士官で、階級は大尉。余談だが『地上最強のエキスパートチームG-ジョー』のサブリーダー・フリントの本名と名字が共通である事から、親子であると考えられている。【声：小宮和枝】



エクセルスーツ

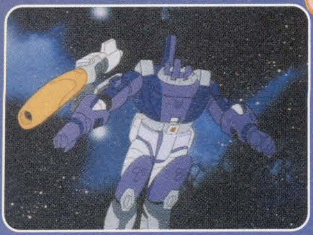
サイバトロンが開発した宇宙用強化外骨格スーツ。腕部には火器も備わり、カーモードにトランスフォームも可能。このスーツを着れば、生身の人間も小型トランスフォーマー並の力を持つ事ができる。初出は『ザ・ムービー』。元々はスパイク用だったが、ダニエルたちも着用している。

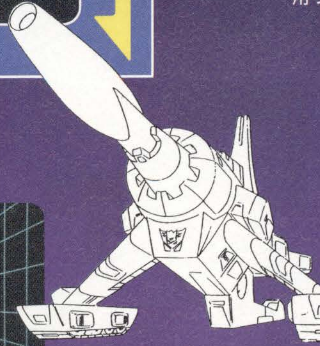
新破壊大帝ガルバトロンの帰還――。更にダイナザウラーやアニマトロン等の加入により兵力を増強したデストロン軍団は、大逆襲に備える。セイバートロン星を追われた彼等の本拠は、辺境の惑星ジャールにあった。

▶惑星スラルの溶岩風呂。5年もの間、ガルバトロンはこの状態だった。

トランスフォーム！

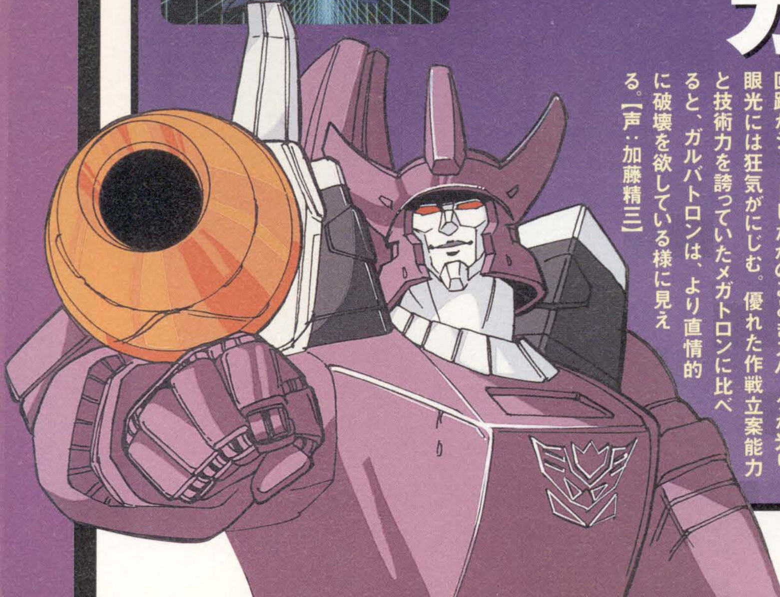
腕のＳＦガンが分離、フレームアウト。手足が畳まれ、代わりに三脚が延びる。頭部を収納した胴体パーツから、新たにＳＦガンの銃身が延び、移動砲台が完成する。





▶メガトロンの新たな姿。全体のフォルムは、昔の姿を踏襲している。右腕のＳＦガンは取り外し、肩に担いで使用する事も可能。

▼ユニクロンにより、瀕死のメガトロンがガルバトロンに新生される。その際、メガトロンに選択の余地はなかった。



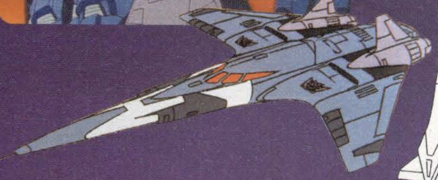
新破壊大帝

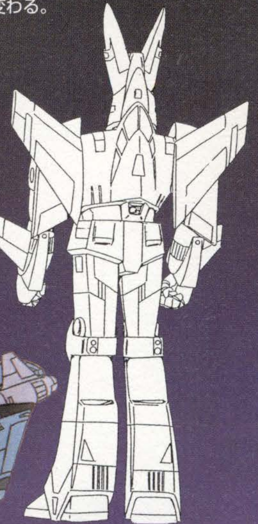
ガルバトロン

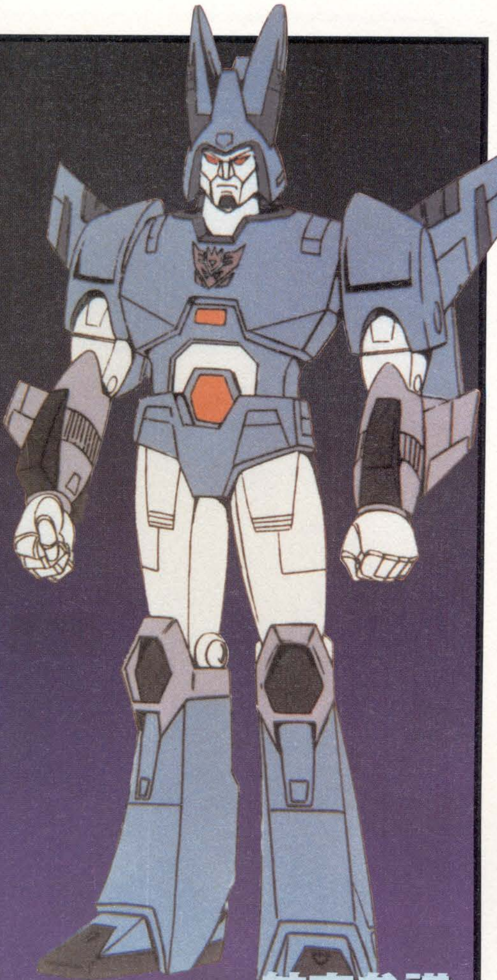
融合カノンよりも強力なSFガンを右腕に持つ、デストロンの新破壊大帝。サイバトロンを倒す為には母なる惑星セイバートロンの破壊も厭わない、宇宙にとって最も危険な存在である。その実体はユニクロンにより再生強化されたメガトロン本人。ユニクロン戦争末期、ロディマスコンボイに敗れ行方不明となったガルバトロンは、サイクロナスに発見された2010年まで、溶岩惑星スラルで休眠状態にあった。溶岩風呂のプラズマ浴効果により、ガルバトロンは、よりパワーアップしたと豪語。しかしプラズマバランスが均衡を失った事が原因となり、彼の言動に時折狂気が混じている様だ。またユニクロンに施された改造の後遺症も、ガルバトロンの精神を歪める一因となっている。頭部からは時折回路がショートしたかのごときスパークが光り、眼光には狂気がにじむ。優れた作戦立案能力と技術力を誇っていたメガトロンに比べると、ガルバトロンは、より直情的に破壊を欲している様に見える。【声：加藤精三】

▲ユニクロンの力により、ボンブシェルたちの表面外殻が剥がされ、サイクロナスへと生まれ変わる。

▼「ハイル！　ガルバトロン!!」サイクロナスにとって、デストロン軍団と新破壊大帝に対する忠誠は絶対である。（前任の航空参謀とはえらい違いである。）



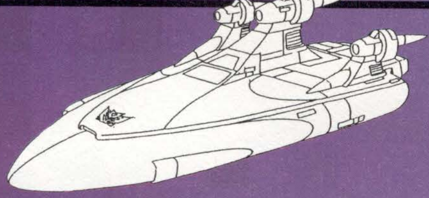




航空参謀
サイクロナス

ガルバトロンの忠実な僕である航空参謀。デストロン軍団再建の為にガルバトロンを探し出した。サイクロナスは戦士としての誇りを持つ男である。相手もまた誇り高き戦士であれば、卑怯な手段は使わない。特にライバルのウルトラマグナスに対しては、ある種の敬意を以して戦いに望んでいる様だ。

ユニクロン戦争の際、負傷して放棄されたボンブシェルをユニクロンが新兵士として新生させた。（厳密にはジェットロンのひとりもサイクロナス型に改造されている為、ベースの断定はできない。）【稲葉　実】



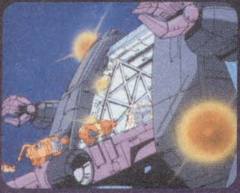
デストロン親衛隊スウィープスは、悪魔の様な姿の同型のボディを持つ兵士たち。リーダーのスカージは、残忍ながら極めて臆病な性格。ホバークラフト型UFOに変形する際は、上部に顔を露出させる。ガルバトロンやサイクロナスといった上司には、意外に思慮深いところもあり、マトリクスの本当の価値に気付き己の体内に取り込んだ事もあった。

なお、他のスウィープスたちは彼をリーダーであるとは認めていない。何れのスウィープスも利己的な上に臆病。モノの喩えとして「スウィープス以下」などという言葉まである。【声：島香　裕】

◀マトリクスによって、10万デストロン力のパワーを得たスカージ。正気を失い、ボディはどろどろに溶け始めている。

スウィープス参謀
スカージ

▶誕生の瞬間。ビルドロンたちが築いた高層ビルが集合し、巨大な恐竜の形を作り上げる。建造に携わったデストロンの中には、フルチルトらしきTFも。（右）

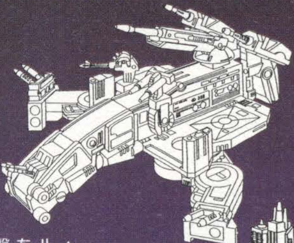


▲ダイナザウラーの胸ハッチの展開。野獣戦士たちを積載する姿は、ノアの方舟を連想させる。

ダイノベース
ダイナザウラー

ビルドロン部隊が地球の都市地下で製造した巨大要塞。超大型の恐竜型トランスフォーマーで、知能はやはり恐竜並。ダイノボットアイランドがお気に入りの場所であるらしい。その巨大なパワーを維持する為には膨大なエネルギーが必要で、一時間に50リットルものエネルゴンキューブを消費してしまう。

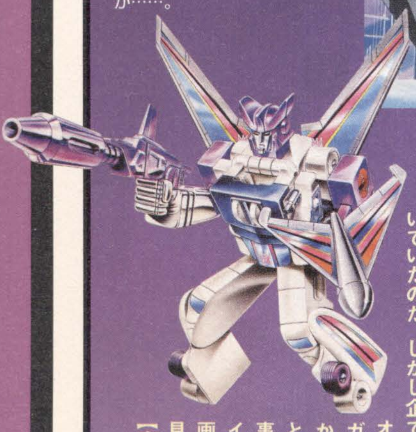
ダイナザウラーに拮抗する相手はメトロフレックスを於いて他にはない。ダイナザウラーは警備が手薄となっていた地球の旧サイバトロン基地を、テレトラン1ごと破壊してしまう。【声：島香 裕】



▼秘密基地モード。要塞基地である。

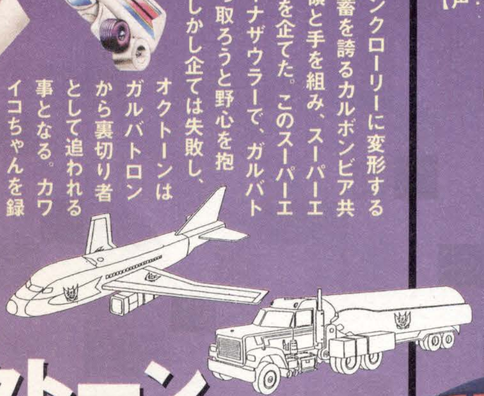
▲攻撃基地モード。カルボンビア共和国近海を進む客船に対し、砲撃を浴びせた。

▶友人のサンドストームと団欒。このとき、彼はスカックスゾイドに命を狙われていたのだが……。



補給兵
オクトーン

燃料輸送を司る、タンクローリーに変形する補給兵。豊富な石油備蓄を誇るカルボンビア共和国のファカディ大統領と手を組み、スーパーエネルゴンキューブとダイナザウラーで、ガルバトロンを倒し、軍団を乗っ取ろうと野心を抱いていたのだ。しかし企ては失敗し、オクトーンはガルバトロンから裏切り者として追われる事となる。カワイコちゃんを録画したビデオを見るのが趣味。【声：堀内賢雄】



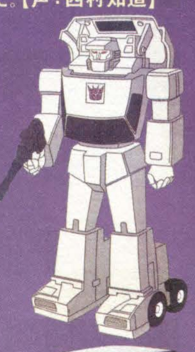
バトルチャージャー

兵士
ラナバウト

同じく精鋭のラナバウト。ロータスに変形する。余談だが、『重すぎた使命』の中でロディマスにカーチェイスを仕掛けたのは、彼らではなくスタントロンのワイルドライダーとデッドエンド。【声：塩屋 翼】

兵士
ラナマック

ファイヤーバードトランザムに変形するデストロンの精鋭。彼とラナバウトがダイナザウラーの活躍によって、スタースクリームとユニクロンの復活は妨げられた。【声：西村知道】



テラートロン部隊

5体のモンスターロボで構成されたスクランブル部隊。製作者はクインテッサ。誰彼かまわず攻撃して手当たり次第に破壊する、破壊と殺戮のキラーロボ部隊だ！

双首ドラゴンのハングルーに率いられたテラートロンは知能が低く、極めて獰猛。彼らはハングルーの命令しか聞かない。どうやら敵味方の区別はないらしい。それ故か、暴走を抑える為に、一定期間を越えると合体が解ける様にクインテッサの手によって、タイマープログラムがセットされている。

ライバルは、テックボットの合体戦士コンピューティコン。コンピューティコンの計算によると、両者の実力はほぼ互角の様だ。【声：城山知馨夫】

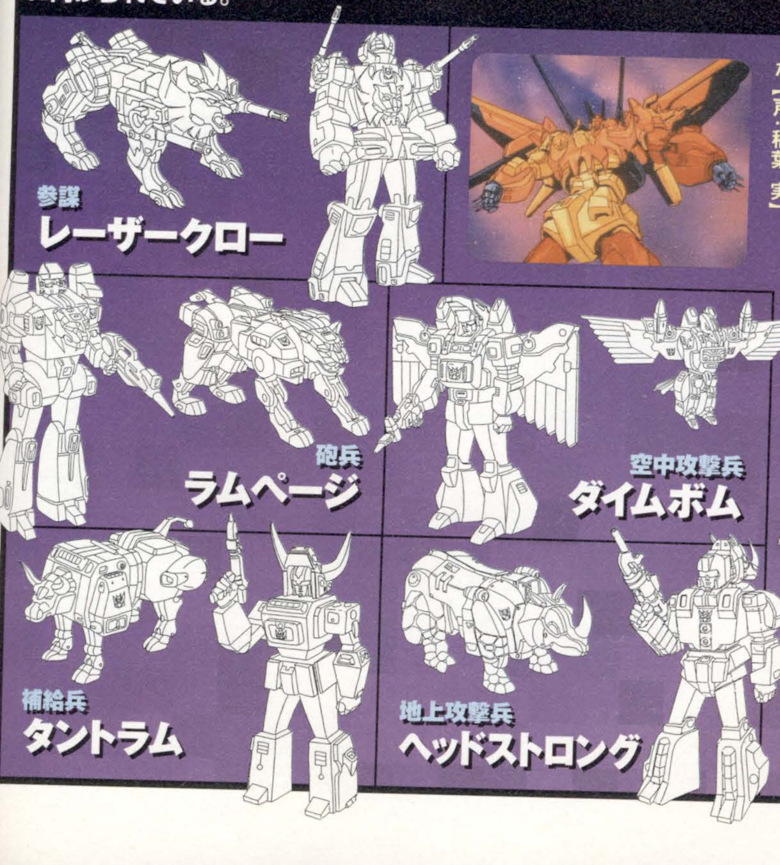
合体兵士
オボミナス

アニマトロン部隊

大型の猛獣型兵士5体のチームが、アニマトロン部隊だ。やはり野獣なみの知能しか持ち合わせず、その野生の本能は、破壊衝動のみに向けられている。

アニマトロン5体が合体して誕生する、デストロン最強の野獣合体兵士。闘争本能の固まりである彼等は、みな勇猛果敢であり、勝ち目のない相手に対しても全力でぶつかってゆく。

ライオンに変形するリーダー、レーザークローは、ダニエルの悪夢の中でスプラングを背に乗せ、ドラゴンと対峙した事もあった。【声：稲葉 実】



巨重合体兵
プレダキング

EXTRA CHARACTERS

アブドゥール・ファカディ

アフリカにあるカルボンビア社会民主連邦共和国の大統領。そして軍最高司令官であり、王の中の王、独裁者の中の独裁者。金と権力に汚く、オクトーンとダイナザウラーを匿い、フォートノックスの金やタジマハール宮殿などを貢がせた。最終的にロディマスコンボイに対して、もう二度とデストロンと手を組まない事を約束するのだが……それも怪しいところである。モデルは冷戦当時のカダフィ大佐。【声：石井敏郎】

スカックスゾイド

▼オリンピック会場の聖火に仕掛けを施し、シャークトロンの進入を手助けしたのも、彼の仕業。

豚のような顔を持つ異星人。宇宙の犯罪請負人であり、クインテッサ星人やデストロンの依頼で、陰謀から暗殺まで、何でもこなす。口八丁手八丁の怪しい態度で、声の調子がころころと変化するのが特徴。凄味もある半面、どこか憎めない小悪党といったところだろうか。彼曰く、女房1人と12人の子供を三度食べさせる為、仕方なく悪事に手を染めているらしいのだが、その真偽は定かではない。【声：江原正士】

▲オクトーン相手に、様々な暗殺を試みるがうまくいかず、ついには生身で飛びかかる……。意外と苦労人らしいスカックスゾイドの一面が垣間見える。

スタースクリームの幽霊

▶足だけが遺る、スタースクリームの墓。

ユニクロン戦争でガルバトロンの怒りに触れて殺されたスタースクリームの怨念は、セイバートロン星の地下にあるデストロン墓地で幽霊として存在した。幽霊となったスタースクリームは、自在に他のロボットに取り付き、ボディを乗っ取る事が可能だった。スタースクリームは己の目的を叶える為に、両陣営を混乱に陥れる。彼の願いは、ガルバトロンへの復讐。その為には、まずボディの復活が欠かせなかった。そこで彼は、メガトロンをガルバトロンへと新生させたユニクロンの能力に目を付ける——。【声：鈴置洋孝】

▲ユニクロンの力で、遂に肉体を得たスタースクリーム。完全復活したが、ガルバトロン達の一斉砲火を浴び、再びその肉体は消滅。スタースクリームの精神体は再び、遠い旅へと出る。

スリザード

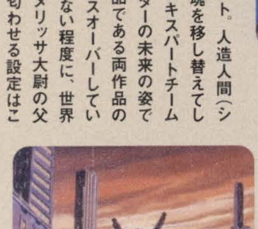
スカックスゾイドのパートナー、アイパッチを付けた魚の様な異星人。ガルバトロンの依頼を受け、セイバートロン星の新型発電機に2人でアンチ・エレクトロンを流し込んだ。

なおスリザードという名の異星人は、『トランスフォーマー』のスモークスクリーンが活躍するエピソード『ギャンブル惑星モナカス』にも登場。同一種族なのだろうか。【声：掘内賢雄】

スネーク

▲マスクに模様が入ったものの、その姿形はどう見てもコブラコマンダー。コートの端からは、ちらちらと青い軍服が覗く。

鉄のマスクを付けた、謎のテロリスト。人造人間（シンゾイド）に、ロディマスコンボイらの魂を移し替えてしまう。この謎の人物は、『地上最強のエキスパートチームG-ジョー』の登場人物、コブラコマンダーの未来の姿である。共にマーヴェルコミックスの作品である両作品の世界観は、コミックスでは幾度かクロスオーバーしている。アニメ版のストーリーも明示されない程度に、世界を共有しているものと推測できる。（メリッサ大尉の父親の説など、『G-ジョー』との関連を匂わせる設定はこれまでも登場している。）【声：田中亮一】



◀ちなみに日米共に、スネークとコブラコマンダーの声優は共通。去り際に、とつぜん「コブラ！」と叫ぶのがご愛敬。

死刑執行人シャークトロン

クインテッサ星人の手先として働く軍団。変形はシャークモンスター。常に群で行動し、クインテッサの尖兵として宇宙各地の紛争地帯で暗躍する。1体1体はそれほど強くないが、多数で一気に襲いかかって来る為、やっかいな相手となる。【声：掘内賢雄】

1987

トランスフォーム、ダッシュ!!
新戦士ヘッドマスターズを加えた両軍。巨大戦士フォートレスマキシマス対メガザラックの、迫力あるバトルを見よ！

西暦2011年。コンボイ長官とホットロディマス司令官のもと、サイバトロンは平和な惑星アセニアに本部を移していた。

一方デストロンは、惑星ジャールを要塞化。新たにスコルポノック率いるデストロン・ヘッドマスターズや宇宙忍者シックスショットといったならず者を仲間に加え、セイバートロン星の奪還を目指していた。

そんなおり、セイバートロン星のマザーコンピューター・ベクターシグマは、バランスに狂いを生じさせ、セイバートロン星をデストロンに対しても開放してしまう。この機に乗じたデストロンの猛攻に、苦しめられるサイバトロン。そのとき、突如天空より巨大戦艦マキシマスが現れ、中から4人の戦士が降り立った。彼らこそサイバトロン・ヘッドマスターズ。かつて争いを嫌い、マスター星へと脱出したサイバトロン戦士たちだった。彼らサイバトロン・ヘッドマスターズの活躍で、デストロンは退却する。

激しさを増す戦いの中、コンボイ長官は倒れ、母星であるセイバートロン星も破壊された。古いトランスフォーマーの時代は終わったと悟るロディマスコンボイは、チャーたちを連れて宇宙に旅立つ。新司令官を襲名したフォートレスは、スコルポノックの陰謀を防ぐ事ができるのか。宇宙の星々を巡り、繰り広げられるサイバトロンとデストロンの争いの結末は——！

KEY WORD

ヘッドオン!!

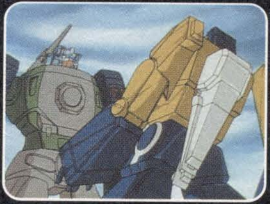
小型トランスフォーマーがトランステクターから飛び出し、共に変形して「ヘッドオン」。胸には能力を示すメーターが出現する。

マスター星

灼熱の太陽が照りつけ、強酸性の雨が降るマスター星。2度の氷河期には、多くの仲間が凍り付き、命を落とした。想像を絶する過酷な環境が、彼らを苦しめた。

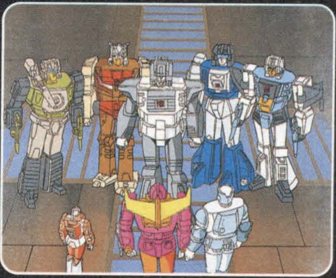
400万年前、トランスフォーム能力に劣る一般市民が、戦禍を逃れる為にセイバートロン星を離れた。彼らの宇宙船はマスター星に不時着。そこで彼らは独自の進化を遂げ、厳しい訓練の末にヘッドモードへのトランスフォームを体得。スーパーボディとなるトランステクターを開発し、過酷な惑星環境を克服するに至った。彼らサイバトロン・ヘッドマスターズの優れた精神力は、ヘッドフォーメーション等のコンビネーション技も可能とする。

友情のクロスヘッドオン!!



▲友情で結ばれたサイバトロン・ヘッドマスターズは、ヘッドを自在に交換する事でパワーアップが可能。

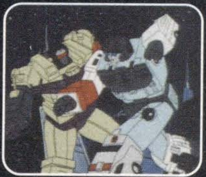
▲トランステクターの整備を行うクローム。トランステクターに意志はなく、機械として描写された。



小型TFがヘッドにトランスフォーム！ ヘッドマスター参戦！

奇跡の新戦士！ ターゲットマスター

ブランカーたちトランスフォーマーと、マスター星の避難民が、至近距離のプラズマ爆弾の爆発により融合して誕生した、奇跡の新戦士。銃に変形したマスター戦士を腕部に「ターゲットオン」する。それぞれ別人格である点など、他のマスター戦士とは大きく趣向が異なる。



◀節目となるエピソードには、懐かしいキャラクターが勢揃い。『ザ・ムービー』で死亡したキャラクターが混じっているのもご愛敬。

前作・前々作を引き継ぐ世界観 新旧キャラクター夢の共演

これまでの「トランスフォーマー」のアニメはアメリカ主導で製作されてきたが、アメリカでのアニメ展開が実質的に終了した事を受け、本作以降は日本主導の製作体制へと切り替わっている。その記念すべき第1作目となる『ザ★ヘッドマスターズ』では、前2作から完全に引き継いだ形でスタートした。その結果、設定上シリーズ最多の登場キャラクター数を記録する事となる。これまで不思議と実現しなかったタッグや、新旧対決を楽しむ事ができるのも、本作の見所であろう。

▶並んで戦うのは初となる、ダブルコンボイの雄姿。

これだけは見たい！ エピソードセレクション

最後の地球大決戦

シックスショットのデストロン脱退、サイバトロンのファイナルフォーメーションと盛り上がりまくりの最終回。なお、最終回の別案としてロディマスコンボイの帰還、そしてフォートレスマキシマス（もちろんビッグモード）がセイバートロン星にヘッドオン。黄金に輝く姿で突撃していく……というものも存在していた。（第34・35話）

わが友シックスショット！

物語もクライマックスに近づき、シックスショットにスポットが当てられる。彼は動物を愛する優しい心の持ち主であることが、ダニエルの視点で語られた。殺しのプロでありながらも、その一方で野生の動物を愛するシックスショット。彼はデストロンの中でも最も深みのあるキャラクターと言えるだろう。作画のカッコ良さも必見。（第32話）

友情のヘッドフォーメーション

前作『2010』より恒例となった“おもしろ惑星シリーズ”。その流れは本作にも受け継がれている。これはその中の一本で、ハイブロウが主役のエピソードでもある。ゲストキャラクターであるパラダイス星の少女パピカの野生児ぶりもさることながら、題名にある必殺技・ヘッドフォーメーションのインパクトもスゴイ。（第22話）

ヘッドオン!!フォートレスマキシマス

コンボイ、ロディマスコンボイの退場を経て、ようやく本作の最大最高最重量&最高価格キャラクターが登場。フォートレスマキシマスが主題歌をバックに変形する姿は、トランスフォーマーが日本のロボットアニメとして転生したことの象徴と言える。最後まで変形を拒むフォートレスと苦戦するクロームドームたちの対比も見どころ。（第13話）

夢のダブルコンボイ誕生

第1話から第3話は連続ストーリーとして描かれているが、そのクライマックスがコレ。「今世紀最大の劇的シーン！」とまでナレーターに言わしめた、コンボイとロディマスコンボイの共闘である。戦いの後、コンボイが力尽きる場面には悲しみがこみ上げてくるが、『ザ・ムービー』の痛々しい最期よりは好感が持てる気もする。（第3話）

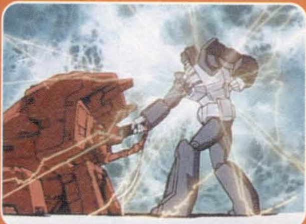
サイバトロンは本部をアセニア星に移し、各地で暗躍するデストロンに対して宇宙規模の防衛体制を整える。新加入のトレインボットや戦艦マキシマスの輸送力と、カセットボットらの情報収集能力がこれを支えた。

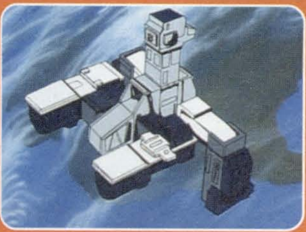
マスターソード

◀「王者の剣」と呼ばれる強大な武器。真の勇者のみに与えられ、頭脳と行動のバランスが保たれたときしか抜くことが出来ない。また、一度使うと膨大なエネルギーを消費するため、その発動には冷静な判断が求められる。

トランスフォーム!

フォートレスがマスターソードを抜くと、戦艦マキシマスがトランスフォームを開始。フォートレスの変形した頭部と合体して完成する。手には巨大化したマスターソードが現れる。





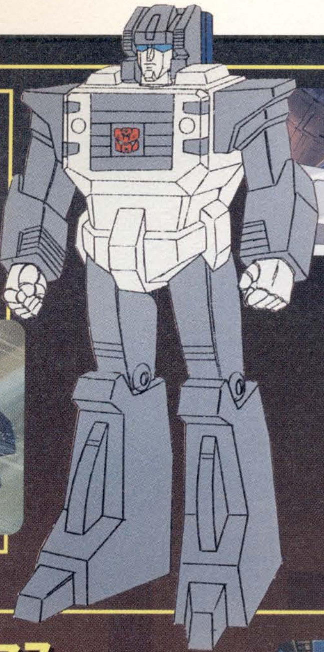
総司令官
フォートレスマキシマス

サイバトロンヘッドマスターズを統率するマスター星の代表者。かつてマスター星からスコルポノックら悪のヘッドマスターズを追放するが、彼らがガルバトロンと結託したため、それと戦うべくサイバトロンに加入した。通常の戦闘はクロームドームらに任せているが、重大な脅威に際してはマスターソードを抜いて、巨大なフォートレスマキシマスの姿となる。彼はどんな場合でも平和を第一に願い、犠牲の少ない解決を何よりも望んでいた。そのため、セイバートニューロンを狙ってデストロンが押し寄せ、セイバートロン星が全面戦争の危機を迎えたときには、これを武力で迎え撃つか否かを巡りロディマスコンボイと意見を違える。結果としてセイバートロン星が破壊されたことで、ロディマスは新たな母星を探す旅に出る決意を固め、その後任の司令官に任命されることとなる。【声:沢木郁也】

ヘッドマスター

セレブロス

フォートレスの頭部。元はセイバートロン星の兵器開発セクションに勤務し、民間人脱出の際に指導者に選ばれる。【声：沢木郁也】



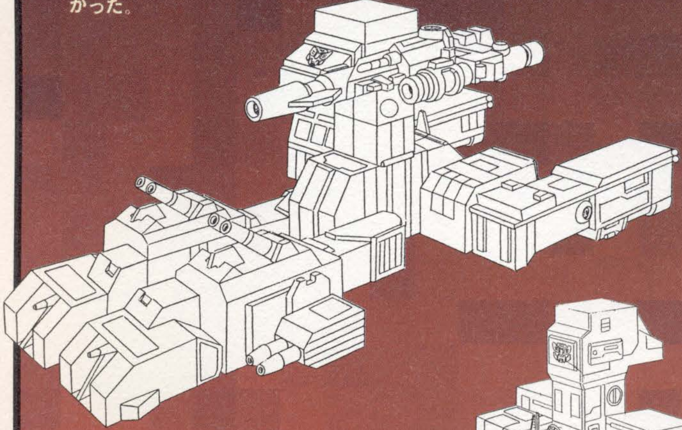
▶艦内ではヘッドモードに変形することによって、艦内のすべての機能を直接コントロールする事が可能。

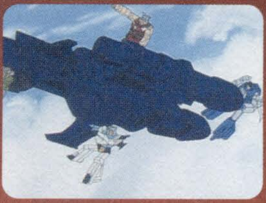
フォートレス

本来は科学者であったため、戦う以上は可能な限りの情報を集め、完全に勝利できる方策を整えた上で臨むべきという考えを持っていた。その完璧主義とも言える慎重さは、多くの味方の犠牲を未然に防いできたが、同時に重大な局面で決断が遅れることもあった。【声：沢木郁也】

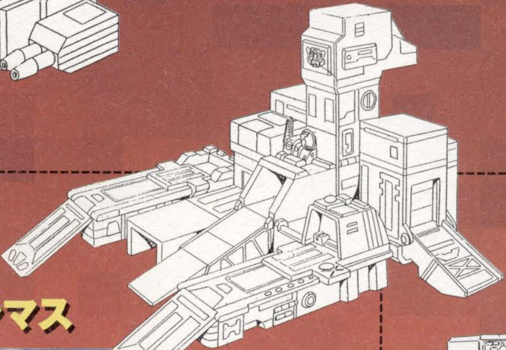
戦艦マキシマス

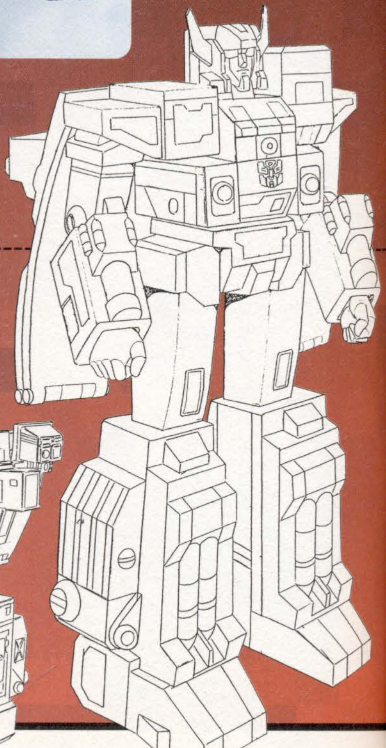
サイバトロン史上でも最大級の超大型戦艦。マスター星の科学の粋が集められており、クロームドームの親友で科学者のジャックも建造に携わった。フォートレスにとっては自身と一心同体の存在で、どれほど危機的な状況になろうと艦を捨てる事はなかった。



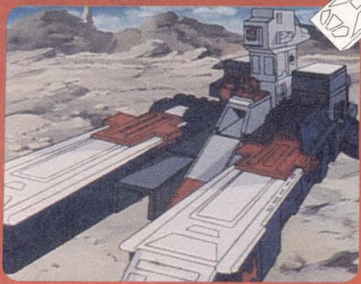


◀ヘッドマスター4戦士がマキシマスの主砲とリンクして砲撃を行うマスターショット攻撃。

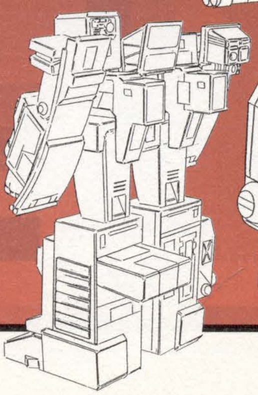




シティマキシマス



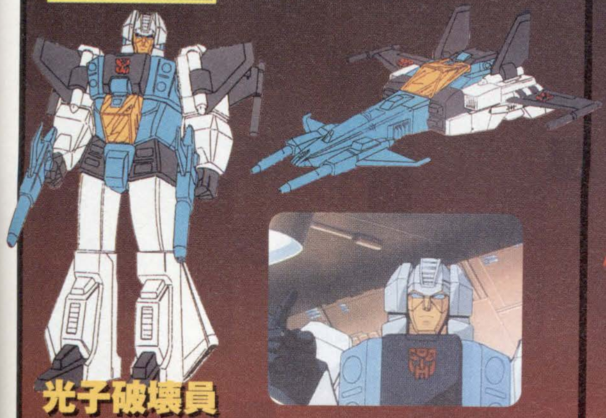
マスター星や地球で使用される事の多かった基地モード。通信、探査、修理の機能を万全に備えており、サイバトロンの移動司令部となっていた。



マスター星の厳しい環境を生き抜き、新たな変形能力を身に着けた若き戦士達。互いに厚い友情で結ばれている。

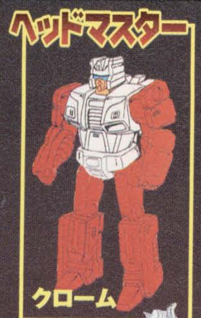
サイバトロン・ヘッドマスターズ

ジェットモードでのスピード戦を得意とし、頭を使ってクールに勝つという独自の美学を持つ。何かと熱血に走りがちなクロームドームに皮肉を言うことも多く、そこから大ゲンカに発展することもあるが、実際には信頼しあう良きライバルにして親友である。クロームドームが不在の時には残りのメンバーの指揮も任される。【声：田中亮一】

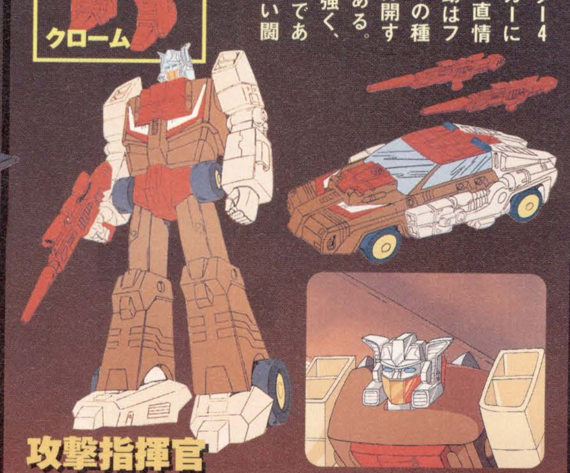


光子破壊員

ブレインストーム



サイバトロンヘッドマスター4戦士のリーダー。パワーカーに変形する。血の気の多い直情型で、無謀と紙一重の行動はフォートレスにとっても悩みの種だが、その行動が事態を打開する切り札となるときもある。悪や非道に対する怒りは強く、親友アベルとジャックの仇であるシックスショットに激しい闘志を燃やす。【声：掘　秀行】



攻撃指揮官

クロームドーム

明晰な頭脳の持ち主で、発明や暗号解読などを得意とする。単独での戦闘はそれほど強い訳ではないが、仲間たちそれぞれの性格をよく理解しており、どの相手とも呼吸を合わせることが可能なチームワークの影の功労者。また、子供に優しい温和な性格でもあり、ダニエルにチャレンジブラスターをプレゼントした。【声：小林通孝】

電子戦闘員

ハイブロウ

サイバトロンヘッドマスターで最大のパワーと火力を誇るファイター。体力がありあまっているせいか、血気盛んなクロームドームと行動を共にすることが多い。しかし、本来は自然を愛する温厚な性格である。高速戦車に変形。ちなみに趣味はカラオケで、ツインキャストは彼が一杯飲むたびにトランスフォームをせがまれている。【声：平野正人】

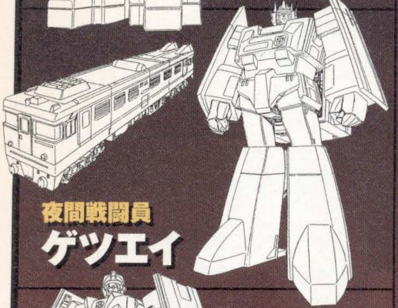
地上攻略員

ハードヘッド

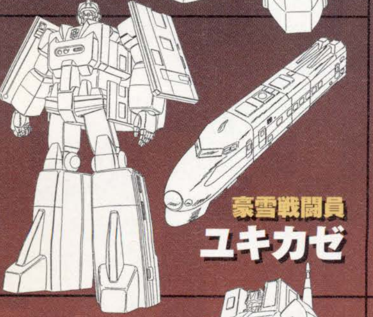
日本生まれのサイバトロン新部隊。各自が列車に変形する機能を備え、スカイリンクスらに代る輸送の中核となった。

トレインボット部隊

高速指揮官
ショウキ



夜間戦闘員
ゲツエイ

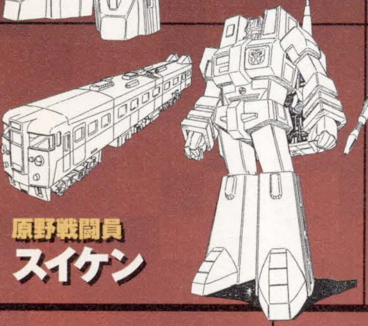


豪雪戦闘員
ユキカゼ

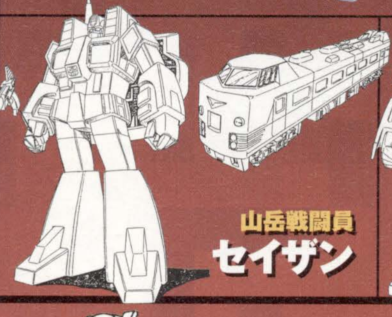
重連合体戦士
ライデン

トレインボットの6体が合体した姿。本来の任務は物資や兵員、避難民などの輸送だが、途上の障害を排除するために戦うこともある。故郷を愛する気持ちは強く、日本を襲ったシックスショットを撃退した。同じ6体合体のデバスターを嫌い、プレダキングをライバル視する。【声：野田圭一】

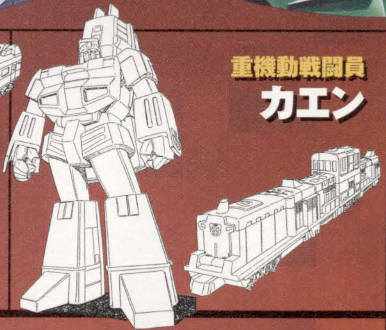
▲移動時には6体が連結して列車形態となる。火星の爆破以降はスペースブリッジの安定度が低下したため、彼らの戦略的価値はさらに重要なものとなった。



原野戦闘員
スイケン

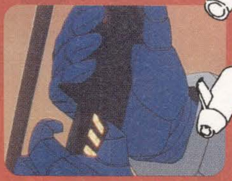


山岳戦闘員
セイザン

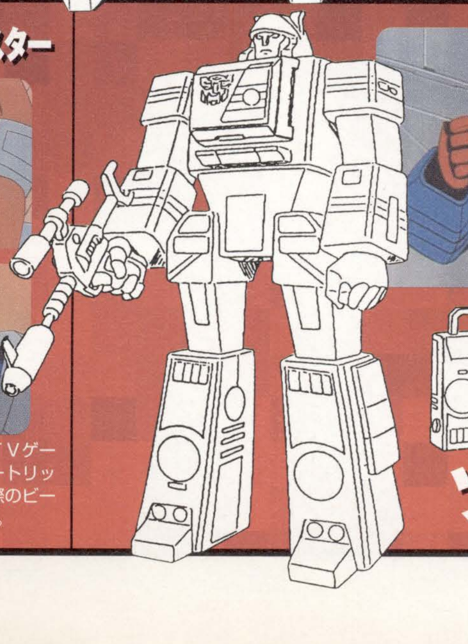


重機動戦闘員
カエン

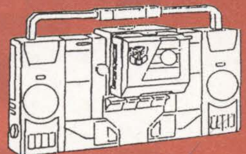
チャレンジブラスター



▲ダニエルの愛銃。元はTVゲーム用のおもちゃだが、カートリッジを交換することで、実際のビームガンとして使用できる。



サウンドウェーブとの激闘で倒れたブロードキャストが復活した姿。音楽を愛する明るい性格は以前と変わらず、カセットボットからは兄のように慕われている。【声：難波圭一】



通信員
ツインキャスト

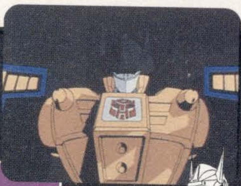
スロットルボット部隊

▲ゴールドバックをリーダーとする。機動性に優れた部隊で、合体兵士を相手にも勇敢に戦う。

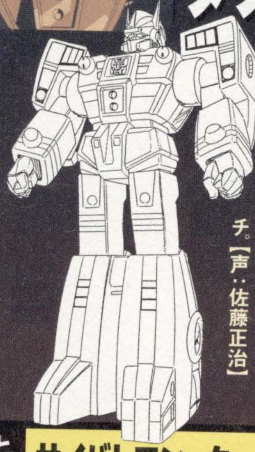
ファイヤーボット

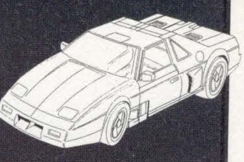
▲リパッグ、ダブルクロス、グロテスの3体のモンスター型戦士。いずれも火炎攻撃を得意とする。

▲情報屋としてデストロンに潜り込む際の姿。本形態での名称はカウンターパンチ。



スパイ戦士
ダブルスパイ



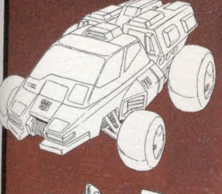


ツインキャストの部下。サイバトロン、デストロンの二つの姿を持ち、危険な潜入活動に従事する。サイバトロン形態での名はスペースパンチ。【声：佐藤正治】

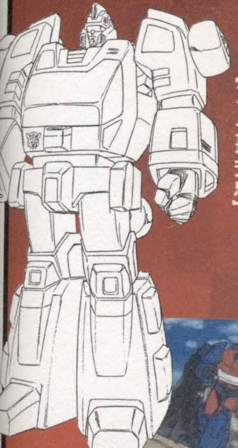
プラズマエネルギー爆発の影響で、歴戦のサイバトロンとマスター戦士が合体して誕生した奇跡の戦士たち。

サイバトロン・ターゲットマスターズ

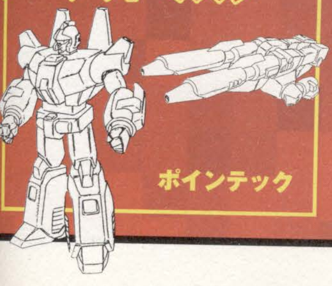
追撃員
クロスヘアーズ



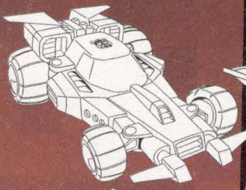
細心で非常に注意深く、彼我の戦力を正確に見極め若者の楽観論を戒める。ターゲットオンしたグレネードランチャーは即座に目標をロックして攻撃に移ることが可能。バギーに変形する。【声：大塚芳忠】



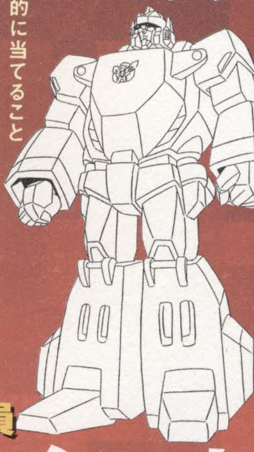
ターゲットマスター



ポインテック



目隠しをしても標的に当てることが出来ると言う射撃の達人。彼の口にする自信は決して過剰なものではなく、作戦においても裏付けとなる敵の動静の確認を怠らない。スペースバギーに変形。【声：佐藤正治】

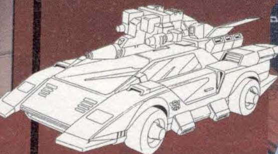


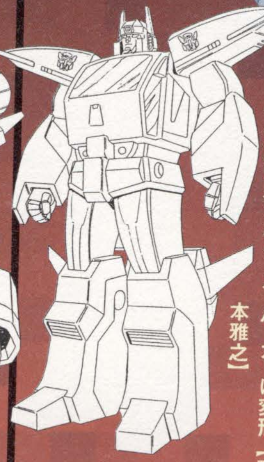
射撃員
サーショット

ターゲットマスター

スポイル

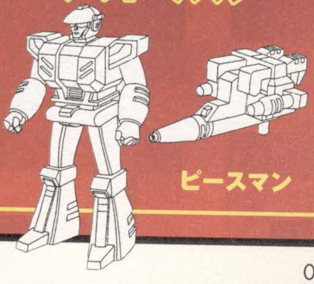
陸上攻撃員
ブランカー





サイバトロンターゲットマスターズのリーダーで、多くの厳しい戦いをくぐり抜けてきたベテラン戦士。時として非情な決断を求めることもあるが、実際には誰よりも情の篤い男である。スーパーカーに変形。【声：幹本雅之】

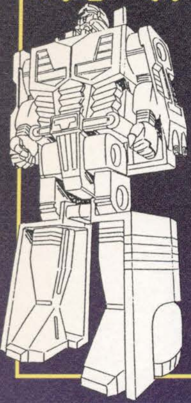
ターゲットマスター



ピースマン

宇宙に散らばる無法者たちを次々と加え、自軍の戦力を増強したガルバトロン。だが、奸智に長けたメガザラックの出現によって、彼の支配には揺らぎが生じることとなり、やがて軍団の乗っ取りを許す結果となった。

ヘッドマスター

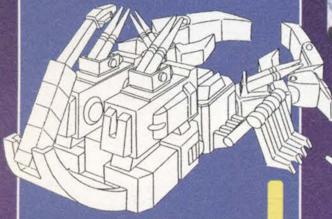


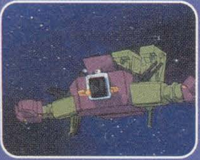
スコルポノック

計算高い策略家。その陰険な性格と猜疑心が、彼の破滅の元凶となった。【声：銀河万丈】

トランスフォーム！

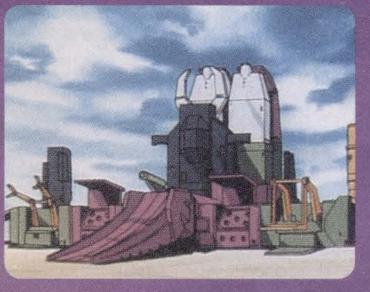
サソリ型戦艦がヘッドモードのスコルポノックと合体。マキシマスとは異なり、その強大なパワーを制約するものは無い。





恐怖大帝 メガザラック

本来はフォートレスと同じくマスター星で誕生したヘッドマスターだが、その力を悪用したために追放となった。フォートレスに対して異常なまでの憎悪を抱き、巨大なトランステクターもデストロン軍団も、究極的にはその復讐のための手段に過ぎない。セイバートニューロンを巡る全面戦争が勃発したときは、泥沼化を避けるべくセイバートロン星の爆破を決行。この際に大量のプラズマエネルギーが発生したことから、以後は惑星爆破によるエネルギー収集を画策する。地球を自らのボディに改造せんとするガルバトロンの計画と対立するも、ガルバトロンが氷山の海に消えた後、自身を恐怖大帝を名乗って本格的な地球爆破計画に乗り出した。【声：銀河万丈】

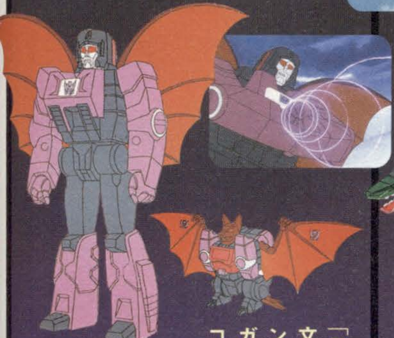


▶戦闘要塞に変形。対空砲を備え、地上から戦艦マキシマスとも互角に戦う。ガルバトロンの指揮の下では、数多くの惑星でエネルギー略奪を行う拠点となった。

デストロン・ヘッドマスターズ

フォートレスに反乱し、マスター星を追放された悪のヘッドマスター。メガザラックが唯一信頼を置くメンバーでもある。

催眠術兵 ワイプ



ヘッドマスター

ポラス

「コウモリ雨も折りたたんでワイプ」の呪文で催眠術を操り、死んだ超ロボットをゾンビ化させる。神経を麻痺させるスネークガンを持つ。コウモリに変形するが、本物のコウモリを苦手としている。【声：龍田直樹】

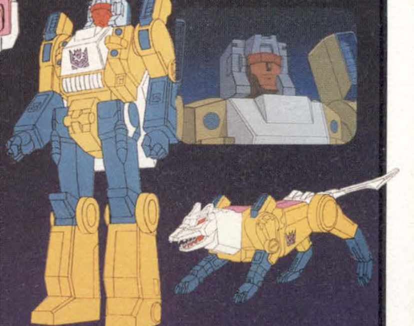
湿原兵 スカル

ヘッドマスター

グラックス

ヘッドマスタートリオ一の怪力の持ち主で、水中戦を得意としている。ワニモードの顎と尻尾も強力な武器だが、動きが鈍い上に少々知性に欠け、ドジを踏むことも多い。【声：戸谷公次】

戦闘指揮官 ウィアードウルフ



ヘッドマスター

モンゾ

ヘッドマスタートリオのリーダー。オオカミに変形し、奇襲作戦を得意とする。プライドが高く、戦果を得られずして退却するのを潔しとしない。クロームドームをライバル視している。【声：森 功至】

ヘッドマスター　ホラートロン

マスター星を追放された後、トリプル変形できるように進化したヘッドマスター。ガルバトロンによって呼び寄せられた。

攻撃員 スナップドラゴン

ヘッドマスター

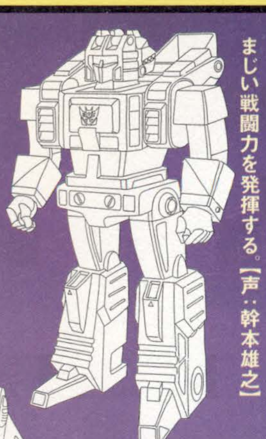
クランク

ジェット機とドラゴンに変形。怠惰な性格だが、些細な事で怒り出す。ドラゴン形態ではテール攻撃を得意とし、その突進はヘッドマスター2人がかりでも抑えられない。【声：岡 和夫】

戦闘兵 エイプフェイス

ヘッドマスター

スパズマ

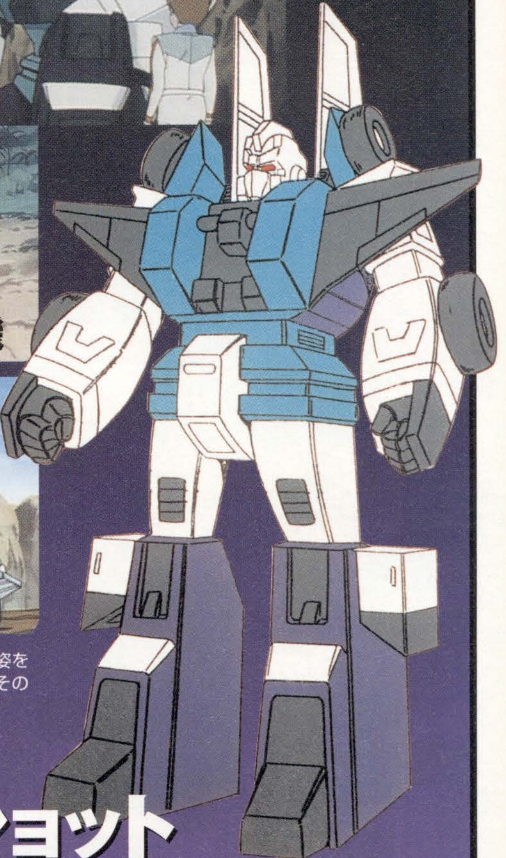


ジェット機とゴリラに変形。胸を叩いて騒音を出し、他人を不愉快にさせるのが得意。ゴリラモードは俊敏かつ怪力を誇り、凄まじい戦闘力を発揮する。【声：幹本雄之】

▶ダイラ星で偶然出会ったダニエルとシックスショットは、生きて脱出するために共に戦った。それは敵味方の区別の無い場所で、彼の初めて見せた素顔だったのかも知れない。

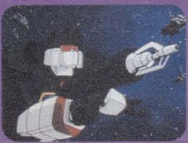
◀▲あらゆる状況に対応できる6つの姿を持つ。それぞれの姿で分身も行い、その戦闘能力は一個部隊を軽く上回る。

▲ウルトラマグナスとの決戦に備えて編み出された第七の形態。それは彼がマグナスを死力を尽くして倒す価値のある敵手と認めていたことに他ならない。

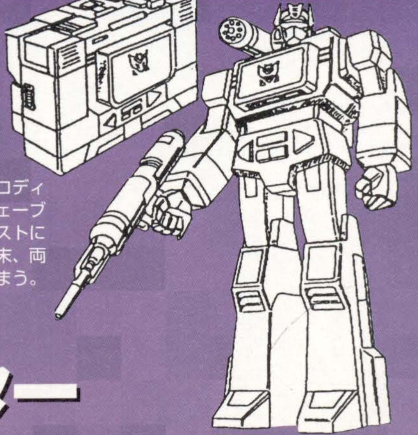


忍者参謀
シックスショット

かつては宇宙の星から星へと略奪を行うエネルギーギャングであり、マスター星ではクロームドームの親友アベルの命を奪った。忍者参謀としてガルバトロンに呼ばれた後は、地球のダイノベースの指揮官に就任し、ウルトラマグナスと幾度も激突する。ガルバトロンとメガザラックの対立が表面化した際には、ガルバトロンに忠誠を尽くすが、ガルバトロンの計画が自らを犠牲にするものと知り離反。メガザラックの大帝就任後は実質ナンバー2となるものの、やがてその直言をはばからない性格が疎んじられるようになる。アステロイドの決闘において暗殺されかけ、これを期にデストロン軍団とついに決別。唯一友と呼んだダニエルにのみ別れの言葉を残し、宇宙に去っていった。【声：池水通洋】



◀マトリクスを探査中のロディマスを追ったサウンドウェーブは、北極でブロードキャストに阻まれる。激しい死闘の末、両者とも相討ちになってしまう。

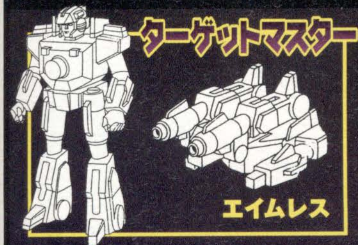


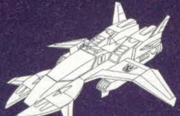
情報参謀
サウンドブラスター

サウンドウェーブがマスター星の技術により復活した姿。配下のカセットロンを操り、サイバトロンとの情報戦を展開。ガルバトロンの最も忠実な部下であったが、メガザラックが大帝の座に就くとこれに帰順した。【声：正宗一成】

デストロン・ターゲットマスターズ

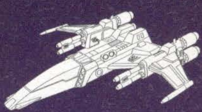
サイバトロン同様、プラズマエネルギー爆発の影響で誕生。各自がジェット機への変形能力を備え、マスター戦士を悪の心で支配している。





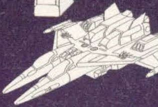
迎撃兵 ミスファイアー

豊かな経験を持つ割に射撃の腕前は酷い有様だが、むしろ狙いもつけずに撃ちまくり、その無鉄砲な破壊ぶりを楽しんでいる。【声：西村知道】



ガンマン トリガーハーピー

射撃と銃の発射音を何よりも好む野蛮な兵士。スラッグスリンガーと行動を共にする宇宙デストロンの精鋭の一人。【声：池水通洋】



速射兵 スラッグスリンガー

デストロンターゲットマスターズのリーダー。かつて宇宙でブランカーに敗れ、決着の機会をうかがっていた。エリート意識が強く、ウィアードウルフたちを完全に見下している。【声：山口　健】

Column ビーストフォーマー

▲プロモーションビデオより。ガルバトロンやシャークトロンも登場。『2010』をベースにした、アニメーション場面も存在する。

▶『ザ★ヘッドマスターズ』第5話はビースト星を舞台に描かれたエピソード。

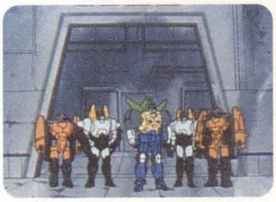
総司令官
ホワイトレオ

総統
アリゲトロン

1987年、アメリカのハズブロ社より『バトルビースト』と呼ばれたフィギュアシリーズが発売。それらの人形たちは日本において、トランスフォーマー商品に組み込まれることになる。かくて、サイバトロンビーストとデストロンビーストに分かれて、ホワイトレオとアリゲトロンをリーダーにビーストフォーマーの対決が始まった！　続編シリーズの『レーザービースト』も発売された。

Column ヘッドマスターティーンズ

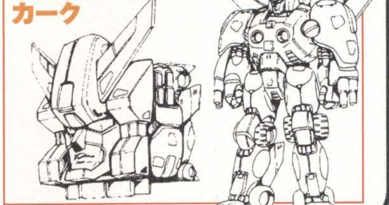
第31話「デストロン全滅作戦」に登場した若きマスター戦士たちで、TVにはカーク、ローファー、ロドニーが登場した。クロームドームの呼びかけにより、デストロン掃討を行う。設定ではヘッドモードに変形できるが、TVではヘッド・オンするシークエンスは描かれていない。また、ライオンや象に変形するマスター戦士も存在し、商品の販売のみが行われている。



▶カークを中心に集結したヘッドマスターティーンズ。

◀クロームドームとカークは友人同士である。

ヘッドマスターティーンズ
カーク

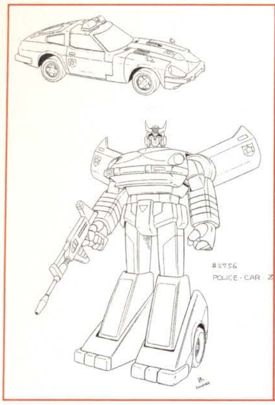


▶カークの商品用デザイン。この他にアリゲーター、ジュゴン、コープレイ、マレーとびとかげ、インドサイ、ベアー、コブラ、イグアナ、クロコダイル、バッファロー、狼のマスター戦士もデザインのみ存在している。

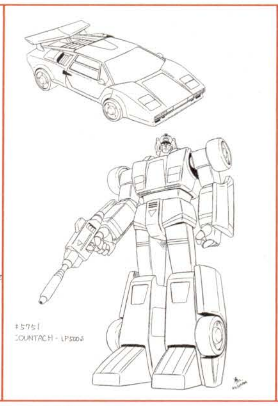
Column

トランスフォーマー　初期プロモーション

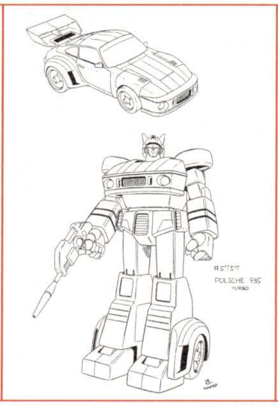
1984年、TVシリーズのスタートに先駆けてハズブロ社はプロモーションフィルムを製作。下の設定はメカデザイナーの小原渉平によって描かれたプロモ用の初期設定である。



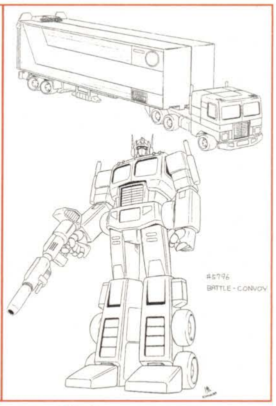
プロール
ほとんど変更は無いが、頭身が変更された。



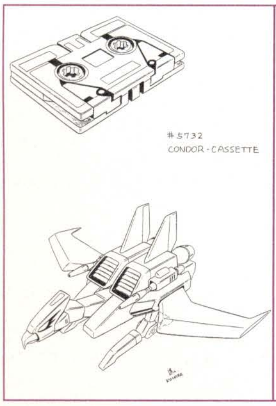
ランボル
照明弾発射装置とタイヤの有無が異なる。



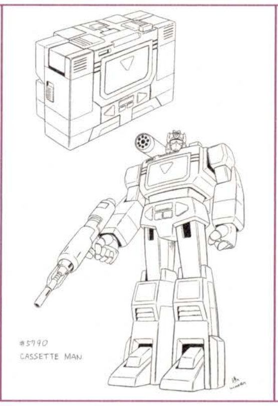
マイスター
タイヤが描かれており、ドアのナンバーが無い。



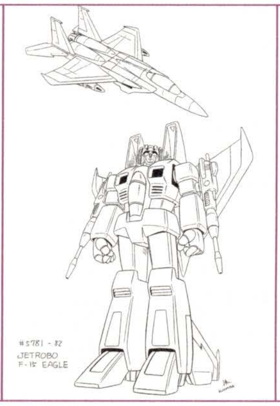
コンボイ
腰と足の外側にタイヤがある。足首の形状も変更。



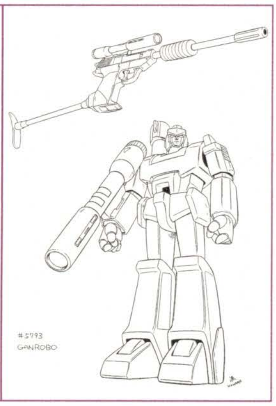
コンドル
カセットロンはコンドルのみが登場している。



サウンドウェーブ
デストロンのエンブレム以外に変更は見られない。



スタースクリーム
両脚に安定翼が存在する。設定は他の航空兵と共用。

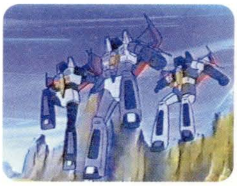


メガトロン
頭部とスコープ部分が全面的に変わっている。

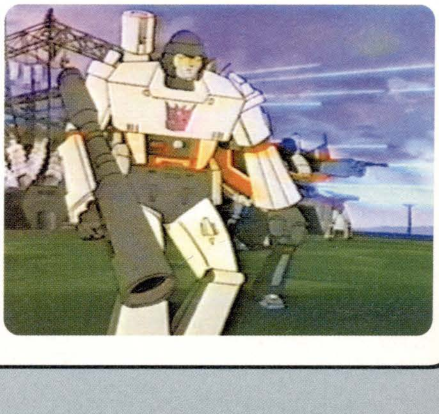
▲やはりデストロンの宇宙船もまったく別のデザイン。

▲サイバトロンの宇宙船。TVと大きくデザインが異なる。

▲スカイワープ、サンダークラッカーの他にグレー&ホワイトボディの航空兵が登場。頭部は黒く塗られている。



▶メガトロンは上の設定資料に忠実に描かれているのがわかる。



1984年4月、トランスフォーマーのTVおよびコミックシリーズのプロモーション用に短編アニメーションが製作された。これらは事実上のTVのパイロットフィルムであり、ストーリーは発電所を襲うデストロンとコンボイ率いるサイバトロンが戦うというもの。その他、サウンドウェーブとコンドルが登場する物など、数本が存在する。世界観はTVと一緒だが、設定書は別のものが用いられた。

▲サイバトロン基地より発進するオートボットたち。

ザ・リバース

THE REBIRTH

**マシンが人間を支配する惑星ネビュロンにて、
人間とトランスフォーマーの新たなパートナーシップが生まれる。
アメリカ版ヘッドマスター誕生秘話を描いた三部作。**

『2010』幻の続編が、DVDで蘇る! 海外G1アニメシリーズ最終作!

数ヶ月間の平和は、やはりデストロンの強襲によって破られた。彼らはサイバトロンシティから強奪した鍵を使い、サイバトロン星の地下深くに安置されたプラズマエネルギー貯蔵庫を開けようと企てる。しかし貯蔵庫から漏れたコントロールできないプラズマエネルギーの奔流が、超ロボット生命体の身体をオーバーロードさせ、行動不能に陥らせた。その隙に鍵を奪い返したスパイクとホットロッドらサイバトロンは、脱出の為にシャトルへと乗り込む。しかしプラズマエネルギーを浴びたシャトルも暴走、未知の惑星ネビュロンへと不時着してしまう。

惑星ネビュロンでは、地底に棲むハイブによる民衆支配が行われていた。サイバトロンはネビュロン人レジスタンス・ゴートたちと協力。5名の人間と5名のサイバトロンによるヘッドマスターが誕生する。一方、デストロンはハイブと結託。システムを盗みヘッドマスターを完成。更に、人間が武器に変形するターゲットマスターシステムを生み出した。

シャトルを追い、ネビュロン星に降りたコンボイ司令官は、人間とトランスフォーマーの新たな姿に驚嘆する。それはサイバトロン星の黄金期の訪れを予言するベクトル・シグマの言葉とも符合していたのだ——。

全ては深淵なるベクトル・シグマの計算通りに、事態は推移していた……。

※翻訳時期が異なる為、『ザ・リバース』では一部日本名称が異なっています。以下に代表的なものを列挙しました。

従来	ザ・リバース
●セイバートロン星…	▼サイバトロン星
●ホットロディマス…	▼ホットロッド
●ベクターシグマ……	▼ベクトル・シグマ

ヘッドマスター

ブレインストームが考案したヘッドマスターシステムは、エクセルスーツをまとう人間が変形、ヘッドとなりトランスフォーマーと合体する事で、機能を強化するもの。パートナーには4人のネビュロス人がなった。なお、ビークルモードに変形した際、トランスフォーマーの意識は胸の補助回路にダウンロードされる。

アーシー／ダニエル

重傷を負ったダニエルを護る為、アーシーは自らの首を差し出し、ヘッドマスターとなった。ヘッドは変形すると、従来のエクセルスーツとなる。

なお余談だが、ヘッドマスター・アーシーは、玩具の販売プランも存在した。

サイバトロン
ザ・リバース

フォートレスマキシマス
セレブロス／スパイク

▲フォートレスマキシマスのボディは、廃棄されたハイブシティを改造して製作された。

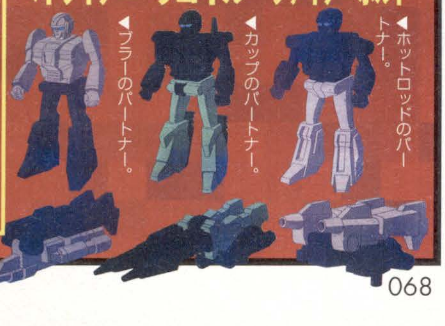
セレブロスは反戦主義者であり、戦いを好まない。ハイブのマシンにより頭部を破壊され、後にヘッドマスターへと改造された。パートナーはスパイク。スパイクはデストロンにさらわれた息子ダニエルを救うため、彼に協力を求める。

ターゲットマスター

本作ではホットロッド、カップ(日本名:チャー)、ブラーの3人も、ターゲットマスターとなった。何れも銃の名手である。

▲▶ターゲットマスター、ポイントブランク(ブランカー)、シュアショット(サーショット)、クロスヘアーズのアメリカ版設定。

▲◀シュアショットのパートナー。スポイルスポート。日本版スポイルとは異なる画稿。



ヘイワイアー　リコイル　ファイアーボルト

◀ホットロッドのパートナー。

◀カップのパートナー。

◀ブラーのパートナー。

ヘッドマスター

デストロンのヘッドマスターとなるのは、地底に棲む謎の一族ハイブ。超能力でマシンを操る彼らの肉体は、退化してしまっていると云う。

デストロン
ザ・リバース

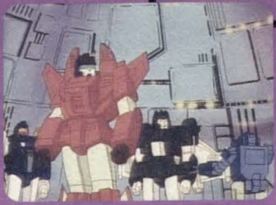
スコーピオン／ザラク

ハイブのリーダー・ザラクは、トランスフォーマーたちを利用しようと、デストロンを捕らえる。自らも、建造した秘密兵器スコーピオンのヘッドマスターとなる。

▲スコーピオンはザラクが築いたマシンである。巨大なサソリモードが特徴。
▶ロボットモード。対するはフォートレスマキシマス。

ターゲットマスター

ジェットロンはアニマル型TFにヘッドを、自分たちジェットロンは代わりに銃を差し出す。これがターゲットマスターの由来となった。



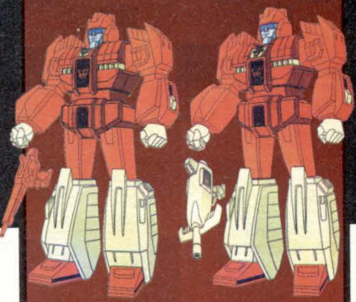
クローントロン

デストロンのクローン兵士。コンドルに変形するウイングスパン（左）と、ジャガーに変形するパウンス（右）。プラズマエネルギー貯蔵庫の鍵を奪った。

シックスショット

シックスショットのアメリカ版設定。本作やCFでは、この画稿が使用されている。

クローンボット



同じ姿のロボットモードを有するトランスフォーマー。スペースカーに変形するファーストレーン（右）と、スペースジェットに変形するクラウドレーカー（左）。

ダブルスパイ

サイバトロンモードをパンチ、デストロンモードをカウンターパンチと呼ぶ、ダブルスパイのアメリカ版設定。サイバトロンのスパイとして働いている。

Column
コミックスの世界

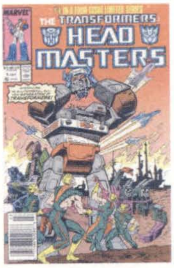
▲マーベルコミック創刊のTVCFより。実際に発売された物と表紙デザイン（写真下）が変更されている。

トランスフォーマーの魅力は玩具、映像作品だけにとどまらない。コミック媒体でも、独自の世界を持った作品が展開されている。アメリカではTVアニメーションの放映に先駆けて、マーベルコミックス社よりコミックシリーズが発売。その人気は高く、後にイギリス、ドイツなどのヨーロッパ諸国にも販売網が広がるほどであった。また、スパイダーマンやGIジョーといったマーベルユニバースのヒーローとの競演劇も描かれている。マーベル社のシリーズは1984年から1991年まで続き、その後、フリートウェイ社やドリームウェーブ社より新シリーズが発売された。

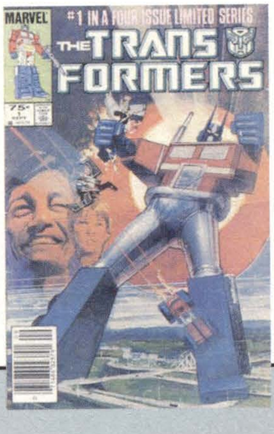
また、日本では「テレビマガジン」誌上で1985年から1989年まで、まがみばん（原作・構成／金田益実）によるコミック連載が行われた。こちらはTVアニメーションの原案およびキャラクターデザインに携わったコンビによる作品である。TVでは語られなかったエピソードのフォローはもちろん、コミックオリジナルの物語展開は今も高い評価を受けている。単行本も発売されているので、一読を請う。

▲テレビマガジン掲載分を完全収録した『トランスフォーマー・ザ★コミックス』はミリオン出版より2800円で発売中。

▼『GIジョー＆トランスフォーマー』は本格的な競演エピソード。ドリームウェーブ社でも同様の作品がリリース。



▲番外編として発売された『ヘッドマスターズ』。『ザ・リバース』とはまた別のヘッドマスター誕生秘話が描かれる。



◀第1号。導入部はTVアニメーションと同じだが、レーザーウェーブやグリムロックの扱い（コンボイ亡き後は総司令官となる）等に違いがある。また、物語の舞台は現代のままで進行しているのが特徴だ（なお、ヨーロッパ版コミックは多少内容が異なり、未来世界も交えて描かれている）。

トランスフォーマー 超神マスターフォース

1988

マスターフォースで、君もトランスフォーム！ サイバトロンとデストロンの戦いの舞台は、再び地球へ。「人間」を主役に据え、「超ロボット生命体」誕生を描く意欲作！

地球各地で謎の事件が多発。それは歴史の陰で暗躍する悪魔——デストロン・プリテンダーの仕業であった。サッカー好きの少年・剛秀太は、科学者である父親の助手・ホークがセイバートロン星からやってきたサイバトロン戦士である事を打ち明けられる。彼らサイバトロン・プリテンダーは、数千年前の地球に不時着し、その後、守護者として人間を陰から支えてきたのだという。

ホークの指揮により、世界各地より集められるサイバトロン・プリテンダー。普段は人間として暮らす彼らは、事あれば巨大ロボットへとトランスフォームする能力を有していた。

秀太たち3人の少年少女も、マスターフォースを装着してヘッドマスターJrとなり戦闘を後方より支援。一方、ブレスとトランステクターを奪ったデストロンにも、3人の少年によるヘッドマスターJrが誕生する。

そして三超魂をあやつる謎のゴッドマスター、ハイドラーとバスター兄弟がデストロンに登場。だがサイバトロン陣営にも、運命に導かれて、トレーラートラックのトランステクターを持つ青年・ジンライが現れた。彼こそはサイバトロン最強の戦士、スーパージンライ！

宇宙からの支援を受ける両軍。更には人類とトランスフォーマーたちによる共同プロジェクト「ボンバー計画」が発動する——！

人間とトランスフォーマーを繋ぐリング
マスターブレス

人間がマスターフォースへと変身する際に使用するのが、マスターブレスである。ヘッドマスターJr用のマスターブレスは銀色。ゴッドマスターのブレスは金色。両者は似て非なるものであり、特にゴッドマスターブレスの正体は謎に包まれている。

▼ヘッドマスターブレス。軍団エンブレムが輝く。クロームドームからの贈り物。

▲ブレスを胸元でクロスさせ、「マスターフォース！」のかけ声で変身。

悪魔が目覚めるとき――現れる守護者
プリテンダー!!

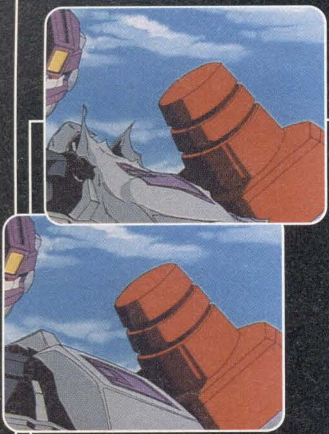
プリテンダーは、体内のアースギャザーに蓄積されたエネルギーを瞬間に解放し、金属生命細胞を急激に変化させる事で巨大ロボットへとトランスフォームする、まったく新しいトランスフォーマーである。

数千年前に地球に不時着したサイバトロン・プリテンダーは、人間のすばらしさに憧れて人の型に進化。対するデストロン・プリテンダーは、人々が恐れる悪魔や怪物に進化した。両者は歴史の陰で幾度となく戦い続けてきたと云われている……。

▲サイバトロン・プリテンダーは、時計を押して「スーツオン」。「人」の形に腕を組み、「プリテンダー」と叫び、変身する。

天・地・神の、三超魂パワーが爆裂!!
ゴッドマスター降臨!!

地球人を越え、宇宙の超ロボットをも越えた超進化生命体、それがゴッドマスターである。人間がアイアコーンをまとい、パワーの源としてトランステクターと「ゴッドオン!!」。天(宇宙)にただよう超エネルギー「天超魂」、地球の自然に宿る超エネルギー「地超魂」、人間だけが持つ神秘の超エネルギー「人超魂」、3つの超魂パワーを使いこなす事ができるのは、彼らゴッドマスターを置いて他にはない。



▲ダメージを受けても、瞬時に復元する。

驚異のトランステクター

ゴッドマスターはギガとメガから分離した分身。一種の生命体と云える特別な存在である。人間を宿して初めて魂を得るゴッドマスターのトランステクターは、2人から分離して地球に散らばり、融合に適した相手が現れるのを待ち続けていた。ゴッドマスターがサイバトロン陣営に現れたのは、善き心を持った若者が、トランステクターと共鳴した為である。

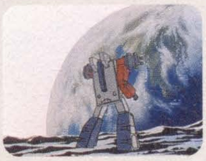
ゴッドオン!!

ゴッドマスターフォースとなった人間が、魂の結晶体アイアコーン（エンジン）に変形。トランステクターと融合する。

これだけは見たい！　エピソードセレクション

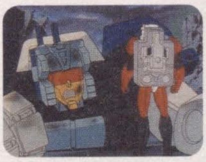
死闘!!ゴッドジンライ VS新生ダークウィングス

ゴッドジンライに勝つため、ハイドラー兄弟は人間の体を捨て、超生命体として生まれ変わる。今までの自身の体を「ウジ虫のような人間」と蔑むハイドラーが印象的。しかし、人超魂が使えなくなった彼らは、結局ゴッドジンライに敗北するのだった。なお、この回はスパークダッシュが登場する貴重な場面もある。（第39話）



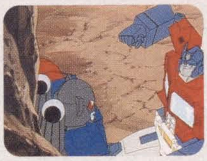
ゴッドジンライ・月面の対決

オーバーロード＆Bザラックを相手に、初陣で苦戦を強いられるゴッドジンライ。しかし、グランドマキシマスの応援によって形勢は逆転する。メカ描写のカッコ良いエピソードでもあるが、月面から地球を見下ろし、決意を新たにするジンライの勇姿に燃える。ちなみにこの回、オーバーロードの台詞が微妙に変。要チェック！（第27話）



強敵!!さすらいのシックスナイト

流れ者シックスナイトがジンライに挑戦。結局、勝負には負けるが、自身が人間だからという理由で、ジンライは止めを刺さなかった。人間をクズ呼ばわりしていたシックスナイトは、自身を負かした相手が人間と知り愕然とする。本作では珍しい純粋な「超ロボット生命体」の登場と、『鼠の嫁入り』みたいなオチがお勧めポイント。（第18話）



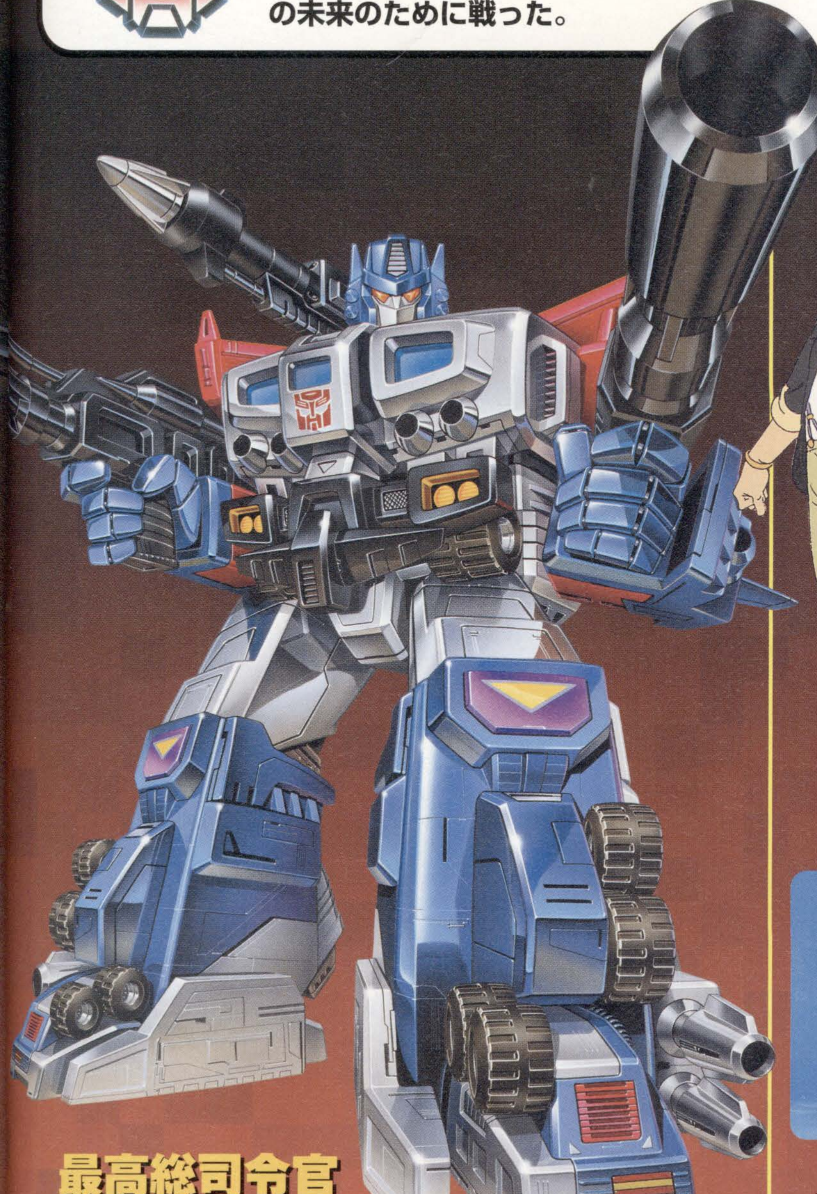
ジンライ怒りのゴッドオン!!

ゴッドマスターとして覚醒したジンライ。後に司令官に成り上がるこの男は、酒は好きだが組織が嫌いという普通の青年。コンボイの姿とのギャップが面白い。で、最後は友人たちの仇であるハイドラーと対決。ハイドラーを殴るとき「これは○○の分、これは……」と叫ぶジンライが、『G.I.ジョー・ザ・ムービー』みたいでカッコイイ。（第11話）

立て!!プリテンダー

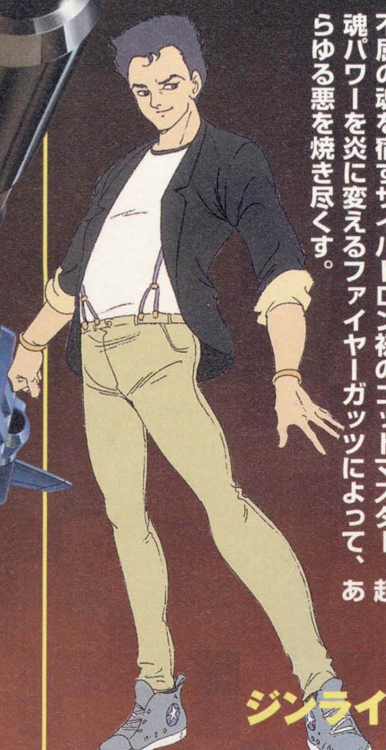
世界各地に封印されてたデストロンが復活。エネルギーとは関係なしに、人間を殺すデストロンが恐い。これを知ったホークは、自身が地球人ではないことを告げ、弟分・秀太の眼前で巨大化。彼は正義の戦士・サイバトロンだったのだ。TFファンには衝撃の展開が続出。今までの常識を覆し、新たな方向性を示した秀作である。（第1話）

人類をその標的とし始めたデストロンに対し、古代から文明を見守り続けてきたサイバトロンプリテンダーが立ち上がる。正しい人間の心を宿したマスターフォースがこれに加わり、自分たちの未来のために戦った。

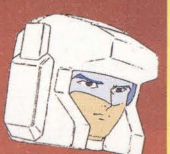


ゴッドマスター

不屈の魂を宿すサイバトロン初のゴッドマスター。超魂パワーを炎に変えるファイヤーガッツによって、あらゆる悪を焼き尽くす。



ジンライ

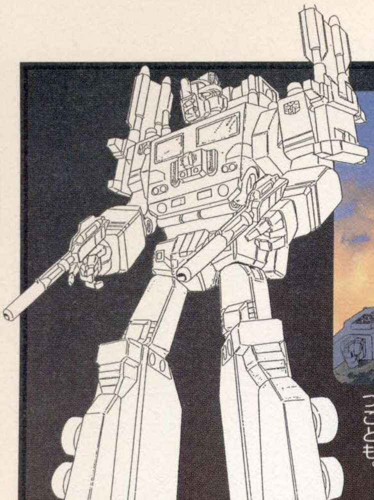


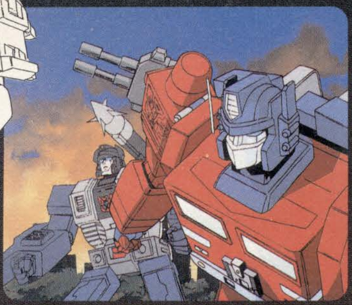
▲◀自由と可能性を求めて2年前に渡米し、運送トラックの運転手をしていた日本の青年。トランステクターと出会ったのは、ダイバーの研究所に病気のイルカを搬送する途上のことだった。

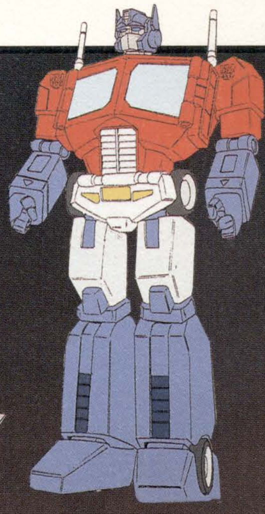
最高総司令官

ゴッドジンライ

スーパージンライとゴッドボンバーが「超神合体」して誕生するサイバトロン最強の戦士。自由を愛する闊達な性格だが、そのためにサイバトロンと出会った直後には、使命や責任といった「堅苦しいもの」から逃がれようとする面があり、また、否応無くゴッドマスターとして選ばれた運命を呪うこともあった。しかし、トラック仲間の犠牲と励まし、共に運命に選ばれたサイバトロンゴッドマスターとの出会いによって、大切な人を守る力を得たことの意味を見出し、月面での戦いを経て、それはかけがえの無い地球と人類を守るためのものと確信する。以降はより強力なリーダーシップを発揮する一方、敵であってもその命を救うなどの行動を見せ、結果的にデストロン軍団の瓦解にも繋がることとなった。【声：竹村 拓】

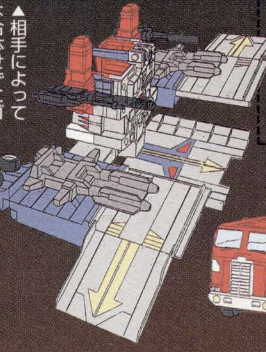






ジンライ

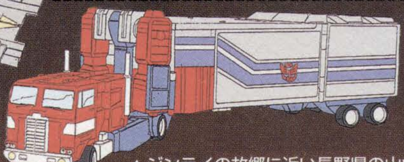
かつての英雄、コンボイ司令官に酷似したロボットモードを持つ。トラックに擬態しており、ジンライが借りるまでは超常現象の起こる車としてレンタル屋の厄介物であった。



▲相手によっては合体せずにゴッドボンバーとの連携で迎え撃つことも。

スーパージンライ

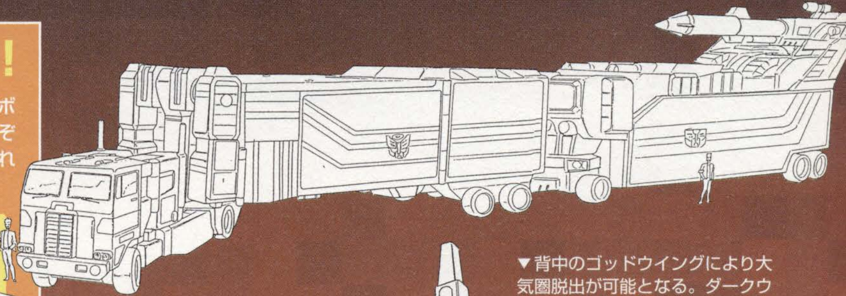
ジンライがトレーラーに「ダブルオン」する事で完成する。キングポセイドン、ダークウイングス、シックスナイトなどの強敵と渡り合った。トレーラーは司令基地モードにも変形し、サイバトロン基地が爆破された後に拠点とすることもある。



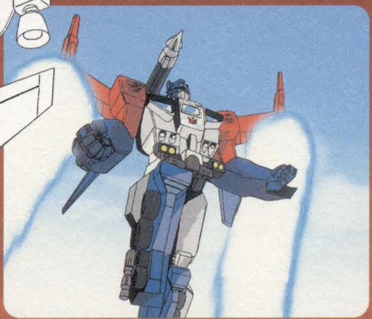
▲ジンライの故郷に近い長野県の山中に発見されたトレーラー。本体同様の再生能力を持つ。

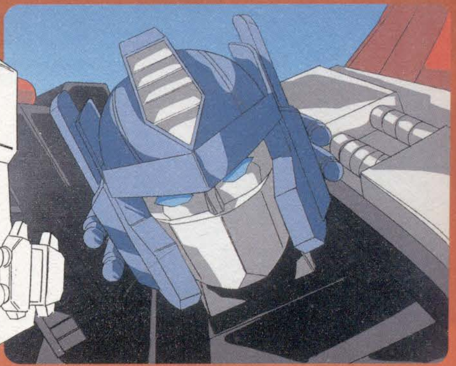
トランスフォーム!

ジンライの指令によりゴッドボンバーが各パーツに分離。それぞれが胸、腕、背中、脚に装着されて完成する。



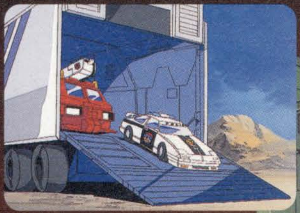
▼背中のゴッドウイングにより大気圏脱出が可能となる。ダークウイングスと互角の空中戦を演じられるほどのテクニックを持つ。



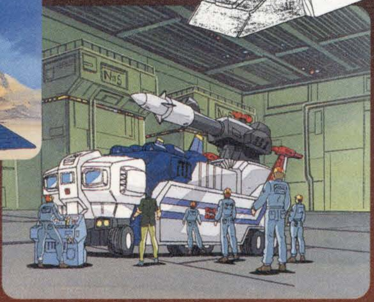


グランドの設計によって造られた武装トレーラー。単体においてもパワーや火力、装甲、飛行能力によってジンライの強力なサポートとなる。その活動原理はマスターブレスの機能を発展させたもので、通常はジンライから受ける超魂パワーによって活動する。秀太、キャブ、ミネルバの3人が心を合わせることでも起動は可能。

▲状況によってロボットモードに変形することもある。言葉は喋らないが自我は感じられ、ジンライの危機と彼の命令との間で迷うことも。



▲コンテナ内部にはヘッドマスターJr.のトランステクターを3台搭載可能。

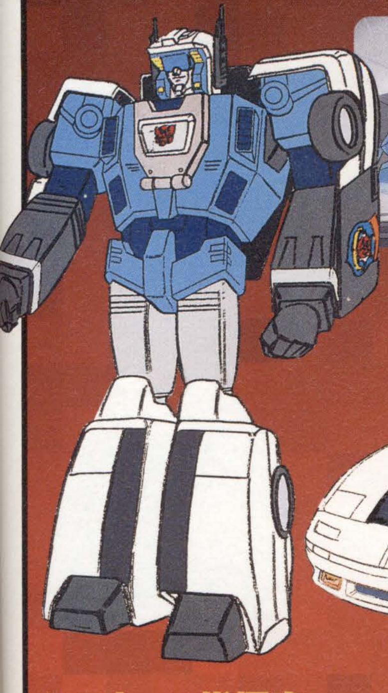


◀ボディはプリテンダーたちの監督の下、ブリティッシュモーターズの地下工場で製作された。

武装戦士
ゴッドボンバー

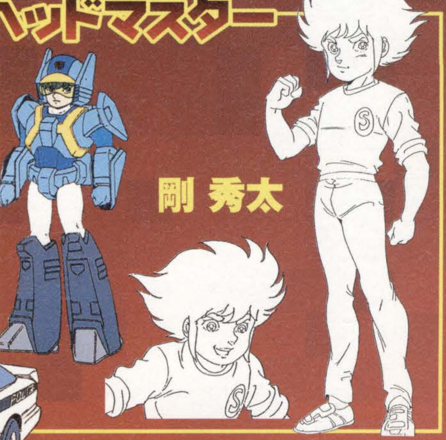
クロームドームから地球の少年少女に託された3体のトランステクター。救助活動に能力を発揮する。

サイバトロン・ヘッドマスターJr.



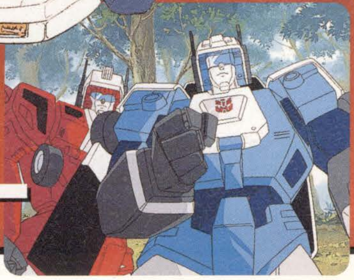
▲ポリスカーに変形する。マスターフォースとの連携により、運転技術もかなりのもの。

ヘッドマスター

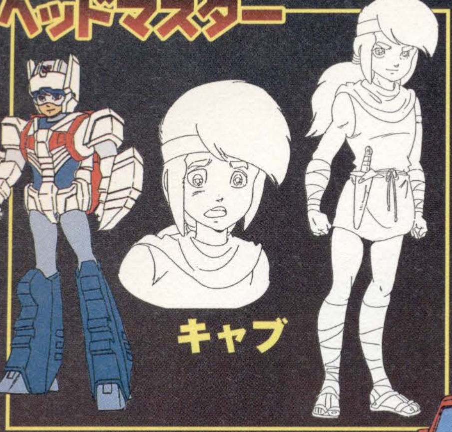


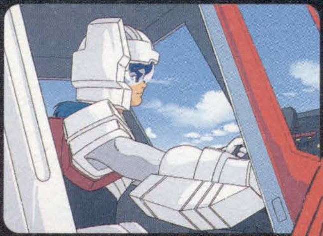
剛 秀太

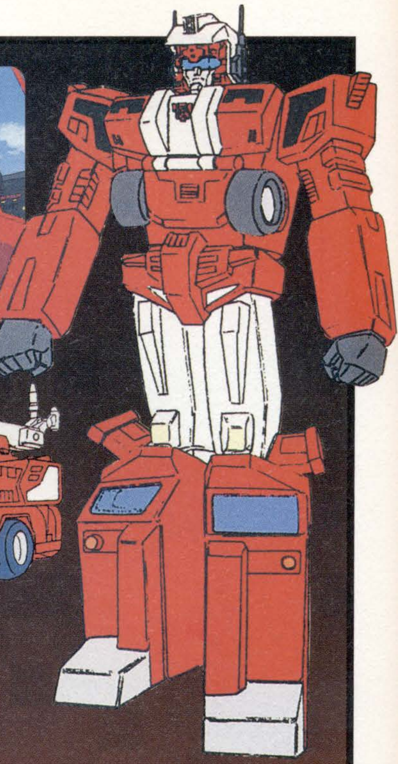
天文学者である剛博士の息子。父の助手を務めていたメタルホークを兄のように慕う。彼の口からトランスフォーマーの存在と人類に迫る危機を知り、共に戦うことを希望した。インターナショナルスクールではサッカー部に所属しており、ややスタンドプレーに走りがちなものの、そこで磨いてきた運動センスは抜群。悪を憎む気持ちが強いため、デストロンに対しては厳しい言動をとることもある。【声：冬馬由美】

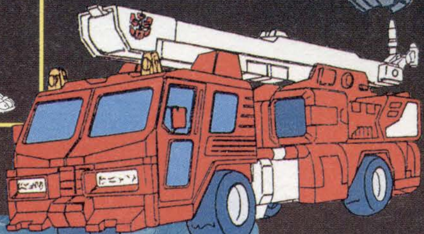


レスキュー指揮官
ゴーシューター




▲消防車に変形する。消火活動には自分の身を挺することもある。

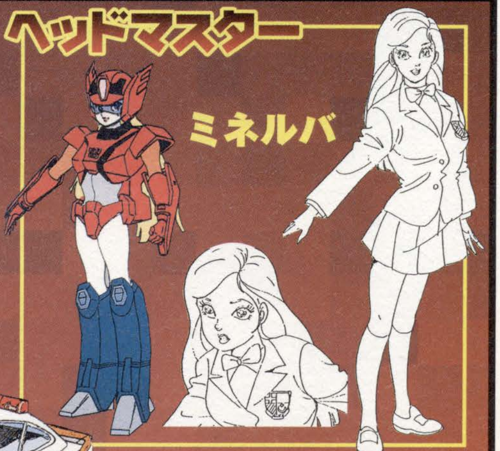


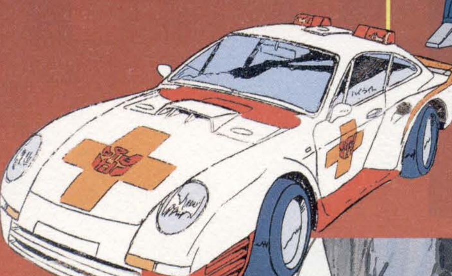


南太平洋の島国カリン王国の王子。動物と言葉を交わすことが出来る。島を襲ったデストロンから助けられ、秀太やサイバトロンと知り合った。日本のインターナショナルスクールに留学した後は青木ヶ原樹海の中に小屋を作り、お供のインコとアルマジロと共に暮らしている。開放的な性格で、思ったことはすぐ行動に移すところがある。【声：江森浩子】

災害防衛戦士
キャブ

▲ポルシェタイプの救急車に変形。後部には病院並みの医療設備を備えている。





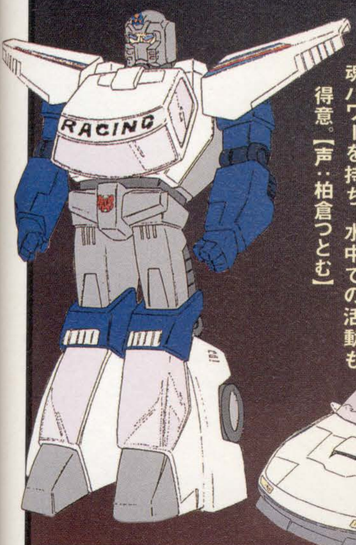
モンパルタ共和国駐日大使の娘。赴任にあたって一家を乗せたジャンボジェットがデストロンに狙われ、サイバトロンの護衛を受けたことがある。秀太たちと同じくインターナショナルスクールに通い、日本舞踊も習っている。人が安心できる優しさを備えており、彼女の接し方がキャンサーの心を開くきっかけにもなった。【声：山本百合子】

救急看護戦士
ミネルバ

トランステクターと運命的な出会いをした3人の青年たち。ジンライを助け、サイバトロンの主戦力となる。

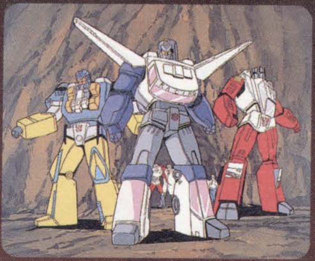
サイバトロン・ゴッドマスター

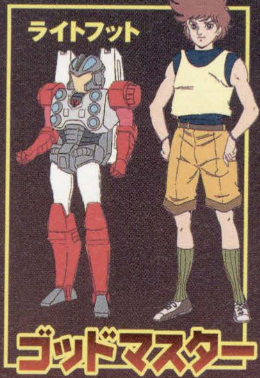
副官
ライトフット



ジンライが最初に見つけたゴッドマスター。カナダの自動車会社ブリティッシュモーターズの社長を父に持つ。丁寧な口調で優しい性格を感じさせるが、芯は強く、意外に強情な面もある。スポーツカーに変形。水の超魂パワーを持ち、水中での活動も得意。【声：柏倉つとむ】

▲誕生日に父から送られた車の正体、それがトランステクターだった。

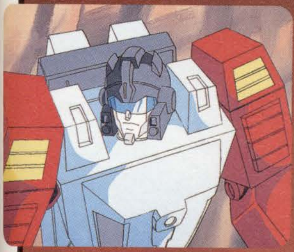


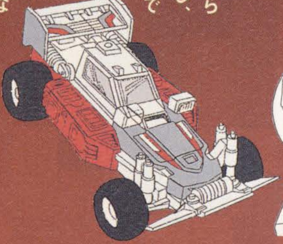


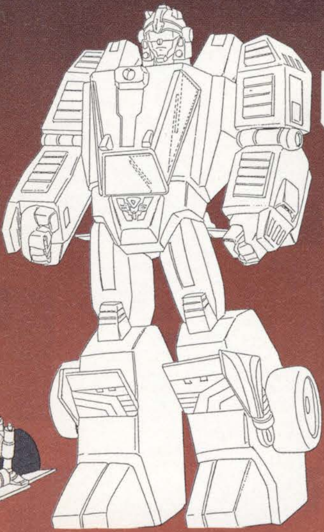
地上防衛戦士
レインジャー

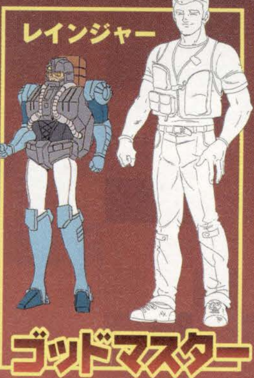
▲何故か惹かれるものを感じ、持ち帰っていた大岩。これがトランステクターに姿を変えることとなる。

カナダのロッキー山脈に暮らす森林警備員。大自然を愛し、絵描きや釣りを趣味に山小屋での一人暮らしを楽しんでいた。マイペースを崩さないが、一度怒れば生身でデストロンに向かっていく激しさも持つ。バギーに変形し、悪路をものともしない。【声：大塚芳忠】

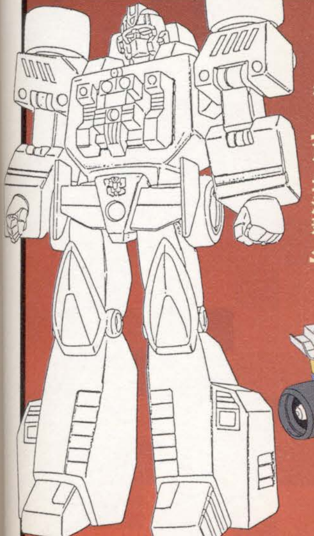






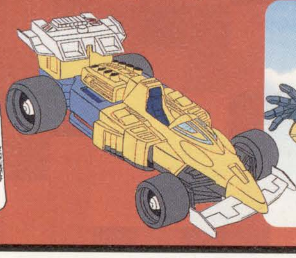


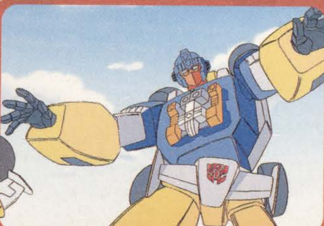
地上連絡防衛戦士
ロードキング

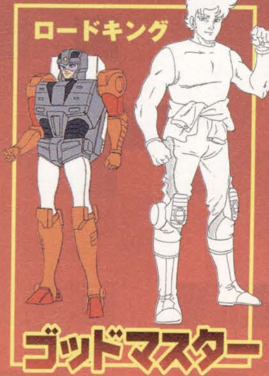


天才と称えられる、イギリス出身のレーサー。普段はクールな素振りを見せるが、実際にはスランプに陥ることもあれば、美人に鼻の下を伸ばしたりする人間臭い人柄。運転テクニックはかなりのもので、陽動作戦なども行う。【声：塩沢兼人】

▲恩人から贈られた愛用のF1マシン。トランステクターとは気付かぬまま、レースに使用されていた。



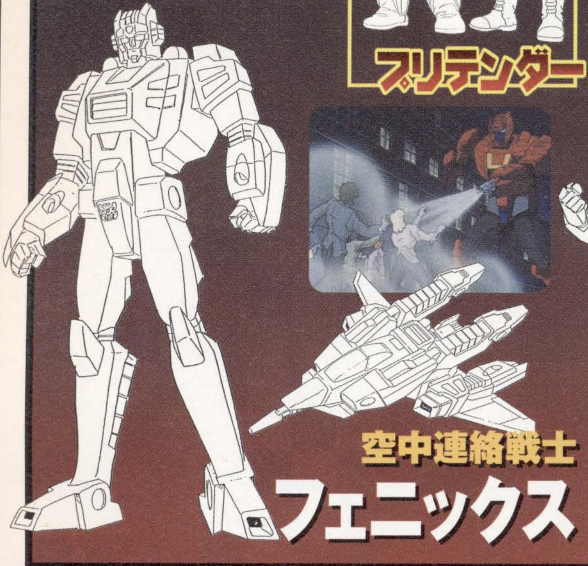




数千年前に地球を訪れたトランスフォーマー。地球で出会った人間の素晴らしさに憧れ、自らをその姿に変身させた。

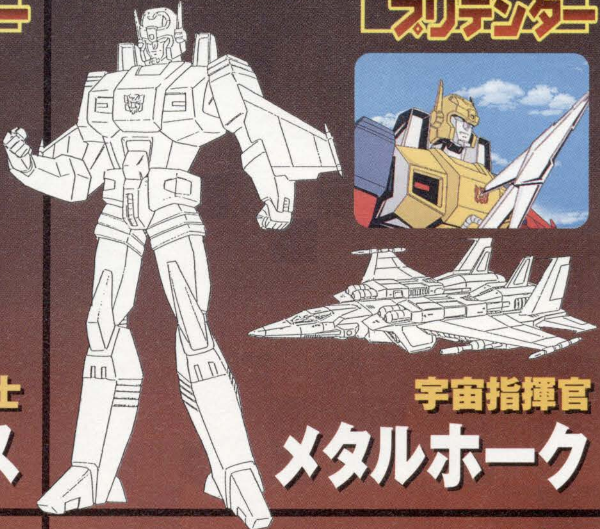
サイバトロン・プリテンダー

ドイツの空港で通信技師として働いている。通信および暗号解読のエキスパートで情報収集が得意。武器はスネークロッドと呼ばれるムチで、広範囲にジェット気流を発生させて敵を粉砕する。ジェット機に変形。【声：平野正人】



空中連絡戦士 フェニックス

サイバトロンプリテンダーのリーダー。宇宙工学博士として剛博士の助手をしていた。冷静で責任感が強く、司令官に推したジンライを陰日向に支える。チタニウムサーベルを武器として使用し、ロボットモードでは空中から必殺のシャイニングアローを放つ。SFジェットに変形。【声：森 功至】



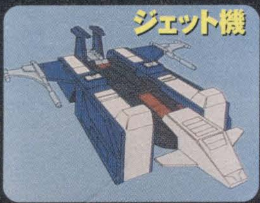
宇宙指揮官 メタルホーク

ニューヨークで自動車設計士として暮らす。酒と女性を大いに愛し、戦いによってデートの時間が失われるのを嘆く。戦場では軽口を叩きつつも「決める時はビシッと決める」のが彼のポリシー。カーモードでは壁面や水上を走ることが可能。【声：田中亮一】

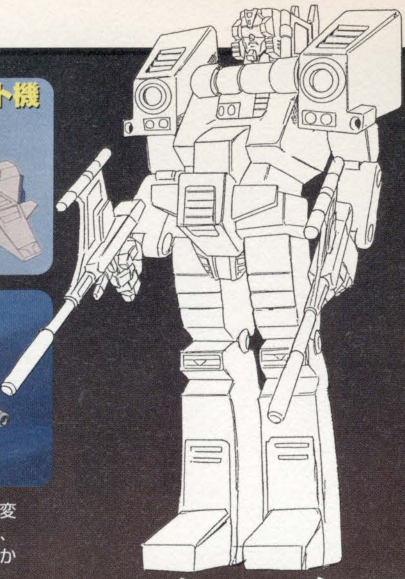
陸上探査戦士 ランダー

地球を訪れたときに人間と共に海の美しさにも魅せられ、現在ではカリフォルニアの海洋研究所で働いている。海洋調査やイルカ研究の第一人者として著名な存在。おおらかな性格で、子供や若者の成長を暖かく見守る。武器のシーアックスは水竜巻を起こすことも可能。サブマリンに変形。【声：幹本雄之】

海洋防衛戦士 ダイバー



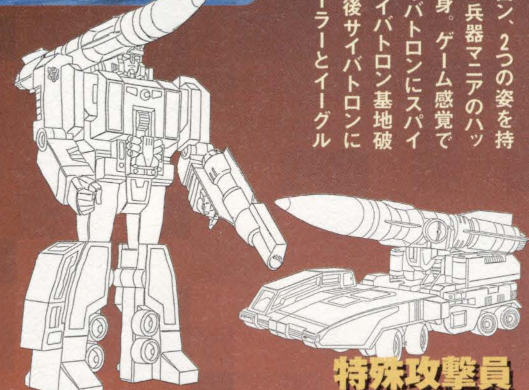
◀▲その攻撃は死を呼ぶ六変化アタックと呼ばれており、変形を行いながら前後上下から連続して襲いかかる。



強敵を求めて宇宙を渡り歩き、最強を豪語してきた流れ者。しかしジンライとの対決において初の敗北を喫し、さらにその正体が弱いと見下してきた人間であると知って愕然とする。ジンライの言葉に人間の本当の強さを見た彼は、以来、サイバトロンの危機には駆けつけてくれる存在となった【声：速水 奨】

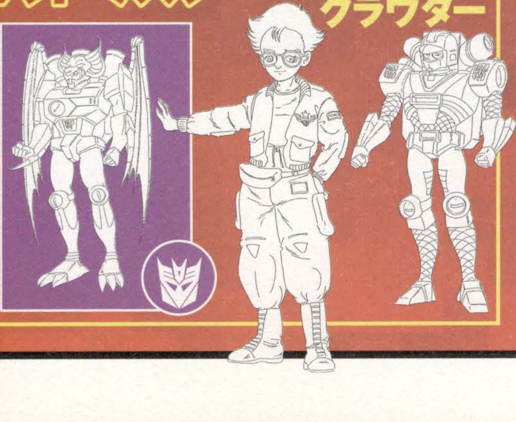
忍者騎士
シックスナイト

サイバトロンとデストロン、2つの姿を持つ最後のゴッドマスター。兵器マニアのハッカー少年クラウダーが変身。ゲーム感覚でデストロンに味方し、サイバトロンにスパイとして潜入した。だが、サイバトロン基地破壊の際に見捨てられ、以後サイバトロンとイーグルに変形。【声：草尾 毅】



特殊攻撃員
ダブルクラウダー

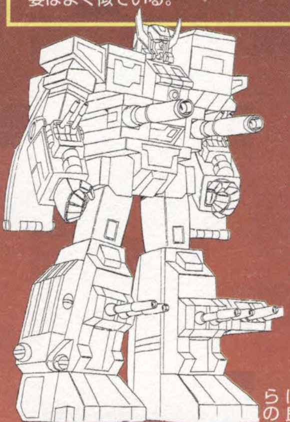
ゴッドマスター



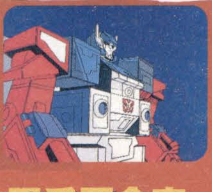
プリテンダー／ヘッドマスター

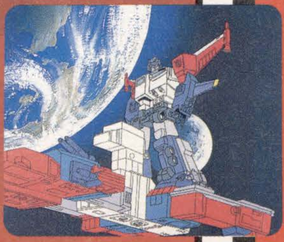
グランド

グランドはヘッドマスターであると同時にプリテンダー機能も有している。宇宙軍司令官フォートレスの弟であり、その姿はよく似ている。



サイバトロン宇宙軍からブラックザラックを追って派遣された。マスターフォースの研究者にしてゴッドボンバーの設計者でもある。宇宙戦艦とマキシマスシティに変形。最大の危機に直面していた地球のサイバトロンに基地を提供した【声：沢木郁也】





▶ゴッドジンライを乗せたサーフィン戦法。チームワークは良好で、ブラックホールからの脱出にも成功している。

太陽系司令官
グランドマキシマス

人間の心にも必ず宿る憎しみや欲望は、悪のマスターフォースとして新たなデストロンを形作る。だが、その影の支配者たるデビルZは、人間の力を利用する一方、人類の持つ可能性を恐れ、その全滅を企んでいた。

▲二つの首を持つ黒き竜。「蛇蝎」と形容されるブラックザラック＝デビルZの最終形態である。

暗黒大帝
ブラックザラック

かつてのメガザラックのボディを超重量金属で強化したもの。サソリ型戦艦に変形する。本来の主であるスコルポノックはデビルZによって洗脳され、その頭部は中身の無い仮面に過ぎない。タイラントスピアを始めとする強力兵器を多く装備しており、背後にも死角は無い。一切の感情を持たず、黙々と破壊を行う恐るべき怪物である。デビルZはこれに融合して肉体を得、自ら本格的な人類の抹殺計画に乗り出した。【声：銀河万丈】

デビルZ

宇宙と地球、全てのデストロン軍団を支配下に収めた闇の帝王。謎に満ちた超エネルギー生命体である。【声：柴田秀勝】

ガードマインダー

ブラックザラックの護衛を行うデストロン軍宇宙軍兵士。それぞれ装甲車に変形する。【声：佐藤正治、掛川裕彦】

▲巨大な基地モードに変形。サイバトロン基地を攻撃した際には、敵の眼前に攻撃拠点を築くという奇策を実行した。

◀高速移動用の合体モード。ヘッドマスターJr.らを乗せて宇宙に飛び立つことも可能。

メガジェット＆ギガタンク

トランスフォーム！

ギガとメガが、タンクとジェット、それぞれのトランステクターにゴッドオンし、合体して誕生する。合体後のアイアコーンは左右の胸に現れる。

破壊大使
オーバーロード

デビルZによって盗み出され、太古の地球に飛来したオリジナルのゴッドマスター。その際に7つの分身を放出し、それぞれがジンライやハイドラーなどのトランステクターになったと言われる。本体であるギガとメガ、2人のマスターフォースの合体によって誕生し、他のゴッドマスターの機械的機能を全て備える最強の存在。破壊と殺戮こそがマスターフォースの最も人間的な使い方であり、また、人間こそが地球を支配するための鍵であると考えている。そのため、人類の完全抹殺を目論むデビルZに対し、やがて疑問を抱くこととなる。ゴッドジンライとの戦いを人間の強さの証明にしようと、正々堂々とした勝負を望む。【声：野田圭一】

メガ

デストロンの母。デストロンの仲間には家族として愛情を注ぐが、それ以外に対しては無慈悲で冷淡。【声：吉田理保子】

ゴッドマスター

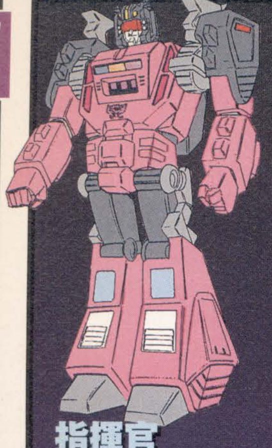
ギガ

デストロンの父と呼ばれる。人類はマスターフォースによって支配されるべきだと信じる。【声：野田圭一】

ゴッドマスター

デストロン・ヘッドマスターJr.

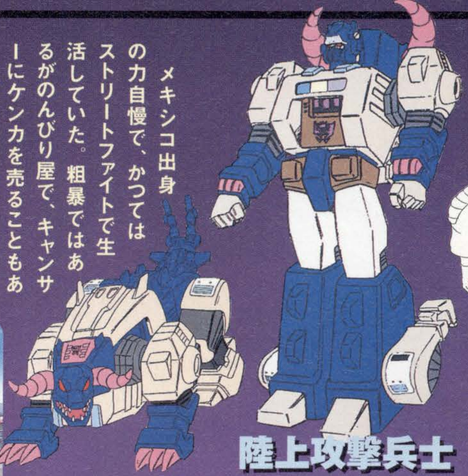
サイバトロンから奪ったトランステクターに、恵まれない環境で育った少年らが合体。破壊と暴力の小悪魔たちである。



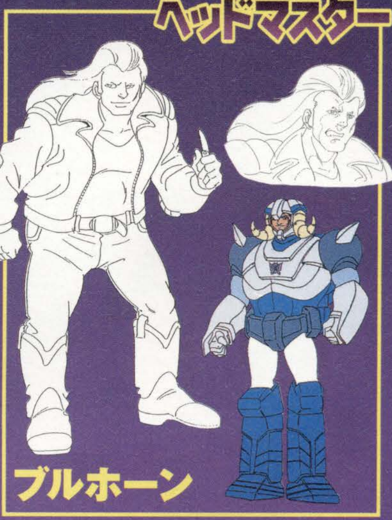
指揮官 ワイルダー

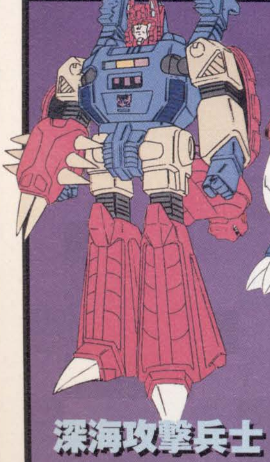
アメリカで暴走族のリーダーをしていた少年。グループ同士の抗争に敗れた経験から、力こそ全てであると信じるようになった。クールな性格だが同時にプライドが高く、上からであれ下からであれ、自分が裏切られることに我慢が出来ない。特に相手が弱い立場の場合、その怒りは激しい暴力となって現れる。鋭い爪と牙を持つオオカミに変形する。【声：難波圭一】

メキシコ出身の力自慢で、かつてはストリートファイトで生活していた。粗暴ではあるがのんびり屋で、キャンサーにケンカを売ることもあるが、それは陰湿なものではない。むしろ彼がデストロンを抜けた時には、その安否を本気で心配していた。ロボットモードでも人間のときと同様のパワーファイトに優れる。バッファロー変形する。【声：塩屋浩三】



陸上攻撃兵士 ブルホーン





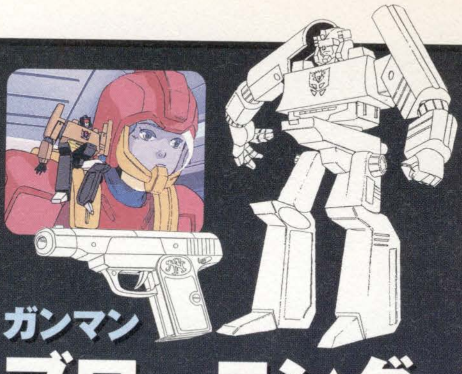
幼い頃に孤児となった中国の少年。破壊活動においては無邪気な残忍さを発揮する。元気な末っ子的存在で人気があり、メガから特に可愛がられていた。サイバトロンの捕虜となった際、ミネルバから優しく接された経験があり、それ以来戦いに迷いを見せることもあった。ロボットモードでは身軽でスピーディーな攻撃を得意とする。カニモンスターに変形。【声：小粥よう子】

深海攻撃兵士 キャンサー

スパークダッシュ

ブラックザラックによって召喚されたモンスターロボット。恐竜型のガズル、鳥型のシズル、昆虫型のジャビルの3タイプがいる。

ガンマン ブローニング

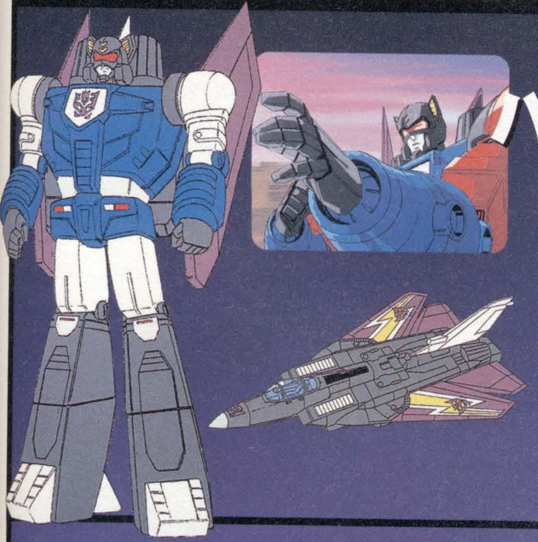


メガがキャンサーのために与えたペットトランスフォーマー。ブローニングM1920に変形し、水鉄砲、クラッカー、催涙弾、ビームなど様々な機能を持つ。おどけ役的な性格だが、キャンサーを本気で心配している。【声：山田恭子】

デストロン・ゴッドマスター

神をも超える力を得たと嘯く兄弟ゴッドマスター。通常のトランスフォーマーを遥かに凌ぐ超能力を発揮する。

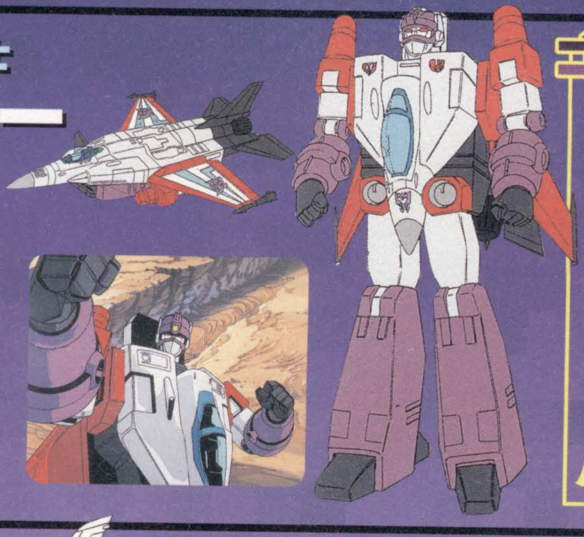
宇宙航空参謀 ハイドラー



ドイツ出身の有名俳優で、変装の達人でもある。残忍で執念深く、目的のためには手段を選ばない。エリート意識が強く、ゴッドマスター以外の生命体を蔑む一方、弟のバスターには身を挺して守るだけの情愛も持ち合わせていた。トーネード戦闘機に変形する。【声：山口 健】

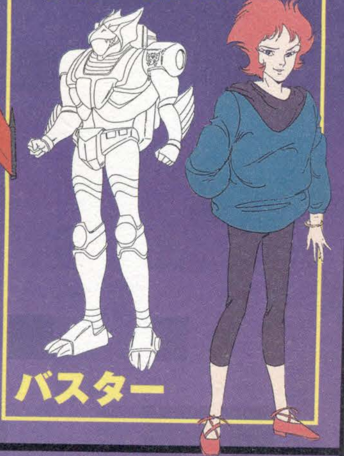
ゴッドマスター

宇宙航空兵士 バスター



ハイドラーの弟で、若者に人気のディスクジョッキー。ハイドラーほどの冷酷さは無いが、それこそが自分が兄に及ばない部分であると理解しており、その卑劣な作戦を実行するのにためらうことは無い。F16戦闘機に変形する。【声：塩屋 翼】

ゴッドマスター

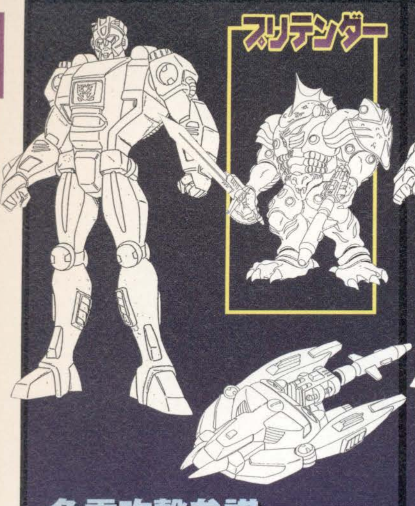


ダークウイングス

ハイドラー、バスターの2人が合体した巨大音速ダブルジェット。常識外れのスピードとテクニックを持ち、宇宙空間でも戦うことが出来る。

悪魔の姿で人々に恐れられ、サイバトロンに封印された3人の兵士。デビルZが封印を解き、その尖兵として送り込んだ。

デストロン・プリテンダー

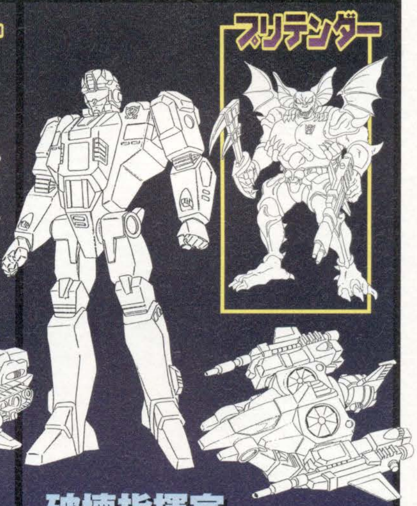


魚雷攻撃参謀
ギルマー

フィッシュモンスターの姿を持つ。自分の利益が第一の日和見主義者で、ゴッドマスター兄弟に取り入ったり、ブラッドの作戦の戦果だけを奪おうとすることもあった。海の戦いを得意とし、潜水艇に変形する。【声：佐藤正治】

爆薬攻撃参謀
ダウロス

ブルモンスターの姿を持つ。勇ましげな言動で、策に頼るブラッドのやり方を手ぬるいと非難するが、勝ち目が無いと見るとすぐに逃げ出してしまう。ジェットタンクモードでは空中も地中も進むことが可能。【声：郷里大輔】

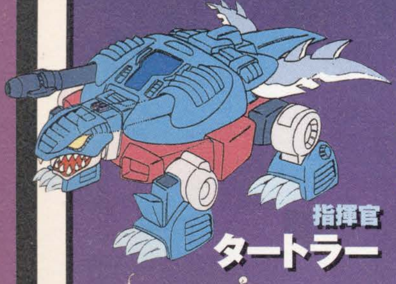


破壊指揮官
ブラッド

バットモンスターの姿を持つデストロンプリテンダーのリーダー。魔力で人間をデストロイドに変えて操る他、催眠術も使う。頭を使って敵の隙や弱点を突こうとするが成果はイマイチ。垂直離着陸能力を持つジェット機に変形する。【声：戸谷公次】

それぞれ海中から無数に現れては人々やサイバトロンに襲い掛かる。一体ごとでも体格は大きく、経験の浅いヘッドマスターJr.らにとっては難敵だった。

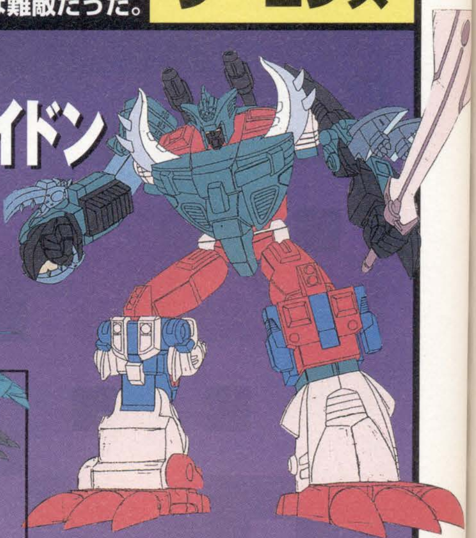
シーコンズ



指揮官
タートラー

シーコンズを率いるカメ型の兵士。他のシーコンズに比べて高い知能を有し、作戦行動も可能。【声：平野正人】

合体兵士
キングポセイドン



◀▼タートラー以外は銃にも変形し、合体時のターゲットマスターウェポンとなる。

タートラーを中心に6体のシーコンズが合体して誕生する海の巨人。海中の戦いではゴッドジンライをも苦戦に追い込む。命令に対しては忠実に動くが、激しやすく、暴れ出すと味方でも手が付けられない。【声：平野正人】

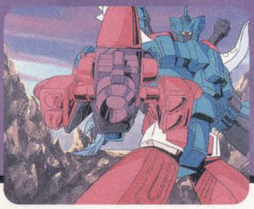
機雷攻撃兵
テンタキル

深海攻撃兵
ガルフ

海中爆破兵
ロブクロウ

海洋工作兵
クラーケン

海中破壊兵
オーバーバイト



戦え！超ロボット生命体

トランスフォーマーV ビクトリー

1989

——レッツ・セイ・ゴウ！
G1TVシリーズ最終作。最強の勇者スターセイバーが、昔年のライバル破壊大帝デスザラスを追い、地球へと向かう！

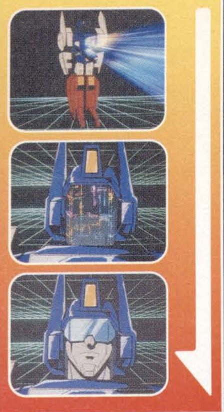
ゴッドジンライたちの活躍により地球を追い出されたデストロンは、宇宙の端々へと散り、侵略行為をくり返していた。こうした動きにサイバトロンは、平和と正義を愛する地球や宇宙の様々な生命体と共に、V惑星に「宇宙平和連合」を組織する。デストロンら無法者に対抗する為、宇宙防衛軍も結成された。その司令官に任命されたのが、サイバトロン最強の勇者、スターセイバーである。

新たに破壊大帝の地位に就いたデスザラスは、かつてスターセイバーにより封印されたデストロン宇宙要塞を復活させんと、エネルギー強奪をくり返していた。その目標となるのは、地球を始めとする、エネルギー資源に溢れた星々だった。美しい星・地球の平和を守る為、スターセイバーとブレインマスター、マルチ戦隊らは、地球へと向かった。

やがて激しさを増す戦闘の中、スターセイバーを庇い、第二方面軍の司令官ゴッドジンライはその命を落としてしまう。しかし彼の魂は新たなボディ、ビクトリーレオへと受け継がれた。パワーアップ改造を受けたスターセイバーと、ビクトリーレオは合体。ここに、フルパワーの能力を備える最強司令官ビクトリーセイバーが誕生する。

着々と要塞復活の為のエネルギーを蓄えるデスザラス。果たしてビクトリーセイバーとサイバトロン戦士、そしてジャンは、デスザラスの野望を食い止める事ができるのか——。

ブレインセット!



▲スターセイバーのブレイン(上)、ラスター、ブラッカー、ブレイバーのブレイン(下)。ビークルモードの際、ブレインはコクピットに収まる。

小型の脳波分身ロボット、ブレインを有するブレインマスターは、宇宙広しといえども、この4人だけ。正義の勇気をブレインに蓄えパワーアップする事で、ゴッドマスターをも越える能力を有していると云う。なおブレインの特性については、劇中であまり触れられる事はなかった。

“知恵”と“力”と“技”……そして最強の“勇気”

宇宙の勇士ブレインマスター!

原点回帰

和製TF世界の成熟

▲スターセイバーとデスザラスのアイキャッチ。

日本主導のアニメシリーズ3作目を数える本作では、欧米商品の流用も恐竜戦隊のロボ本体や両軍基地といった程度に抑えられ、コンセプト的にも純粋な和製トランスフォーマーとなった。宇宙規模の組織となったサイバトロンには「方面軍」を設定する等、作品世界を整理。前作の敵味方キャラクターたちは、他の宇宙エリアでいまも戦っているとされた。加えてゴッドジンライや、ホイルジャック、パーセプター等がゲストに登場する事で、個々の作品がひとつのTF世界を構成している事を、強く印象付けている。

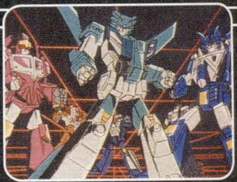
その一方で、本作では「原点回帰」が意識された。デストロンに、所謂スタースクリーム的キャラクターであるレオザックを配置。アイキャッチや場面転換等にエンブレムを多用した点も、旧3作を意識したものであると云えよう。

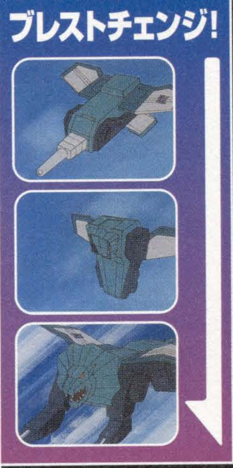
正義の勇者!スターセイバー

ゴットジンライやフォートレスマキシマスとは異なり、スターセイバーは第1話から司令官として登場。ゴットジンライに「『あの』スターセイバー」と言わしめるほどの手練れとして描かれる。まさに正義の勇者、最強の司令官像となった。

主題歌で主人公として唄われる点も、いかにもロボットアニメであり、本作がスタンダードな娯楽作品を目指していた点が伺える。初のジェット機型司令官である点も、過去を意識せず、新たなヒーロー像を造ろうとした故であろう。

ブレストチェンジ!





デストロンの主力メンバーの能力が統一された。ブレストフォースは、胸部に武器「ブレスト」を搭載。ブレストはアニマルモードから手持ち武器へとトランスフォームする。当初は4人だったブレストフォースが、メンバーを増やし6人となってライオカイザーに合体するなど、新機軸が盛り込まれた。

なお、破壊大帝デスザラスも2つのブレストを有している。

アニマルブレストが、武器に変化!

ブレストフォース推参!

ゴッドジンライ、転生!

本作では前作の主人公、ゴットジンライがゲストで登場するという豪華な展開の中、彼の非業の死が描かれている。

司令官の死というイベントは、これまで『ザ・ムービー』や『ザ★ヘッドマスターズ』でも行われてきたが、主人公として描かれてきたジンライの死は衝撃的だった。彼の死、そして転生、合体と至るドラマが、シリーズ中盤を盛り上げている。

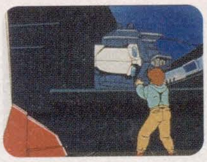
これだけは見たい! エピソードセレクション

激突!要塞vsビクトリー合体

ジャンとイルミナⅡの活躍によって、敵の巨大要塞は機能を停止する。スターセイバーに敗北したデスザラスは、要塞を地球に落下させんとするが、ビクトリーセイバーの全パワー解放によって要塞は崩壊。地球に平和が訪れる。最終回に相応しい鬼のようなメカ描写。ミサイル、薬莢、爆雷バラ巻きのオンパレードが心地よい。(第37話)

逆転!必殺のビクトリー合体

デスザラスは殺人ミサイルでサイバトロンを脅迫。ミサイルの発射を阻止するには、スターセイバーの速度アップが必要だった。Vレオと合体したスターセイバーは、ミサイル衛星の破壊に成功する。待ちに待ったビクトリーセイバーの初合体エピソード。2体合体に求められたのが、パワーではなくスピードなのが意外。(第30話)



ジンライ死す!!

スターセイバーを庇い、瀕死の重傷を負ったGジンライ。二度と戦えない体となった彼は、スターセイバーの強化パーツとなる道を選ぶ。泣かせる台詞が続出する名エピソード。しかも、彼の死が報われるのは、第29話まで待たなければならないのだ。なお、パーセプター、ホイルジャック、ミネルバなどもゲストに登場。(第26話)

合体!ライオカイザー

信用できぬヘルバットの代わりに、新兵士デスコブラを召還したレオザック。だが、デスコブラはヘルバットに射殺されてしまう。ヘルバットはホーリーたちに罪を着せ、怒ったレオザックらはライオカイザーに合体。スターセイバーを追い詰め、駆け付けたGジンライにも傷を負わせる。ヘルバットの小悪党ぶりがグーです。必見!(第19話)

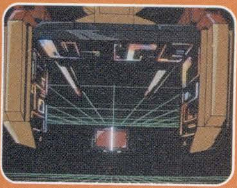
襲撃!レオザック

地球の学校に入学したジャン。だが、スターセイバーを狙うレオザックが、恐竜戦隊を連れ学校を襲った。スターセイバーは駆け付けたブラッカーたちとの共闘で敵を撃退する。ジャンの生い立ちが明かされるお話。見所はロードシーザーの初合体、Vスターを駆るジャン、そしてレオザックの長い自己紹介。長すぎて掲載できません。(第3話)

サイバトロンは宇宙平和連合による宇宙防衛軍の中心的存在となり、歴戦の勇者スターセイバーがその司令官に任命される。デスザラスの侵攻を阻止するため、銀河第一方面軍を率いて地球の防衛にあたる。

トランスフォーム！

スターセイバーの頭部に収められた合体回路が作動し、ビクトリーレオがVロックグラウンドとVロックスカイに分離。それぞれ脚部と背中に合体して完成する。



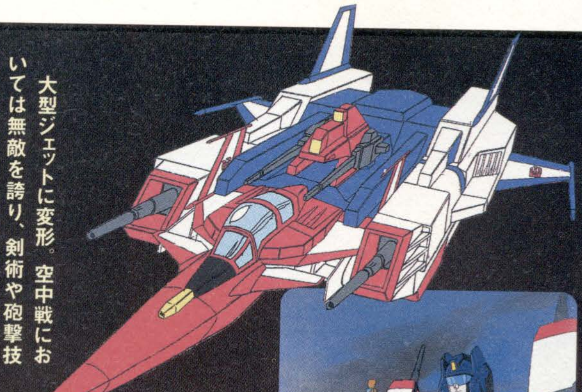
究極総司令官
ビクトリーセイバー

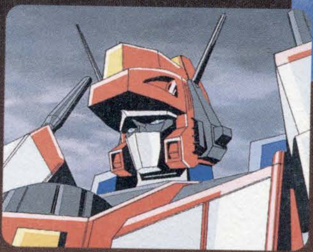
スターセイバーは宇宙一の剣士と呼ばれる歴戦のブレインマスター。前線に立つ事を好むが、一方で後方に立つ部下の一人一人に至るまでの配慮も忘れない。グレートショットのような流れ者の傭兵とも友人として対等に接する懐の深さ、そして、敗れた敵にも手を差し伸べる寛容さを持つ。ゴッドジンライの生まれ変わりである、ビクトリーレオと合体した状態では、この優れた精神と肉体がさらにパワーアップ。どんな苦境でも決して諦めることのない、サイバトロンの勝利を象徴する存在となる。【声：田中秀行】

セイバーブレード

総司令官
スターセイバー

大型ジェットに変形。空中戦においては無敵を誇り、剣術や砲撃技能にも優れている。【声：田中秀幸】

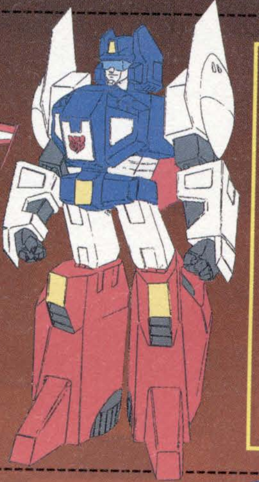




◀▲戦闘時には「バトルアップ！」のかけ声で、バトルフェイスを装着（左）。基地内や非戦闘時においては、素顔のままでいる事も多い。（上）

セイバー

小型ジェットに変形するスターセイバーの本体。通常はこの姿で活動する。セイバーブレードを振るう腕が鈍ることはなく、デスザラスのような強敵を撃退したこともある。



勇気のブレイン

ブレインとはブレインマスターが内蔵する脳波分身ロボット。正義の感情を蓄積し、それぞれの能力を強化する機能を持つ。

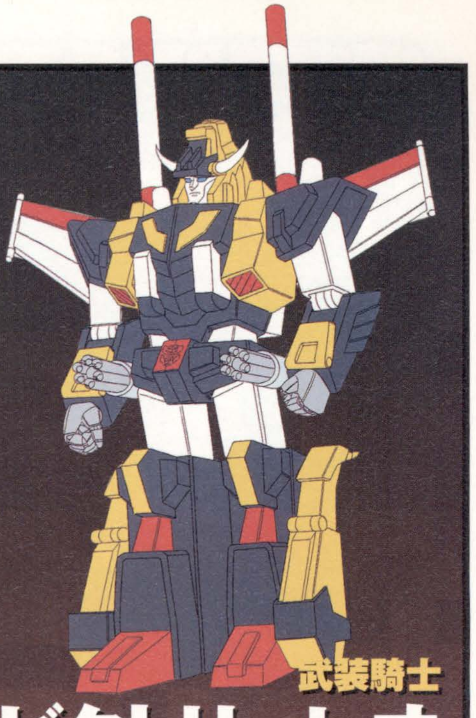
Vスター

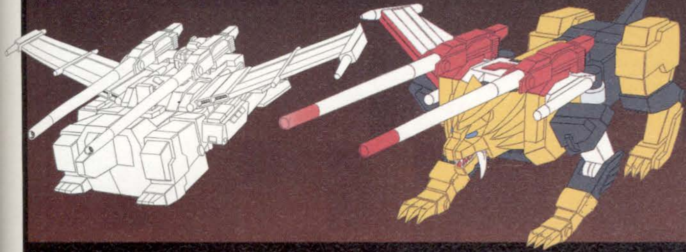
火力の集中する大型ジェットの後部。単独でも飛行が可能で、輸送機や爆撃機、セイバーを乗せるホバーボードとしても活躍する。

▲ビークルモードのビクトリーレオと合体した超大型ジェット。スターセイバー単体を遥かに凌ぐスピードを発揮し、超長距離ミサイルの脅威から人類を救った。

金属生命破壊砲の凶弾に倒れたゴッドジンライが、新たなトランスフォーマーとして再生した姿。しかし、新しいボディとの間で心身のバランスを崩し、ジャンの声によって本来の精神を取り戻すまで、一時的に狂暴化したこともあった。ゴッドジンライの持っていた記憶、人間愛や戦士としての誇りは失われていないが、同時に野獣としての本能や鋭い勘なども宿らせている。ライオンおよびジェットブースターに変形する。【声：竹村 拓】

▶ゴッドジンライの再生のため、科学者パーセプター、技術者ホイルジャック、看護員ミネルバといった最高級の技術・医療スタッフが地球に招請された。



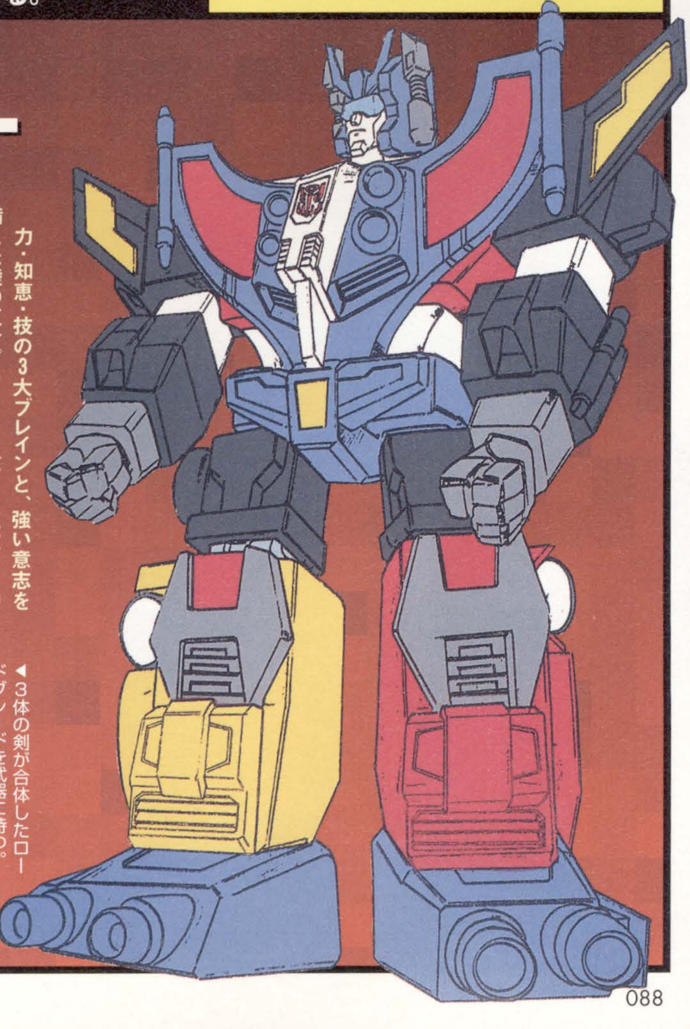


武装騎士 ビクトリーレオ

スターセイバーと同じく、ブレインをその体内に宿す三銃士。サイバトロンの中心メンバーとして活躍する。

ブレインマスター

三銃合体騎士 ロードシーザー



力・知恵・技の3大ブレインと、強い意志を備えた陸の王者。スターセイバーに匹敵する機動力を持つ。「三本の矢」の教えで有名な毛利元就を尊敬している。【声：戸谷公次】

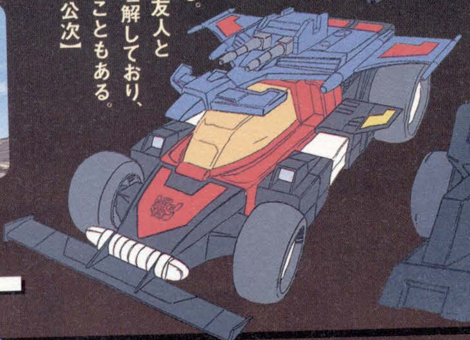
トランスフォーム！

「知恵と力と技の合体！」のかけ声で3体の剣を重ね、合体を開始。ブラッカーが上半身、ラスターが右脚、ブレイバーが左脚となる。

◀3体の剣が合体したロードブレードを武器に持つ。

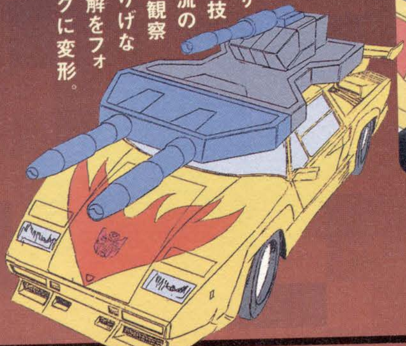
▶自分が負傷していても仲間に怪我をさせないのが彼の主義。

司令官経験もあるベテラン戦士。力のブレインを持つ。口は悪いが仲間想いで、マルチ戦隊の成長を楽しみにしている。スターセイバーの長年の友人として、その性格をよく理解しており、彼の義侠心を危惧することもある。バギーに変形。【声：戸谷公次】

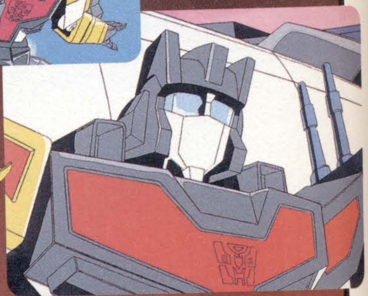


副官騎士
ブラッカー

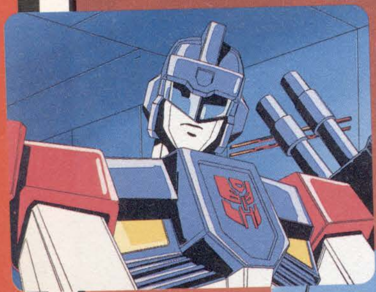
技のブレインを持つ、サイバトロンのナンバー1技術者。戦士としても一流の技能を持つ。また、人物観察眼にも優れており、さりげない言動で仲間同士の誤解をフォローする。カウンタックに変形。【声：広森信吾】

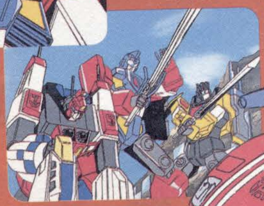


◀彼等の剣は、持ち手を変えることで銃としても使用可能。



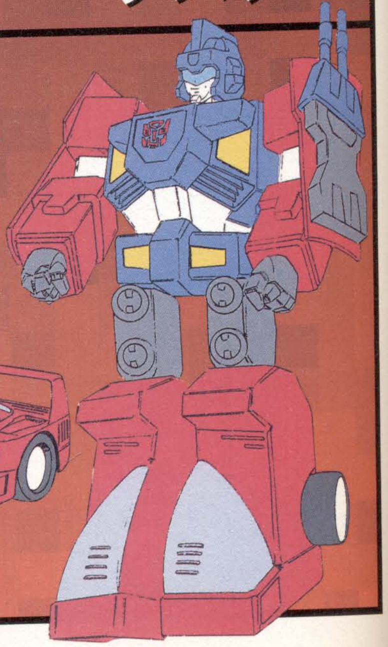
技能騎士
ラスター





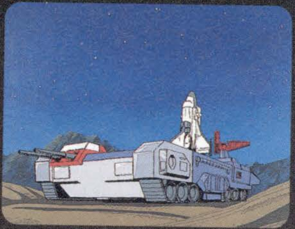
▼ラスターとブレイバーもまた、同じ気持ちを司令官に抱く戦友同士である。

知恵のブレインを持つ戦士。敵の能力や特性を利用した頭脳戦を好む。兵器の開発にも余念が無く、工作室を立ち入り禁止にすることもあるが、そこへ入って来たジャンの心境を理解する優しさも持つ。F40に変形。【声：掛川裕彦】

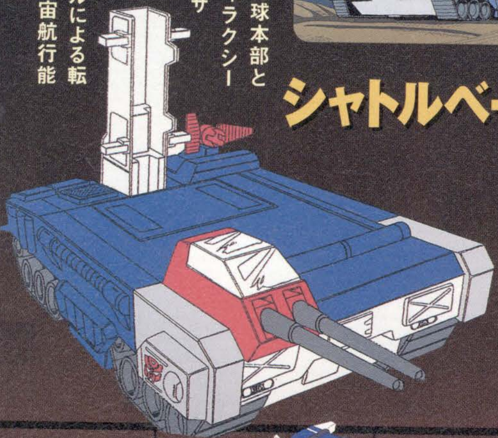


作戦騎士
ブレイバー

シャトルベース



サイバトロンの地球本部となる移動基地。ギャラクシーシャトルの発射台やサイバトロン戦士用のカタパルトなどを完備し、広い内部はテレポーションカプセルによる転送が可能。また、宇宙航行能力も備えている。



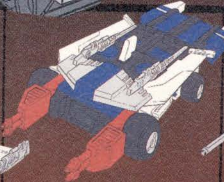
マイクロ星からやってきた戦士。真面目で責任感が強い。普段はスペースシャトルの姿で、主にサイバトロン戦士の輸送を担当する。ロボットモードではダイノキングを圧倒するほどの巨大さを誇るが、小回りが利かないのが弱点。【声：広森信吾】

星間輸送戦士
ギャラクシーシャトル

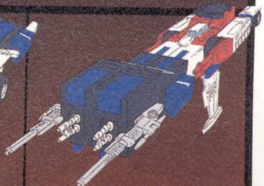
流れ者の傭兵。かつてはクロスフォーマーと組んだ事もあったが、手ひどい裏切りを受けて以来、報復の機会を伺っていた。自分が正義にふさわしいとは思っていないが、戦士として、友として認めてくれたスターセイバーの人柄に惚れ、サイバトロンに味方する。後にゴッドジンライに代わって第二方面軍の司令官代理を務めた。【声：池水通洋】

隠密戦士
グレートショット

ジェット機

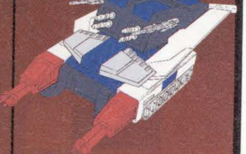


バトルカー



レーザーガン

怪獣



タンク

マルチ戦隊

V惑星に配属された期待の新戦士チーム。2体が１組となって合体し、様々な合体パターン持つ。

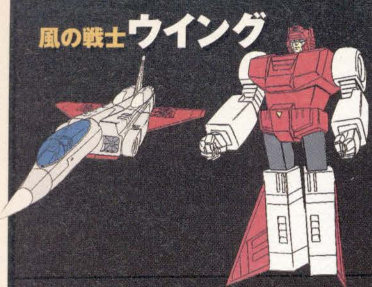
トランスフォーム！

3体の中型ロボットが本来の6体に分離。ウイングが胸、ダッシュが右腕、マッハが左腕、ウェーバーが腰、タッカーが右脚、タックルが左脚となる。

パワーや戦闘技能においては他の合体戦士に一歩遅れをとるが、勇敢で、挫けない意志と情熱を持つ。6体の武器が合体したハイブリードガンと、剣を武器として使用する。【声：広中雅志】

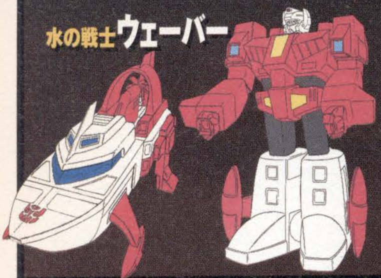
マルチ合体戦士
ランドクロス

風の戦士ウイング



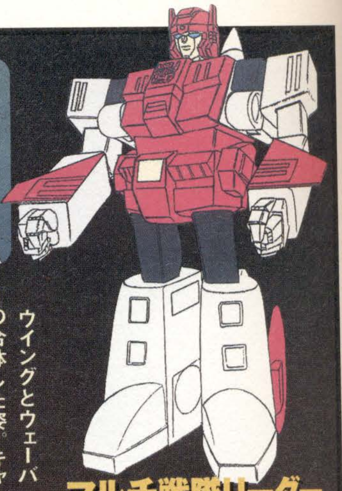
ジェット機に変形する風の戦士。仲間想いで責任感の強いマルチ戦隊のリーダー【声：広中雅志】

水の戦士ウェーバー



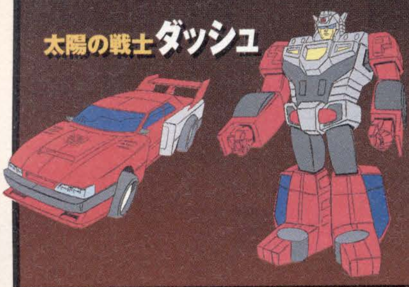
ホバーボートに変形する水の戦士。博識で皆から信頼を受ける副リーダー。【声：平野義和】

マルチ戦隊リーダー ウイングウェーバー



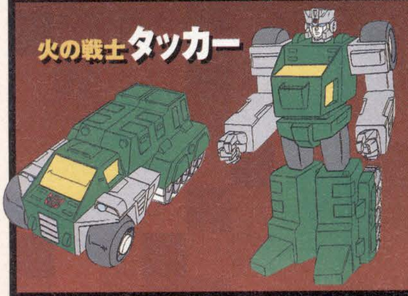
ウイングとウェーバーの合体した姿。キャプテンと呼ばれ、仲間達から頼りにされる。早く一人前として認められたいという気持ちが誰よりも強く、ブラッカーから「坊や」扱いされること事に反発する。【声：広中雅志】

太陽の戦士ダッシュ



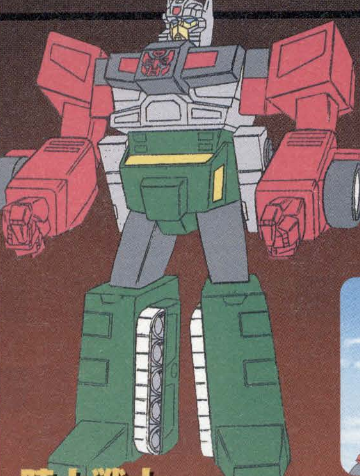
スーパーカーに変形する太陽の戦士。情報収集を得意とする。【声：平野義和】

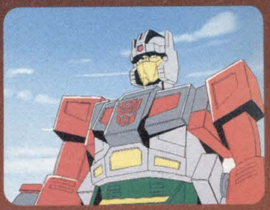
火の戦士タッカー



ハーフトラックに変形する火の戦士。落ち着いた性格の戦術家。

陸上戦士 ダッシュタッカー



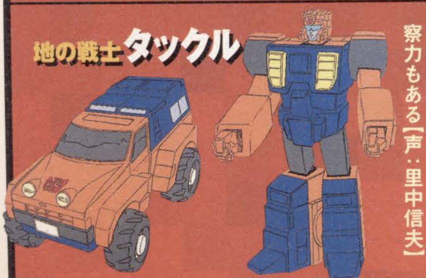


ダッシュとタッカーの合体した姿。せっかちなところがあるが、任務には忠実。自分達の未熟さを自覚しており、勝てない場合に備えての安全策も考える。【声：平野義和】

月の戦士マッハ

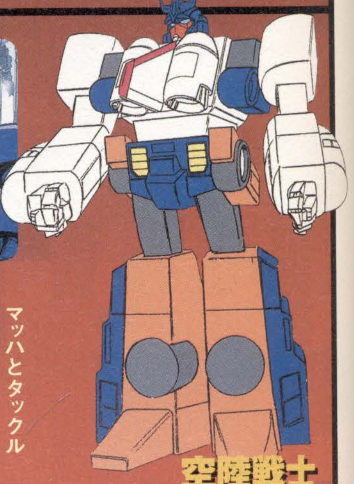
スペースシャトルになる月の戦士。「終わり良ければ〜」な性格で要領が良い【声：佐藤浩之】

地の戦士タックル



4WDに変形する大地の戦士。自然科学に詳しく観察力もある【声：里中信夫】

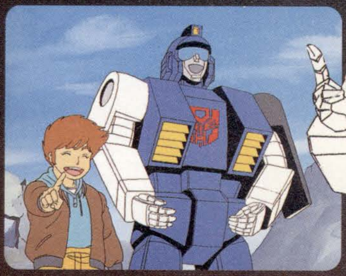
空陸戦士 マッハタックル



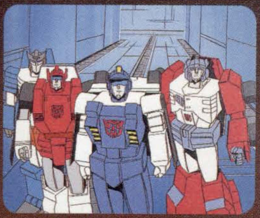
マッハとタックルの合体した姿。何かと格好をつけたがるお調子者。対照的に見えながらも仲の良いコンビで、ケンカをしている時でさえも、息はぴったり合っている。【声：佐藤浩之】

マイクロ星を故郷に持つ小型のトランスフォーマーたち。レスキュー部隊はその中でも救助活動を任務としている。

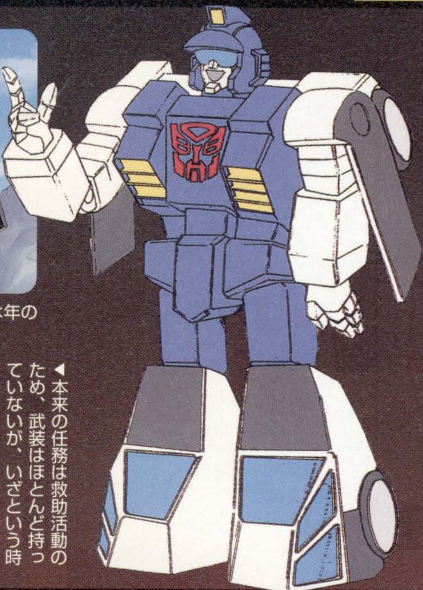
マイクロトランスフォーマー



▲ジャンの幼い頃からの友達で、今では年の近い兄のような存在。

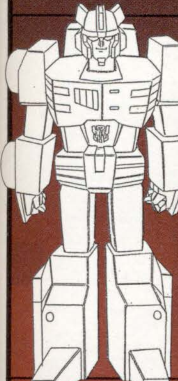


◀本来の任務は救助活動のため、武装はほとんど持っていないが、いざという時は知恵とチームワークを武器に果敢に戦う。



救護戦士 ホーリー

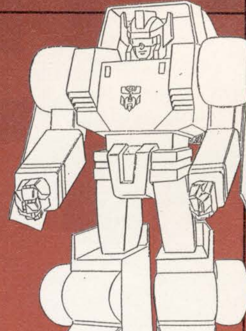
レスキュー部隊のリーダーでポリスカーに変形。慌て者だが根は真面目で、その分押しの弱いところもある。簡単な工作やコンピューターのプログラムも得意で、基地内でジャンの乗る反重力ボードを製作した。【声：頓宮恭子】



救護戦士 ファイヤー

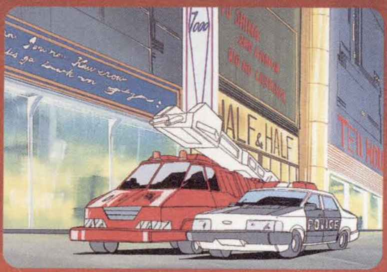
消火活動を任務とする。消防車に変形し、放水能力は最大圧力で恐竜戦隊をも押し流す。甘えん坊で、前面に立つのはあまり好まない。【声：丸尾知子】

▲からかわれることも多いが、責任感のあるチームリーダー。

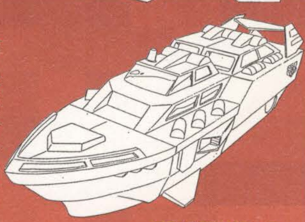


救護戦士 ピーポー

救急活動が任務。応急修理が得意で、人間でもロボットでも助けるのが生きがい。ぼやきながらもドライに自分の任務を全うする。救急車に変形。【声：金丸日向子】

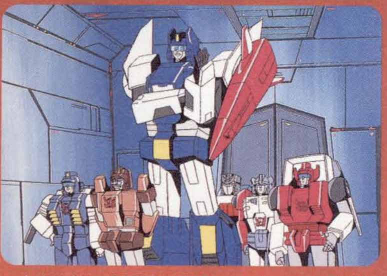


▲地球の活動に適したビークルモード。小さい体を活かして都市での活動もスムーズに行う。



救護戦士 ボーダー

海上救護が任務。そそっかしい性格で、自分の仕事が無いと不安がる。ロボットモードでピーポーたちの援護を行う。ポリスボートに変形。【声：久川 綾】



▲本来は第二方面軍に属するマイクロ星の支部。左から2人目が支部長のライクル。

南風ジャン

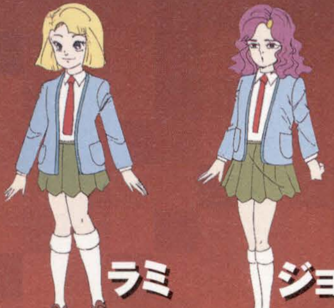
▲9年前、ジャンの一家を乗せた宇宙船は、火星の調査から戻る途中でデストロンの襲撃を受ける。脱出カプセルに乗せられたジャンはスターセイバーに救われ、トランスフォーマーの中で育てられる事となった。

日本の鉱物学者・南風博士とフランス人の母を両親に持つ。養育者であるスターセイバーを実の兄か父親のように慕い、第二方面軍司令官となったゴッドジンライとも交流が深い。地球の常識とはややズレたところがあるのか、少々突飛な行動をしてクラスメイトを驚かせることもあるが、持ち前の明るい性格でむしろ人気者となっている。【声：遠藤みやこ】

▶サイバトロンの少年戦士として、一人で宇宙に飛び出しても戦う勇気を持つ。

クラスメイト

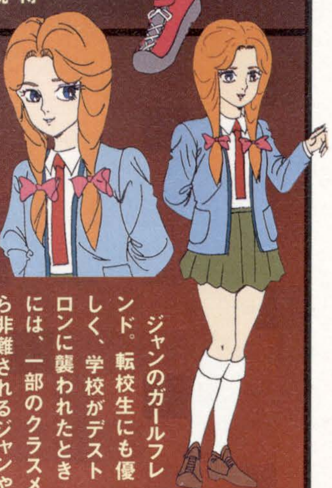
ラミ【声：丸尾知子】とジョイス【久川綾】はイルミナと仲良しのグループ。この他に、南極観測隊員の父親を持つジャンの友達・クランプもいる。



ラミ　ジョイス

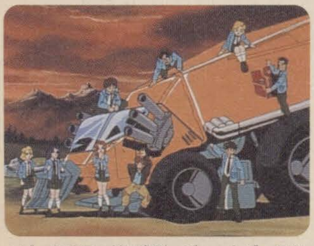
▲デスザラスの降らせる隕石爆弾から避難する人々。ジャンはこれら愛する人々を守るために戦った。

イルミナ



ジャンのガールフレンド。転校生にも優しく、学校がデストロンに襲われたときには、一部のクラスメイトから非難されるジャンやサイバトロンを庇った。小さい子供を守るため、危険に飛び込む勇気も持つ。【声：冬馬由美】

EXTRA CHARACTERS

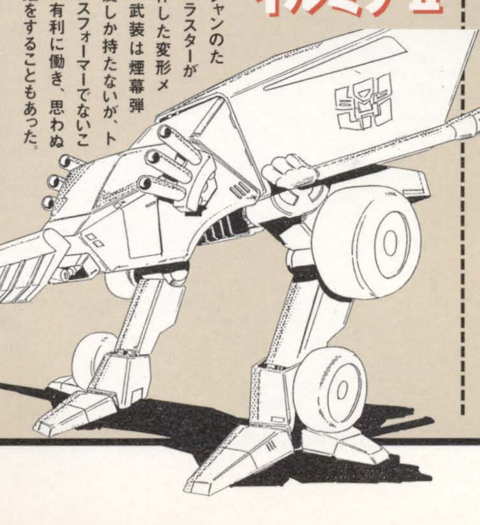


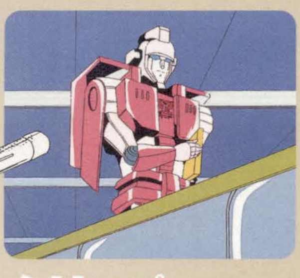
▲ビークルモードに変形。ジェットブースターを装着すれば空を飛ぶことも可能る。

◀イルミナⅡによる初登校。幸いにして、学園には駐車場の備えがあった。

イルミナⅡ

ジャンのためにラスターが製作した変形メカ。武装は煙幕弾程度しか持たないが、トランスフォーマーでないことが有利に働き、思わぬ活躍をすることもあった。





クリッパー

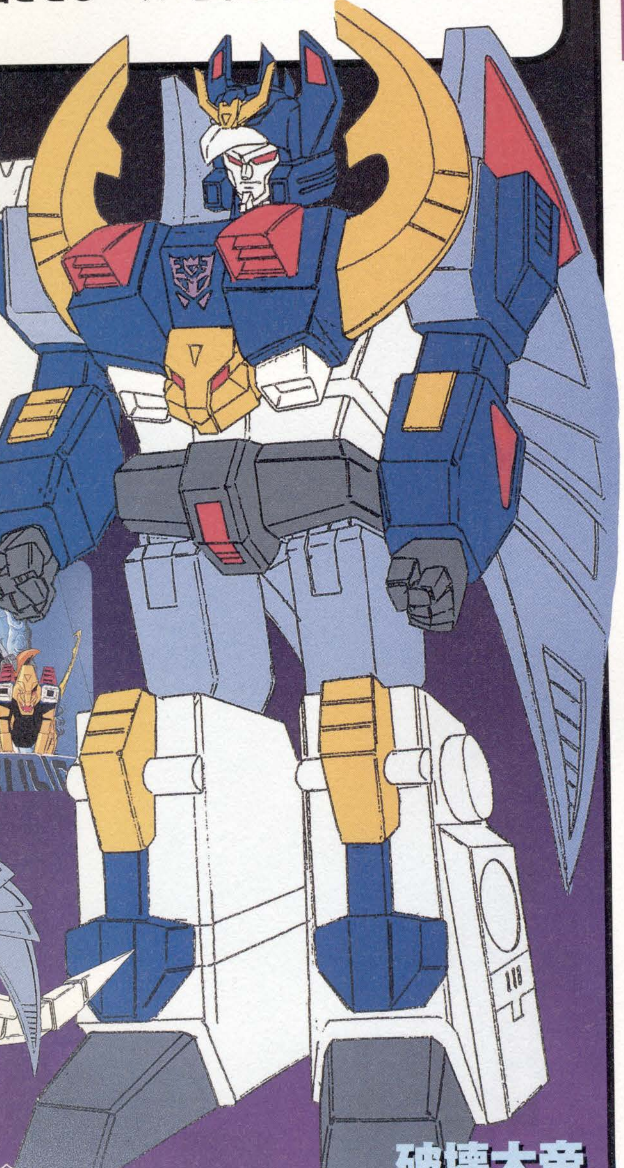
ホーリーの恋人で、マイクロ星で支部長付きのオペレーターを勤める。勝気な性格で、彼氏に対してもまだまだ注文が多く、ホーリーは頭が上がらない。スポーツカーに変形する。【声：青羽美代子】

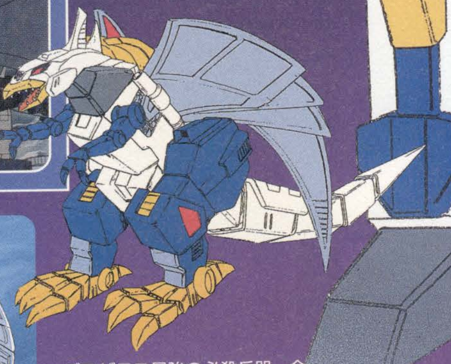
デストロンではオーバーロードに代わって、スターセイバーと50万年来の因縁を持つデスザラスが台頭。暗黒星雲に封じられた自らの要塞を復活させるべく、地球をそのエネルギー略奪の標的に定める。

トランスフォーム！

翼を広げ、凶暴なドラゴンモードに変化。空中にスターセイバーを追う。

▼サンダーアロー内部にあるデスザラスの玉座。





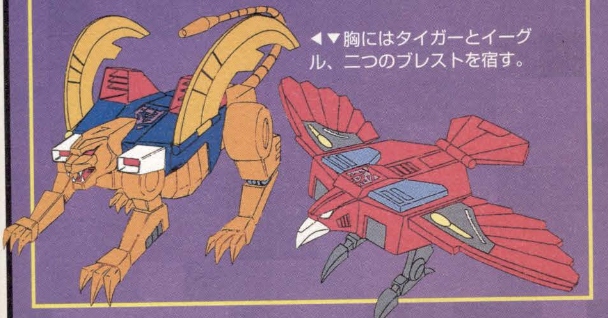
◀デスザラス最強の必殺兵器。金属生命細胞を破壊し、多量に浴びると腐食反応が進んで死に至る。ドラゴンモードでも使用可能。

破壊大帝
デスザラス

50万年前からデストロン次期大帝の座を目指し、惑星破壊要塞とも言われる巨大要塞を使って宇宙の一角を荒らし回っていた。しかし、スターセイバーの作戦により、要塞は暗黒星雲の重力場に閉じ込められ、そのエネルギーを失ってしまう。この事件の遺恨は深く、現代においてもスターセイバーに対する攻撃は苛烈を極める。性格は凶暴かつ残忍。機略に富み、ライオカイザーの完成によりレオザックの野心が現実のものとなりかけると先手を打ってこれを脅し、猛獣を飼いならすことに成功する。ドラゴンに変形。悪名高い金属生命破壊砲を持つ。【声：青野 武】

アニマルブレスト

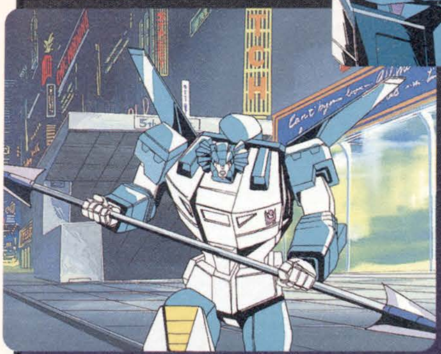
◀▼胸にはタイガーとイーグル、二つのブレストを宿す。

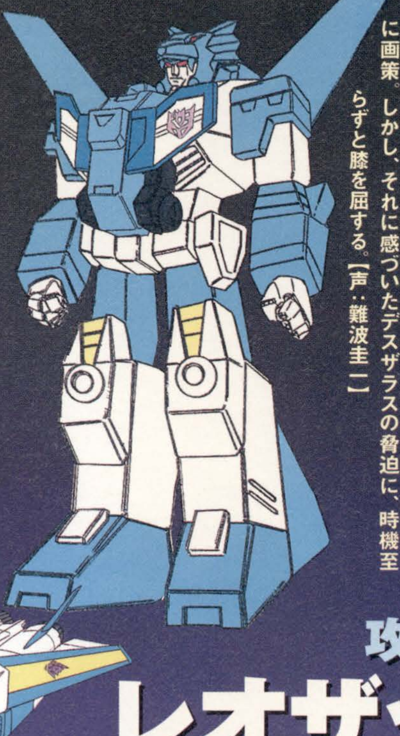


ブレストと呼ばれる分身メカを胸に宿すデストロンの幹部たち。ブレストは武器や動物に変形し、様々な戦況に対応できる。

ブレストフォース

▼ブレストフォースの共通武器である電磁ヌンチャク。槍にも変化し、ジャベリンとしても使用される。

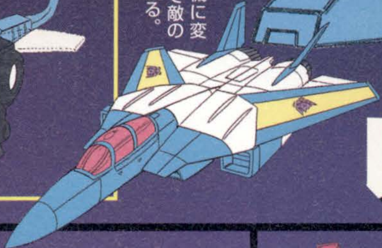




攻撃副官
レオザック

デスザラス配下のナンバー2。ライオン型のブレストを持つ。前線における作戦の指揮を執る一方で、優秀かつ信頼の置ける部下を集めていた。自己顕示欲が強く、エネルギー略奪よりもサイバトロンとの対決に気を回すことが多い。ライオカイザーが完成後は、いよいよその野心を実行に移そうと部下の忠誠固めに画策。しかし、それに感づいたデスザラスの脅迫に、時機至らずと膝を屈する。【声：難波圭一】

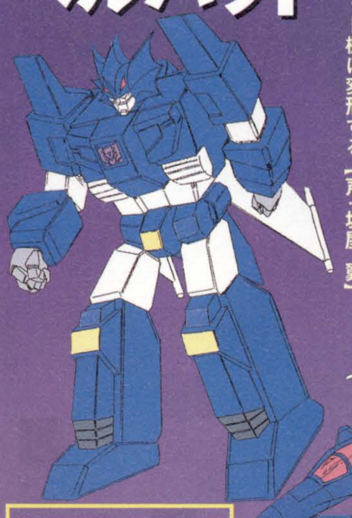
アニマルブレスト



▼可変翼を備えたF14ジェット機に変形。ロボットモードの脚部を出して敵の背後に回り込むなど、機動性に優れる。

スパイ兵士
ヘルバット

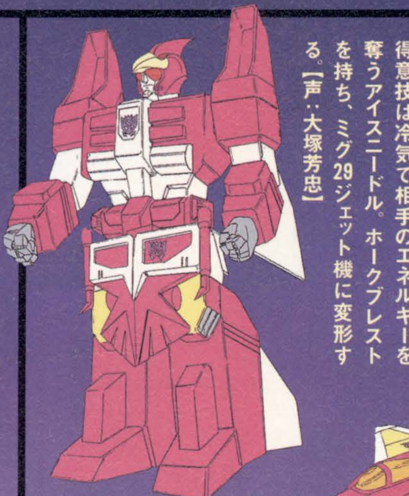
コウモリブレストを持った、計算高いお調子者。催眠音波を使って様々な場所から情報を集め、それを自分の売り込みのために使う。彼を好いている者はチームの中でも皆無で、その技能と口の巧みさによって辛うじて存在価値を認められている。三角翼ジェット機に変形する。【声：塩屋　翼】

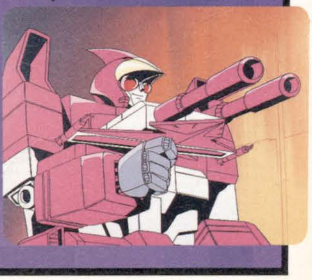


アニマルブレスト

航空兵士
ガイホーク

最後にチームに加わったメンバーで、マイクロ星の衛星刑務所に囚われていた。冷徹でプライドが高く、強敵と戦うことを好み、特に旧友のグレートショットをライバル視している。得意技は冷気で相手のエネルギーを奪うアイスニードル。ホークブレストを持ち、ミグ29ジェット機に変形する。【声：大塚芳忠】





アニマルブレスト

電脳兵士
ジャルガー

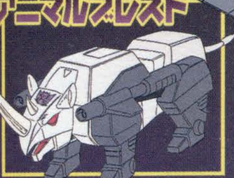
アニマルブレスト

▼バギーに変形。電脳ミサイルを発射して地上のサイバトロンを牽制する。

命令に忠実な模範的兵士。あらゆる分野で平均を上回る能力を有し、高い観察眼さえも持っているが、想像力に欠けるため単純なトリックに引っかかる。ジャガーのブレストを持つ。【声：掛川裕彦】

作戦兵士
ドリルホーン

アニマルブレスト



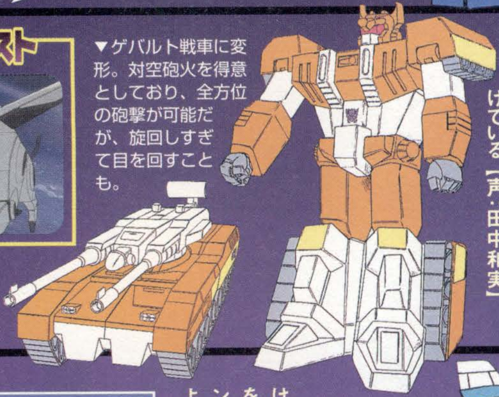
▶ドリルタンクに変形。頑丈なボディを持ち、地底からの侵入や待ち伏せ攻撃に能力を発揮する。

ホーンブレストを持つ、経験豊富な古参の兵士。作戦立案を得意とする。実直な性格で、デスザラスに直接意見を求められたときにも、直属上官であるレオザックを差し置く真似は出来ぬとはばかった。一方で感情的なレオザックを抑える役に回ることも多い。【声：平野正人】

工作兵士
キルバイソン

アニマルブレスト

▼ゲバルト戦車に変形。対空砲火を得意としており、全方位の砲撃が可能だが、旋回しすぎて目を回すことも。

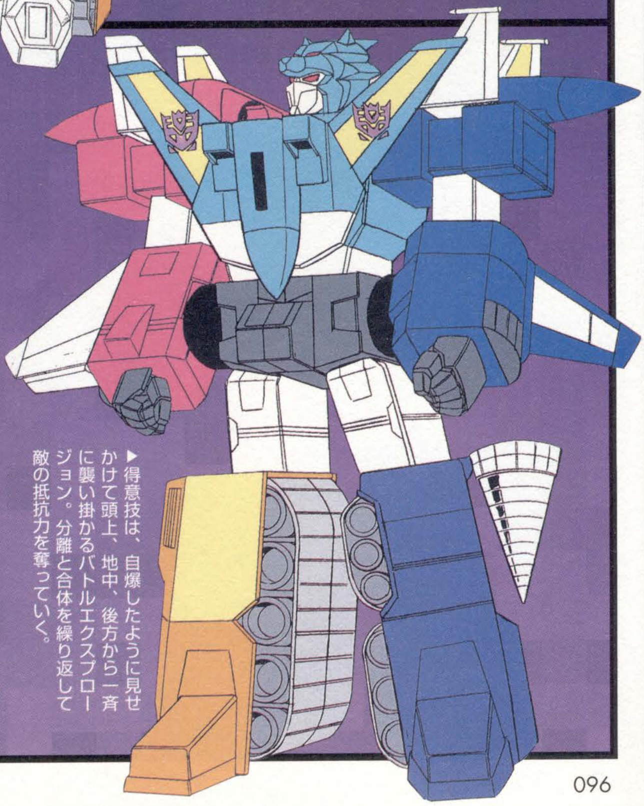


明るく破壊活動を好む暴れ者。バイソンブレストを持つ。あっけらかんとした口調で話しながら、突如として容赦の無い攻撃を繰り出す。何を考えているのか分からないヘルバットを嫌っており、機会があるたびに彼を締め上げている。【声：田中和実】

トランスフォーム！

レオザックを中心に、ガイホークが右腕、ヘルバットが左腕、ジャルガーが腰、キルバイソンが右脚、ドリルホーンが左脚にそれぞれ変形。頭部の出現は獅子の咆哮を思わせる。

レオザックの選りすぐった精鋭メンバーによる合体だけあって、スターセイバー、ゴッドジンライの2大司令官を一度に相手に出来るほどの実力を持つ。巨大電磁ヌンチャクからは刺のついたホイールを発射し、透明化によって敵の不意を突くことも可能。【声：難波圭一】



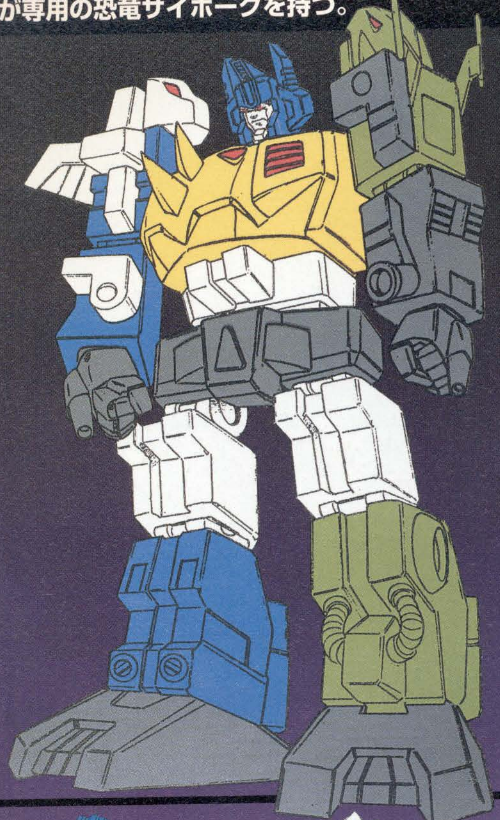
▶得意技は、自爆したように見せかけて頭上、地中、後方から一斉に襲い掛かるバトルエクスプロージョン。分離と合体を繰り返して敵の抵抗力を奪っていく。

重機動合体兵士
ライオカイザー

エネルギー略奪を任務とするデストロンの実動部隊。それぞれが専用の恐竜サイボーグを持つ。

恐竜戦隊

恐竜合体兵 ダイノキング



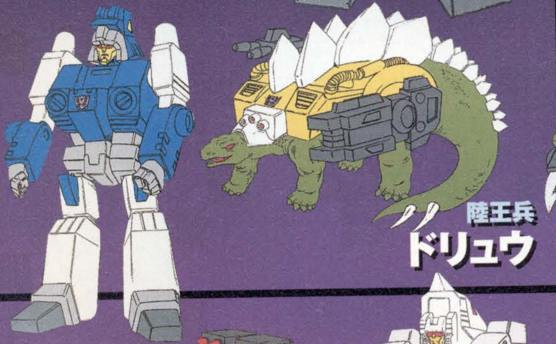
恐竜の本能に忠実な重量級のパワーファイター。巨大な斧を振り回して豪快な戦いぶりを見せるが、動きが鈍いのが弱点。各自が分離した後の恐竜サイボーグは独自に行動し、本体とは別の地点に同時攻撃することが可能。【声：郷里大輔】

トランスフォーム！

リーダーのゴウリュウが左脚という一風変わった合体パターン。他のメンバーはドリュウが右脚、ライリュウが腰、カクリュウが胸、ヨクリュウが右腕、ガイリュウが左腕となる。

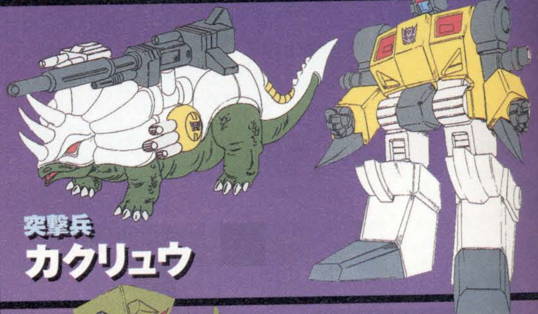
恐竜戦隊隊長 ゴウリュウ

ティラノザウルス型のサイボーグを持つ恐竜戦隊のリーダー。常に動いていないと気のすまない精力家で、のろまなメンバーを叱り飛ばす。乱暴者だが、部下想いの良き親分でもある。【声：郷里大輔】

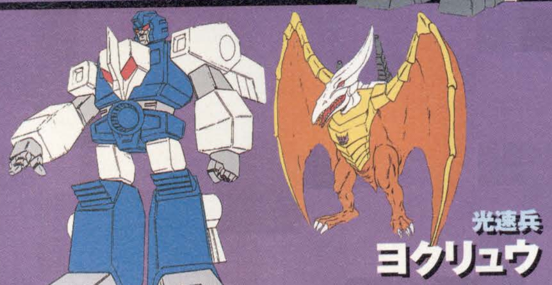


陸王兵 ドリュウ

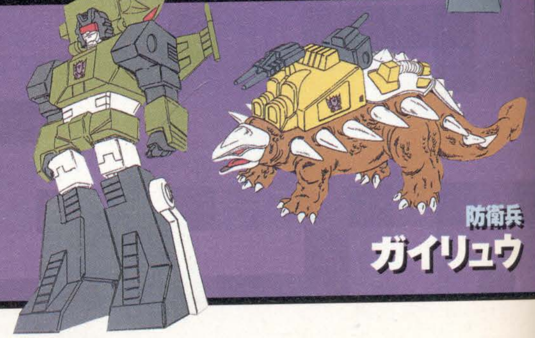
海魔兵 ライリュウ



突撃兵 カクリュウ



光速兵 ヨクリュウ

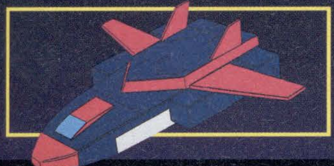


防衛兵 ガイリュウ

クロスフォーマー

マイティクロスと呼ばれる強化ボディを操るプロの傭兵コンビ。徹底した破壊を行い、彼等の襲った後は残骸すら残らない。

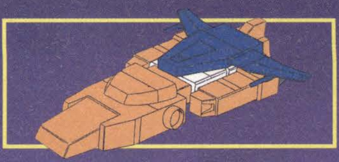
ヘルバットの依頼でマイクロ星のエネルギー施設を襲った宇宙の無法者。非情かつ強欲で、エネルギーのためには仲間でも平気で裏切る。報酬が得られなかったときには雇い主にさえ牙を剥く。【声：幹本雄之】



◀本体の小型ジェット。ジェットクロスと合体してバトルジェットに変形する。

宇宙ギャング ブラックシャドー

ブラックシャドーの弟分。充分な報酬が約束されなければ全く動こうとはしない。早撃ちの名手で、愛用のバッカスライフルの他にも、手榴弾や戦闘用ナイフなど数多くの武器を隠し持つ。【声：田中亮一】



▲本体の小型ジェット。ヘリクロスと合体してジェットヘリコプターに変形する。

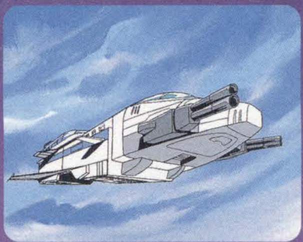
宇宙ガンマン ブルーバッカス

EXTRA CHARACTERS

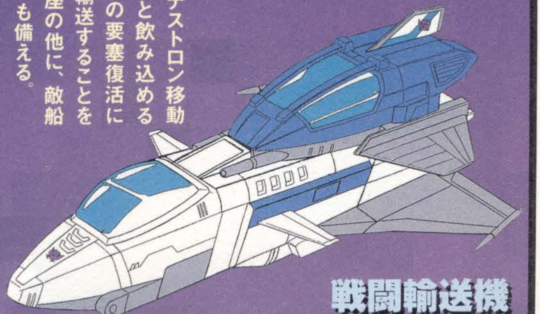
▼ヘリコプターに変形。事の発覚を恐れたヘルバットはホーリーたちに罪をなすりつけ、仲間の復讐心を煽ることで罪を逃れた。

ブレストフォースの一員で、かつてレオザックの下で働いていたことがある。義理堅く、約束は必ず守る男。レオザックによって再び招集されるが、チームへの加入を巡って密かにヘルバットと言い争いになり、誤って射殺されてしまう。【声：西村知道】

デスコブラ



デスザラスの乗艦であるデストロン移動基地。巨大タンカーを丸ごと飲み込めるほどの大きさで、暗黒星雲の要塞復活に必要なエネルギーを集め、輸送することを目的としている。多くの砲座の他に、敵船上陸用のエネルギーチューブも備える。



戦闘輸送機 サンダーアロー

Column

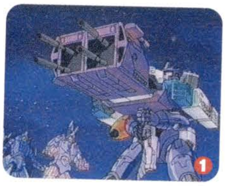
海外コマーシャルフィルムの魅力

トランスフォーマーシリーズの海外版TVCFはアニメーションパートを絡めた、非常に凝った物が製作されている。その代表作品をお目にかけよう。

ターゲットマスター編（1987年）

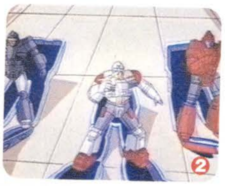
TVシリーズが終了した1987年は、CFの作画レベルが大幅にクオリティアップした。

シックスショット編（1987年）



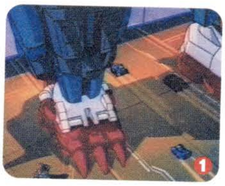
ガルバトロンやサイクロナス、スカージなど、『2010』のキャラクターも競演している。

プリテンダー編（1988年）



コンピューターグラフィックスで表現されたロボットが登場。玩具に忠実な変形描写に驚き！

マイクロマスター編（1989年）



キングポセイドンの足元をすり抜け、メガザラックを打ち倒すマイクロ戦士の活躍を描く。

スカイファイヤー編（1984年）

スカイファイヤーが玩具と同じデザインで登場。スタースクリームらと空中戦を行う。

オメガ・スプリーム編（1985年）

航空兵の接近を関知したオメガ・スプリームはロボットへ変形！ その巨大な体躯を現す。

シャークトロン編（1986年）

劇場版のシークエンスをCF用にリメイク。この手法はレック・ガーのCFにも使われた。

ヨーロッパ版（G2時期）

ヨーロッパで放映されたCFで、ターボマスターとプレデターの戦闘をCGも交えて描く。

公共広告

▲車上荒らしを説教するトラックス。

▲家出した少年たちを諭すバンブル。

▲夜道での自転車の危険を訴えるアラート。

▲救命胴着の着用を推奨するシースプレー。

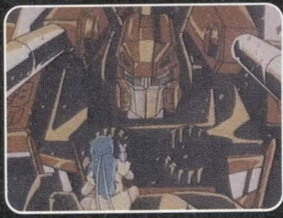
アメリカのキッズ向け番組には、教育的要素を入れ込んだスポットアニメーションがインサートされることがある。本作のスポットも制作されているが、未放映に終わっている。

実写版コンボイ司令官!?

アメリカにおける1989年度の再放送では、実写を用いたコンボイの映像がプロローグ等にインサートされた。

CF用設定

▲▶コンボイのデザインはスーパージンライのベースとなった、パワーマスター・オプティマスプライムという玩具が元になっている（右はCF用の設定）。



▲ビクトリーセイバーは少年カインを救い、崩壊するフェミニア星の炎の中に消えた。

1989

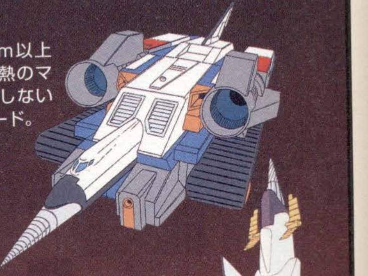
サイバトロンは超エネルギー、エネルゴンZを発見し、惑星Zに宇宙防衛システムを築く「Z計画」を発動した。パワードマスターの勇者ダイアトラスが新たな時代を切り拓く。

デストロンに新破壊大帝バイオレンジャイガーと九大魔将軍が出現。襲撃を受けたフェミニア星へ救援に向かったビクトリーセイバーは、惑星の爆発に巻き込まれ行方不明となってしまう。意気上がるデストロンは、惑星Zに侵入し、エネルゴンZを奪わんと攻撃をかけてきた。ムーンレーダーらが応戦するも全く歯が立たず、エネルゴンZはデストロンの手に落ちてしまう。宇宙に引き上げたデストロンは、さらに別働隊が地球へ向かおうとしていた。ギャラクシーロケットで後を追うマイクロトランスフォーマーたち。一方、惑星Zでは残されたチームがベースの修理に励む中、ビクトリーセイバーを救出したダイアトラスとソニックボンバーが帰還する。デストロンの目的が地球に眠る超鉱物・ゾディアックにあることを察したダイアトラスは、直ちに地球へと急行。その地球では、マイクロトランスフォーマーがプレダキングら魔将軍を相手に苦戦を強いられていた。間一髪、ギャラクシーロケットを救ったダイアトラスは、ソニックボンバーに後を任せ、地中にデバスターを追う。デバスター、キングポセイドンとの争奪戦の末に、辛くも地底空洞にあったゾディアックを取り戻したダイアトラスだったが、今度はエネルゴンZのパワーを身に付けたダイナザウラーの砲撃を浴び、ソニックボンバーが倒されてしまう。ダイアトラスはエネルゴンZの第二波が放たれる直前、とっさの判断でゾディアックを掲げ、それを受け止める。その時、奇跡が起きた。エネルゴンZと結びついたゾディアックは宇宙創造のエネルギーへと変化し、パワードマスターに新たな力を与えたのである。ゾーンモードに変形し、魔将軍達を撃滅していくダイアトラスとソニックボンバー。戦いが終わり、ビクトリーセイバーはダイアトラスを新総司令官に任命する。新たな時代の、新たな戦いの幕開けとして。

パワードマスター

生命の進化と文明を支える宇宙の開拓者。ゾーンモードでは絶大なパワーを発揮する。

▲様々な星を巡り、開拓してきたスペースシャトルモード。



▶地下１万5千m以上にまで潜り、高熱のマグマをものともしないバトルタンクモード。

▶ゾディアックのパワーによって最大級の火力を誇るゾーンモード。

パワードマスターのリーダーで、「Z計画」を成功に導いたサイバトロンの勇者。勇猛な戦いぶりと冷静な判断力で、新総司令官に相応しいトップクラスの実力を発揮する。マグナショットとリフレックシールドの他、両翼を「Z」字型に組み合わせた必殺武器ゾーンパワードカッターを持つ。【声：屋良有作】

総司令官
ダイアトラス

ダイアトラスの親友で、「風の戦士」と呼ばれるスピードファイター。気取った洒落者で、戦闘時においても余裕を見せる。素早くジェットに変形し、バルカンショットやボディアタックによる攻撃が得意。【声：塩沢兼人】

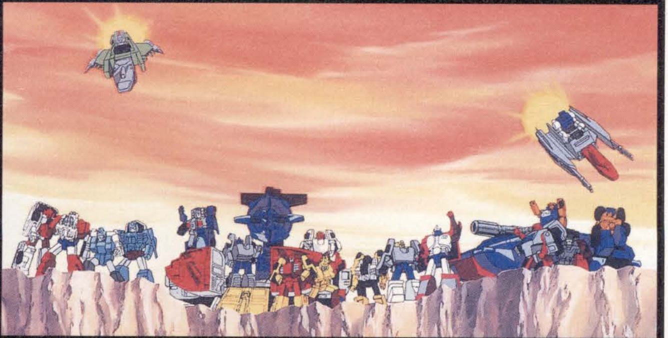
攻撃参謀
ソニックボンバー

Z計画の実行を担う小型の戦士達。惑星Zに駐留し、パワードマスターと共に戦う。

マイクロトランスフォーマー

救助戦士
ムーンレーダー

Zベースの指揮を務める若き戦士。劣勢にあっても挫けず、率先して前線に向かうが、後方への配慮も忘れない。月面車に変形する。【声：堀川 亮】



ギャラクシーシャトルのパイロット
ラビクレーター

ムーンレーダーの親友。若さゆえに自分の力を過信することも多い。スーパーカーに変形する。【声：柏倉つとむ】

マイクロTFチーム

バトルパトロールチーム
ジェットパトロールチーム
レースカーパトロールチーム
スーパーカーパトロールチーム

▲Zベースにはレスキューチームも参加。ホーリーはカラーリングを変更した。

Zベースの防衛に当たるマイクロトランスフォーマー。4人1組で行動し、スピードとチームワークで巨大な敵に立ち向かう。

カイン

フェミニア星の生き残りの少年。故郷を滅ぼされながらも、惑星Zで気丈に暮らしている。【声：山田栄子】

アキラ

ウィスパーに助けられた、花を愛する明るい少年。地球物理学者の芹川博士を父に持つ。【声：渡辺菜生子】

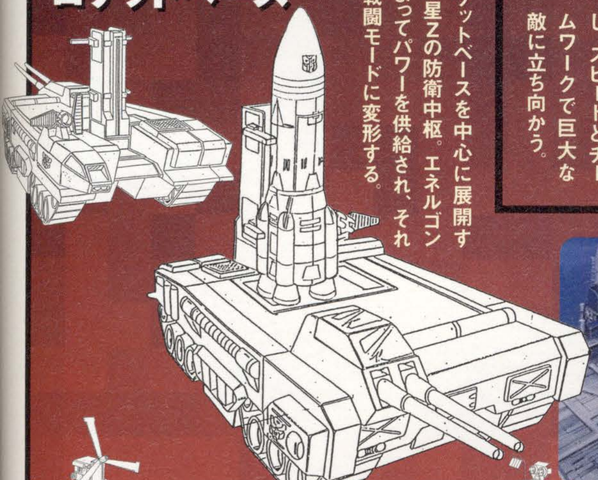
エムサ

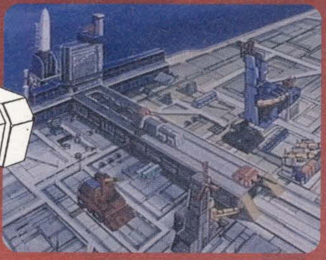
カインと共に暮らすフェミニア星の生き物。【声：冬馬由美】

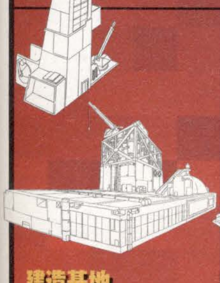
Zベース

大型宇宙基地
ロケットベース

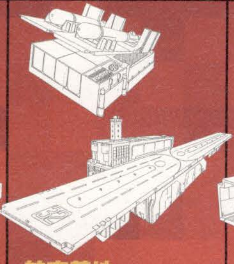
ロケットベースを中心に展開する、惑星Zの防衛中枢。エネルゴンZによってパワーを供給され、それぞれ戦闘モードに変形する。



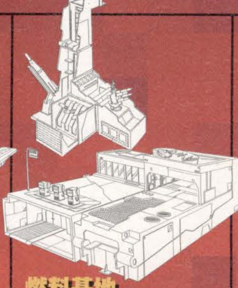




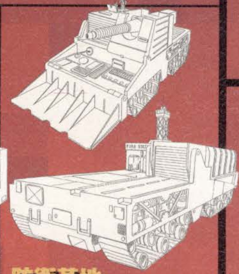
建造基地
ビルドベース



航空基地
エアポートベース



燃料基地
ガソリンベース

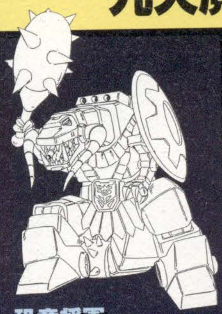


防衛基地
ファイヤーベース

バイオレンジャイガーの召喚したデストロンの巨大兵士達。
惑星一つを容易に滅ぼす力を持つ。

九大魔将軍

超神将軍
オーバーロード

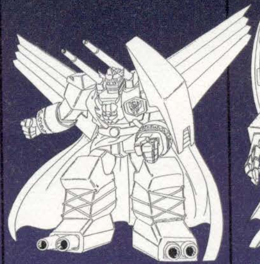


恐竜将軍
ダイナザウラー

技術将軍
デバスター

▲巨大なドリルを持つデバスター。地中に潜行し、背後から奇襲をかける。

海魚将軍
キングポセイドン

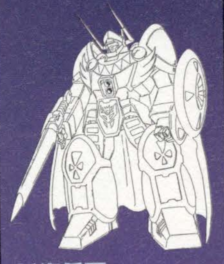


野獣将軍
プレダキング

情報将軍
メナゾール

▲エネルゴンZを口内に装備し、強力なビームを放つダイナザウラー。

暗黒将軍
ブラックザラック



妖術将軍
オボミナス

火炎将軍
ブルーティカス

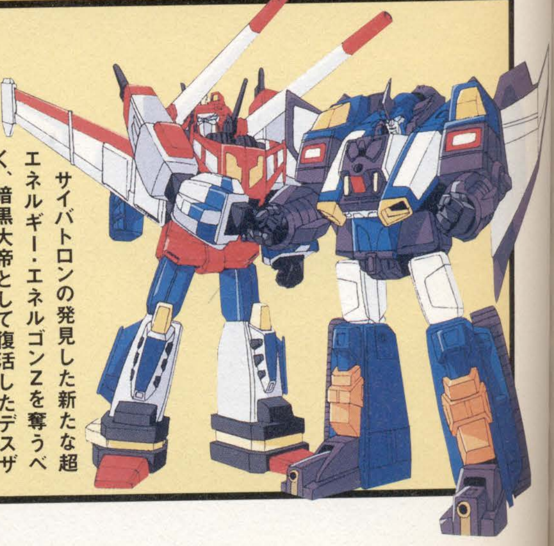
バイオレンジャイガーに忠誠を誓う、デストロンの合体兵士や巨大兵士が強化された姿。装甲ギアと呼ばれる鎧を身にまとい、既製の武器は全く通用しない。更に残忍さを増したオーバーロードを筆頭に、エネルゴンZとゾディアックを奪い、宇宙にデストロンゾーンを造り上げることを目論んでいる。

プレストーリー Z計画とは―

九大魔将軍の出現以前にも、デストロンはエネルゴンZを狙ってたびたび暗躍していた。アニメ編では語られなかった、もう一つの『トランスフォーマーZ』の世界を紹介しよう。

▲マイクロトランスフォーマーに迎撃を指示するスターセイバー。

サイバトロンの発見した新たな超エネルギー・エネルゴンZを奪うべく、暗黒大帝として復活したデスザラスがデストロン全軍を率いて攻撃を開始する。サイバトロンは全科学力を結集し、パワードマスターの協力を得て、これに対抗する宇宙防衛計画を立案した。これが「Z計画」である。



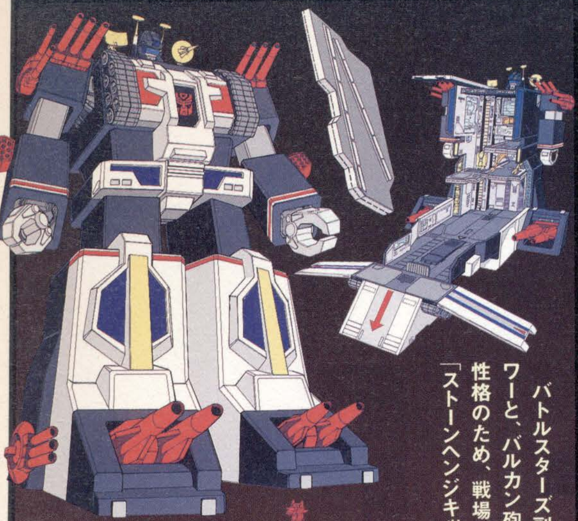
パワーアップして蘇ったメガトロンが地球を強襲。だが、超エネルギーのパワーを受け、コンボイも奇跡の復活を遂げる。今、再び巻き起こる、初代リーダー同士の激しいバトル!!

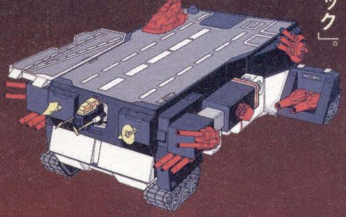
前作『Z』の後を受け、「テレビマガジン」誌上グラビアとコミックで展開した、日本オリジナルのTFストーリー。

ゾーン戦争終結後、謎の大帝王・ダークノヴァがデストロン軍団を掌握。破壊大帝メガトロンを蘇生し、エネルギー強奪のために地球へと送り込む。一方サイバトロンは、初代司令官コンボイ復活のため、精鋭部隊バトルスターズに捜索を要請。彼らはデストロンの衛星基地ルシファーから、コンボイの遺体の奪還に成功する。そして、その胸にゾディアックを埋め込まれたコンボイは、新司令官スターコンボイとして新生!! スーパーメガトロンに戦いを挑み、ついには宿敵を打ち倒すのだった。しかし、メガトロンはウルトラメガトロンにパワーアップし、さらにはダークノヴァと合体して「星の巨人」へと変形を遂げた。はたしてスターコンボイは、宿敵との戦いに終止符を打てるのか!?

初代司令官・コンボイの遺体を捜索するために結成されたサイバトロンの精鋭部隊。

バトルスターズ



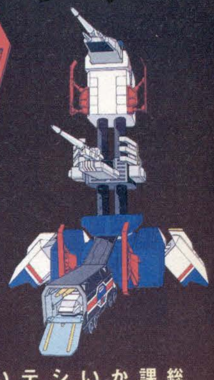


▶地上空母と基地に変形し、前線基地として活躍。ダイアトラスとの連結機能も備える。

バトルスターズ副隊長。その巨体には百万馬力ものパワーと、バルカン砲などの火器を装備。しかし、控えめな性格のため、戦場では後方支援を好んでいる。必殺技は「ストーンヘンジキック」。

ロボットベース
グランダス

バトルスターズ隊長
スカイギャリー



コンボイの復活まで、総司令官代理を務めた。課せられた任務の厳しさから、常に自分を抑えている。二丁拳銃のスターショットを携行し、「ミステリーサークルパンチ」という必殺技を持つ。

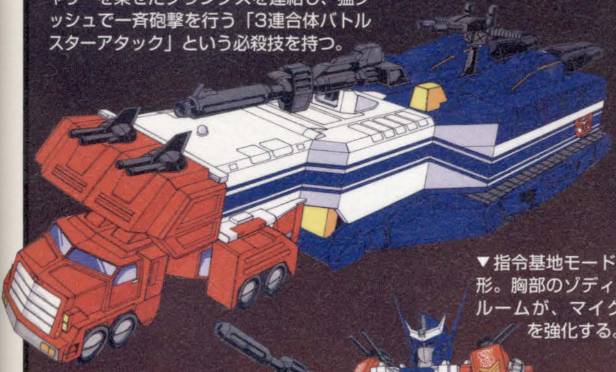
▶ジェット機に変形し、部下の乗るマイクロトレーラーを輸送。他にも基地モードが存在する。

6体合体戦士
シックスライナー

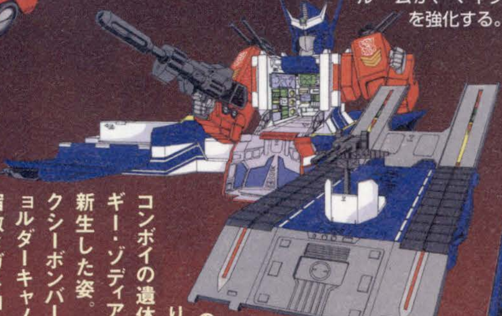
太陽系地区の防衛担当。地球の電車に変形するライナーチームの6人(リーフ、ディーゴ、ナイト、アラン、スパーク、ジョー)が合体して完成する。両腕を撃ち出す「ライナーロケッター」で戦う。

総司令官
スターコンボイ

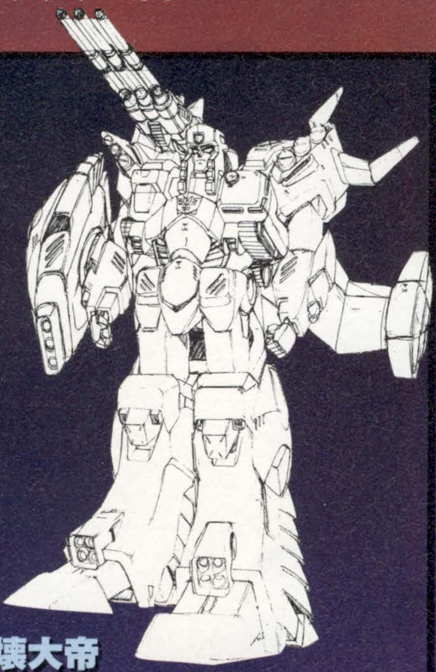
▼巨大トレーラーに変形。後部にスカイギャリーを乗せたグランダスを連結し、猛ダッシュで一斉砲撃を行う「3連合体バトルスターアタック」という必殺技を持つ。



▼指令基地モードにも変形。胸部のゾディアックルームが、マイクロTFを強化する。

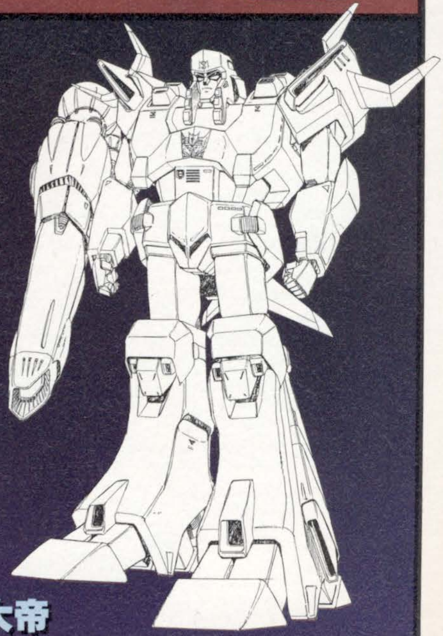


デストロンの衛星基地より救出されたコンボイの遺体が、超エネルギー・ゾディアックによって新生した姿。愛銃・ギャラクシーボンバーと、両肩のショルダーキャノンを武器に、宿敵メガトロンとの最終決戦に臨む。身長：45メートル。体重：2千トン。



スーパーメガトロンがパワーアップした姿。スターコンボイの10倍のパワーを備え、飛行重戦車への変形機構と、無敵のスターバスター砲を新たに得る。最後はダークノヴァと合体して「星の巨人」となった。

最強破壊大帝
ウルトラメガトロン



大帝王ダークノヴァの力により、新たな姿となって蘇ったガルバトロン。スターコンボイと互角のパワーと、ガンジェットへの変形機構を備える。エネルギー補給のため、人間を捕食するようになった。

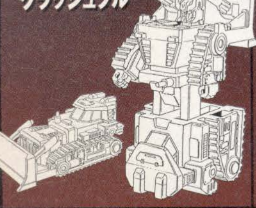
新破壊大帝
スーパーメガトロン

6体合体戦士隊長
シックスビルダー

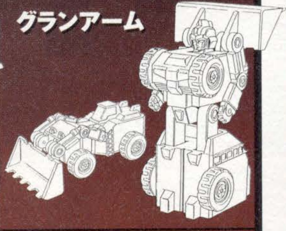
地球に派遣されたサイバトロンの新戦士。スターコンボイの片腕的存在でもある。建設車に変形する6体のマイクロTFの合体で完成し、秘密基地を一週間で建造する能力を持つ。

▼シックスビルダーとなる6体のマイクロTF。ビークルモードのメンバー構成が、かつてのビルドロンを思わせる。

クラッシュブル



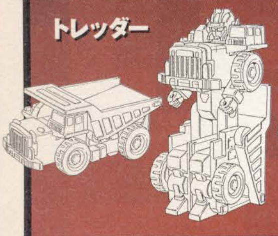
グランアーム



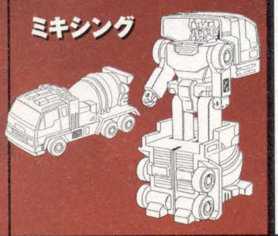
ディッガー

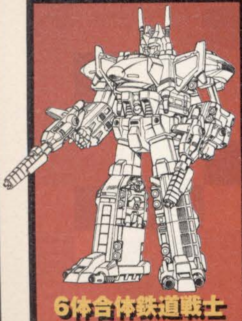
アイアンリフト

トレッダー



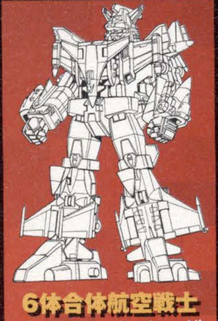
ミキシング





6体合体鉄道戦士
シックストレイン

6体合体陸上戦士
シックスターボ



6体合体航空戦士
シックスウイング

1992
合体大作戦

新総統スクラッシュの命により、デストロン軍団が地球を強襲。ジェット軍団とバトルガイアーを迎え撃つため、シックスビルダーのもとにサイバトロン合体戦士たちが集結した。

前作同様、玩具と「テレビマガジン」のみで発表されたシリーズで、本作をもって日本のオリジナル展開はひとまず終了する。

新総統スクラッシュに率いられたデストロン軍団が、エネルギー強奪のために地球に飛来。その尖兵・ジェット軍団とサイバトロンのロード軍団が激突し、やがて戦いは合体兵士バトルガイアーVSサイバトロン合体戦士軍団へと拡大する。最終決戦では合体戦士5体が合体する「サイバトロン スクラム合体」を発動。サイバトロンマークと化した彼らは超エネルギーを放って強敵バトルガイアーを粉砕した。

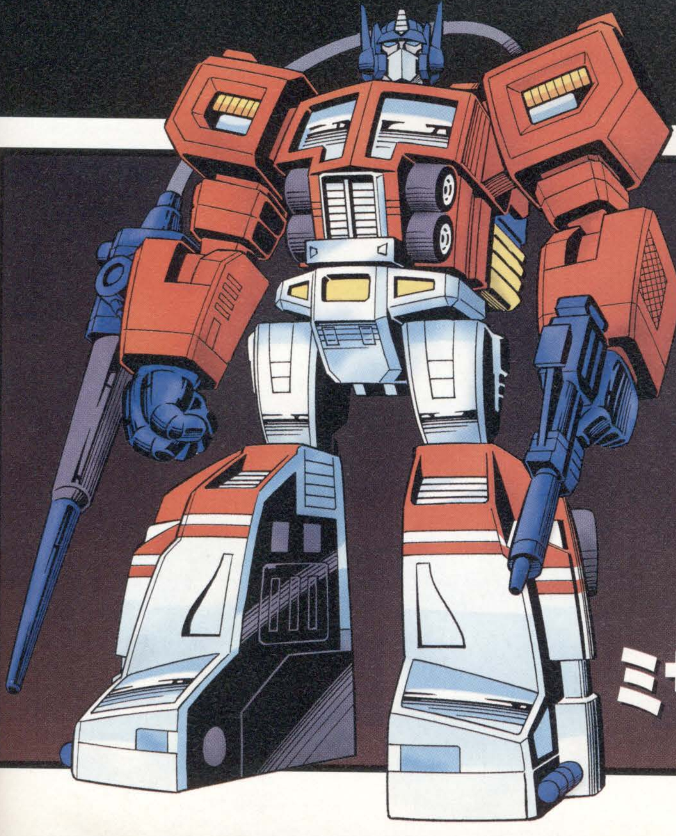
トランスフォーマーG2

1995

終結するトランスフォーマーたちの戦争。しかし、「戦いを終わらせる戦い」のため、メガトロンは軍団による武力行使を再開。ジェネレーション2（第2世代）戦争が勃発する。

コンボイとメガトロンは同盟を結び、トランスフォーマーたちの戦いは終結する。しかし、宇宙各地では未だに戦争が続いていた。力による支配こそが平和に繋がると考え、メガトロンはデストロン軍団を再び結成。トランスフォーマーたちは、かつてのように分裂して争うこととなる。そんな中、両軍の壊滅を目論む第3勢力も出現し、戦いはさらに激しさを増していった……。

サイバトロン
トランスフォーマーG2



総司令官

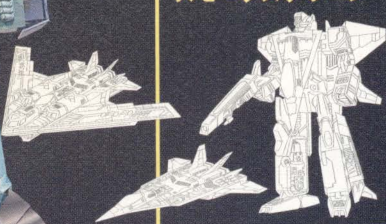
コンボイ
ミサイルトレーラー

ロケットブースターを搭載したミサイルトレーラーに変形。その胸にはマザーコンピューターより授けられたマトリクスを収める。後にメガトロンとの戦いによってダメージを被るが、タンカートラックに変形するバトルコンボイへとパワーアップする。

空爆参謀
ドレッドウイング

戦争を終結させるべく両軍を襲った。ステルス機と装甲戦車に変形。コンボイのパワーアップ後は、メガトロンと結託する。

スモークスクリーン



ドレッドウイングの相棒。ジェット機に変形し、ドレッドウイングと合体する。

破壊大帝
メガトロン

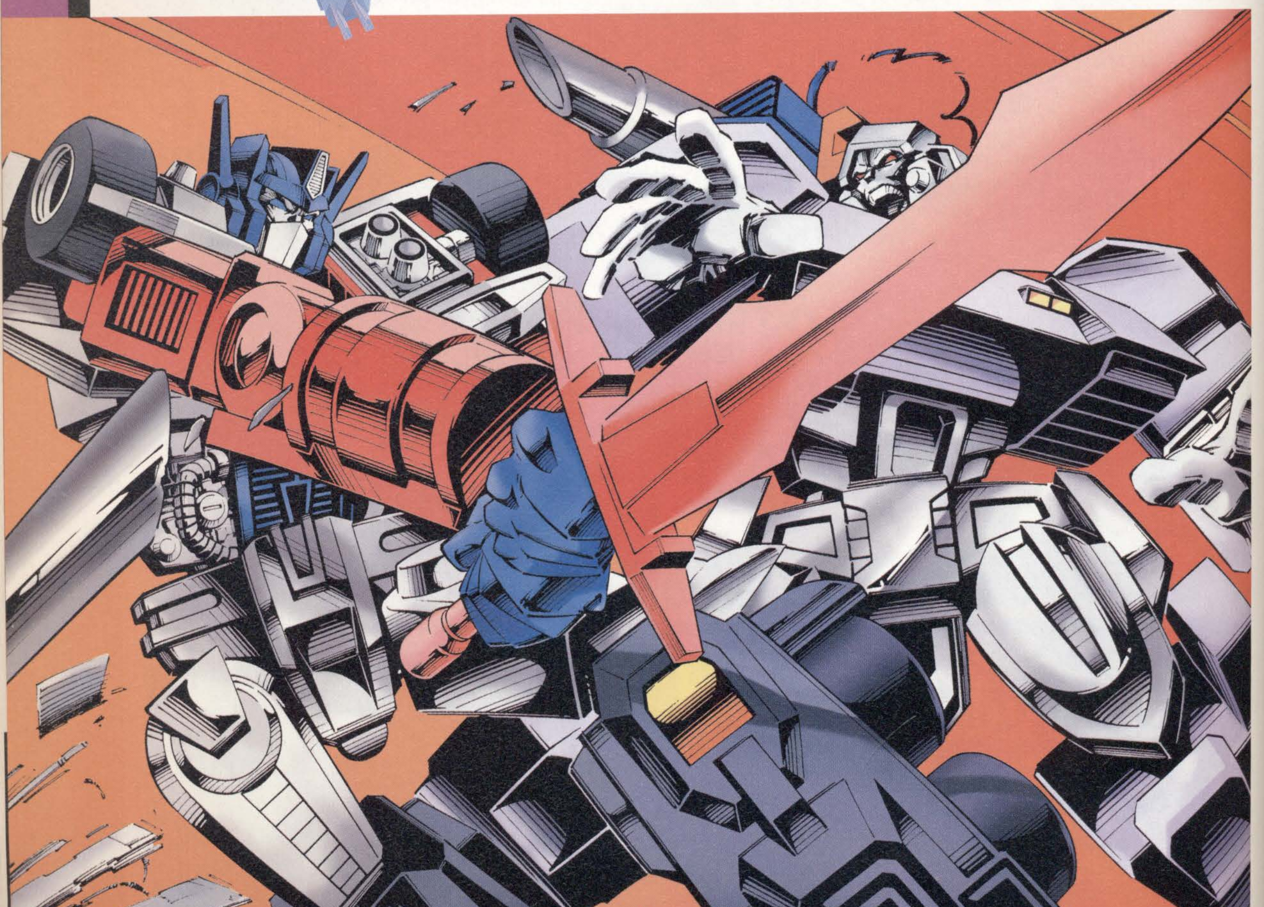
デストロン軍団を創設した破壊主義者。かまいたち現象を起こす「トルネードアタック」が得意技。ミサイルタンクに変形する。

レーザーバイク

オートバイに変形。サイバトロンのロードロケットと、デストロンのロードビッグの2名が存在。(図は後者)

サイバージェット

ジェット機に変形するTF。両軍に3名ずつが所属。(図はデストロンのフーリガン)



Column

ホットロディマスとオライオン・パックス

『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー２０１０』におけるサイバトロンの若き総司令官、ロディマスコンボイは悩める総司令官でもあった……。

その姿は前作『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー』におけるサイバトロン総司令官、コンボイの揺るぎない正義の信念とは一線を画すものであったと云える。

86年当時、前作『トランスフォーマー』のファンであった視聴者は皆、『コンボイが死んだ！』キャンペーンのCFを視聴する機会が多く、日本未公開の『トランスフォーマー・ザ・ムービー』でコンボイ司令官が死ぬ……と云う情報をそれとなく察していた。

CFでは数機の大型ヘリに吊された、スクラップ状態のコンボイ司令官の姿と、コンボイの名を叫ぶシュプレヒコールが印象的。更に、政宗一成による『トランスフォーマー２０１０』と云うタイトルコールが、否が上にも気分を高潮させていた。また、前後してウルトラマグナスを主人公としたTVゲームソフト『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー・コンボイの謎』もリリースされている。

——その上での『２０１０』のTV放送開始である。

誰しもが期待していた。リニューアルされた、更なる『トランスフォーマー』を。否、心の底で願っていたのは、雄々しいコンボイ総司令官の復活譚だったに違いない。これはキャンペーンCFでの涙ながらにコンボイの名を叫ぶ少年と、同じ思いを共有していた所為だろうか……。

だが、何の前情報も無しに飛び込んできた新キャラクター達に戸惑い、『２０１０』第一話放送終了後、TVの前で違和感を拭い去れなかったのも事実である。それでも、視聴し続けていた。何故か……それは、第一作『トランスフォーマー』の第一話の視聴終了時にも同様の戸惑いの感覚に苛まされた経験の為さしめるものであった。

この作品も必ず面白くなる。そう確信していた。

オープニング、エンディングフィルムには明らかに『ザ・ムービー』からの流用と思われる魅力的なシーンが散りばめられており、期待を膨らませつつの視聴が続いた。

『ザ・ムービー』を観覧した上で『２０１０』を視聴しているアメリカの視聴者をうらやみながらも、新キャラクター達にも愛着が湧き、次第にスケールアップするストーリーに驚嘆し、視聴が楽しくなって来るのにさほどの話数を必要としなかった。

そして、第4話『マトリクスの秘密』にて、悩める若き総司令官、ロディマスコンボイは、先代総司令のコンボイから託されたマトリクスによって、総司令官に代々連綿と伝わる「魂」の記憶とビジョンを呼び起こされる。

過去のセイバートロン星に君臨するクインテッサ星人と、彼等によって創り出されるサイバトロン、デストロン両トランスフォーマー達の姿を垣間見るロディマスコンボイ。そしてコンボイもまた、かつては若きサイバトロンの一青年、オライオン・パックスであった事実を知る。

『トランスフォーマー』第60話『引き起こされた戦争』で描かれたオライオン・パックスは、頭脳は明晰だが、その優しさ故かどこか優柔不断にも見える青年であった。しかし、メガトロンの卑劣な策略により窮地に立たされた折には仲間を救うべく敢然と危地へ飛び込む勇気を見せる。そして瀕死の重傷を負った彼を長老アルファートリンがリペアし、新たな姿を与えた。その時にリーダーの証し、マトリクスと共に与えられた名こそが「コンボイ」（原語ではオプティマスプライム。オライオン・パックスと同一の頭文字）であった。

誰しもが最初は若く、未熟な一青年（兵士）である。だが、いずれ正しい資質と判断力を備え、無私無欲に仲間達の生命を預かれるだけの人物となった時、マトリクスはその青年を総司令官に選ぶのだ……。

だが、これはマトリクスの名を借りずとも実際の人生訓として通用するものに相違ないだろう。

それ故に……青年ホットロディマスの弱い心を持ち合わせた若き司令官は、総司令官という職責を誇り高いものとし、再び仲間達へ高らかに号令を発する。

悩みと云う物は簡単に解消される物ではない。容易に解消できる悩みなど、苦悩の範疇になど入らない。

……だからこそ、自分の弱さと常に向き合い、それと戦い続ける総司令官の姿は雄々しいのだと悟るホットロディマスの姿は視聴者である我々と重なり、感動を産んだ。

これこそが、待ち望んでいた「雄々しい総司令官」の復活である。

——誰しもがホットロディマスであり、オライオン・パックスである筈なのだ。

そして、コンボイや、ロディマスコンボイ（原語名・ロディマスプライム）……総司令官たらんと努力し続ける事が重要な命題であると気づかせられる。

一人は総ての為に。総ては一人の為に——。

ボーイスカウト等で最も初めに教えられるこの言葉が、根本的な真理を告げているのだと、異国からやってきた変形する巨大ロボットに教えられたその日、『トランスフォーマー』は「面白い作品」から「素晴らしい作品」へと「変形（トランスフォーム）」したのだった……。

きむらひでふみ

PROFILE

脚本家。代表作に『キディ・グレイド』（シリーズ構成、脚本、絵コンテ等）。他に『ジェネレイターガウル』（シリーズ構成）、『ＡＩＫａ』（メカニックデザイン）、『宇宙海賊ミトの大冒険』（ビジュアルアンドストーリーコンセプト）、『シスター・プリンセス』（舞台監督）、『アベノ橋魔法商店街』（設定デザイン）等。

▲▶「2005年、コンボイ、死す……」摩天楼の上空をコンボイの遺骸が運ばれる、日本独自のＣＦ『コンボイ死す』編。新番組のプロモーションも兼ねていた。

イラスト©スタジオOX

SECTION 02

TF MISSIONS

トランスフォーマー情報局

BESSATSU TAKARAJIMA

トランスフォーマーの歩み

玩具編

1984

■5月より「トランスフォーマー」玩具がアメリカにて発売開始。ラインナップは「ダイアクロン」の「カーロボット」シリーズおよび「ミクロマン」の「ミクロチェンジ」シリーズを中心とした、実車・実機をモデルとした内容であった。

1985

■トランスフォーマーがアメリカで玩具売上1位を記録、空前の大ヒットとなる。■アメリカではタカラ以外のメーカーがトランスフォーマーに参入。レーザーウェーブ、オメガ・スプリームなどの大型商品が投入される。■「変身戦隊トランスフォーマー」のタイトルで、海外版パッケージ商品を国内の一部店舗で試験販売。■6月より日本において『戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー』のタイトルで正式販売開始。翌7月よりアニメ放映開始。■日本オリジナル商品として、コンボイVSメガトロン、グリムロックVSサウンドウェーブのような「VSセット」が発売。

1986

■劇場版『トランスフォーマー・ザ・ムービー』海外公開に伴い、ロディマスコンボイをはじめとするアメリカ側デザインのトイが続々と登場。■共通ジョイントを備えた「スクランブル合体」商品が登場。これにメトロフレックス、ダイナザウラーを併せた「スクランブルシティ」シリーズが、日本では早期に主力商品として導入された。■新シリーズへの移行を記念した「グッバイ・コンボイ」「グッバイ・メガトロン」などの限定セットが発売。

1987

■円高に対応して玩具生産が海外に移行し始める。その影響でこの時期の商品は、材質やカラーリングが変更になったものが多い。■TF史上最大のアイテム、フォートレスマキシマス登場。TVアニメ『ザ★ヘッドマスターズ』内での登場時期と発売を合わせるタイアップが行われた。■小型フィギュアが頭部に変形する「ヘッドマスター」、銃に変形する「ターゲットマスター」、瞬間変形の「ツーインワン」、6段変形のシックスショットなど多彩なギミックを持つアイテムが登場する。■本格的な日本独自の玩具展開が開始される。その1つであるライデンは、アニメでの活躍も多く主力商品の1つとなる。■日本オリジナルフィギュアシリーズ「ビーストフォーマー」がスタート。TVアニメなどの各媒体でクロスオーバーが図られる。日本未発売のリパックやシャークトロンの当たるキャンペーンが行われた。

1988

■海外ではコンボイが新たな形で復活する。この後、過去のキャラクターのリメイクが毎年行われるようになる。■人間や生物の外装を身につけた異色のTF「プリテンダー」シリーズが登場。日本では「謎の新トランスフォーマー」としてランダーのプレゼントキャンペーンが行われた。■海外と日本で玩具・ストーリーの方向性の違いが明確になっていく。日本未発売や日本オリジナルの商品が多数発生する。■日本では「プリテンダー」「ヘッドマスターJr.」「ゴッドマスター」中心のラインナップとなる。ゴッドジンライは主役ロボットのパワーアップ合体を初めて行った。■前年度の両軍リーダー、フォートレスマキシマスとメガザラックのリデコレーションアイテム、グランドマキシマスとブラックザラックが発売。

1989

■「合体大作戦」をテーマに、ほぼ全てのキャラクターに合体機能が備わる。「ブレインマスター」「ブレストフォース」「マルチ戦隊」など、国内販売商品のほとんどが日本オリジナルキャラクターであった。■海外ラインナップは前年から続投のプリテンダーと、5cm程度の小型TF「マイクロマスター」に二分。マイクロマスターでの共通ジョイントによる基地連結は、タカラのお家芸ともいえる高い拡張性を持っていた。

1990

■日本でもマイクロマスターを「マイクロトランスフォーマー」として発売。海外ではデストロンであったキャラクターも含め、全てのアイテムをサイバトロンとして展開した。■電動アクションや自動変形などのギミックを持った「パワードマスター」が登場。マイクロTFの基地にも変形し、高いプレイバリューを誇る。■海外では非変形のTF「アクションマスター」が登場。力を得た代償に変形機能を失ったという設定で、メンバーの約半数を旧キャラクターが占めることとなる。■マイクロマスターに2体で1台のビークルに変形する「コンバイナー」が加わる。基地やビークル、他のコンバイナーとの組み合わせが可能だった。■アメリカでのTF玩具展開は、この年を最後に'92年まで中断される。■'84～'86年の初期キャラクターが、ヨーロッパなどで「クラシック」シリーズとして再版された。

1991

■「リターン オブ コンボイ」のタイトルのもと、コンボイがスターコンボイとして復活。日本初のリメイク版コンボイとなる。■主軸商品のスターコンボイ、スカイギャリー、グランダスの3体は、連結による電動アクションなど前年のパワードマスターのコンセプトを受け継いだ商品となる。また、共通のマイクロトレーラーを接続するギミックも備えた。■マイクロTFの合体戦士・シックスライナーが人気アイテムとなり、翌年の展開に影響を与えた。■『ザ★バトルスターズ』において、コンボイのライバルとしてメガトロンが復活。しかし、この年にデストロン商品はいっさい発売されなかった。■ロボットポイントによる通販で、エアーボットを海外版パッケージで再販。コンボイの手によって誕生したという、アニメ上の設定も詳細に語られた。■海外展開はイギリスなどのヨーロッパ圏が中心となる。新型のアクションマスターや、日本オリジナルだったブレインマスターを仕様変更したものが発売された。

1992

■前年のシックスライナーの人気を受け、日本ではマイクロTFの合体戦士が主力となる。■ヨーロッパ版から導入された「ロード軍団」と「ジェット軍団」が、対決セットの形で発売される。1年ぶりとなるデストロンのラインナップ復帰である。■ロボットポイント通販で、ダイノボットが再販される。■日本でのTF玩具展開が一時休止となる。■ヨーロッパではミサイル発射ギミックを備えた「ターボマスター」と「プレデター」が登場。自動車VS戦闘機という、原点回帰的コンセプトである。

1993

■ヨーロッパでは新造形のTFアイテムが続々と登場。両軍のエンブレムが変更された。■アメリカでは「ジェネレーション2」としてTFが復活。初期キャラクターの仕様を変更し、音声パックや新造武器を追加したものや、同年のヨーロッパ版商品のリカラーアイテムが発売された。

1994

■全身の関節が可動する、フリーポーザブルのTFが登場。■コンボイとメガトロンもフリーポーザブルの新しい姿に変わり、本年以降、コンボイは毎年新型が発売されてゆく。

1995

■『トランスフォーマーG2』として日本国内にもTFが再上陸する。アメリカ版のラインナップから、フリーポーザブルのアイテムを抜き出したラインナップで、アクションポーズと関節の多さによる「トランスプレイ」をアピールした。■G2アイテムの発売に先立ち、一部で'93年のヨーロッパ商品が限定販売された。

1996

■アメリカで新シリーズ「ビーストウォーズ」がスタート。生身の生物からロボットに変形する斬新なアイデアと、関節可動とギミックの多彩さなどにより大ヒット商品となる。

1997

■日本でも「トランスフォーマー ビーストウォーズ」のタイトルで7月よりシリーズ再開。ほとんどのキャラクターにライバル関係が設定され、単体売りと対決セットの2種類で販売。「火山の対決」や「エッグビースト」などの日本オリジナル商品も多く発売された。■『ビーストウォーズ 超生命体トランスフォーマー』の放映開始後は一大ブームとなり、年末にはほとんどの商品が店頭から消える。未発売アイテムの一部が海外版パッケージのまま発売される措置もとられた。■アメリカでは三段変形や合体機能を備えたビーストウォーズ商品も登場した。■アメリカの玩具店ケイ・ビー限定の「マシンウォーズ」シリーズが登場。内容はアメリカ未発売のヨーロッパ版アイテムの仕様変更品と、G2末期にキャンセルとなった一発変形TFで構成されていた。

1998

■『ビーストウォーズII』の商品が3月より発売開始。「動物VS機械」がテーマとなり、'97年アメリカ版アイテム、デストロンはG2やマシンウォーズなどの、日本未発売アイテムの仕様変更版が中心の展開となる。■『ビーストウォーズII』終盤では、タコタンクやサイボーグビーストなどの日本オリジナルアイテムも登場。■アメリカではアニメシリーズの新展開をもとに「トランスメタル」と「フューザーズ」に二分される。日本では劇場版公開の際に、一部が映画館限定販売となった。

1999

■2月、「ビーストウォーズネオ」の商品を発売開始。「動物VS恐竜」をテーマに、日本オリジナル商品を中心に展開された。■9月、「ビーストウォーズメタルス」の展開開始。玩具のカラーリングをよりCGアニメに近づけるなど、海外版との差別化が図られている。■海外ではアニメのみのキャラクターであったジャガーが国内発売される。■海外では「トランスメタルス2」シリーズを中心に展開。日本でも映画館やトイザらスで限定販売された。

2000

■3月、日本でのTF15周年を記念した新シリーズ『トランスフォーマー カーロボット』の発売が開始される。リアルな造形とゴムタイヤを備えた自動車変形ロボ、電車および建設車モチーフの合体ロボ、さらにロボットベースを思わせるサイバトロンシティなど、TFの原型であるダイアクロンを強く意識したラインナップであった。■15周年記念の一環として、初代コンボイ、ウルトラマグナス、ホットロディマスなどが復刻され、以後翌年以降も復刻展開が続いていく。■12月、アニメ設定をもとにした彩色フィギュア「SCF（スーパーコレクションフィギュア）」が販売開始。■海外では『ビーストウォーズ』の続編である『ビーストマシーンズ』がスタート。並行して動物から別の動物に変形する「ミュータント」や、『ビーストウォーズネオ』のデストロン側の恐竜TFを仕様変更した「ダイノボット」などのシリーズが展開した。

2001

■初代メガトロン、初代スタースクリーム、ゴッドジンライ、ロディマスコンボイなどが復刻される。とくにメガトロンは完全版として、'85年当時の日本仕様ではオミットされたパーツが追加された。■夏期に行われた各所の玩具・雑誌イベントで、初期キャラクター13体が「コレクターズ・エディション」として限定復刻される。■チョロQロボのTFが発売される。小サイズながらダッシュ機能と変形を備える。■海外ではビーストマシーンズが「バトル フォー ザ・スパーク」の副題を冠し、スパーククリスタルと連動したギミックを持って発売された。■「トランスフォーマープロジェクト」タカラ内に発足。

2002

■1月、「ニューイヤースペシャル」として、初代コンボイが一部仕様を変えて再復刻される。続けてシックスショットが当時のパッケージで発売される。■「トランスフォーマー・コレクション」として、新たな復刻ブランドが立ち上がる。01マイスターから06メガトロンの6アイテムが、新たなパッケージフォーマットで発売。■アニメーション内でのキャラクターをモデルとした可動フィギュア、「MEGA SCF」シリーズがスタート。■「マイクロマスター・シリーズ」として、'91～'92年に展開したマイクロTFの合体戦士がコンビニエンスストア限定で復刻された。■「USA エディション」のシリーズ名で、「ロボット イン ディスガイズ」海外オリジナル商品がトイザらスで先行限定販売される。■海外ではSCFシリーズのフィギュアが「ヒーローズ オブ セイバートロン」の名で発売。■海外で新シリーズ「アルマダ」の玩具が発売される。■12月、ブロックフィギュア「MYCLONE」シリーズにTFアソートが登場。

2003

■1月、『トランスフォーマー マイクロン伝説』の玩具が発売開始。DVDやCDなどの玩具以外の商品にもマイクロンアイテムが付属して話題を呼んだ。並行して「キッズトランスフォーマー レスキューヒーロー ゴーボッツ」が展開開始。■キーチェーン仕様の復刻版ミニボットや、ディフォルメフィギュア「Qロボ トランスフォーマー」などがセブンイレブン限定で発売される。■「トランスフォーマー・コレクション」シリーズでは、スモークスクリーンや3回目の復刻となるコンボイなど8アイテムが発売。■前年に引き続き「マイクロマスター・シリーズ」もコンビニで販売される。年末にはデラックス版としてランドクロスが発売。■「USAエディション」も前年に続いてトイザらスおよびe-hobby限定として発売される。■7月、マイクロン伝説でショックウェーブが発売され、メガトロンが悪役ロボ初のパワーアップを果たす。■TFの人気商品をダウンサイジングした「極小変形」シリーズが発売。■実車メーカーとタイアップした「バイナルテックシリーズ」がスタート。その完成度の高さが一般消費者にも注目される。■初代コンボイを20年間の技術の粋を集めて再現した「マスターピース・コンボイ」が発売される。

2004

■1月、『トランスフォーマースーパーリンク』展開開始。「バイナルテック」や「TFコレクション」なども継続して発売。

トランスフォーマーの歩み

メディア編

1984

■4月よりアメリカでTVコマーシャルがスタート。■アニメスペシャルとして、パイロット版にあたるアニメ1〜3話が9月よりアメリカで放映される。■マーベルコミックから全4巻のリミテッドシリーズのコミックがスタートする。

1985

■テレビマガジン5月号で連載記事がスタート。■日本国内で吹き替え版アニメシリーズ『戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー』が7月より放映開始。■トランスフォーマーファンクラブ（TFFC）発足。

1986

■「スクランブルシティ」シリーズの宣伝媒体として、オリジナルアニメビデオ『スクランブルシティー発動編』が製作された。アニメではまだ未登場のメトロフレックスなどが活躍した。■テレビマガジン5月号よりコミック連載スタート。記事と併せて国内展開を盛り上げた。■海外で劇場版『トランスフォーマー・ザ・ムービー』が公開される。■日本では『トランスフォーマー・ザ・ムービー』が未公開のため、「コンボイが死んだ！」キャンペーンが展開される。『2010』での主役交代を強調したものである。このキャンペーンのために製作されたTVCFは、事実上の番組宣伝でありながら玩具CFとして他局でも放映されていた。■『戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー2010』11月より放映開始。■TFFCがS.T.A.R.S.（シークレット・トランスフォーマー・サイバトロン救援隊）と改称。玩具に隊員募集のパンフレットが封入された。■マーベルコミックがクロスオーバーものの『G.I.ジョー&トランスフォーマー』や、劇場版コミックを発行。

1987

■「デストロンの逆襲」キャンペーン展開。最大の合体兵士ブレダキングのプロモーションが行われる。■「スクランブルシティ」シリーズの互換性を強調した、コンピューティコンとオボミナスのプロモーション。■「謎の大型TF」として、海外版フォートレスマキシマスのプレゼントが行われる。■テレビマガジンのコミックに、ロボットポイント通販商品であるダブルチェンジャーも登場。■アメリカでのアニメシリーズ終了。後にミニシリーズ『ザ・リバース』が製作され、日本とは異なった展開となる。■日本製作によるアニメシリーズ『トランスフォーマー ザ★ヘッドマスターズ』が7月よりスタート。■小説『夢戦争―トランスフォーマー ザ・ヘッドマスターズ』が角川文庫より発売される。■マーベルコミックからはリミテッドシリーズの『ザ・ヘッドマスターズ』が発行され、本編と交錯してストーリーに深みを与えた。

1988

■アニメ『トランスフォーマー 超神マスターフォース』4月より放映開始。「マスターフォースで君もトランスフォーム」をテーマとした人間中心の物語で、従来のシリーズとは一線を画していた。

1989

■『トランスフォーマーV』4月より放映開始。■『トランスフォーマー・ザ・ムービー』のビデオ発売。これが日本での事実上の初公開となる。発売に先立ってチャリティー上映会も行われた。

1990

■テレビアニメは『トランスフォーマーV』をもって終了。■オリジナルアニメ『トランスフォーマーZ』が製作される。デバスターやダイナザウラーなど、旧シリーズの歴代合体、巨大兵士が「九大魔将軍」として劇中に登場し、話題となった。■アニメと同時にテレビマガジン誌上でのコミック連載も終了。記事掲載は継続された。『トランスフォーマーZ』のコミカライズは応募者全員サービスの「TFZひみつ手帳」で行われている。

1991

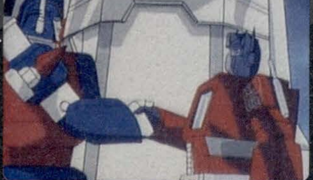
■テレビマガジンの付録で『ザ★バトルスターズ』のコミックが掲載。■コンボイの復活を記念して、アクションマスター・コンボイの本体フィギュアがプレゼントされる店頭キャンペーン実施。■コンボイのかつての活躍を紹介するために、『ザ・ムービー』ビデオのプレゼントも行われた。■『ザ・トランスフォーマーズ』のマーベルコミックが、アメリカの80号、イギリスの318号をもって連載終了。

1992

■テレビマガジン誌上での記事展開が10月にて終了。

●スクランブルシティー発動編

'86年に国内で販促用として制作され、後に通販商品となったオリジナルビデオ。前半にはTVシリーズ第1作目の総集編を、後半はメトロフレックスの紹介を中心に、スクランブル戦士VS兵士の対決を描いた新作アニメを収録。新作アニメはTV本編に先がけウルトラマグナス、カセットボットなどが活躍するオリジナルストーリーとなっている（ウルトラマグナスの声は銀河万丈が担当）。なお、本作は『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー』DVD BOX 2にも収録。



1993

■アメリカのTVコマーシャルで、アニメパートにCGが使われ始める。■旧アニメシリーズをCGで再編集した『TF ジェネレーション2（G2）』も放映。■マーベルコミックスからも『G2』のコミックがスタート。『G.I.ジョー』と旧作以来のクロスオーバーを果たす。

1994

■アニメ第1作『戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー』の前半を収録したLDボックス「コンボイセット」が受注限定販売。■マーベルコミックの『G2』シリーズ、12号で終了。■TF10周年を記念して、アメリカで「ボットコン」が開催される。ファンの手による初の国際コンベンションであった。以後毎年恒例のイベントとなる。

1995

■テレビマガジン、コミックボンボンに『G2』の記事連載がスタート。コミックボンボン増刊号にはコミックも掲載された。■LDボックスでは第1作の後半、ならびに新アフレコの日本未放映エピソードを収録した「メガトロンセット」が発売される。また、『ザ・ムービー』『2010』を収録した「2010セット」も発売された。

1996

■新作アニメ『ビーストウォーズ』がアメリカで放映開始。世界初のフルCGロボットアニメとなる。■映像特典として『ザ・リバース』日本語版も収録したLDボックス、「ヘッドマスターセット」が発売される。

1997

■テレビマガジン、コミックボンボン誌上において、『ビーストウォーズ』の記事連載が展開される。■日本国内で『ビーストウォーズ 超生命体トランスフォーマー』のアニメが10月より放映開始。

1998

■国内で『ビーストウォーズII』4月より放映開始。■コミックボンボン7月号より、『ビーストウォーズII』のコミック連載開始。以後『ネオ』『メタルス』と続く。■アニメ登場のブラックライオコンボイ、映画公開記念のフラッシュライオコンボイ&バーニングコンボイ、コミック単行本発売記念のガルバトロンカラーライオコンボイなど、各メディアと連動した限定カラーバリエーションの発売やプレゼントが頻繁に実施される。■劇場版『ビーストウォーズII』12月公開。未放映のCG版『ビーストウォーズ』の続編などとともに劇場公開された。

1999

■国内にてアニメ『ビーストウォーズネオ』2月より放映開始。番組放映が玩具発売に先駆けたのはTFとしては異例の展開である。■夏休みの「東映アニメフェア」内において、『ビーストウォーズメタルス コンボイ大変身！』が上映される。前年の映画公開時と同様、海外アイテムの劇場限定販売が行われる。■『ビーストウォーズメタルス』10月より放映開始。'97～'98年にかけて放映された『ビーストウォーズ 超生命体トランスフォーマー』の続編にあたる。

2000

■コミックボンボン4月号で『ビーストウォーズメタルス』連載終了。■アニメ『トランスフォーマー カーロボット』4月より放映スタート。■15周年記念の様々なキャンペーンが実施される。「君の部屋がサイバトロン基地だ！」キャンペーンではフォートレスマキシマスのリカラー「サイバトロンシティ」（後にブレイブマキシマスとして一般販売）が特賞としてプレゼントされた。■「ゴッドファイヤーコンボイパワーアップ」キャンペーン実施、アニメ最終回で使用された巨大剣「スーパーゴッドソード」がプレゼントされる。その他、店頭でスパイチェンジャーやフリップチェンジャーの限定カラーが配布された。■アメリカで新作フルCGアニメ『ビーストマシーンズ』が製作・放映される。

2001

■タイタンブックス、マーベル版コミックの再録本を発行。■9月、アメリカにて『カーロボット』の英語吹き替え版『ロボット イン ディスガイズ』放映開始。玩具も同時に発売され人気となる。■6月、初代TF～G2玩具の完全ガイドブック「トランスフォーマージェネレーション」発売。

2002

■9月、テレビマガジン掲載のコミックを収録した「戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー ザ★コミックス」が発売。■ドリームウェーブからG1と『アルマダ』の新作コミックが発売。■8月、アメリカにて『アルマダ』放映開始。

2003

■『トランスフォーマー マイクロン伝説』1月より放映開始。

2004

■『トランスフォーマー スーパーリンク』1月より放映開始。

◀『ザ★ヘッドマスターズ』放映当時、イベント「英雄歴史展」用に描き下ろされたセル画。児童誌やムックにも掲載されたので、ご覧になった諸氏も多いと思われる。

◎オトナの為のトランスフォーマー再入門

おもちゃ編

最新 THE TRANSFORMERS 関連アイテム

体感せよ、このリアリティ！変形玩具は新次元へと突入した!!

BT01 SMOKESCREEN DIVERSIONARY TACTICIAN feat. SUBARU IMPREZA WRC 2003

■バイナルテック・プロジェクト最初の成果として蘇ったサイバトロン戦士。主な車体設計は富士重工業㈱とSTiが行っている。

▲フル可動のロボットモード。21世紀のカーロボットに相応しいハイディティール仕様。

「トランスフォーマー　バイナルテック　BT-01　スモークスクリーンfeat. インプレッサWRC2003」価格：4980円（税抜）

◀ワークスモデルのカラーを、スポンサーロゴに至るまで細密に再現。ボディパネルには、ダイキャストを使用。

BASE CAR INFO

WRC「グループA」クラスに属するWRカー。ソルベルグの7号車の優勝も、記憶に新しい。

BT02 LAMBOR WARRIOR feat. DODGE VIPER SRT-10

■ダイムラー・クライスラー社内ＰＶＯ部門を母体とする特設チームによって蘇った、第２の戦士。

「トランスフォーマー　バイナルテック　BT-02　ランボルfeat. ダッジバイパ－SRT-10」価格：4980円（税抜）

▲実車の持つ美しい曲線が、余すところなく再現されたボンネット。

◀フルオープンとなるキャビン。

BASE CAR INFO

バイパー初のフルモデルチェンジとなった2003年モデル。アメリカの広大な大地にこそ似合う、モンスターマシンである。

玩具メーカータカラと、実車メーカーのコラボレーションにより、実在車両のフォルムを究極までに再現した、オトナの為のトランスフォーマー「バイナルテック」シリーズ。ステアリング可動やインテリアのディティール等、カーモデルとして遜色のないクオリティを達成。更に、あらゆるポーズを可能とするフル可動フィギュア、ロボットモードへの完全変形をも実現した。――幼かったあの日、誰もが憧れた変形ロボットの姿が、ここにある。

◎トランスフォーマーバイナルテック

BINALTECH STORY

西暦2003年――。人類によるトランスフォーマー開発計画が発動。世界中の企業と研究期間の手により製造されたロボット素体に、傷ついたサイバトロン戦士のパーソナルコンポーネントが移植された。彼らこそ新世代の戦士、バイナルテック・トランスフォーマーだ！

BT03 STREEK | GUNNER — feat. SUBARU IMPREZA WRX

■富士重工業㈱によるプロジェクト第2弾。スモークスクリーンの同車種に、ストリークが選ばれた。

▲バイナルテック初のコンシューマーカー。バンパーやリアウイングが新造されている。

BASE CAR INFO

4ドアセダンとは思えぬ、スポーティな走りが特徴の市販車。WRC参戦を前提として開発が行われ、市販車としてたぐい希なるポテンシャルを有する。

◀▲4ドア・ボンネット・トランクは、何れも開閉可能。確保が難しいインテリアも、見事再現。国内市販車の為、右ハンドルとなる。

◀キャラクターに合わせ、作り起こされた頭部。

「トランスフォーマー　バイナルテック　BT-03　ストリークfeat. インプレッサWRX」
価格：4980円（税抜）3月下旬発売

BT04 HOUND | SCOUT — feat. JEEP WRANGLER

■オフロードビークルの象徴、ジープに相応しく、地球の自然をこよなく愛するハウンドのコンポーネントが移植された。

BASE CAR INFO

ウィリスMBの精神を現代に受け継ぐ、ダイムラー・クライスラー社のジープ・ラングラー。これは、ソフトトップの「スポーツ」モデル。

▶縦型スロットが並ぶフロントグリルと丸型ヘッドランプは、ジープブランドの証明。

▼タイヤカバーに輝く、「Jeep」の文字。

◀オリジナルデザインを元に、リファインされた頭部。

「トランスフォーマー　バイナルテック　BT-04　ハウンドfeat.ジープ ラングラー」
価格：4980円（税抜）3月下旬発売

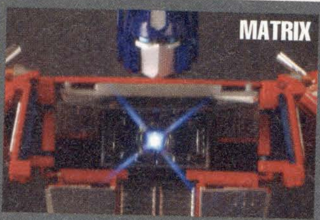
至高の逸品、現る

MASTER PIECE

トランスフォーマー
マスターピース
サイバトロン／総司令官
コンボイ
価格9800円（税抜）

TF20周年記念アイテム　サイバトロン総司令官コンボイ、発進!!

▶脚部には、ボディを支えるサスペンション機構。腕部のパネルには、仲間との通信を行うコミュニケータを内臓。そして胸部の発光ギミックは、「マトリクス」を輝かせる。



◀▲コンボイのカーモード。ハイディティールに裏打ちされた存在感は、実車に劣らない。車輪はサスペンションを備える。

20年という長い刻を経て誕生した「マスターピース」コンボイは、アニメ設定をベースとしたロボットモードから、カーモードへと完全変形が可能。プロポーションを維持する為、極めて複雑な変形機構を持つ。かつてコンボイで遊んだ記憶を有する者は、その技術の進歩に感嘆せずにはいられないだろう。

約100体のキャラクターが、夢の共演！

◎登場作品
『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー』
『トランスフォーマー・ザ・ムービー』
『戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー2010』
『トランスフォーマー　ザ★ヘッドマスターズ』

■PS2「トランスフォーマー」
■タカラ　■6800円（税抜）
■MC2（47KB以上）
■変形合体ACT
■1人プレイ用
■アナログコントローラ（DUALSHOCK2）専用

ファン待望の完全新作ストーリーで、トランスフォーマーがゲームになった。内容は、3Dフィールド上で仲間とバトルフォーメーションを組む格闘アクションゲーム。むろん操作キャラクターは「トランスフォーム」が可能。プレイヤーはサイバトロン、デストロンの両陣営何れか一方のルートを選択し、物語を進める。各ステージの合間に配置された、大量のフルCG・フルボイスのムービーやイベントシーンが見所だ。特有の外国映画の様な台詞回しも、英語音声に付けられた日本語字幕で、余すところなく堪能できる。

トランスフォーマー・サーガに新たに加わった物語を、ぜひ体験して欲しい。

総員、フルポリゴン・変型合体アクションゲームで完全復活!!新世紀の超ロボットバトル、いま始まる!!

▲敵キャラクターとして、合体戦士・兵士も登場する。

▲サイバトロンは、コンボイとマイスター、ホイルジャック。

▲デストロンルートで最初に選択できるメンバーは、この3名。

▲霞の向こうに見えるのは、行く手を阻むプレダキング。

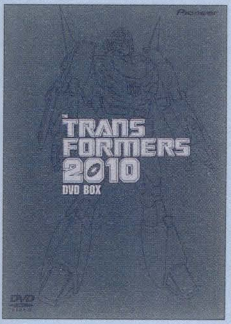
▲ステージが進むと、ダイナザウラーとも戦う事が可能。

▲英国コミックテイストも盛り込まれ、同一人物の2人が共演。

DVDで追体験

DVDはパイオニアLDC（現・ジェネオンエンタテインメント）より発売されている。既にBOXは初回限定生産の為、店頭在庫のみとなっているので注意して欲しい。

戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー2010

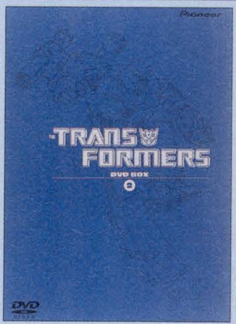


▲全30話に加え『ザ・リバース』3編を収録。発売／2001年6月22日　品番／PIBA-1158　価格／30000円（税抜）

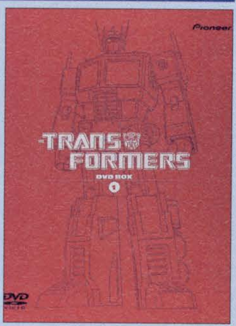
トランスフォーマー ザ・ムービー

▲二カ国語・日本語字幕入り。発売／2001年1月25日　品番／PIBA-1097　価格／3800円（税抜）

戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー



▲後半、第63話までと、未放映の2話を収録。発売／2001年3月23日　品番／PIBA-1096　価格／30000円（税抜）



▲前半、第35話までを収録。CF等の特典映像付き。発売／2000年12月22日　品番／PIBA-1095　価格／30000円（税抜）

戦え！超ロボット生命体トランスフォーマーV

▲後半、第42話（最終話）までを収録。　発売／2003年12月21日　品番／PIBA-1421　価格／23000円（税抜）

▲前半、第24話までを収録。発売／2003年9月26日　品番／PIBA-1420　価格／23000円（税抜）

トランスフォーマー超神マスターフォース

▲後半、第42話（最終話）までを収録。　発売／2003年6月25日　品番／PIBA-1419　価格／23000円（税抜）

▲前半、第24話までを収録。発売／2003年3月21日　品番／PIBA-1418　価格／23000円（税抜）

トランスフォーマー ザ★ヘッドマスターズ

▲全35話を完全収録。　発売／2002年8月23日　品番／PIBA-1336　価格／30000円（税抜）

BOOK

ファン必読の伝道書、デラックスに復刻！

トランスフォーマー ジェネレーションデラックス

※表紙は仮のものです。

2000点以上の写真とイラストを掲載する、究極のG1資料本。今回の復刻に合わせ、貴重なデザインスケッチを満載する18ページが追加された。本書と合わせて読めば、より深くTF世界を堪能できる事、間違いなし！　発行／ミリオン出版　販売／3月22日（予定）　価格／2800円（税抜）

MUSIC

歴代TFの日本版主題歌を集めた、ベストアルバム。G1から『ビーストウォーズ』、そして2003年の『マイクロン伝説』まで、全16作品を網羅する決定盤。

テーマソングコレクション

発売元／コロムビアミュージックエンタテインメント　発売／2003年8月20日　品番／COCX-32353→54　価格／3800円（税抜）

戦え！超ロボット生命体　トランスフォーマー TRANSFORMERS HISTORY OF MUSIC 1984～1990

ファン待望のG1音楽集が、5枚組の音楽ボックスとなって登場！　第1作イメージアルバム（作曲は『新世紀エヴァンゲリオン』の鷺巣詩郎！）や、『ザ★ヘッドマスターズ』『超神マスターフォース』ヒット曲集を完全収録。更に初のソフト化となる、幻の国内版BGMを多数収録する。ボーナストラックには、海外版音源も収録。

発売元／コロムビアミュージックエンタテインメント　発売／2004年3月31日　品番／COCX-32660→64　価格／10000円（税抜）

※コロムビアミュージックエンタテインメントより『トランスフォーマーZ』DVD、4月21日発売！

金田益実

Kaneda Masumi

1958年2月生まれ、東京都出身。有限会社KND代表取締役。
出版、映像などキャラクターメディアの
企画・構成・執筆で活躍。
「トランスフォーマー」「地獄童子」「キングカーメン」等の
コミック原作も手がける。
編・著書は「THE超合金」「70年代特撮ヒーロー全集」ほか。

トランスフォーマー証言集

『テレビマガジンからテレビアニメへ』

20年前の某日。講談社『テレビマガジン』編集部の応接室にて。

「アメリカでは既にテレビアニメと商品展開が進んでいますが国内では半年以上先です。正義のサイバトロン軍団と悪のデストロン軍団に分かれて抗争を展開するロボット変身戦隊の物語ということさえわかって頂ければ結構です。一応のキャラクターシートは出来ています。後は英語版のアニメビデオが1本。資料はそれだけですので、どうぞ自由な発想で誌面を構成して下さい。マンガ原作に関しては、米国のマーベルコミックとの権利関係がありますので、オリジナルストーリーでお願いしたいと思います。私どもとしてはこのキャラクターをどうしても売りたい！」

スポンサー・タカラの松岡治雄氏、新井隆士氏（故人）、中野隆幸氏の言葉には相当の気迫がありました。この頃の児童・テレビ雑誌はオリジナルキャラクターにも力を注ぎ、『テレビマガジン』では『ミクロマン』や『ダイアクロン』。『コロコロコミック』『てれびくん』（小学館）には『ゾイド』などがあり、これらはテレビから発信するものよりも数段にキャラクターが豊富なオリジナルストーリーの世界でした。『トランスフォーマー』も海外版のアニメがあるという前提とはいえ、最初は『ミクロマン』などのオリジナルと同じスタートを切りました。以前に出版物や劇場映画でウルトラマンシリーズの構成をやっていたこともあり、こういった集団ヒーローもののオリジナル展開の依頼にはそれほど違和感はありませんでした。原作コミックを描いたのはまがみばん氏。記事・特集はまがみ氏のイラストと杉田篤彦氏（スタジオOX）によるセル画です。お二人にはいろいろ助けて頂きました。

ホビーの括りでいえば『機動戦士ガンダム』がプラモなら、『トランスフォーマー』はミニカーでいこうと考えました。中でも英国レズニー社の『マッチボックス』や、コーギー社の『ハスキー』などの世界観はソフト作りの参考になりました。『トランスフォーマー』は、国際スケール（1／43）のダイキャストミニカーをヒーロー化したものなので、ガレージやガソリンスタンドは基地。乗用車、スポーツカーは一般戦士で、パトカーや消防車は特殊部隊、大型トラックはリーダーという面を膨らませました。商品的なアドバイスとしてはナンバーによるアイテム・コレクションの徹底化や、カラーリングバリエーション、輸出仕様の紹介などホビーとしての試みも提案しています。幾つかは実際に行われましたが当時としては少し早過ぎたかも知れません。

85年7月からのテレビ放送が開始しても誌面はオリジナルが中心でした。ただオリジナルといってもアニメとあまりにかけ離れてしまってはいけません。「スクランブルシティ」も誌面の舞台には大いに活用しました。アニメで描かれない世界をコミックや特集で広げていくところに面白さがあります。ただ海外のアニメ版がどういうストーリー構成で進んでいるかがまったくつかめなかったので、パラレルワールドになってしまったこともありました。ガルバトロンは当初からウルトラマグナス（シティコマンダー）のライバルに設定された要塞参謀ということで進行していたところ、劇場版ではメガトロンの生まれ変わりになってしまいました。さらにその劇場版も日本では公開されず、いきなり2010シリーズに飛んだわけですから当時のトランスフォーマーファンの方々は困惑されたのではないでしょうか。

国内制作による東映動画（現・東映アニメーション）の『トランスフォーマー』にもまがみ氏と共に参加させて頂き、原案となるストーリーとキャラクター設定を中心に、日本版シリーズ＝G1シリーズの最後まで関わりました。『ザ★ヘッドマスターズ』は海外版との橋渡しということで和洋折衷的な内容でしたが『超神マスターフォース』からは、まったくのオリジナルストーリーを考えました。アニメのシリーズ構成は脚本家の方々によるものですので原作コミックもまた、テレビアニメの構成とは違います。しかし、それがまた世界観を膨らますことにもなりました。特にロボット以外（商品とは無縁の）人物キャラクターを最初から作らせて頂けたのもコミックを展開するうえで助かりました。

映像は映像、玩具は玩具と各々のやり方があります。怪獣百科や図解特集、ウルトラ兄弟、モビルスーツバリエーションなどは雑誌ならではの切り口で発展させたものです。こちらも参加させてもらわなければそのものの良さも引き出せません。新しく創るところからのスタートだったからこそトランスフォーマーは多くのプレーバリューを生み出しました。日本版と海外版で様々なストーリーやネーミングがあるというのも他には類が無いでしょう。一つのキャラクターだけで幾つもの世界を遊べる。それが『トランスフォーマー』の魅力かも知れません。

◀氏が企画・構成・執筆を勤めた講談社のポケット百科シリーズ。第1作から『ビクトリー』までの計4冊が発売。児童向けながら設定画や放映リスも網羅しており、当時は数少ない資料本としてファンの間で重宝された。

株式会社タカラ
開発本部
先行開発室 室長

大野光仁

Ohno Kohjin

1959年5月11日、東京都出身。1980年にタカラに入社。
玩具の開発だけでなく「超磁力ミクロマン」の宣伝ポスター出演など、
その活動範囲は多岐にわたる。
初担当作は「ダイアクロン」のウォークインセクターと「ミクロマン」のアクロサタン。
後にサンストリーカーとなる、「カーロボット」第1号の
カウンタックLP500Sスーパーチューニングも氏の担当商品。

変形ロボの開発は、パズルのような感覚でした。

■「軍団VS軍団」の構造

――まずトランスフォーマー（以下TF）というシリーズについて、当時の状況をお聞かせ下さい。

TFの最大の特徴は「集団変形ロボット活劇」という点ですよね。主人公だけではなく、仲間と一緒に悪の軍団と戦う。子供たちとの接点となる売り場展開においても、その世界観を重視しました。サイバトロンとデストロンを対峙させるようにディスプレイし、TVで見たロボットたちが店頭でも戦っている図式にしました。そう言えば、当時安太さん（佐藤安太 現 最高顧問）が「売り場は劇場なんだ」と仰ってました。子供たちも主人公だけを買うのではなく、仲間や敵のロボットも買ってくれましたね。ハズブロさんのコンセプトは、商品展開と非常に合致していたと思います。

――軍団VS軍団という構図が徹底されていたのですね。

そうですね。作品内でも双方を示すマークがあったり、目の色も違っていたりと、たくさんのキャラクターがいるにも関わらず、非常に明快に敵味方が分かれていました。このことも子供たちに受け入れられた理由でしょう。

■常に二兎を追っていました

――TFの最大の魅力に、変形の面白さがあるのですが、開発時のエピソードなどをお聞かせ下さい。

「ミクロマン」や「ダイアクロン」の頃に遡ってしまいます。「カーロボット」の頃ですが、あの当時は常にみんなが「違う変形パターンを作ってやる」という気持ちでした。「そう来たか。じゃあ、こっちは三段変形させてしまえ」とか、宙返りするロボットとか、どんどんエスカレートしていきましたね（笑）。カーロボットはミニカーとしても遊べる上、さらに変形してロボットになる……という驚きを与えたかったんです。ですからタイヤがゴムだったりドアが開いたりと、車の完成度を高めていくと同時に、ロボット形態もかっこよくなるように心掛けました。まさに二兎を追っていましたね。

――恐竜ロボ（ダイノボット）は大胆な変形をしますね。

あれは私が提案して、試作も作りましたが、開発していて非常に楽しかったですね。車をやっているうちにパターンが尽きてしまい、次に何をしようかということになりました。変形して面白いもの、なおかつ男の子の好きなものということで恐竜になったんですね。カーロボットもそうですが、「ここに腕を納めてここを足にして……」と、図面や模型と首っ引きでした。まさにパズルをやっている感覚ですね。

――やはり変形パターンが面白いほうがお気に入りですか？

そうですね、アストロトレインとブリッツウイングが好きです。最低限の変化で三段変形できましたから。あれをバイナルテックのような今の技術で作って欲しいです（笑）。

■『変形＋α』

――そうして「TF」の時代に入るわけですね。

当初はミクロマンやダイアクロン時代のアイデアが流用されました。変形が出尽くしたので、スクランブル合体などの合体戦士がメインになっていきました。

――街に変形するメトロフレックスのコンセプトもすごいですね。

社内でも「街がロボットになる」と言ったら反応はいま一つだったのですが、安太さんが「いいですねー」とうなづいてくれた記憶があります。私としてはメトロフレックスは、もう少し「ここはこうできた」「あそこはこうすれば」という思いがあって、後のフォートレスマキシマスに繋がっていきます。

――そうしてヘッドマスターのコンセプトが生まれますが。

『2010』が終わる頃にハズブロさんからニューディレクションを要求され、あのコンセプトが生まれました。以後TFというシリーズは、必ず「変形＋α」のギミックを盛り込むようになりましたね。

――そのようなアイデアは常にこちら側から提唱していたのですか？

いえ、お互いに出し合っていました。ハズブロさんからプリテンダーのコンセプトが出た時は驚きましたね（笑）。ハズブロさんとの共同開発は良い刺激になりました。何よりも色のレパートリーが増えましたし。国内だけで開発していた頃は、紫やグリーンはまず出て来ませんでした。あの色使いは非常に新鮮でしたし、以後の国内開発の幅も広がりました。実際にTF以前はお決まりの色ばかりになってしまい、煮詰まった時期もありましたから。ジンライを出す時にも、アメリカは一人のキャラクターが長く活躍するものですが、日本は違うじゃないですか。それで「ジンライ」という別のキャラクターにしたんです。現代は「コンボイ」は司令官の象徴になりましたから、「ジンライコンボイ」とか「スターセイバーコンボイ」でも良かったかもしれませんね（笑）。

――今もコンボイを始め、多くのキャラクターがリメイクされていますね。

今回の『スーパーリンク』のロディマスコンボイは、最初のロディマスコンボイを作った国弘（高史）自身がリメイクしています。もっとも、当時はデザインしか見ていなくて、このキャラクターが主人公になるとは誰も思ってませんでした（笑）。実は私、スーパーリンクのコンセプトは好きなんですよ。合体するコンボイや上下合体などは、ちゃんと「＋α」をやってくれていますよね。

――その＋αが21世紀にも続いた原動力なのでしょうか。本日はありがとうございました。

東 宏幸

株式会社タカラ
キッズキャラクター課
統括マネージャー

Azuma Hiroyuki

1974年4月28日、滋賀県出身。
1997年タカラに入社し、九州営業所で営業職を経て
「超磁力ミクロマン」「トランスフォーマー カーロボット」
「鉄甲機ミカヅキ」「電脳冒険記ウェブダイバー」等を担当。
2001年にトランスフォーマープロジェクトを発足。
現在TF20周年キャンペーンはじめ多忙な日々を送っている。

「トランスフォーマー」というブランドを確立させたいんです。

■「トランスフォーマー」というコンテンツの拡大

——今年20周年を迎えた「TF」の展開についてお聞かせ下さい。

「TFプロジェクト」という部署を立ち上げたのが3年前。現在では旧商品の復刻やアニメーション展開の他にも、「マスターピース」や「バイナルテック」などの新コンセプト商品を発売することができました。私自身としては20周年を迎えた今こそが、ようやくスタートラインに立ったという思いですね。従来のTV番組と玩具中心の構成から、さらにコンテンツを拡大していく段階だと考えています。これから25周年、30周年と続けていくためにも、TFを単なるオモチャのキャラクターではなく、一つのブランドとして確立させる機会にしたいですね。

——具体的なプランを教えていただけますか？

今年の1月に、都営地下鉄に車両広告を出しています。マスターピースコンボイの告知と共に、「最近変形してる？」というイメージ広告的なコピーを添えました。さらに2月から3月にかけて、この本を含めて何冊かのムックや音楽集など、玩具以外の企画が立て続けに発売されます。また、いわゆるファッションブランドなど、異業種とのコラボレーションも考えています。両軍のマークなどは20年間使用されていますよね。それらを利用した帽子やTシャツなどを製作していきます。TFには玩具というワクを越えたカルチャーとして広がる可能性があると考えています。

■日常の中で出会うTF

——玩具としてのTFはどのような展開になるのでしょうか？

もちろん玩具にも力を入れていきます。バイナルテックはこの20年間で蓄積した技術を注ぎ込み、今後も続々と展開する予定です。他にも20周年事業ということで、20年の集大成的なラインを立ち上げる計画があります。20年前のTFと最新のTFが一緒に遊べるようなストーリーや商品群ですね。これは比較的お手軽な価格で提案しようと考えています。また、昨年に引き続きコンビニ販売も行う予定です。海洋堂さんとのコラボレーション企画もその一環ですね。コンビニ販売を行うのは、もちろん流通ルートを広げる意味もありますが、日常いたるところでTFを見かける機会を増やしたいんですよ。電車に乗っていても食事をしていても……日常の色々なところでTFに出会う。我々はTFをそんなコンテンツにしたいんです。

——マスターピースのような高額商品の展開はありますか？

高額商品がいっぱい発売されるのも、お祭りらしくていいと思います(笑)。ただ、先程申し上げた通り、今やっとスタートラインに立ったと考え、足下を見つつコンテンツ全体を考えていきたいですね。

——バイナルテックは、玩具ファン以外にも注目されましたね。

今までTFを買ったことがない人や、昔ファンだったという人にも購入していただけたようです。まだまだたくさんのニーズがあることを実感しました。この本のように、そのような人たちにTFを知ってもらうための情報を発信してゆくことで、ビジネスとして拡大させたいと考えています。もちろん映像面もそうです。今のアニメシリーズが今年で2年目になりましたが、この先も3年目4年目……と、まだまだ続けたいと考えています。

■何よりもTFを続けてゆきたい

——現在のTF開発現場の規模はどのくらいですか？

実際にTFを作っているのは、タカラ社内では4～5人くらいです。そして、共同で開発しているアメリカのハズブロさんには、2～3人ほどいます。常にメンバーは入れ替わっていますが、あわせて8～9人ほどが開発に携わっています。その中には昔TFで遊んだ人間もいますし、昔からTFの開発に携わり続けている人間もいます。そういったベテランと若手の対比も面白いですね。新しい人間が作るものは本当に斬新で新鮮ですし、ベテランが作るTFはこれまでのノウハウがつまっている技術の蓄積を感じますね。

——20年間続いたコンテンツですからね

社内でも、子供の頃にTFを観て、「TFが好きだから」とか「TFを作りたいから」、という動機でタカラに入社してきた者がたくさんいます。このことはすごいと思いますね。25年経過すると、リカちゃんなどのように二世代のパワーが出て来ると言われています。そのくらい続くと親子で情報を共有できる訳ですからね。これからも情報と商品を提案し続けることで、TFを親子のコミュニケーションツールにしたいと考えています。そうなることによって、TFというブランドが一皮むけると思うんですよ。すでにその手応えも感じているところです。

——播いた種がしっかり実ってきているわけですね。

そうですね。これからも盛り上がっていきたいですし、何よりもTFを続けていきたいんです。

——イベントなども企画されているのですか？

2、3年前からやってきた『TFジェネレーション0』というイベントを、今年の夏は少し規模を大きくして開催しようと思っています。単独のイベントではなく、イベント内イベントではありますが、歌あり、オモチャあり、映像ありの内容を、よりグレードアップさせて開催する予定です。当然20周年記念となる商品も検討していますよ。

——期待しております。本日はありがとうございました。

アニメーションリスト

戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー
THE TRANSFORMERS

■スタッフ　東映動画チーフプロデューサー／森下孝三　プロデューサー／諸橋健一・清水篤　日本語版演出／田島荘三　配給／ムービーテレビジョンビデオ　放送／日本テレビ

NO.	サブタイトル	放映日
SP	うわさのテレビ	85. 7. 6
1	地球への道	85. 7. 6
2	ルビークリスタルの秘密	85. 7.13
3	地球脱出！	85. 7.20
4	スペースブリッジ作戦	85. 7.27
5	メガトロンの帰還	85. 8. 3
6	SOS！サイバトロン	85. 8.10
7	ダイノボット誕生！	85. 8.17
8	謎の巨大隕石	85. 8.24
9	地球消滅計画	85. 8.31
10	セイバートロン星の掟	85. 9. 7
11	フランケンシュタイン・スパイク	85. 9.14
12	ソーラーエネルギーを盗め！	85. 9.21
13	リジェの裏切り	85. 9.28
14	トランスフォーマー誕生！（総集編）	85.10.11
15	イモビライザー	85.10.18
16	アトランティス浮上！	85.10.25
17	ナイトバードの影	85.11. 1
18	対決!!　ダイノボット　パート1	85.11. 8
19	対決!!　ダイノボット　パート2	85.11.15
20	マスタービルダー	85.11.22
21	インセクトロン・シンドローム	85.11.29
22	二人のコンボイ	85.12. 6
23	スチールシティ	85.12.13
24	ネガベイターを奪え！	85.12.20
25	ミクロの決死隊	85.12.27
26	メガトロンの地球征服作戦　パート1	86. 1.10
27	メガトロンの地球征服作戦　パート2	86. 1.17
28	ダイノボットの逃亡　パート1	86. 1.24
29	ダイノボットの逃亡　パート2	86. 1.31
30	タイムトラベラー	86. 2. 7
31	ゴールデンラグーンの秘密	－
32	スカイゴッド	86. 2.14
33	戦士トラックス	86. 2.21
34	サバイバル作戦	86. 2.28
35	オメガ・スプリームの秘密	86. 3. 7
36	ギャンブル惑星モナカス	86. 3.14
37	令嬢より愛をこめて	86. 3.21
38	パニック・ザ・クレムジーク！	86. 3.28
39	トリプル・チェンジャーの反乱	86. 4.11
40	チルドレン・プレー	86. 4.18
41	アルファートリンを探せ！	86. 4.25
42	ベクターシグマの鍵　パート1	86. 5. 2
43	ベクターシグマの鍵　パート2	86. 5. 9
44	変身の泉	86. 5.16
45	ホイストハリウッドへいく	86. 5.23
46	突撃エアーボット	86. 5.30
47	ヨーロッパ横断特急	86. 6. 6
48	恐怖のコスミックルスト！	86. 6.13
49	デバスターを倒せ！	86. 6.20
50	ブロードキャスト・ブルース	86. 6.27
51	ターゲットはコンボイ	86. 7. 4
52	ブロードキャストVSサウンドウェーブ	86. 7.11
53	スタースクリーム軍団	86. 7.18
54	ブルーティカスの攻撃	86. 7.25
55	果てしなき戦い（総集編）	86. 8. 1
56	ダイノボット島の死闘（総集編）	86. 8. 8
57	巨人兵デバスター（総集編）	86. 8.15
58	おわりなき死闘（総集編）	86. 8.29
59	ブルーティカスの復活	86. 9. 5
60	ひきおこされた戦争	86. 9.12
61	マスカレード	86. 9.19
62	スカイファイアーの再生	86. 9.26
63	インカの秘宝	86.10. 3
64	インセクトロンの謎	86.10.24
65	トランスフォームをとめろ！	86.10.31
66	破滅の日　パート1	86.11. 7
67	破滅の日　パート2	86.11. 7
68	破滅の日　パート3	86.11. 7
69	地球最大の危機（総集編）	－
70	セイバートニウムを求めて（総集編）	－
71	スタントロンVSエアーボット（総集編）	－
72	コンバットロンの反逆（総集編）	－
73	サイバトロンの逆襲	－
74	コンピュータの反乱	－

［備考］ SPは第1話放映直前に放映された新番組特集で、堀内賢雄がハウンドを演じながらナレーターを務める。第31話、第69話～72話は関東地区では未放映。第73話、74話は日本未放映作品で、LDに初収録。

スクランブルシティー発動編

■スタッフ　プロデューサー／佐藤博久（株式会社タカラ）・旗野義文、関口孝治　脚本／安藤豊弘　作画監督／山口　聡　演出／遠藤勇二　製作／タカラ・東映動画

［備考］ '86年制作の商品プロモーション作品。（P114参照）

トランスフォーマー・ザ・ムービー
TRANSFORMERS THE MOVIE

■スタッフ　日本側総指揮／森下孝三　作画監督／角田紘一　日本語版演出／田島荘三　翻訳／平田勝茂　監修／金田益実　アニメ製作／東映動画

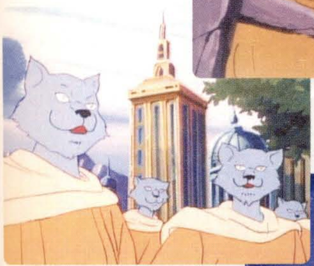
［備考］ '86年アメリカで公開された劇場作品。（日本未公開）

戦え！超ロボット生命体トランスフォーマー2010
THE TRANSFORMERS

■スタッフ　プロデューサー／諸橋健一・清水　篤　日本語版演出／田島荘三　配給／ムービーテレビジョンビデオ　放送／日本テレビ

	サブタイトル	放映日
1	新たなる戦い	86.11.14
2	甦る新破壊大帝	86.11.21
3	惑星ゴーの罠	86.11.28
4	マトリクスの秘密	86.12. 5
5	クインテッサ星人の陰謀	86.12.12
6	メトロフレックスVSダイナザウラー	86.12.19
7	スタースクリームの幽霊	86.12.26
8	コンボイの影	87. 1. 9
9	時の罠	87. 1.16
10	4人の捕虜	87. 1.23
11	デスクリスタル	87. 1.30
12	不思議の国のダニエル	87. 2. 6
13	ビックリバーティー	87. 2.13
14	音楽惑星への挑戦	87. 2.20
15	戦いか死か!?	87. 3. 6
16	スタースクリーム復活	87. 3.13
17	クモの巣惑星	87. 3.20
18	セイバートロン星の吸血鬼	87. 3.27
19	死の商人クインテッサ	87. 4.17
20	究極の武器	87. 4.24
21	2010年の大放送	87. 4.30
22	人間トランスフォーマー	87. 5. 7
23	ブラックマネー	87. 5.15
24	悪夢の惑星	87. 5.22
25	グリムロックの新しい頭脳	87. 5.29
26	原始の呼び声	87. 6. 5
27	テレパシー惑星を救え	－
28	重すぎた使命	87. 6.11
29	ダニエルの冒険（総集編）	－
30	正義の死闘（総集編）	－
31	コンボイの復活　パート1	87. 6.18
32	コンボイの復活　パート2	87. 6.25

［備考］ 第27話、第29話、第30話は関東地区では放映されなかった。



HAN MEETS THE EYE!

NO.	サブタイトル	脚本／演出	放映日
22	生か？死か？絶体絶命ライトフット	荒木芳久／吉沢孝男	88. 9.27
23	デストロンの黒い罠をあばけ！	星山博之／佐々木勝利	88.10. 4
24	スーパージンライ砂漠に散る!?	安藤豊弘／芝田浩樹	88.10.11
25	破られるか！ボンバー計画	荒木芳久／金山通弘	88.10.18
26	ゴッドジンライ・宇宙へ!!	安藤豊弘／新田義方	88.10.25
27	ゴッドジンライ・月面の対決	星山博之／松浦錠平	88.11. 1
28	オーバーロード・超魂竜巻の恐怖	荒木芳久／吉沢孝男・梅沢淳稔	88.11. 8
29	脱出!!海底火山大爆発	安藤豊弘／佐々木勝利	88.11.15
30	ゴッドボンバーを破壊せよ!!	星山博之／松浦錠平	88.11.22
31	出現!!最後のゴッドマスター	荒木芳久／金山通弘	88.11.29
32	秘密指令！サイバトロン基地を破壊せよ!!	安藤豊弘／新田義方	88.12. 6
33	ピンチ！サイバトロン基地大爆発	安藤豊弘／新田義方・又野弘道	88.12.13
34	ブラックザラック・宇宙からの破壊者	荒木芳久／梅沢淳稔	88.12.20
35	危機！人類滅亡の日	荒木芳久／佐々木勝利	89. 1.10
36	ゴッドジンライ・キャンサーを救う!?	安藤豊弘／松浦錠平	89. 1.17
37	ゴッドジンライ　デストロン基地の決戦	星山博之／金山通弘	89. 1.24
38	究極合体！新生命体ブラックザラック	荒木芳久／新田義方	89. 1.31
39	死闘!!ゴッドジンライVS新生ダークウィングス	安藤豊弘／又野弘道	89. 2. 7
40	サイバトロン！決死のアタック!!	荒木芳久／梅沢淳稔	89. 2.14
41	極悪非道！デビルZの正体	安藤豊弘／佐々木勝利	89. 2.21
42	戦闘……そして	荒木芳久／松浦錠平	89. 2.28
43	戦え！スーパージンライ（総集編）	構成・演出／金田益実	―
44	ボンバー計画発令！ゴッドジンライ誕生（総集編）	構成・演出／金田益実	―
45	ゴッドボンバーの秘密！（総集編）	構成・演出／金田益実	―
46	大逆転！サイバトロン戦士！（総集編）	構成・演出／金田益実	―
47	マスターフォースで君もトランスフォーム（総集編）	金田益実／金田益実・金山通弘	89. 3. 7

[備考]　第43話～46話は関東地区では未放映となった。

戦え! 超ロボット生命体 トランスフォーマーV

■スタッフ　プロデューサー／奥出信行・横山賢二・吉田竜也　原案・キャラクターデザイン協力／金田益実・まがみばん　シリーズ構成／星山博之　総作画監督／大島城次　音楽／石田勝範　美術デザイン／行　信三　シリーズディレクター／新田義方　制作／東映・タカラ

NO.	タイトル	脚本／演出	放映日
1	宇宙の勇者・スターセイバー	星山博之／新田義方	89. 3.14
2	奇襲！ダイノキング	安藤豊弘／松浦錠平	89. 3.28
3	襲撃！レオザック	荒木芳久／又野弘道	89. 4. 4
4	合体！マルチ戦隊	鈴木　肇／佐々木勝利	89. 4.11
5	出動！レスキュー部隊	荒木芳久／吉沢孝男	89. 4.18
6	潜入…ウラン鉱山	安藤豊弘／金山通弘	89. 4.25
7	爆破!!エネルギー基地	星山博之／新田義方	89. 5. 9
8	大都会・地下の恐怖	荒木芳久／松浦錠平	89. 5.16
9	激突！二大英雄（総集編）	安藤豊弘／新田義方	89. 5.23
10	新兵士・ヘルバット	荒木芳久／又野弘道	89. 5.30
11	シャトル基地を狙え!!	星山博之／佐々木勝利	89. 6. 6
12	タンカー強奪作戦	安藤豊弘／吉沢孝男	89. 6.13
13	出撃!!ブレストフォース（総集編）	荒木芳久／新田義方	89. 6.27
14	ジャンを救出せよ!!	鈴木　肇／金山通弘	89. 7. 4
15	マッハとタックル	鈴木　肇／新田義方	89. 7.18
16	激戦!!アステロイド	安藤豊弘／松浦錠平	89. 7.25
17	マイクロ星・謎の戦士	荒木芳久／又野弘道	89. 8. 1
18	奪還！ガイホーク	鈴木　肇／佐々木勝利	89. 8. 8
19	合体！ライオカイザー	星山博之／吉沢孝男	89. 8.15
20	勢揃い！合体戦士（総集編）	安藤豊弘／金山通弘	89. 8.22
21	復活!?デストロン要塞	荒木芳久／又野弘道	89. 8.29
22	怒りのバトルアップ!!	安藤豊弘／新田義方	―
23	死闘!!南極の攻防戦	鈴木　肇／松浦錠平	89. 9. 5
24	危機！砂漠の待ち伏せ	荒木芳久／又野弘道	89. 9.12
25	死を賭けた激闘	荒木芳久／佐々木勝利	89. 9.19
26	ジンライ死す!!	星山博之／吉沢孝男	89. 9.26
27	戦え!!ビクトリーレオ	安藤豊弘／金山通弘	89. 9.27
28	絶体絶命！サイバトロン（総集編）	鈴木　肇／新田義方	―
29	めざめよ！ビクトリーレオ	安藤豊弘／新田義方	89.10. 3
30	逆転！必殺のビクトリー合体	荒木芳久／松浦錠平	89.10.17
31	ジャン・学園を守れ!!	鈴木　肇／又野弘道	89.10.31
32	謎!?基地爆破の罠	荒木芳久／佐々木勝利	89.11. 7
33	死を呼ぶ宇宙昆虫!!	安藤豊弘／吉沢孝男	89.11.14
34	最強！ビクトリーセイバー（総集編）	鈴木　肇／金山通弘	89.11.21
35	巨大津波の恐怖	荒木芳久／新田義方	89.11.28
36	巨大要塞怒りの復活！	安藤豊弘／松浦錠平	89.12. 5
37	激突！要塞VSビクトリー合体	星山博之／又野弘道	89.12.12
38	サイバトロンは永遠に（総集編）	荒木芳久／新田義方	89.12.19
39	輝け！勝利の星（総集編）	構成・演出／金田益実	―
40	破壊大帝に勝て！（総集編）	構成・演出／金田益実	―
41	SOS！地球防衛指令（総集編）	構成・演出／金田益実	―
42	マイクロトランスフォーマー！（総集編）	構成・演出／金田益実	―
43	友情のビクトリーアタック！（総集編）	構成・演出／金田益実	―
44	銀河にひびけ！愛の鐘!!（総集編）	構成・演出／金田益実	―

[備考]　第22話、第28話、第39話～44話は関東地区では未放映。

トランスフォーマーZ

■スタッフ　プロデューサー／横山賢二・吉田竜也・山田久郎・高山雅治　原案・構成・キャラクターデザイン協力／金田益実・まがみばん　脚本／安藤豊弘　作画監督／大島城次　監督／又野弘道　制作／タカラ・日本コロムビア
[備考]『V』の続編として制作されたOVA作品。

トランスフォーマー ザ★ヘッドマスターズ

■スタッフ　プロデューサー／佐藤博久・横山賢二・吉田竜也　企画／中野隆幸　原案／金田益実　シリーズ構成／藤川桂介　キャラクターデザイン／まがみばん　美術デザイン／丸森俊昭　音楽／石田勝範　シリーズディレクター／佐々木勝利　制作／東映・タカラ

NO.	サブタイトル	脚本／演出	放映日
1	空から来た四人の戦士	藤川桂介／佐々木勝利	87. 7. 3
2	マスター星の謎	安藤豊弘／吉沢孝男	87. 7.10
3	夢のダブルコンボイ誕生	荒木芳久／伊藤政雄	87. 7.17
4	カセット大作戦	安藤豊弘／松浦錠平	87. 7.24
5	ビースト星の反乱	荒木芳久／生頼昭憲	87. 7.31
6	悪魔の隕石接近	藤川桂介／伊藤政雄	87. 8. 7
7	四百万年・謎のベール	荒木芳久／生頼昭憲	87. 8.28
8	恐怖！六ツの影	安藤豊弘／伊藤政雄	87. 9. 4
9	セイバートロン星危機一髪(前編)	荒木芳久／松浦錠平	87. 9. 4
10	セイバートロン星危機一髪(後編)	荒木芳久／佐々木勝利	87. 9.11
11	影の大帝スコルポノック	安藤豊弘／伊藤政雄	87. 9.18
12	謎の休火山大噴火	安藤豊弘／生頼昭憲	―
13	ヘッドオン!!フォートレスマキシマス	荒木芳久／佐々木勝利	87.10. 2
14	火星爆破!!危うしマキシマス	安藤豊弘／松浦錠平	87.10. 9
15	火星爆破!!出現メガザラック	安藤豊弘／生頼昭憲	87.10.15
16	帰ってきた不死身の帝王	荒木芳久／吉沢孝男	87.11.20
17	惑星サンドラSOS	荒木芳久／佐々木勝利	87.11.27
18	ダニエル史上最大のピンチ!!	安藤豊弘／吉沢孝男	87.12. 4
19	蜂の巣惑星を死守せよ!!	安藤豊弘／松浦錠平・白旗伸	87.12.11
20	見せかけ星の攻防戦	荒木芳久／生頼昭憲	87.12.18
21	メガザラックの弱点をあばけ!!	安藤豊弘／吉沢孝男	87.12.18
22	友情のヘッドフォーメーション	荒木芳久／佐々木勝利	87.12.18
23	宇宙海賊船の謎	安藤豊弘／松浦錠平	87.12.25
24	ウルトラマグナス死す!!	荒木芳久／白旗伸郎	88. 1.22
25	氷山に消えた破壊大帝	荒木芳久／生頼昭憲	88. 1.29
26	地球に賭けるこの命	安藤豊弘／佐々木勝利	88. 2. 5
27	奇跡の戦士ターゲットマスター(前編)	荒木芳久／伊藤政雄・北爪史	88. 2.12
28	奇跡の戦士ターゲットマスター(後編)	安藤豊弘／吉沢孝男	88. 2.19
29	危うしマスターソード!!	安藤豊弘／白旗伸郎	88. 2.26
30	ザラックシールド攻防戦	荒木芳久／松浦錠平	88. 3. 4
31	デストロン全滅作戦	荒木芳久／佐々木勝利	88. 3.11
32	わが友シックスショット!	安藤豊弘／北爪史示	88. 3.18
33	アステロイドの決闘	安藤豊弘／生頼昭憲	88. 3.25
34	最後の地球大決戦(前編)	荒木芳久／白旗伸郎	88. 3.25
35	最後の地球大決戦(後編)	荒木芳久／佐々木勝利	88. 3.28
36	英雄伝説コンボイVSメガトロン（総集編）	金田益実／田島荘三	―
37	英雄伝説2010ウォーズ（総集編）	金田益実／田島荘三	―
38	英雄伝説ヘッドオン!　マスター戦士（総集編）	金田益実／―	―

[備考]　第12話、第36話～38話は関東地区では未放映。

ザ・リバース THE REBIRTH

■日本語版演出／田島荘三

NO.	サブタイトル	放映日
1	ヘッドマスター誕生	―
2	デストロンの反撃	―
3	銀河最大の危機	―

[備考]『2010』終了後にアメリカで制作された特別編。日本ではTV放映されておらず、『ザ★ヘッドマスターズ』のLD-BOXに初収録。

トランスフォーマー 超神マスターフォース

■スタッフ　プロデューサー／奥出信行・横山賢二・吉田竜也　企画／トランスフォーマーステーション　原案・キャラクターデザイン協力／金田益実・まがみばん　シリーズ構成／星山博之　音楽／石田勝範　シリーズディレクター／今沢哲男　制作／東映・タカラ

NO.	サブタイトル	脚本／演出	放映日
1	立て!!プリテンダー	星山博之／今沢哲男	88. 4.12
2	恐怖！デストロンの人間狩り	安藤豊弘／新田義方	88. 4.19
3	誘拐!?狙われたジャンボジェット	荒木芳久／松浦錠平	88. 4.26
4	誕生！ヘッドマスターJr	荒木芳久／吉沢孝男	88. 5. 3
5	大暴れ！ルール無用の小さな悪魔	安藤豊弘／佐々木勝利	88. 5. 1
6	行けゴーシューター・荒野の対決	星山博之／芝田浩樹	88. 5.17
7	パニック！野生動物を守れ!!	安藤豊弘／今沢哲男	88. 5.24
8	超戦士・ゴッドマスター兄弟	荒木芳久／新田義方	88. 5.31
9	激戦!!サイバトロン危うし	安藤豊弘／松浦錠平	88. 6. 7
10	選ばれたヒーロー・その名はジンライ	星山博之／吉沢孝男	88. 6.14
11	ジンライ怒りのゴッドオン!!	荒木芳久／佐々木勝利	88. 6.21
12	奇妙な友情　キャンサーとミネルバ	安藤豊弘／芝田浩樹	88. 6.28
13	敵か味方か!?モンスターの正体!!	荒木芳久／今沢哲男	88. 7.12
14	ゴッドマスタージンライを抹殺せよ	星山博之／新田義方	88. 7.19
15	壮絶！スーパージンライ誕生	星山博之／松浦錠平	88. 8. 2
16	ライトフット劇的なる出逢い	荒木芳久／吉沢孝男	88. 8. 9
17	敵？第3のゴッドマスターレインジャー	安藤豊弘／佐々木勝利	88. 8.23
18	強敵!!さすらいのシックスナイト	安藤豊弘／芝田浩樹	88. 8. 3
19	勢揃い！ゴッドマスター四戦士	荒木芳久／金山通弘	88. 9. 6
20	サイバトロン戦士シックスナイト?!	星山博之／新田義方	88. 9.13
21	少女を救え！超神戦士ゴッドマスター	安藤豊弘／松浦錠平	88. 9. 2

キャラクターインデックス

ア

アーシー 47・68
アーブラス 40
アイアンハイド 22
アイアンリフト 107
アキラ 102
アストロトレイン 35
アダムス 26
アフターバーナー 50
アブドゥール・ファカディ 55
アムホーン 48
アラート 24
アリゲトロン 66
アルファートリン 30
イジェクト 48
イルミナ 93
イルミナII 93
インフェルノ 24
ウィアードウルフ 64
ウィリー 48
ウイング 91
ウイングウェーバー 91
ウェーバー 91
ウルトラマグナス 46
ウルトラメガトロン 106
エアーライダー 29
エアポートベース 102
エイプフェイス 64
エクセルスーツ 50
エムサ 102
エリータワン 30
オーバーバイト 83
オーバーロード 80
オーバーロード（九大魔将軍） 103
オクトーン 53
オボミナス 54
オボミナス（九大魔将軍） 103
オメガ・スプリーム 28
オンスロート 37

カ

カーク 66
ガーディアン 29
ガードマインダー 79
カーナ 60
カーリー 30
カーリー（成人） 50
ガイホーク 95
ガイリュウ 97
カイン 102
カエン 61
カクリュウ 97
ガソリンベース 102
カットスロート 54
ガルバトロン 51
ガルフ 83
ギアーズ 26
ギガ 80
キックバック 35
キャブ 75
ギャラクシーシャトル 90
キャンサー 81
キルバイソン 96
ギルマー 83
キングポセイドン 83
キングポセイドン（九大魔将軍） 103
クインテッサ（ガード） 41
クインテッサ（陪審員） 41
クインテッサ星人 41
クラーケン 83
グラックス 64
クラッシュブル 107
グラップル 24
クラニクス 40
グランアーム 107
クランク 64
グランダス 105
グランド 78
グランドマキシマス 78
クリッパー 93
クリフ 25
グリムロック 27
グルーブ 29
グレイズ 29
グレートショット 90
グレン 36
クローム 60
クロームドーム 60
クローントロン 69
クローンボット 69
クロスヘアーズ 62
ゲツエイ 61
ゴウリュウ 97
ゴーシューター（剛 秀太） 75
ゴーター 60
ゴールドバック 48
ゴッドジンライ／ジンライ 72
ゴッドボンバー 74
ゴング 25
コンドル 34
コンピューティコン 50
コンボイ 20

サ

サーショット 62
サイクロナス 52
サイバージェット 109
サイバトロン基地 30
サウンドウェーブ 34
サウンドブラスター 65
ザラク 69
サンストリーカー 23
サンダーアロー 98
サンダークラッカー 32
サンドストーム 49
シースプレー 26
ジェットパトロールチーム 102
シックスウイング 107
シックスガン 49
シックスショット 65・69
シックスターボ 107
シックストレイン 107
シックスナイト 78
シックスビルダー 107
シックスライナー 105
シナーツイン 54
シャークトロン 55
シャープネル 35
ジャガー 34
シャトルベース 90
ジャルガー 96
ジャン（南風ジャン） 93
ジョイス 93
ショウキ 61
シルバーボルト 29
スイケン 61
スィンドル 37
スーパーカーパトロールチーム 102
スーパージンライ／ジンライ 73
スーパーメガトロン 106
スカージ 52
スカイギャリー 105
スカイダイブ 29
スカイファイヤー 28
スカイリンクス 48
スカイワープ 32
スカックスゾイド 55
スカベンジャー 36
スカル 64
スキャッターショット 50
スキャンパー 49
スクラッパー 36
スコーピオン 69
スコルポノック 63
スターコンボイ 106
スタースクリーム 32
スタースクリームの幽霊 55
スターセイバー／セイバー 87
スチールジョー 48
ストリーク 23
ストリートワイズ 29
ストレイフ 50
スナール 27
スナップドラゴン 64
スネーク 55
スパークダッシュ 82
スパークプラグ 30
スパイク 30
スパイク（成人） 50・68
スパズマ 64
スプラング 46
スペリオン 29
スポイル 62
スモークスクリーン 24
スモークスクリーン（G2） 24
スラージ 27
スラスト 33

スラッグ 27
スラッグスリンガー 66
スリザード 55
スリング 29
スレマー 49
スロットルボット部隊 62
スワープ 27
セイザン 61
セレブロス 59・68
ソニックボンバー 101

タ

ダークウイングス 82
ダージ 33
タートラー 83
ダイアトラス 101
ダイナザウラー 53
ダイナザウラー（九大魔将軍） 103
ダイノキング 97
ダイバー 77
ダイムボム 54
ダウロス 83
タッカー 91
タックル 91
ダッシュ 91
ダッシュタッカー 91
ダニエル 50・68
ダブルクラウダー 78
ダブルスパイ 62・69
タンクメガトロン 109
タントラム 54
チップ 30
チャー 47
チャージャー 25
ツインキャスト 61
ディッガー 107
デスコブラ 98
デスザラス 94
デッドエンド 37
デバスター 36
デバスター（九大魔将軍） 103
デビルZ 79
テンタキル 83
Dr.アーカビル 36
ドラッグ 25
トラックス 24
ドラッグストライプ 37
トリガーハーピー 66
ドリュウ 97
ドリルホーン 96
トレイルブレイカー 23
トレッダー 107
ドレッドウイング 109

ナ

ナイトバード 36
ノーズコン 50

ハ

パーセプター 28
ハードヘッド 60
ハイドラー 82
ハイブロウ 60
ハウンド 22
バズソー 34
バスター 82
バトルパトロールチーム 102
パワーグライド 26
ハングルー 54
バンブル 25
ピースマン 62
ビーチコンバー 26
ピーポー 92
ビクトリーセイバー 86
ビクトリーレオ 88
ビルドベース 102
ファーストエイド 29
ファイアーボルト 68
ファイヤー 92
ファイヤーベース 102
ファイヤーボット 62
ファイヤーボルト 26
フェニックス 77
フォートレス 59
フォートレスマキシマス 58・68
ブット 54
ブラー 47
ブラッカー 89
ブラックザラック 79
ブラックザラック（九大魔将軍） 103
ブラックシャドー 98
ブラッド 83
ブランカー 62
ブリッツウイング 35
ブルーティカス 37
ブルーバッカス 98
ブルホーン 81
ブレイバー 89
ブレインストーム 60
ブレークダウン 37
ブレストオフ 37
プレダキング 54
プレダキング（九大魔将軍） 103
フレンジー 34
ブロウル 37
ブロードキャスト 28
ブロードサイド 49
ブローニング 82
プロール 23
ヘイワイアー 68
ヘッドストロング 54
ヘルバット 95
ホイスト 24
ホイルジャック 22
ポインテック 62
ボーダー 92
ホーリー 92
ボーンクラッシャー 36
ホットスポット 29
ホットロディマス 45
ポラス 64
ボルター 37
ホワイトレオ 66
ボンブシェル 35

マ

マイスター 22
マッハ 91
マッハタックル 91
ミキシング 107
ミサイルトレーラーコンボイ 108
ミスファイアー 66
ミックスマスター 36
ミネルバ 75
ムーンレーダー 102
メガ 80
メガザラック 63
メガトロン 31
メタルホーク（ホーク） 77
メトロフレックス 49
メナゾール 37
メナゾール（九大魔将軍） 103
メリッサ・フェアボーン 50
モーターマスター 37
モンゾ 64

ヤ

ユキカゼ 61
ユニクロン 41
ヨクリュウ 97

ラ

ライオカイザー 96
ライデン 61
ライトスピード 50
ライトフット 76
ライリュウ 97
ラスター 89
ラチェット 23
ラナバウト 53
ラナマック 53
ラビクレーター 102
ラミ 93
ラムジェット 33
ラムページ 54
ランダー 77
ランドクロス 90
ランブル 34
ランボル 23
リコイル 68
リジェ 23
リッパースナッパー 54
レインジャー 76
レーザーウェーブ 33
レーザークロー 54
レーザーバイク 109
レースカーパトロールチーム 102
レオザック 95
レッグガー 48
ロードキング 76
ロードシーザー 88
ローラー 21
ロケットベース 102
ロス 60
ロディマスコンボイ 44
ロブクロウ 83
ロングハウル 36

ワ

ワーパス 26
ワイプ 64
ワイルダー 81
ワイルドライダー 37

別冊宝島 996号

生誕20周年記念

トランスフォーマー G1キャラクター大全集

2004年4月13日発行

創刊人……………………蓮見清一
共同発行人………………藤澤英一・井上裕務
編集長……………………井野良介

編集………………………TARKUS
（高柳　豊・島田康治・五十嵐浩司）
畫間琢磨　花澤欣司
編集協力…………………石川陽介

表紙・本文デザイン……新井奈々
本文デザイン……………坂入　勝（ZOOM）

協力………………………●株式会社タカラ
●株式会社ウイーヴ
●ジェネオンエンタテインメント株式会社
●株式会社ぱあとわん
●スタジオOX

企画………………………株式会社SPARKO

販売責任者　板垣賢一
制作責任者　伊藤俊之

発行所　株式会社宝島社©
〒102-8388　東京都千代田区一番町25番地
営業03-3234-4621　編集03-3234-4621

郵便振替　00170-1-170829　(株)宝島社
印刷製本　東京書籍印刷株式会社
Printed in Japan

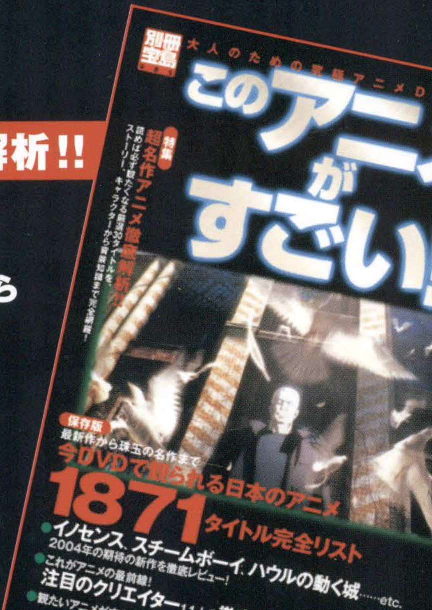
©TAKARA 2004
©東映／TAKARA 2004

大人のための究極アニメDVDガイド！

このアニメがすごい！

絶対観たい“超名作”編

別冊宝島 985



定価1000円 本体952円

特集

超名作アニメ徹底解析!!

読めば必ず観たくなる
厳選30タイトルを、
ストーリー、キャラクターから
背景知識まで完全網羅！

●イノセンス ●スチームボーイ ●攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX
●千年女優 ●カウボーイビバップ 天国への扉 ●バンパイアハンターD ●人狼 青の6号
●新世紀エヴァンゲリオン ●MEMORIES ●GHOST IN THE SHELL／攻殻機動隊
●機動警察パトレイバー2 the Movie ●獣兵衛忍風帖 ●紅の豚 ●老人Z
●ジャイアントロボ THE ANIMATION ●AKIRA ……and MORE！

保存版 最新作から珠玉の名作まで——

今DVDで見られる日本のアニメ

1871タイトル 完全リスト

●2004年の期待の新作を徹底レビュー！ イノセンス、スチームボーイ、ハウルの動く城……etc.
●これがアニメの最前線！ 注目のクリエイター11人の徹底プロファイリング！
●観たいアニメがすぐわかる！ ヒット作で調べるスーパーインデックス掲載

宝島社 http://tkj.jp

超ロボット生命体の戦いが今よみがえる!

1985年　戦え!超ロボット生命体　トランスフォーマー
1986年　トランスフォーマー・ザ・ムービー
1986年　戦え!超ロボット生命体　トランスフォーマー　2010
1987年　トランスフォーマー　ザ★ヘッドマスターズ
1988年　トランスフォーマー　超神マスターフォース
1989年　戦え!超ロボット生命体　トランスフォーマーV
1990年　トランスフォーマーZ
1991年　トランスフォーマー　ザ★バトルスターズ
1992年　トランスフォーマー　合体大作戦
1995年　トランスフォーマー　G2

9784796640152

宝島社
別冊宝島996号　発行日／2004年4月13日　発行所／(株)宝島社
雑誌65998-33
定価1365円 本体1300円
電話●営業　03-3234-4621　●編集　03-3234-3692

ISBN4-7966-4015-0
C9476 ¥1300E

1929476013002